

法学部 政策科学科 (2008年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	日本法制史 岡 邦信	2学期 (ペア)	2	4	1
		2年			
	法哲学 重松 博之	1学期	3	2	2
		3年			
	情報公開・個人情報保護法 森脇 敦史	1学期	3	2	3
		3年			
	刑法犯罪各論I 大杉 一之	1学期	2	2	4
		2年			
	刑法犯罪各論II 大杉 一之	2学期	2	2	5
		2年			
	刑事司法政策I 吉村 弘	1学期	3	2	6
		3年			
	刑事司法政策II 朴 元奎	2学期	3	2	7
		3年			
	環境法 生野 正剛	集中	3	2	8
		3年			
	社会法の現代的展開 柴田 滋	1学期	3	2	9
		3年			
	現代国際関係法 中川 智治	2学期	3	2	10
		3年			
家族法 小野 憲昭	1学期	2	2	11	
	2年				
企業活動と法 今泉 恵子	1学期	2	2	12	
	2年				
ビジネス英語研究 松田 智	1学期	3	2	13	
	3年				
国際政治経済論I 小尾 美千代	1学期	2	2	14	
	2年				
国際政治経済論II 小尾 美千代	2学期	2	2	15	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	国際機構論I	1学期	2	2	16
	山本 直	2年			
	国際機構論II	2学期	2	2	17
	山本 直	2年			
	国際協力論I	1学期	2	2	18
	大平 剛	2年			
	国際協力論II	2学期	2	2	19
	千知岩 正継	2年			
	地球環境論	2学期	2	2	20
	松本 治彦	2年			
	民族と国家	1学期	2	2	21
	篠崎 香織	2年			
	アジア地域統合論	2学期	2	2	22
	篠崎 香織	2年			
	東アジア経済論	2学期	2	2	23
	尹 明憲	2年			
	ミクロ経済学I	2学期	1	2	24
	朱 乙文	1年			
	ミクロ経済学II	1学期	2	2	25
	朱 乙文	2年			
マクロ経済学I	2学期	1	2	26	
田中 淳平	1年				
マクロ経済学II	1学期	2	2	27	
田中 淳平	2年				
産業組織論I	1学期	2	2	28	
後藤 宇生	2年				
産業組織論II	2学期	2	2	29	
後藤 宇生	2年				
経済地理学I	1学期	2	2	30	
柳井 雅人	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	経済地理学II 杉浦 勝章	2学期	2	2	31
	2年				
	地域経済I 杉浦 勝章	1学期	2	2	32
	2年				
	地域経済II 杉浦 勝章	2学期	2	2	33
	2年				
	環境経済学 牛房 義明	1学期	3	2	34
	3年				
	公共経済学 牛房 義明	2学期	3	2	35
	3年				
	アメリカ経済 山崎 好裕	2学期	3	2	36
	3年				
	都市財政I 李 友炯	1学期	3	2	37
	3年				
	都市財政II 大野 正久	2学期	3	2	38
	3年				
	経営戦略 浦野 恭平	2学期	2	2	39
	2年				
経営組織論 齋藤 貞之	1学期	2	2	40	
2年					
人事管理論 福井 直人	2学期	2	2	41	
2年					
中小企業論 別府 俊行	1学期	3	2	42	
3年					
コーポレートガバナンス 晴山 英夫	2学期	3	2	43	
3年					
■政策能力形成科目	政策入門演習I 狭間 直樹	1学期	1	2	44
	1年				
	政策入門演習I 横山 麻季子	1学期	1	2	45
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策入門演習I 申 東愛	1学期	1	2	46
		1年			
	政策入門演習I 中道 壽一	1学期	1	2	47
		1年			
	政策入門演習I 松田 憲忠	1学期	1	2	48
		1年			
	政策入門演習I 三宅 博之	1学期	1	2	49
		1年			
	政策入門演習I 古賀 哲矢	1学期	1	2	50
		1年			
	政策入門演習I 坂本 隆幸	1学期	1	2	51
		1年			
	政策入門演習I 楢原 真二	1学期	1	2	52
		1年			
	政策入門演習I 森 裕亮	1学期	1	2	53
		1年			
	政策入門演習II 狭間 直樹	2学期	1	2	54
		1年			
	政策入門演習II 横山 麻季子	2学期	1	2	55
		1年			
政策入門演習II 申 東愛	2学期	1	2	56	
	1年				
政策入門演習II 中道 壽一	2学期	1	2	57	
	1年				
政策入門演習II 松田 憲忠	2学期	1	2	58	
	1年				
政策入門演習II 三宅 博之	2学期	1	2	59	
	1年				
政策入門演習II 古賀 哲矢	2学期	1	2	60	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策入門演習II 坂本 隆幸	2学期	1	2	61
		1年			
	政策入門演習II 植原 真二	2学期	1	2	62
		1年			
	政策入門演習II 森 裕亮	2学期	1	2	63
		1年			
	演習I 古賀 哲矢	1学期	3	2	64
		3年			
	演習I 坂本 隆幸	1学期	3	2	65
		3年			
	演習I 五月女 律子	1学期	3	2	66
		3年			
	演習I 申 東愛	1学期	3	2	67
		3年			
	演習I 中道 壽一	1学期	3	2	68
		3年			
	演習I 植原 真二	1学期	3	2	69
		3年			
	演習I 狭間 直樹	1学期	3	2	70
		3年			
演習I 松田 憲忠	1学期	3	2	71	
	3年				
演習I 三宅 博之	1学期	3	2	72	
	3年				
演習I 森 裕亮	1学期	3	2	73	
	3年				
演習I 横山 麻季子	1学期	3	2	74	
	3年				
演習II 古賀 哲矢	2学期	3	2	75	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	演習II 坂本 隆幸	2学期	3	2	76
		3年			
	演習II 五月女 律子	2学期	3	2	77
		3年			
	演習II 申 東愛	2学期	3	2	78
		3年			
	演習II 中道 壽一	2学期	3	2	79
		3年			
	演習II 楢原 真二	2学期	3	2	80
		3年			
	演習II 狭間 直樹	2学期	3	2	81
		3年			
	演習II 松田 憲忠	2学期	3	2	82
		3年			
	演習II 三宅 博之	2学期	3	2	83
		3年			
	演習II 森 裕亮	2学期	3	2	84
		3年			
演習II 横山 麻季子	2学期	3	2	85	
	3年				
演習III 古賀 哲矢	1学期	4	2	86	
	4年				
演習III 坂本 隆幸	1学期	4	2	87	
	4年				
演習III 五月女 律子	1学期	4	2	88	
	4年				
演習III 申 東愛	1学期	4	2	89	
	4年				
演習III 中道 壽一	1学期	4	2	90	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	演習III 榎原 真二	1学期	4	2	91
		4年			
	演習III 狭間 直樹	1学期	4	2	92
		4年			
	演習III 松田 憲忠	1学期	4	2	93
		4年			
	演習III 三宅 博之	1学期	4	2	94
		4年			
	演習III 森 裕亮	1学期	4	2	95
		4年			
	演習III 横山 麻季子	1学期	4	2	96
		4年			
	演習IV 古賀 哲矢	2学期	4	2	97
		4年			
	演習IV 坂本 隆幸	2学期	4	2	98
		4年			
	演習IV 五月女 律子	2学期	4	2	99
		4年			
	演習IV 申 東愛	2学期	4	2	100
		4年			
演習IV 中道 壽一	2学期	4	2	101	
	4年				
演習IV 榎原 真二	2学期	4	2	102	
	4年				
演習IV 狭間 直樹	2学期	4	2	103	
	4年				
演習IV 松田 憲忠	2学期	4	2	104	
	4年				
演習IV 三宅 博之	2学期	4	2	105	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	演習Ⅳ 森 裕亮	2学期	4	2	106
		4年			
	演習Ⅳ 横山 麻季子	2学期	4	2	107
		4年			
	政策実践プロジェクトⅠ 三宅 博之	2学期	3	1	108
		3年			
	政策実践プロジェクトⅠ 楢原 真二	2学期	3	1	109
		3年			
	政策実践プロジェクトⅠ 古賀 哲矢	2学期	3	1	110
		3年			
	政策実践プロジェクトⅠ 申 東愛	2学期	3	1	111
		3年			
	政策実践プロジェクトⅠ 狭間 直樹	2学期	3	1	112
		3年			
	政策実践プロジェクトⅠ 森 裕亮	2学期	3	1	113
		3年			
	政策実践プロジェクトⅠ 横山 麻季子	2学期	3	1	114
		3年			
	政策実践プロジェクトⅡ 三宅 博之	2学期	4	1	115
		4年			
政策実践プロジェクトⅡ 楢原 真二	2学期	4	1	116	
	4年				
政策実践プロジェクトⅡ 古賀 哲矢	2学期	4	1	117	
	4年				
政策実践プロジェクトⅡ 申 東愛	2学期	4	1	118	
	4年				
政策実践プロジェクトⅡ 狭間 直樹	2学期	4	1	119	
	4年				
政策実践プロジェクトⅡ 森 裕亮	2学期	4	1	120	
	4年				

法学部 政策科学科 (2008年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策実践プロジェクトII 横山 麻季子	2学期	4	1	121
		4年			
	卒業論文 政策科学科教員	1・2学期 (ペア)	4	4	122
		4年			
	政策科学入門 榎原 真二 他	1学期	1	2	123
		1年			
■政策理論科目	政策構想論 中道 壽一	2学期	1	2	124
		1年			
	公共政策論 榎原 真二	1学期	2	2	125
		2年			
	政策過程論 申 東愛	1学期	2	2	126
		2年			
	政策評価論 榎原 真二	2学期	2	2	127
		2年			
	政策情報処理 横山 麻季子	1学期	2	2	128
		2年			
	地方自治論 森 裕亮	1学期	2	2	129
		2年			
	福祉国家論 狭間 直樹	2学期	1	2	130
		1年			
	政治学 松田 憲忠	1学期	1	2	131
	1年				
政治過程論 松田 憲忠	2学期	1	2	132	
	1年				
西洋政治史 五月女 律子	2学期	1	2	133	
	1年				
政治文化論 中道 壽一	2学期	2	2	134	
	2年				
政党政治論 五月女 律子	1学期	2	2	135	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策理論科目	都市計画概論 内田 晃	1学期	2	2	136
		2年			
	都市環境論 三宅 博之	1学期	1	2	137
		1年			
	政策理論特講 鶴田 芳貴	集中	2	2	138
		2年			
行政組織論 横山 麻季子	1学期	2	2	139	
	2年				
比較政策論 坂本 隆幸	1学期	2	2	140	
	2年				
■政策実践科目	都市政策論 古賀 哲矢	2学期	2	2	141
		2年			
	福祉政策論 狭間 直樹	1学期	2	2	142
		2年			
	環境政策論 申 東愛	2学期	2	2	143
		2年			
	都市経済論 古賀 哲矢	2学期	1	2	144
		1年			
	都市経営論 古賀 哲矢	1学期	2	2	145
		2年			
	地方行政改革論 森 裕亮	2学期	2	2	146
		2年			
	日本政治論 松田 憲忠	2学期	1	2	147
		1年			
公共経営論 狭間 直樹	2学期	2	2	148	
	2年				
NPO論 榎原 真二 他	1学期	1	2	149	
	1年				
途上国開発論 三宅 博之	1学期	2	2	150	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策実践科目	アジア地域社会論 三宅 博之	2学期	2	2	151
	2年				
	外国文献研究B 申 東愛	1学期	3	2	152
	3年				
	応用政策特講 梅垣 理郎	集中	2	2	153
	2年				
	政策実務特講 古田 稔	1学期	2	2	154
2年					
政策実践特講 青木 将幸	集中	2	2	155	
2年					
対外政策論 坂本 隆幸	2学期	2	2	156	
2年					
■政策関連法科目	法学総論 徳永 達哉	1学期	1	2	157
	1年				
	法思想史 重松 博之	1学期	2	2	158
	2年				
	法社会学 林田 幸広	2学期	2	2	159
	2年				
	日本国憲法原論 植木 淳	1学期	1	2	160
	1年				
	憲法人権論 植木 淳	2学期	1	2	161
	1年				
憲法機構論 落合 俊行	1学期	2	2	162	
2年					
憲法訴訟論 落合 俊行	2学期	2	2	163	
2年					
行政法総論 村上 英明	1学期 (ペア)	2	4	164	
2年					
行政争訟法 岡本 博志	2学期	2	2	165	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策関連法科目	国家補償法	1学期	3	2	166
	岡本 博志	3年			
	刑法犯罪論	2学期 (ペア)	1	4	167
	山本 光英	1年			
	社会法総論	2学期	1	2	168
	柴田 滋	1年			
	社会サービス法	1学期	2	2	169
	柴田 滋	2年			
	所得保障法	2学期	2	2	170
	柴田 滋	2年			
	雇用関係法	1学期	2	2	171
	國武 英生	2年			
	労使関係法	2学期	2	2	172
	國武 英生	2年			
	国際法I	1学期	2	2	173
	二宮 正人	2年			
	国際法II	2学期	2	2	174
	二宮 正人	2年			
	民法総則	1学期 (ペア)	1	4	175
	矢澤 久純	1年			
物権法	2学期	1	2	176	
中山 布紗	1年				
債権総論	1学期 (ペア)	2	4	177	
中山 布紗	2年				
債権各論	2学期 (ペア)	2	4	178	
福本 忍	2年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論	1学期	1	2	179
	黒田 耕司	1年			
教師論	1学期	1	2	180	
黒田 耕司	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育原理	2学期	1	2	181
	見玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	182
	税田 慶昭	2年			
	発達心理学	1学期	1	2	183
	税田 慶昭	1年			
	教育制度	1学期	3	2	184
	見玉 弥生	3年			
	教育制度	1学期	2	2	185
	見玉 弥生	2年			
	社会科教育法 A	1学期	2	2	186
	坂口 一隆	2年			
	社会科教育法 A	1学期	2	2	187
	坂口 一隆	2年			
	社会科教育法 B	2学期	2	2	188
	坂口 一隆	2年			
	社会科教育法 B	2学期	2	2	189
	坂口 一隆	2年			
	地理歴史科教育法 A	1学期	2	2	190
	飯田 直弘	2年			
地理歴史科教育法 B	2学期	2	2	191	
飯田 直弘	2年				
道德教育の研究	1学期	2	2	192	
黒田 耕司	2年				
道德教育の研究	1学期	2	2	193	
黒田 耕司	2年				
特別活動の研究	1学期	2	2	194	
楠 凡之	2年				
特別活動の研究	1学期	2	2	195	
楠 凡之	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	196
	2年				
	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	197
	2年				
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	198
	2年				
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	199
	2年				
	教職総合演習 楠 凡之 他	2学期	3	2	200
	3年				
	教育実習 1 黒田 耕司 他	2学期	3	2	201
	3年				
	教育実習 2 児玉 弥生 他	1学期	4	2	202
	4年				
教育実習 3 児玉 弥生 他	1学期	4	2	203	
4年					
教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	204	
2年					
生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	205	
2年					
■選択科目	教育心理学 柴村 馨	2学期	2	2	206
	2年				
	教育心理学 柴村 馨	2学期	1	2	207
	1年				
	教育法規 児玉 弥生	2学期	3	2	208
	3年				
	教育法規 児玉 弥生	2学期	2	2	209
	2年				
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	210
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	211
		2年			
■自由科目	人間環境地理学 野井 英明	2学期	2	2	212
		2年			
	生態人類学 竹川 大介	1学期	2	2	213
		2年			
	上級英語I アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	214
		3年			
上級英語II アダム・ヘイルズ	2学期	3	2	215	
	3年				
Advanced Reading and Discussion デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	216	
	3年				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	217
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	218
		1年			
	人間と文化 重信 幸彦	1学期	1	2	219
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	220
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	221
		1年			
教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	222	
	1年				
可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	223	
	2年				
家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	224	
	2年				
文化と政治 重信 幸彦	2学期	2	2	225	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	言語と認知	1学期	2	2	226
	漆原 朗子 他	2年			
	共生社会論	2学期	2	2	227
	伊野 憲治	2年			
	戦争と平和	2学期	2	2	228
	戸蒔 仁司	2年			
■スキル科目	メンタル・ヘルスI	1学期	1	2	229
	中島 俊介	1年			
	メンタル・ヘルスI	1学期	1	2	230
	中島 俊介	1年			
	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2	231
	中島 俊介	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	232
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	233
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	234
	徳永 政夫	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	235
	徳永 政夫	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	236
	加倉井 美智子	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	237
	加倉井 美智子	1年			
フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	238	
高西 敏正	1年				
フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	239	
高西 敏正	1年				
フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	240	
徳永 政夫	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	241
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	242
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	243
		1年			
	自己管理論	2学期	1	2	244
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	245
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	246
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	247
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	248
		1年			
	コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	249
		1年			
	コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	250
		1年			
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	251	
	1年				
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	252	
	1年				
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	253	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	254	
	2年				
大学論・学問論 小野 憲昭 他	1学期	1	2	255	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	法律の読み方	2学期	1	2	256
	小野 憲昭 他	1年			
	社会調査	2学期	1	2	257
	稲月 正	1年			
	統計を読む・統計をつくる	集中	1	2	258
	山本 努	1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー)	1学期	1	1	259
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス)	1学期	1	1	260
	原田 守治	1年			
	フィジカル・エクササイズI(バスケットボール)	1学期	1	1	261
	原田 守治	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	262
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	263
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	264
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	265
	鯨 吉夫	1年			
フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	266	
高西 敏正	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	267	
徳永 政夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	268	
磯貝 浩久	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	269	
原田 守治	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	270	
原田 守治	1年				

法学部 政策科学科 (2008年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 美山 泰教	2学期	1	1	271
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 美山 泰教	2学期	1	1	272
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (サッカー) 鯨 吉夫	2学期	1	1	273
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 鯨 吉夫	2学期	1	1	274
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) 磯貝 浩久	2学期	1	1	275	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 加倉井 美智子	2学期	1	1	276	
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I 日高 京子	1学期	1	2	277
		1年			
	教養基礎演習I 小林 道彦	1学期	1	2	278
		1年			
	教養基礎演習I 重信 幸彦	1学期	1	2	279
		1年			
	教養基礎演習I 徳永 政夫	1学期	1	2	280
		1年			
	教養基礎演習I 稲月 正	1学期	1	2	281
	1年				
教養基礎演習I 小野 憲昭	1学期	1	2	282	
	1年				
教養基礎演習I 戸蒔 仁司	1学期	1	2	283	
	1年				
教養基礎演習I 伊原木 大祐	1学期	1	2	284	
	1年				
教養基礎演習I 二宮 正人	1学期	1	2	285	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習Ⅰ	1学期	1	2	286
	高西 敏正	1年			
	教養基礎演習Ⅱ	2学期	1	2	287
	日高 京子	1年			
	教養基礎演習Ⅱ	2学期	1	2	288
	小林 道彦	1年			
	教養基礎演習Ⅱ	2学期	1	2	289
	重信 幸彦	1年			
	教養基礎演習Ⅱ	2学期	1	2	290
	徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習Ⅱ	2学期	1	2	291
	稲月 正	1年			
	教養基礎演習Ⅱ	2学期	1	2	292
	小野 憲昭	1年			
	教養基礎演習Ⅱ	1学期	1	2	293
	戸蒔 仁司	1年			
	教養基礎演習Ⅱ	2学期	1	2	294
	伊原木 大祐	1年			
	教養基礎演習Ⅱ	2学期	1	2	295
	二宮 正人	1年			
教養基礎演習Ⅱ	2学期	1	2	296	
高西 敏正	1年				
教養演習AⅠ	1学期	2	2	297	
日高 京子	2年				
教養演習AⅠ	1学期	2	2	298	
小林 道彦	2年				
教養演習AⅠ	1学期	2	2	299	
重信 幸彦	2年				
教養演習AⅠ	1学期	2	2	300	
戸蒔 仁司	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I	1学期	2	2	301
	稲月 正	2年			
	教養演習 A I	1学期	2	2	302
	伊原木 大祐	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	303
	日高 京子	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	304
	小林 道彦	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	305
	重信 幸彦	2年			
	教養演習 A II	1学期	2	2	306
	戸蒔 仁司	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	307
	稲月 正	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	308
伊原木 大祐	2年				
教養演習 B I	1学期	3	2	309	
日高 京子	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2	310	
小野 憲昭	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2	311	
小林 道彦	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2	312	
重信 幸彦	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2	313	
戸蒔 仁司	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2	314	
稲月 正	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2	315	
伊原木 大祐	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII 日高 京子	2学期	3	2	316
		3年			
	教養演習BII 小野 憲昭	2学期	3	2	317
		3年			
	教養演習BII 小林 道彦	2学期	3	2	318
		3年			
	教養演習BII 重信 幸彦	2学期	3	2	319
		3年			
	教養演習BII 戸蒔 仁司	1学期	3	2	320
		3年			
教養演習BII 稲月 正	2学期	3	2	321	
	3年				
教養演習BII 伊原木 大祐	2学期	3	2	322	
	3年				
プロジェクト演習I 見館 好隆	2学期	2	2	323	
	2年				
プロジェクト演習II 見館 好隆	1学期	3	2	324	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	325
		1年			
	動物のみかた 竹川 大介	2学期	1	2	326
		1年			
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	327
		1年			
	自然史へのいざない 重信 幸彦 他	2学期	1	2	328
	1年				
くらしと化学 竹之下 芳也	2学期	1	2	329	
	1年				
現代人のころ 小松 佐穂子	1学期	1	2	330	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	数のたのしみ 高妻 倫太郎	集中	1	2	331
		1年			
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	332
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	333
		1年			
	ものがたりと人間 重信 幸彦 他	1学期	1	2	334
		1年			
	文化と表象 真鍋 昌賢 他	2学期	1	2	335
		1年			
	言語とコミュニケーション 漆原 朗子 他	2学期	1	2	336
		1年			
	芸術と人間 波瀲 剛	1学期	1	2	337
		1年			
	文学を読む 岩本 真理子 他	1学期	1	2	338
	1年				
戦争と人間 重信 幸彦 他	1学期	1	2	339	
	1年				
現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	340	
	1年				
民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	341	
	1年				
人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	342	
	1年				
ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	343	
	1年				
障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	344	
	1年				
共生の作法 山本 光英 他	2学期	1	2	345	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	北九州学	2学期	1	2	346
	小野 憲昭	1年			
	市民活動論	2学期	1	2	347
	西田 心平	1年			
	企業と社会	1学期	1	2	348
	山岡 敏秀	1年			
	つながりの人間学	2学期	1	2	349
	兎玉 弥生 他	1年			
	現代社会と倫理	1学期	1	2	350
	伊原木 大祐	1年			
	現代社会の諸問題	2学期	1	2	351
	山本 光英 他	1年			
	現代の国際情勢	1学期	1	2	352
	金 鳳珍	1年			
	国際社会論	1学期	1	2	353
	稲月 正	1年			
	国際紛争と国連	1学期	1	2	354
	戸蒔 仁司	1年			
	民族・エスニシティ問題	1学期	1	2	355
	久木 尚志 他	1年			
開発と統治	1学期	1	2	356	
三宅 博之 他	1年				
グローバル化する経済	1学期	1	2	357	
前田 淳 他	1年				
テロリズム論	2学期	1	2	358	
戸蒔 仁司	1年				
国際社会と日本	1学期	1	2	359	
中野 博文	1年				
歴史の読み方I	1学期	1	2	360	
八百 啓介	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	361
		1年			
	そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	362
		1年			
	戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	363
		1年			
	都市と農村の生活文化史 重信 幸彦	2学期	1	2	364
		1年			
	ものと人間の歴史 重信 幸彦 他	1学期	1	2	365
		1年			
	人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	366
		1年			
教養特講 伊藤 解子	2学期	1	2	367	
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	368
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	369
		1年			
	東洋史 内田 直文	2学期	1	2	370
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	371
		1年			
	人文地理学 吉津 直樹	2学期	1	2	372
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	373
		1年			
地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	374	
	1年				
倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	375	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 浅羽 修丈	2学期	1	2	376
		1年			
	エンドユーザコンピューティング 佐藤 貴之	2学期	1	2	377
		1年			
	データ処理 廣渡 栄寿	1学期	1	2	378
		1年			
	データ処理 佐々木 実	1学期	1	2	379
		1年			
	情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	380
		2年			
	情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	381
		2年			
	情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	382
		2年			
情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	383	
	2年				
プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	384	
	2年				
プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	385	
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 下條 かおり	1学期	1	1	386
		律政群 1 - A			
	英語I 渡邊 晶子	1学期	1	1	387
		律政群 1 - B			
	英語I 相原 信彦	1学期	1	1	388
		律政群 1 - C			
	英語I 新藤 照夫	1学期	1	1	389
		律政群 1 - D			
	英語I 安丸 雅子	1学期	1	1	390
		律政群 1 - E			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 野上 良子	1学期	1	1	391
		律政群 1 - F			
	英語I 酒井 秀子	1学期	1	1	392
		律政群 1 - G			
	英語I 十時 康	1学期	1	1	393
		律政 1 - H			
	英語I 木梨 安子	1学期	1	1	394
		律政群 1 - I			
	英語II Stephanie A.Houghton	2学期	1	1	395
		律政群 1 - A			
	英語II 渡邊 晶子	2学期	1	1	396
		律政群 1 - B			
	英語II 相原 信彦	2学期	1	1	397
		律政群 1 - C			
	英語II 新藤 照夫	2学期	1	1	398
		律政群 1 - D			
	英語II 安丸 雅子	2学期	1	1	399
		律政群 1 - E			
	英語II 下條 かおり	2学期	1	1	400
		律政群 1 - F			
英語II 酒井 秀子	2学期	1	1	401	
	律政群 1 - G				
英語II 十時 康	2学期	1	1	402	
	律政 1 - H				
英語II 木梨 安子	2学期	1	1	403	
	律政群 1 - I				
英語III ケネス・ギブソン	1学期	1	1	404	
	律政群 1 - A				
英語III アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	405	
	律政群 1 - B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III Stephanie A.Houghton	1学期	1	1	406
		律政群 1 - C			
	英語III アレクサンダー・ボードナー	1学期	1	1	407
		律政群 1 - D			
	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	408
		律政群 1 - E			
	英語III ホセ・クルーズ	1学期	1	1	409
		律政群 1 - F			
	英語III デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	410
		律政群 1 - G			
	英語III ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	411
		律政 1 - H			
	英語III 船方 浩子	1学期	1	1	412
		律政群 1 - I			
	英語IV ケネス・ギブソン	2学期	1	1	413
		律政群 1 - A			
	英語IV アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	414
		律政群 1 - B			
	英語IV Stephanie A.Houghton	2学期	1	1	415
		律政群 1 - C			
英語IV アレクサンダー・ボードナー	2学期	1	1	416	
	律政群 1 - D				
英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	417	
	律政群 1 - E				
英語IV ホセ・クルーズ	2学期	1	1	418	
	律政群 1 - F				
英語IV デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	419	
	律政群 1 - G				
英語IV 永末 康介	2学期	1	1	420	
	律政 1 - H				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IV 船方 浩子	2学期	1	1	421
		律政群 1 - I			
	英語V 漆原 朗子	1学期	2	1	422
		律政群 2 - D			
	英語V 十時 康	1学期	2	1	423
		律政群 2 - E			
	英語V 安丸 雅子	1学期	2	1	424
		律政群 2 - F			
	英語V 村田 希巳子	1学期	2	1	425
		律政群 2 - G			
	英語V 中島 美穂子	1学期	2	1	426
		律政 2 - H			
	英語V 大塚 由美子	1学期	2	1	427
		律政 2 - I			
	英語V 薬師寺 元子	1学期	2	1	428
		律政群 2 - A			
	英語V 三宅 啓子	1学期	2	1	429
		律政群 2 - B			
英語V 木梨 安子	1学期	2	1	430	
	律政群 2 - C				
英語VI 漆原 朗子	2学期	2	1	431	
	律政群 2 - D				
英語VI 十時 康	2学期	2	1	432	
	律政群 2 - E				
英語VI 安丸 雅子	2学期	2	1	433	
	律政群 2 - F				
英語VI 村田 希巳子	2学期	2	1	434	
	律政群 2 - G				
英語VI 中島 美穂子	2学期	2	1	435	
	律政 2 - H				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VI 大塚 由美子	2学期	2	1	436
		律政2 - I			
	英語VI Stephanie A.Houghton	2学期	2	1	437
		律政群2 - A			
	英語VI 三宅 啓子	2学期	2	1	438
		律政群2 - B			
	英語VI 木梨 安子	2学期	2	1	439
		律政群2 - C			
	英語VII ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	2	1	440
		律政群2 - D			
	英語VII ケネス・ギブソン	1学期	2	1	441
		律政群2 - E			
	英語VII アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	442
		律政群2 - F			
	英語VII マーニー・セイディ	1学期	2	1	443
		律政群2 - G			
	英語VII 船方 浩子	1学期	2	1	444
		律政2 - H			
	英語VII 薬師寺 元子	1学期	2	1	445
		律政2 - I			
英語VII デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	2	1	446	
	律政群2 - A				
英語VII ホセ・クルーズ	1学期	2	1	447	
	律政群2 - B				
英語VII アレクサンダー・ボードナー	1学期	2	1	448	
	律政群2 - C				
英語VIII ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	2	1	449	
	律政群2 - D				
英語VIII ケネス・ギブソン	2学期	2	1	450	
	律政群2 - E				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VIII アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	451
		律政群2 - F			
	英語VIII マーニー・セイデイ	2学期	2	1	452
		律政群2 - G			
	英語VIII クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	453
		律政2 - H			
	英語VIII 薬師寺 元子	2学期	2	1	454
		律政2 - I			
	英語VIII デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	2	1	455
		律政群2 - A			
	英語VIII ホセ・クルーズ	2学期	2	1	456
		律政群2 - B			
	英語VIII アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	457
		律政群2 - C			
	英語IX 伊藤 晃	1学期	3	1	458
		済営律政3年			
英語X 杉山 智子	2学期	3	1	459	
	済営律政3年				
英語XI ダニー・ミン	1学期	3	1	460	
	済営律政3年				
英語XII ダニー・ミン	2学期	3	1	461	
	済営律政3年				
■第二外国語	中国語I 正野 留加	1学期	1	1	462
		政1年			
	中国語II 正野 留加	2学期	1	1	463
		政1年			
中国語III 王 占華	1学期	1	1	464	
	政1年				
中国語IV 王 占華	2学期	1	1	465	
	政1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語V 有働 彰子	1学期	2	1	466
		済営人律政群 2年			
	中国語VI 有働 彰子	2学期	2	1	467
		済営人律政群 2年			
	中国語VII 馮 雅蓮	1学期	2	1	468
		済営人律政群 2年			
	中国語VIII 馮 雅蓮	2学期	2	1	469
		済営人律政群 2年			
	朝鮮語I 金 貞淑	1学期	1	1	470
		律政 1年			
	朝鮮語II 金 貞淑	2学期	1	1	471
		律政 1年			
	朝鮮語III 金 貞淑	1学期	1	1	472
		律政 1年			
	朝鮮語IV 金 貞淑	2学期	1	1	473
		律政 1年			
	朝鮮語V 金 貞愛	1学期	2	1	474
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VI 金 貞愛	2学期	2	1	475
		済営比人律政群 2年			
朝鮮語VII 金 貞淑	1学期	2	1	476	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VIII 金 貞淑	2学期	2	1	477	
	済営比人律政群 2年				
ロシア語I 芳之内 雄二	1学期	1	1	478	
	律政 1年				
ロシア語II 芳之内 雄二	2学期	1	1	479	
	律政 1年				
ロシア語III ナタリア・シェスタコワ	1学期	1	1	480	
	律政 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語Ⅳ ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	481
		律政 1 年			
	ロシア語Ⅴ 芳之内 雄二	1学期	2	1	482
		済営比人律政 2 年			
	ロシア語Ⅵ 芳之内 雄二	2学期	2	1	483
		済営比人律政 2 年			
	ロシア語Ⅶ ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	484
		済営比人律政 2 年			
	ロシア語Ⅷ ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	485
		済営比人律政 2 年			
	ドイツ語Ⅰ 山下 哲雄	1学期	1	1	486
		律政 1 年			
	ドイツ語Ⅱ 山下 哲雄	2学期	1	1	487
		律政 1 年			
	ドイツ語Ⅲ 山下 哲雄	1学期	1	1	488
		律政 1 年			
	ドイツ語Ⅳ 山下 哲雄	2学期	1	1	489
		律政 1 年			
	ドイツ語Ⅴ 山下 哲雄	1学期	2	1	490
		済営比人律政 2 年			
ドイツ語Ⅵ 山下 哲雄	2学期	2	1	491	
	済営比人律政 2 年				
ドイツ語Ⅶ 山下 哲雄	1学期	2	1	492	
	済営比人律政 2 年				
ドイツ語Ⅷ 山下 哲雄	2学期	2	1	493	
	済営比人律政 2 年				
フランス語Ⅰ 坂田 由紀	1学期	1	1	494	
	律政 1 年				
フランス語Ⅱ 坂田 由紀	2学期	1	1	495	
	律政 1 年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語Ⅲ	1学期	1	1	496
	山下 広一	律政1年			
	フランス語Ⅳ	2学期	1	1	497
	山下 広一	律政1年			
	フランス語Ⅴ	1学期	2	1	498
	中川 裕二	済営比人律政2年			
	フランス語Ⅵ	2学期	2	1	499
	中川 裕二	済営比人律政2年			
	フランス語Ⅶ	1学期	2	1	500
	山下 高之	済営比人律政2年			
	フランス語Ⅷ	2学期	2	1	501
	山下 高之	済営比人律政2年			
	スペイン語Ⅰ	1学期	1	1	502
	青木 文夫	律政1年			
	スペイン語Ⅱ	2学期	1	1	503
	青木 文夫	律政1年			
スペイン語Ⅲ	1学期	1	1	504	
辻 博子	律政1年				
スペイン語Ⅳ	2学期	1	1	505	
辻 博子	律政1年				
スペイン語Ⅴ	1学期	2	1	506	
辻 光博	済営比人律政2年				
スペイン語Ⅵ	2学期	2	1	507	
辻 光博	済営比人律政2年				
スペイン語Ⅶ	1学期	2	1	508	
辻 博子	済営比人律政2年				
スペイン語Ⅷ	2学期	2	1	509	
辻 博子	済営比人律政2年				
■留学生特別科目	日本語A	1学期 (ペア)	1	2	510
	小林 浩明	留学生1年			

法学部 政策科学科 (2008年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語 A 小林 浩明	1学期 (ペア)	1	2	511
		留学生 1年			
	日本語 B 則松 智子 他	1学期 (ペア)	1	2	512
		留学生 1年			
	日本語 C 小林 浩明 他	2学期 (ペア)	1	2	513
		留学生 1年			
	日本語 D 清水 順子 他	2学期 (ペア)	1	2	514
		留学生 1年			
	日本事情 (社会) A 山崎 勇治	1学期	1	2	515
		留学生 1年			
	日本事情 (社会) B 山崎 勇治	2学期	1	2	516
		留学生 1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	日本法制史 岡 邦信	2学期 (ヘア)	2	4	517
	2年				
	刑法犯罪各論I 福永 俊輔	2学期	2	2	518
	2年				
	刑法犯罪各論II 福永 俊輔	2学期	2	2	519
	2年				
	犯罪学 朴 元奎	1学期 (ヘア)	3	4	520
	3年				
	企業活動と法 今泉 恵子	1学期	2	2	521
	2年				
	ビジネス英語研究 松田 智	1学期	3	2	522
	3年				
	国際政治経済論I 小尾 美千代	1学期	2	2	523
	2年				
	国際政治経済論II 小尾 美千代	2学期	2	2	524
	2年				
	国際協力論I 大平 剛	1学期	2	2	525
2年					
国際協力論II 千知岩 正継	2学期	2	2	526	
2年					
ミクロ経済学I 朱 乙文	2学期	1	2	527	
1年					
ミクロ経済学II 朱 乙文	1学期	2	2	528	
2年					
マクロ経済学I 田中 淳平	2学期	1	2	529	
1年					
マクロ経済学II 田中 淳平	1学期	2	2	530	
2年					
経済地理学I 柳井 雅人	1学期	2	2	531	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	経済地理学II 杉浦 勝章	2学期	2	2	532
	2年				
	財政学I 安岡 匡也	1学期	3	2	533
	3年				
	財政学II 安岡 匡也	2学期	3	2	534
	3年				
	中国経済 園 康寿	1学期	3	2	535
	3年				
	経営戦略 浦野 恭平	2学期	2	2	536
	2年				
経営組織論 齋藤 貞之	1学期	2	2	537	
2年					
人事管理論 福井 直人	2学期	2	2	538	
2年					
コーポレートガバナンス 晴山 英夫	2学期	3	2	539	
3年					
■政策能力形成科目	演習I 松田 憲忠	1学期	3	2	540
	3年				
	演習I 森 裕亮	1学期	3	2	541
	3年				
	演習II 松田 憲忠	2学期	3	2	542
	3年				
	演習II 森 裕亮	2学期	3	2	543
	3年				
	演習III 松田 憲忠	1学期	4	2	544
	4年				
演習III 森 裕亮	1学期	4	2	545	
4年					
演習IV 松田 憲忠	2学期	4	2	546	
4年					

法学部 政策科学科 (2008年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	演習Ⅳ 森 裕亮	2学期	4	2	547
		4年			
	政策実践プロジェクトⅠ 森 裕亮	2学期	3	1	548
		3年			
	政策実践プロジェクトⅡ 森 裕亮	2学期	4	1	549
		4年			
卒業論文 未定	1・2学期(ペア)	4	4	550	
	4年				
政策科学入門 楢原 真二	1学期	1	2	551	
	1年				
■政策理論科目	公共政策論 楢原 真二	1学期	2	2	552
		2年			
	政策過程論 申 東愛	1学期	2	2	553
		2年			
	政策情報処理 横山 麻季子	1学期	2	2	554
		2年			
	政策調査論 横山 麻季子	2学期	2	2	555
		2年			
	政治過程論 松田 憲忠	2学期	1	2	556
		1年			
現代政治思想 中道 壽一	1学期	2	2	557	
	2年				
都市環境論 三宅 博之	1学期	1	2	558	
	1年				
外国文献研究A 坂本 隆幸	2学期	3	2	559	
	3年				
■政策実践科目	自治体政策研究 楢原 真二	2学期	2	2	560
		2年			
	都市経済論 古賀 哲矢	2学期	1	2	561
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策実践科目	地方行政改革論 森 裕亮	2学期	2	2	562
		2年			
	日本行政論 森 裕亮	2学期	1	2	563
		1年			
	公共経営論 狭間 直樹	2学期	2	2	564
		2年			
	地域統合論 五月女 律子	2学期	2	2	565
		2年			
■政策関連法科目	法思想史 重松 博之	1学期	2	2	566
		2年			
	日本国憲法原論 植木 淳	1学期	1	2	567
		1年			
	憲法訴訟論 落合 俊行	2学期	2	2	568
		2年			
	行政争訟法 岡本 博志	2学期	2	2	569
		2年			
	地方自治法 岡本 博志	1学期 (ヘア)	3	4	570
		3年			
	刑法犯罪論 大杉 一之	1学期 (ヘア)	1	4	571
		1年			
	所得保障法 柴田 滋	2学期	2	2	572
		2年			
	雇用関係法 國武 英生	1学期	2	2	573
		2年			
国際法I 中川 智治	1学期	2	2	574	
	2年				
国際法II 中川 智治	2学期	2	2	575	
	2年				
民法総則 河津 八平	1学期 (ヘア)	1	4	576	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		担当者			
	備考			クラス	
■専門教育科目 ■政策関連法科目	物権法	2学期	1	2	577
	畑中 久彌	1年			
	債権各論	2学期 (ペア)	2	4	578
	堀田 泰司	2年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論	1学期	1	2	579
	黒田 耕司	1年			
	教師論	1学期	1	2	580
	黒田 耕司	1年			
	教育原理	2学期	1	2	581
	見玉 弥生	1年			
	教育原理	2学期	1	2	582
	見玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	583
	税田 慶昭	2年			
	発達心理学	1学期	1	2	584
	税田 慶昭	1年			
	教育制度	1学期	3	2	585
	見玉 弥生	3年			
	教育制度	1学期	2	2	586
	見玉 弥生	2年			
	公民科教育法 A	1学期	2	2	587
	飯田 直弘	2年			
	公民科教育法 A	1学期	2	2	588
	飯田 直弘	2年			
公民科教育法 B	2学期	2	2	589	
飯田 直弘	2年				
公民科教育法 B	2学期	2	2	590	
飯田 直弘	2年				
道徳教育の研究	1学期	2	2	591	
黒田 耕司	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	道徳教育の研究	1学期	2	2	592
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	593
	楠 凡之	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	594
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	595
	黒田 耕司	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	596
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	597
	大塚 一徳	2年			
	教育工学	2学期	2	2	598
	大塚 一徳	2年			
	教職総合演習	2学期	3	2	599
	楠 凡之 他	3年			
	教育実習 1	2学期	3	2	600
	黒田 耕司	3年			
	教育実習 1	2学期	3	2	601
	黒田 耕司	3年			
教育実習 2	1学期	4	2	602	
見玉 弥生	4年				
教育実習 2	1学期	4	2	603	
見玉 弥生	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	604	
見玉 弥生	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	605	
見玉 弥生	4年				
教育相談	1学期	2	2	606	
楠 凡之	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	607
		2年			
	生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	608
		2年			
■選択科目	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	609
		2年			
	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	610
		2年			
	教育社会学 見玉 弥生	1学期	2	2	611
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	612
		2年			
	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	613
		2年			
■自由科目	日本の歴史と社会 八百 啓介	2学期	2	2	614
		2年			
	Advanced Reading and Discussion 山内 ひさ子	2学期	3	2	615
		3年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	616
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	617
		1年			
	人間と文化 重信 幸彦	1学期	1	2	618
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	619
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	620
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	621
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	622
		1年			
	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	623
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 内田 若希	1学期	1	2	624
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	625
		1年			
■テーマ科目	自然学のまなざし 日高 京子	1学期	1	2	626
		1年			
	くらしと化学 竹之下 芳也	2学期	1	2	627
		1年			
	現代人のこころ 税田 慶昭	1学期	1	2	628
		1年			
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	629
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	630
		1年			
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	631
		1年			
	現代社会の諸問題 山本 光英 他	2学期	1	2	632
		1年			
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	633
		1年			
グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	634	
	1年				
国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	635	
	1年				
歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	636	
	1年				

法学部 政策科学科 (2008年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	637	
	1年					
	都市と農村の生活文化史 重信 幸彦	2学期	1	2	638	
	1年					
	人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	639	
	1年					
	■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	640
		1年				
		西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	641
1年						
東洋史 内田 直文		2学期	1	2	642	
1年						
社会学 稲月 正		1学期	1	2	643	
1年						
人文地理学 吉津 直樹		2学期	1	2	644	
1年						
土地地理学 野井 英明		1学期	1	2	645	
1年						
地誌学 吉津 直樹		1学期	1	2	646	
1年						
倫理学 伊原木 大祐		2学期	1	2	647	
1年						
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 廣渡 栄寿	2学期	1	2	648	
	1年					
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	649	
1年						
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	650	
	律政夜 1年					
	英語II 伊藤 晃	2学期	1	1	651	
律政夜 1年						

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	652
		律政夜 1年			
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	653
		律政夜 1年			
	英語V 杉山 智子	1学期	2	1	654
		律政夜 2年			
	英語VI 伊藤 晃	2学期	2	1	655
		律政夜 2年			
英語VII ダニー・ミン	1学期	2	1	656	
	律政夜 2年				
英語VIII ダニー・ミン	2学期	2	1	657	
	律政夜 2年				
■第二外国語	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	658
		済営律政夜 1年			
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	659
		済営律政夜 1年			
	中国語III 王 占華	1学期	1	1	660
		済営律政夜 1年			
	中国語IV 王 占華	2学期	1	1	661
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語I チャン ユンヒャン	1学期	1	1	662
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語II チャン ユンヒャン	2学期	1	1	663
		済営律政夜 1年			
朝鮮語III 金 光子	1学期	1	1	664	
	済営律政夜 1年				
朝鮮語IV 金 光子	2学期	1	1	665	
	済営律政夜 1年				
ロシア語I 芳之内 雄二	1学期	1	1	666	
	済営律政夜 1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語II	2学期	1	1	667
	芳之内 雄二	済営律政夜 1年			
	ロシア語III	1学期	1	1	668
	芳之内 雄二	済営律政夜 1年			
	ロシア語IV	2学期	1	1	669
	芳之内 雄二	済営律政夜 1年			
	ドイツ語I	1学期	1	1	670
	山下 哲雄	済営律政夜 1年			
	ドイツ語II	2学期	1	1	671
	山下 哲雄	済営律政夜 1年			
	ドイツ語III	1学期	1	1	672
	山下 哲雄	済営律政夜 1年			
	ドイツ語IV	2学期	1	1	673
	山下 哲雄	済営律政夜 1年			
	フランス語I	1学期	1	1	674
	山下 高之	済営律政夜 1年			
	フランス語II	2学期	1	1	675
	山下 高之	済営律政夜 1年			
	フランス語III	1学期	1	1	676
	水本 弘文	済営律政夜 1年			
フランス語IV	2学期	1	1	677	
水本 弘文	済営律政夜 1年				
スペイン語I	1学期	1	1	678	
岡住 正秀	済営律政夜 1年				
スペイン語II	2学期	1	1	679	
岡住 正秀	済営律政夜 1年				
スペイン語III	1学期	1	1	680	
岡住 正秀	済営律政夜 1年				
スペイン語IV	2学期	1	1	681	
岡住 正秀	済営律政夜 1年				

日本法制史【昼】

担当者名 岡 邦信 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古代から中世の法と制度、特に中世の国制、武家政権の支配機構、裁判制度について、適宜資料等を配布し、解説する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石井良助「日本法制史概説」創文社
- 牧・藤原編「日本法制史」青林書院
- 義江彰夫 日本通史I「歴史の曙から伝統社会の成熟へ」山川出版
- 水林彪 日本通史II「封建制の再編と日本の社会の確立」山川出版
- 網野善彦 「日本社会の歴史」上・中・下 岩波書店
- 水林・大津・新田・大藤編 新体系日本史2 「法社会史」山川出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法制史とは何か
- 2回 時代区分論
- 3回～4回 律令継受以前の国制【天津罪】【国津罪】【盟神探湯】
- 5回～6回 律令と律令国家の実態【官位相当性】【蔭位制】【八虐】【五刑】
- 7回～9回 律令制の解体と荘園公領制【負名田堵】【初期荘園】【雑役免系荘園】【寄進地型荘園】
- 10回～12回 武士団【国衙軍制】
- 13回～16回 中世国家と封建制)【レーエン制】【フューダリズム】
- 17回～18回 中世主従関係【家礼型】【家人型】
- 19回～20回 鎌倉期の法源【幕府法】【在地領主法】
- 21回～23回 鎌倉幕府訴訟制度【所務沙汰】【雑務沙汰】【検断沙汰】【引付】
- 24回 建武政権と南北朝
- 25回～30回 室町幕府と室町期の法源【一揆契状】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは使用しませんので、参考文献を利用し、予習復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会が抱える諸問題や実定法学が投げかける具体的な諸問題を考える上で、思考枠組みとしての法理論は不可欠である。人間の共同生活を考える上で不可欠なものとしての法を捉え直すための、基本的な視座を探究することが、本講義の目的とするところである。

教科書 /Textbooks

○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳、濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）
- 平野仁彦、亀本洋、服部高宏著『法哲学』（有斐閣）
- 長谷川晃、角田猛之編『ブリッジブック法哲学』（信山社）
- 田中成明『法理学講義』（有斐閣）
- 田中成明編『現代理論法学入門』（法律文化社）
- 大橋智之輔、三島淑臣、田中成明編『法哲学綱要』（青林書院）
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店）、中山竜一『ヒューマニティーズ 法学』（岩波書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法哲学とは
- 第2回～第7回 法と道徳【ハート＝フラー論争】【パターナリズムと自己決定】
【ハート＝デヴリン論争】【カント】【安楽死・尊厳死】
- 第8回～第10回 法と強制【サンクシオン】【ケルゼン】【合意形成と法】
- 第11回～第13回 法・国家・社会【形式法の実質化】【エールリッヒ＝ケルゼン論争】【法化】
- 第14回～第15回 法哲学のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法思想史」を2年次に受講していれば、より理解しやすい。講義前には、テキストの該当箇所を読み、講義後には各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報公開・個人情報保護法 【昼】

担当者名 森脇 敦史 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報公開は、民主主義国家において国民が主体的に政治に参画するために不可欠である。
また、情報化社会の進展に伴い、個人情報の有用性が高まると同時に、目的外利用や個人情報の不適切な取扱いによる権利利益の侵害リスクも高まっている。
本講義では、情報公開法・個人情報保護法（および自治体の条例）の概要と判例等の検討を行う。

教科書 /Textbooks

宇賀克也『新・情報公開法の逐条解説 第4版』（有斐閣、2008年）
宇賀克也『個人情報保護法の逐条解説 第3版』（有斐閣、2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス.....情報公開、個人情報保護の歴史、憲法上の位置づけ
- 2回 情報公開法（1）.....概論、【行政文書】
- 3回 情報公開法（2）.....不開示情報（【個人に関する情報】）
- 4回 情報公開法（3）.....不開示情報（【事務事業遂行情報】・【意思形成過程情報】）
- 5回 情報公開法（4）.....不開示情報（【法人等情報】、【安全・外交・公安情報】）
- 6回 情報公開法（5）.....部分開示、裁量的開示、存否応答拒否、開示手続
- 7回 情報公開法（6）.....救済手続、情報公開・個人情報保護審査会
- 8回 個人情報保護法（1）.....歴史、プライバシーと個人情報の関係
- 9回 個人情報保護法（2）.....個人情報、個人データ、保有個人データ、【個人情報取扱事業者】
- 10回 個人情報保護法（3）.....【個人情報】に対する義務
- 11回 個人情報保護法（4）.....【個人データ】、【保有個人データ】に対する義務
- 12回 行政機関個人情報保護法（1）.....個人情報の取扱い、個人情報ファイル
- 13回 行政機関個人情報保護法（2）.....開示・利用停止・訂正請求、救済手続
- 14回 個人情報・プライバシーの現代的問題.....住基ネット、納税者番号、監視カメラ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 課題... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分（事前に指示する）を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論I【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目で扱う「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法分野です。各論Iでは、個人的法益に対する罪のうち人身に対する罪（財産罪を除く。）と国家的法益に対する罪を取り上げます。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念及び各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、法的思考力を習得することを目的としています。

教科書 /Textbooks

(参考) 山中敬一『刑法概説II各論』(成文堂・2008.10) ※テキストの選択は任意。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『刑法各論(新論点講義シリーズ2)』(弘文堂・2007.05)
- 立石二六〔編著〕『刑法各論30講』(成文堂・2006.04)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード) ※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがあります。
- 1回 刑法各論の基礎
 - 2回～ 4回 生命に対する罪【殺人】【自殺関与】
 - 5回～ 7回 身体に対する罪【暴行】【傷害】【傷害致死】【墮胎】【遺棄】
 - 8回～ 9回 自由に対する罪【脅迫】【逮捕監禁】【略取誘拐】【強姦】【強制わいせつ】
私生活の平穩に対する罪【住居侵入】【秘密侵害】
 - 10回～ 11回 名誉・信用に対する罪【名誉毀損】【侮辱】【信用毀損】【業務妨害】
 - 12回 国家の存立に対する罪【内乱罪】【外患誘致罪】【私戦予備陰謀罪】
 - 13回～ 14回 国家の作用に対する罪①【公務執行妨害罪】【逃走罪】【犯人蔵匿・証拠隠滅罪】
【偽証罪】【虚偽告訴罪】【職権濫用罪】
 - 15回 国家の作用に対する罪②【賄賂罪の基礎】【収賄罪の諸類型】【贈賄罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%
小テストの成績を成績評価において考慮する場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメを配布する予定です。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習(基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。)・復習(講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。)を十分に行ってください。「刑法総論」を理解していることを前提に講義を展開しますので、この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」を受講しておくことを強く推奨します。また、この科目を承継する「刑法犯罪各論II」、及び関連する他の刑事法科目を受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 2学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目で扱う「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法分野です。各論IIでは、「刑法犯罪各論I」に続けて、個人的法益に対する罪のうち財産罪、及び社会的法益に対する罪を取り上げます。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念及び各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、法的思考力を習得することを目的としています。

教科書 /Textbooks

(参考) 山中敬一『刑法概説II各論』(成文堂・2008.10) ※テキストの選択は任意。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『刑法各論(新論点講義シリーズ2)』(弘文堂・2007.05)
- 立石二六(編著)『刑法各論30講』(成文堂・2006.04)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード) ※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがあります。
- 1回～ 3回 財産罪①【財産罪の基礎】【窃盗】
 - 4回～ 6回 財産罪②【毀棄隠匿】【強盗】【事後強盗】【強盗致死傷】
 - 7回～ 8回 財産罪③【詐欺罪】【詐欺罪の諸類型】【恐喝罪】
 - 9回～ 10回 財産罪④【横領罪】【背任罪】【盗品関与罪】
 - 11回～ 12回 公共危険罪【騒乱罪】【多衆不解散罪】【放火罪の基礎】【焼損】【公共危険】
【放火罪】【失火罪】【出水罪】【水利妨害罪】【往来妨害罪】
 - 13回～ 14回 公共の信用に対する罪【文書偽造罪の基礎】【文書】【偽造】【文書偽造罪】
【通貨偽造罪】【有価証券偽造罪】
 - 15回 風俗に対する罪【わいせつ罪】【重婚罪】【賭博罪】【死体損壊・遺棄罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%
小テストの成績を成績評価において考慮する場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメを配布する予定です。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習(基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。)・復習(講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。)を十分に行ってください。この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I」を受講しておくことを強く推奨します。また、関連する他の刑事法科目を受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策I 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに現代日本の刑事制裁の特色および問題点、並びに刑事司法制度の構造と機能について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策』（成文堂、2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①警察庁編『平成21年度 警察白書』（ぎょうせい、2009年）
- ②法務省法務総合研究所編『平成21年度 犯罪白書』（時事通信出版局、2009年）
- ③内閣府『平成21年版 犯罪被害者白書』（佐伯印刷(株)、2009年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 刑事政策の概念 【教科書 第1講 1-15頁】
- 2回 刑事政策の歴史 【教科書 第2講 16-42頁】
- 3回 刑事政策の動向 【教科書 第3講 43-55頁】
- 4回 犯罪予防 【教科書 第4講 56-72頁】
- 5回 刑事制裁 【教科書 第5講 73-84頁】
- 6回 刑事司法・少年司法機関の役割(1) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 7回 刑事司法・少年司法機関の役割(2) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 8回 刑事司法・少年司法機関の役割(3) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 9回 犯罪被害者の支援と法的地位【教科書 第7講 111-126頁】
- 10回 死刑 【教科書 第8講 127-141頁】
- 11回 自由刑 【教科書 第9講 142-157頁】
- 12回 財産刑 【教科書 第10講 158-169頁】
- 13回 保安処分 【教科書 第11講 170-188頁】
- 14回 予備日
- 15回 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑事司法政策II」とあわせて受講すればわかりやすい。毎回、テキストの指定された個所を事前に読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策II 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに犯罪者処遇および更生保護の分野における問題点ならびに現代日本社会において関心の高いいくつかの重要犯罪を選んでその現状と刑事政策的対応の在り方について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策』（成文堂、2009年）
○法務省法務総合研究所編『平成21年度 犯罪白書』（時事通信出版局、2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 犯罪者の処遇 【教科書 第12講189-203頁】
- 2回 施設内処遇(1) 【教科書 第13講204-233頁】
- 3回 施設内処遇(2) 【教科書 第13講204-233頁】
- 4回 社会内処遇 【教科書 第14講224-243頁】
- 5回 わが国の犯罪情勢【教科書 第15講 244-261頁】
- 6回 個別犯罪と対策(1) 交通犯罪 【教科書 262-279頁】
- 7回 個別犯罪と対策(2) 薬物犯罪 【教科書 280-293頁】
- 8回 個別犯罪と対策(3) 来日外国人犯罪 【教科書 294-305頁】
- 9回 個別犯罪と対策(4) 組織犯罪 【教科書 306-318頁】
- 10回 個別犯罪と対策(5) 高齢者犯罪 【教科書 319-331頁】
- 11回 個別犯罪と対策(6) 企業犯罪 【教科書 332-343頁】
- 12回 個別犯罪と対策(7) 性犯罪 【教科書 344-358頁】
- 13回 個別犯罪と対策(8) 家庭内・近親者間犯罪 【教科書 359-383頁】
- 14回 予備日
- 15回 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑事司法政策」とあわせて受講すればわかりやすい。毎回、テキストの指定された個所を事前に読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor 生野 正剛 / Ikuno Masakata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境法は、良好な環境の保全を図ることを目的とする法律の総称である。環境問題の深刻化、拡大、多様化によって、環境悪化の事前防止を目差す環境法の重要性は増大しているし、環境法がカバーする範囲も広がっている。本講義では、環境法の歴史、広範囲にわたる現行環境法体系の全体像、それらに共通する理念・原則、環境法の中での主要な法律の内容を概観する。そのことを通じて、環境問題に関する法的整備の現状と残された課題および環境法の今後進むべき方向性を理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

坂口洋一著 『環境法ガイド』、上智大学出版刊（2007年2月）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大塚直『環境法』、有斐閣。講義時に配布するレジュメ。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】内はキーワード
- 第1回～第2回 環境法とは何か、環境法の体系、環境法の基本原則
 - 【環境負荷の増大・公害】、【環境基本法】、【持続可能な発展】、【汚染者負担の原則】、【未然防止の原則】、【予防原則】、【拡大生産者責任】
- 第3回～第4回 環境保護の手法 【規制的手法】、【非規制的手法】、【経済的手法】
- 第5回～第6回 環境法の歴史
 - 【公害法から環境法へ】、【公害対策基本法】、【環境基本法】、【循環型社会の形成】
- 第7回 環境基本法と環境基本計画
 - 【将来世代への環境の恵沢の承継】、【持続的発展が可能な社会】、【国際的協調の下での地球環境保全】
- 第8回 環境アセスメント法
 - 【スクリーニング】、【スコーピング】、【準備書】、【評価書】、「戦略的環境アセスメント」
- 第9回～第10回 環境汚染の防止
 - 【環境基準】、【排出基準】、【水質汚濁防止法】、【大気汚染防止法】、【土壌汚染防止法】
- 第11回～第12回 廃棄物の処理法制
 - 【廃棄物処理法】、【廃棄物の定義】、【一般廃棄物】、【産業廃棄物】
- 第13回～第15回 循環型社会形成のための法体系
 - 【循環型社会基本法】、【拡大生産者責任】【容器包装リサイクル法】、【家電リサイクル法】、【自動車リサイクル法】、【建設リサイクル法】、【食品リサイクル法】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容内が多いので、テキストおよび前もって配布するレジュメを読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会の思想を中心に社会法の現代的展開をわかりやすく講義する。
労働法や社会保障法で構成される社会法は、現代人の生活の豊かさや質、ひいてはその自由な生き方に直接的に関係する法であり、戦後の人々の生活の向上と自由を支えてきた中心的な法であるといえる。しかし、近年の経済社会情勢の変化に伴って、社会法の果たすべき役割についての理解も多様化している。この講義では、社会法の果たすべき役割についての考え方の現代的展開、および現実的な改革を必要とする課題とその論点を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

ワーポロテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

EISS Yeabook, 2001 edited by D.Pieters, Kluwer LAW International
ルソー「社会契約論」、ロック「市民政府論」、長谷川宏訳「ヘーゲル法哲学講義」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1,2回 社会法の意義と歴史 [市民法の補充]
- 3,4回 高度成長期の社会法の役割と特徴 [日本型と労働慣行、皆保険・皆年金]
- 5回 1970年代後半における社会法に関する思想および政策の転換 [オイルショック、規制緩和]
- 6回 現代における社会法改革 [ネオリベリズム、修正自由主義、一般的意志の自由]
- 7,8回 社会保障法の現代的展開 [現代配分的正義論、再配分否認論、セイフティーネット]
- 9,10回 労働法の現代的展開 [市場原理主義、構造改革、労働者派遣自由化、労働者の自由拡大]
- 11回 社会サービス提供関係の法的規律の変容 [インフォームドコンセント、身上監護権]
- 12,13回 法の原理と社会法の本質 [ロックの人間本性、ルソーとヘーゲルの一般意思]
- 14回 現代社会法の展望 [個人の尊厳、個人の独立性と社会性]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

労働法ないしは社会保障法に関する科目のうち少なくとも1科目履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代国際関係法【昼】

担当者名 /Instructor 中川 智治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会において問題とされている環境問題について国際法の観点から講義する。

講義全体のキーワードとしては、地球環境問題、生物多様性、国際機構

教科書 /Textbooks

特に指定しない。担当者作成の講義レジュメを使用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Patricia Birnie and Alan Boyle, International Law and Environment (3rd ed., OUP, 2009)
パトリシア・バーニー/アラン・ボイル『国際環境法』(慶應義塾大学出版会、2007年)
西井正弘[編]『地球環境条約：生成・展開と国内実施』(有斐閣、2005年)○
地球環境法研究会[編]『地球環境条約集(第4版)』(中央法規出版、2003年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 環境問題の国際化の歴史I【オットセイ保護】【トレイル熔鉱所事件】
- 2回 環境問題の国際化の歴史II【海洋汚染】【国連人間環境会議】【国連環境開発会議】
- 3回 国際環境法の構造I【国際責任】【国際制度による規制と監督】
- 4回 国際環境法の構造II【天然資源に対する恒久主権】【リオ宣言】
- 5回 国際環境法の構造III【人権アプローチ】【犯罪化と管轄問題】
- 6回 海洋環境の保護【国連海洋法条約】【寄港国管轄権】【地域漁業管理機関】
- 7回 有害廃棄物の国際的規制【陸上起因】【海洋投棄】【バーゼル条約】
- 8回 原子力と環境【原子力の国際的管理】【原子力損害責任】【プルトニウム輸送】
- 9回 自然保護【UNEP】【世界自然憲章】
- 10回 動植物の保護【ワシントン条約】【ラムサール条約】
- 11回 生物多様性の保護【生物多様性条約】【締約国会議方式】
- 12回 海洋生物資源の保護【公海漁業】【魚種別規制】【地域漁業管理機関】
- 13回 環境保護と貿易問題【WTO】【GATT 20条】【エコラベル】
- 14回 国際環境ガバナンス【国際環境政策の展開】【国際機構の展開】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学修状況(小テストなど)...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門教育科目の「国際法I・II」のいずれかを既に学修しているほうが望ましい。
講義中に配布するレジュメと共に、参考文献を事前ないし事後に参照し自己学修を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思いがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講説親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社（2007年8月）3,000円、水野紀子他編著『家族法判例百選（第7版）』有斐閣（2008年10月）2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助＝泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻】【婚約】【内縁】
- 3回 婚姻制度②【婚姻】【婚約】【内縁】
- 4回 婚姻制度③【婚姻】【婚約】【内縁】
- 5回 離婚制度①【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 6回 離婚制度②【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 7回 離婚制度③【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 8回 親子制度①【実子】【養子】【親権】【後見】
- 9回 親子制度②【実子】【養子】【親権】【後見】
- 10回 親子制度③【実子】【養子】【親権】【後見】
- 11回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 12回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 13回 法定相続制度②【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 14回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義には、六法を必ず持参してください。「私法入門」「民法総則」、「物権法」を既に履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版であることが必要です。毎回、必ず持参してください。なお、期末試験実施時には、「判例つき」の六法の持ち込みは認められませんので、十分注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【 】はキーワード)

- 1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 2回 民法に対する商法の特色は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 3回～4回 商人とは？商行為とは？【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 6回～8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール【商号・商標】
- 9回～11回 会社と従業員との関係—【商業使用人】【雇用】
- 12回～13回 会社と消費者との関係—【普通取引約款の利用】【消費者保護法】
- 14回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか？【商業登記】
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究 【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスの初歩的な外書を講読する事で、ビジネス、経済用語に慣れ、さらに高いレベルのビジネス関係洋書を読む為の準備とする。3年次以降に国際金融、国際貿易、国際経済を受講する予定の方はこのコースを強く勧める。

教科書 /Textbooks

Daniel R. Fusfeld. "The Age of the Economist". 洋版出版
(テキストはこちらで用意します)
授業で適宜通知する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: fundamentals of Economics1
Session 3: fundamentals of Economics2
Session 4: fundamentals of Economics3
Session 5: fundamentals of Economics4
Session 6: chapter 1 of The Age of Economist
Session 7: chapter 2 of The Age of Economist
Session 8: chapter 3 of The Age of Economist
Session 9: chapter 4 of The Age of Economist
Session 10:chapter 5 of The Age of Economist
Session 11:chapter 6 of The Age of Economist
Session 12:chapter 7 of The Age of Economist
Session 13:chapter 8 of The Age of Economist
Session 14:chapter 9 of The Age of Economist
Session 15:chapter 10 of The Age of Economist

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 10 Presentation:30 Midterm quiz:20 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済論I 【昼】

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

毎時のニュースで外国為替市場が報道されているのは、「貿易立国」である日本に暮らす私たちの生活にとって重要性が高いことを表していますが、こうした状況はいつごろから、そしてなぜ生じたのでしょうか。この問題は経済問題であると同時に非常に重要な国際政治の争点でもあります。この授業では、ブレトンウッズ体制を中心とする国際経済体制の構築とその変化を中心に検討し、政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題について理解を深めると同時に、関連する理論について学習します。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、各週の授業内容および参考文献については初回の授業時に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門（第3版）』有斐閣、2007年。
- 飯田敬輔『国際政治経済（シリーズ国際関係論3）』東京大学出版会、2007年。
- 田所昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際政治経済学とは【政治】、【市場メカニズム】
- 2回 リベラリズム【古典的リベラリズム】、【ロック】、【カント】
- 3回 ブレトンウッズ体制【埋め込まれた自由主義】、【流動性のジレンマ】【ニクソン・ショック】
- 4回 変動相場制【国際金融のトリレンマ】、【プラザ合意】、【通貨危機】
- 5回 リアリズムと国際貿易体制【重商主義】、【保護主義】、【GATT】
- 6回 WTO体制【サービス貿易】、【紛争解決】
- 7回 貿易摩擦と保護主義【通商法301条】、【公正貿易】、【戦略的貿易政策】
- 8回 中間レビュー
- 9回 国際秩序と経済（1）【覇権安定論】
- 10回 国際秩序と経済（2）【国際レジーム】、【パワー】
- 11回 欧州地域統合（1）【シューマン・プラン】、【超国家主義】、【連邦主義】、【EC】
- 12回 欧州地域統合（2）【EU】、【東方拡大】
- 13回 欧州地域統合（3）【欧州連合条約改正】
- 14回 国際統合理論【機能主義】、【新機能主義】、【トランスナショナリズム】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献を講読した上で授業に参加すること。「国際政治経済論II」(2学期)も履修すると、国際政治経済学についてより包括的な学習ができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済論II 【昼】

担当者名 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際政治経済の主要な理論について、それぞれの理論における異なる世界観、国際問題のとらえ方、問題の位置付けなどを中心に学習します。加えて、政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題について学習することで、政治（国家）と経済（市場）の相互作用についての理解を深めることをねらいとします。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、各週の授業内容および参考文献については初回の授業時に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門（第3版）』有斐閣、2007年。
- 飯田敬輔『国際政治経済（シリーズ国際関係論3）』東京大学出版会、2007年。
- 田所昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域レベルでの経済協力：北米【NAFTA】
- 2回 地域レベルでの経済協力：アジア【APEC】
- 3回 日本の貿易政策【FTA】、【EPA】
- 4回 地球環境問題（1）地球環境レジーム【ストックホルム会議】、【リオ会議】
- 5回 地球環境問題（2）気候変動問題【気候変動枠組条約】、【京都議定書】、【京都メカニズム】
- 6回 リベラリズム【国際レジーム論】、【ネオ・リベラル制度論】、【グローバル・ガバナンス】
- 7回 中間レビュー
- 8回 南北問題の展開【近代化論】、【新国際経済秩序（NIEO）】
- 9回 経済発展と政治体制（1）【権威主義体制】、【開発独裁】
- 10回 累積債務問題【債務繰り延べ】、【DSR】、【構造調整貸付】
- 11回 貧困問題【絶対的貧困】、【ミレニアム開発目標】
- 12回 経済発展と政治体制（2）【政経不可分論】、【ガバナンス】
- 13回 経済発展とマルクス主義【従属論】、【世界システム論】
- 14回 社会構成主義【相互構築性】、【社会化】、【社会構造】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「国際政治経済論I」を受講していると、内容理解がより深まり、包括的な学習ができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構論I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会には、国際機構と呼ばれる数百もの組織が存在し、日常的に活動している。それらは、国家や私たちの生活にとって、どのような意味をもっているのだろうか。この講義では、国際機構の代表格である国際連合を中心にして、それらの任務、制度、実績および課題を扱う。

教科書 /Textbooks

最上敏樹『国際機構論』第2版、東京大学出版会、2006年。初版ではないことに注意。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。講義では資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 テキスト「はじめに」【国際機構の定義】
- 3回 テキスト第1章「国際機構小史」【ヨーロッパ協調】【国際連盟】
- 4回 国際連盟規約の解説
- 5回 テキスト第2章「国際連合」(I-III)【国連の設立】【安全保障理事会】【総会】
- 6回 同上(IV-VI)【事務総長】【経済社会理事会】【国際司法裁判所】
- 7回 国際連合憲章の解説
- 8回 テキスト第3章「国連改革」【国連改革】【安保理改革】
- 9回 同上
- 10回 テキスト第4章「地域的国際機構」【EU】【北欧共同体】【欧州審議会】
- 11回 テキスト第5章「国際機構創設の動因」【共通利益と国益】【国際機構の類型】
- 12回 テキスト第6章「構造・機能・意思決定」【国家的機関と非国家的機関】
- 13回 テキスト第7章「国際機構論の方法」【法学的アプローチと政治学的アプローチ】
- 14回 テキスト第8章「国際機構の理論化」、「結びにかえて」【国際機構の理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(数回の予定)...30% 期末試験...70%
※出席をプラス評価することがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地域的機構を扱う国際機構論IIも受講すれば、国際機構の全体像を把握することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構論II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を特徴づけるものの一つに、地域的 (regional) な国際機構の発達がある。そのような機構には、例えばヨーロッパ連合 (EU)、北大西洋条約機構 (NATO)、東南アジア諸国連合 (ASEAN)、米州機構 (OAS)、アラブ連盟、アフリカ連合 (AU) 等があり、東アジア諸国間においても同様の試みが模索されつつある。それでは何故、こうした地域的な機構が要請されるのか。講義では、ヨーロッパ27カ国が加盟し、現代世界に多大な影響を与えるEUに着目して、その設立、制度、実績および課題を多面的に扱う。

教科書 /Textbooks

辰巳浅嗣編著『EU欧州統合の現在』創元社、2004年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。講義では資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに：なぜ地域的な機構か
- 2回 EUの概観【EU条約】【EUの機関】【加盟国の位置と紹介】
- 3回 - 4回 ヨーロッパ地域統合の起源【パン・ヨーロッパ】【独仏和解】【ジャン・モネ】
- 5回 - 6回 ECの成立とEUへの発展【欧州3共同体】【共通政策】【市場統合】【ドロール】
- 7回 - 8回 EUの基本条約の解説【EU条約】【EU運営条約】
- 9回 - 11回 EUの「超国家的」性格とその特質
【共同体方式】【欧州委員会】【理事会】【欧州議会】
【欧州理事会】【欧州中央銀行】
- 12回 - 14回 EUの対外関係と課題【EU憲法】【民主主義の「赤字」】
【EUとグローバル社会】【EUとアメリカ】【日本、アジアとEU】
- 15回 まとめ：主権国家はどのように解体しているのか

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (数回の予定) ... 30% 期末試験... 70%
※出席をプラス評価することがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国連を主な対象とする国際機構論Iも受講すれば、国際機構の全体像を把握することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○下村恭民他『開発援助の経済学（第4版）』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

- 第1回 開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
- 第4回 1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
- 第5回 南北交渉の時代【新国際経済秩序（NIEO）】、【資源ナショナリズム】
- 第6回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
- 第7回 途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
- 第8回 1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】
- 第9回 グローバル・イシューズの時代【国連主催会議】、【NGOフォーラム】
- 第10回 開発援助の新潮流【人間開発】、【社会開発】
- 第11回 人間開発概念の発展【人間の安全保障】、【保護する責任】
- 第12回 日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
- 第13回 日本のODAの仕組み【無償資金協力】、【有償資金協力】、【技術協力】
- 第14回 日本のODAの理念と世界との比較【ODA大綱】、【自助努力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第2次世界大戦後の歴史について復習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor 千知岩 正継 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習します。紛争予防を目的として、どのような活動がどのような主体によって行われているのか、効果的な紛争予防策はあるのかなどについて、具体的な事例をもとに学習します。

教科書 /Textbooks

メアリー・アンダーソン『諸刃の援助』明石書店、2006年。
大平剛『国連開発援助の変容と国際政治』有信堂高文社、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○東大作『平和構築』岩波新書、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 冷戦終結の影響【民主的平和】、【国内紛争】、【アイデンティティ・ポリティックス】
- 第2回 PKOの変容と限界【平和執行型PKO】、【予防展開】
- 第3回 「予防の文化」と平和構築アプローチ【予防開発】、【紛争サイクル】
- 第4回 平和構築と人道・開発援助活動の拡大【紛争分析手法】、【構造的要因】、【引き金要因】
- 第5回 「保護する責任」(総論)【人道的介入】
- 第6回 「保護する責任」(各論)【脆弱国家】、【早期警報】
- 第7回 安全保障部門改革(SSR)と武装解除、動員解除、兵士の社会復帰(DDR)【SSR】、【DDR】
- 第8回 東ティモールとアフガニスタンの事例検証：SSRとDDRの具体的な事例
- 第9回 国際開発援助レジームの変容【援助協調】、【援助の調和化】
- 第10回 復興援助と条件付け【ピース・コンディショナリティ】
- 第11回 Do No Harm原則①【平和へと向かう現地の力】、【戦争へと向かう現地の力】
- 第12回 Do No Harm原則②【コネクター】、【ディバイダー】
- 第13回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ①
- 第14回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際協力論Iを履修していれば、本講義の理解に役立ちます。国際協力論Iが基礎的な事項を学習するのに対して、国際協力論IIはより実践的な内容となっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 治彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球環境問題は、人間活動により生じた問題であり、人類の歴史を顧みる必要がある。また、この問題が地球及びそこに生息する生物に不可逆的な変化を与えることから、未来を見据えた対策が必要である。このため、時間軸上のあらゆる点から、前後を見渡す広い視野にたった視点が要求される。授業では、地球と人間の現在から過去について顧み、現在から未来については、自然と人間社会とが調和した姿を想定し、それにアプローチする方法を考える。また、自然科学（大気・水循環を中心に）の立場から広い視点で環境問題を考える。さらに、環境保全策の現状を日本、外国の事例を比較しながら検討し、今後の課題について考える。

教科書 /Textbooks

なし（資料を配布する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

環境学序説（環境学入門1） 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回「俯瞰的研究」【空間的俯瞰】、【時間的俯瞰】、【社会的俯瞰】、【地球を俯瞰する】
- 2 回「自然の歴史I」【ビックバン】、【物質の誕生】
- 3 回「自然の歴史II」【地球の誕生と進化】、【生物の誕生と進化】
- 4 回「人間社会の形成」【人類誕生と進化】、【人間活動の変化】、【自然生態系と人工生態系】
- 5 回「地球規模の自然現象と環境問題I（熱収支と四季）」【放射】、【温室効果】、【季節変動】
- 6 回「地球規模の自然現象と環境問題II（水と大気の大循環）」【海洋大循環】、【大気大循環】
- 7 回「地球規模の自然現象と環境問題III（森林消失と生物種絶滅）」【熱帯林の破壊】、【砂漠化】
- 8 回「地球規模の自然現象と環境問題IV（オゾン層破壊と生物存続の危機）」【紫外線】、【フロン】
- 9 回「地球規模の自然現象と環境問題V（二酸化炭素と温暖化）」【温暖化予測】、【CO₂】、【海水面】
- 10 回「気候変動」【氷河期と間氷期】、【気候変動の推定方法】、【小氷河期】
- 11 回「環境保全策」【日本の場合】、【ヨーロッパの場合】、【中国の場合】【各国との比較】
- 12 回「地球にやさしいエネルギー」【風力・波力発電】、【燃料電池】、【メタンハイドレート】
- 13 回「現在から未来に向けて」【宇宙と人間の未来】、【環境とビジネスとの関係】
- 14 回「今後、我々は地球とどのようにつきあうべきか」
【土と水の浄化能力】、【環境共生】、【人間の価値観】、【倫理観】、【精神的な豊かさ】
- 15 回「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

質問カード記入（10%）、学期末試験（90%）で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族と国家【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

20世紀半ばまでに、地球上は国民国家で覆い尽くされた。個人の解放・自立は、個人が民族としてまとまり、その民族が自前の国家を持つことによって達成されるという理念が、人類普遍的な価値となった。だが実際には、「一つの民族に一つの国家」という例はほとんどない。この授業では、解放と自立を確立・維持しようとする個々人の営みの中で、「民族」と「国民国家」という概念がどのような相互作用を生じさせてきたのかを、アジアの事例を中心に論じる。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 国民国家システムの成立【王国、植民地国家、国民国家、国民統合、民族】
- 3回 国民統合の取り組み(1)中国【五族共和】
- 4回 国民統合の取り組み(2)インドネシア【多様性の中の統一】
- 5回 国民統合の取り組み(3)ベトナム【貧しさを分かち合う社会主義、越僑】
- 6回 国民統合の取り組み(4)フィリピン【カトリシズム、モロ民族解放戦線】
- 7回 国民統合の取り組み(5)タイ【王権、宗教】
- 8回 国民統合の取り組み(6)マレーシアとシンガポール【民族の政治、二言語政策】
- 9回 越境者の対応・戦略(1): 国家の保護をめぐる華人移民の対応比較【アメリカ、マラヤ】
- 10回 越境者の対応・戦略(2): 「プラナカン」という人びと【混血、土着性】
- 11回 国籍について【重国籍、市民権】
- 12回 日本のナショナリズム論【植民地、戦争、ナショナリズム】
- 13回 多民族社会の営みを見る(1)【多民族社会、映像資料】
- 14回 多民族社会の営みを見る(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 課題 ... 20 % 期末試験 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小テストを3回ないし4回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アジア地域統合論 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、ASEAN（東南アジア諸国連合）を中心テーマとする。ASEANは、東南アジア諸国間の相互信頼の醸成と、大国に翻弄されることなく東南アジアの将来を方向づけることにおいて、大きな役割を果たしてきた。今日では、アジア太平洋の地域秩序の形成における中核的存在である。ASEANの展開を抑えることで、東南アジアおよびアジア太平洋の国際関係を学ぶ。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 ASEAN前夜(1) 地域協力機構の構想【ASA(東南アジア連合)】
- 4回 ASEAN前夜(2) 地域紛争解決の試み【マフィリンド、サバ領有権問題、対決政策】
- 5回 ASEANの成立【ASEAN設立宣言(バンコク宣言)】
- 6回 域外国に対するASEANの団結【ASEAN-EEC協力条約、合成ゴム問題】
- 7回 ASEAN諸国のインドシナ問題への対処(1)【ベトナム戦争】
- 8回 ASEAN諸国のインドシナ問題への対処(2)【カンボジア紛争】
- 9回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大【ASEANテン】
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み【AFTA】
- 11回 ASEANの国際経済秩序形成への参画【APEC】
- 12回 ASEANの広域安全保障秩序形成への参画【ARF】
- 13回 「東アジア共同体」への関わり【ASEAN+3、EAS】
- 14回 日本・ASEAN関係【EPA】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小テストを3回ないし4回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済論【昼】

担当者名 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、発展著しい東アジア地域の経済動向を学習し、日本と東アジアとの今後の経済関係がどうあるべきかを考えてみることである。この授業では、まず東アジア経済を概観する。次に、経済発展の「成功」と「挫折」を経験してきた韓国に焦点を当てて、その発展過程を見る。そして、東アジアで現れている経済統合や地方間の国際交流などを取り上げる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

尹 明憲『韓国の発展パラダイムの転換』、明石書店(○)
大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』、有斐閣(○)
北原淳・西澤信善『アジア経済論』、ミネルヴァ書房(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済データで見る東アジア経済の現状
- 2回 世界の中の東アジア 【戦後の国際経済体制】【1970年代以上の国際分業】
【ブラザ合意】
- 3回 東アジア工業化戦略 【1次産品輸出】【輸入代替工業化】【輸出志向工業化】
【雁行形態型発展】
- 4回 技術の蓄積 【人的資本】【外国からの技術移転】【研究開発推進】
- 5回 開発主義と開発独裁 【政府の役割】【開発独裁】【開発政策の制度化】
- 6回 成長の前史 【植民地解放後】【経済援助】【朝鮮戦争】
- 7回 1960年代の韓国経済 【輸出志向工業化】【経済開発5カ年計画】
- 8回 1970年代の韓国経済 【重化学工業化】【重工業化宣言】【セマウル運動】【財閥】
- 9回 1980年代の韓国経済 【構造調整】【三低現象】【ソウルオリンピック】【台湾との比較】
- 10回 1990年代の韓国経済 【文民政権】【世界化・先進国化】【OECD加盟】
- 11回 アジア通貨危機の経緯 【21世紀型危機】【資本自由化】【通貨アタック】
- 12回 韓国におけるIMF危機 【総合金融会社】【IMF救済融資】
- 13回 通貨危機に対する国際的対応策 【コンディショナリティ】【ASEAN+3】【通貨スワップ】
- 14回 東アジアにおける経済統合の動向 【ASEAN】【APEC】【日本の戦略】【地方の取組】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 学期末試験またはレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を高める。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J.E.スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3~4回 需要、供給、および政府の施策: 【価格規制】
- 5~6回 市場と厚生: 消費者、生産者、市場の【効率性】
- 7~8回 需給分析の応用: 【余剰分析】、【課税】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】費用、【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】 【限界収入】、【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く学習する。ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を解説する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J.E.スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法、
- 第2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 第3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 第4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 第5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 第6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 第7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 第9回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 第10回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 第11回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 第12回 【生産者行動の理論】とその応用
- 第13回 市場と市場の効率性: パレート最適、「厚生経済学」の基本的考え方
- 第14回 ミクロ経済学再考、展開
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリの受講者は「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1)【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2)【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3)【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4)【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5)【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1)【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2)【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3)【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1)【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2)【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3)【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4)【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5)【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。この講義では財政政策の有効性、実体経済と金融資産市場の相互作用、経済成長の基礎理論といった主題に関して解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性について(1)
- 3回 財政政策の有効性について(2)
- 4回 財政政策の有効性について(3)
- 5回 財政政策の有効性について(4)
- 6回 利率の流動性選好理論(1)
- 7回 利率の流動性選好理論(2)
- 8回 利率の流動性選好理論(3)
- 9回 利率の流動性選好理論(4)
- 10回 IS-LMモデル(1)
- 11回 IS-LMモデル(2)
- 12回 IS-LMモデル(3)
- 13回 経済成長の基礎理論(1)
- 14回 経済成長の基礎理論(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。寡占のような経済現象に限らず、様々な分野の分析を行う予定。2つの演習を行う。1つは、道具の操作性を高める演習。もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。
岡田章 『ゲーム理論・入門-人間社会の理解のために』有斐閣、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 産業組織論(経済学)とゲーム理論【背景の理解】
2-7回 戦略形・均衡概念とその応用【静学・数量競争・価格競争】
8-12回 展開形・均衡概念とその応用【動学・数量競争・価格競争】
13-15回 不完備情報・均衡概念とその応用【情報・ネットワーク財】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. Introduction to Industrial Organization. Cambridge, MA: MIT Press. 2000.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2-3回 ミクロ経済学の復習【費用の復習】
- 4-5回 完全競争【ベンチマーク】
- 6-7回 寡占と公共政策【公正取引委員会の仕事】
- 8-9回 独占と公共政策【公正取引委員会の仕事】
- 10回 カルテル【公正取引委員会の仕事】
- 11-12回 市場構造分析【極限定理と無限繰り返しゲーム】
- 13回 自然独占と差別価格【余剰】
- 14-15回 標準化とネットワーク外部性

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

産業組織論I・ミクロ経済学の知識を前提とする。事前にミクロ経済学の講義を受講すること。自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の授業は、経済地理学の基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。講義全体のキーワードは、立地論、企業立地、産業配置である。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
 - 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
 - 3回 企業の立地行動(I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
 - 4回 企業の立地行動(II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
 - 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
 - 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
 - 7回 企業の立地行動(III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
 - 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
 - 9回 企業の立地行動(IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
 - 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
 - 11回 7～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
 - 12回 企業の立地行動(V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
 - 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
 - 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
 - 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10～20% 期末試験 ... 80～90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：この科目を履修し、経済地理学II、地域経済、地域政策を学習することができます。経済地理学は、後の3科目を含めて、経済の空間現象(情報空間を含む)を総合的に、幅広く学習する内容になっています。経済地理学の基礎である立地論の学習は、経済地理学の講義で重点的に行うことになっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学II 【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2学期は日本の産業配置と地域政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。講義全体のキーワードは、立地論、産業配置、地域政策である。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 イントロダクション 【経済地理学】 【都市】 【地域】 【地域政策】
 - 2回 オフィスの立地論 【オフィス】 【本社立地】 【支店立地】 【フェイス・トゥ・フェイス】
 - 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】 【付け値曲線】 【土地利用】
 - 4回 都市内システム 【都市】 【バージェス】 【ホイト】
 - 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】 【ブレット】 【地方中枢管理都市】
 - 6回 1～5回の復習とまとめ
 - 7回 企業活動と地域 【企業機能】 【地域間システム】 【生活圏】
 - 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】 【拠点開発方式】
 - 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】 【テクノポリス】
 - 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】 【東京一極集中】 【世界都市】
 - 11回 6～10回の復習とまとめ
 - 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】 【産業創出の風土】
 - 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】 【立地要因】 【基礎的地域構造】
 - 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代の地域構造】
 - 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10～20% 期末試験 ... 80～90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：この科目を履修しながら、地域経済を、また履修後に地域政策を学習することができます。経済地理学は、後の2科目を含めて、経済の空間現象(情報空間を含む)を総合的に、幅広く学習する内容になっています。経済地理学の基礎である立地論の学習は、経済地理学の講義で重点的に行うことになっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済I【昼】

担当者名 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域経済およびそれを取り巻く環境が大きく変化していることを理解するために、国と地域のあり方、それぞれの政策などについて解説する。この講義ではとくに基礎的な理論、考え方に焦点を当てていく。そしてそうした動きが我々の日常生活とどのように関係しているのかを考えてもらいたい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済の変化と地域(講義の概要)
- 2回 地域経済の構成【企業立地】【家計】【社会資本】
- 3回 地域が抱える様々な問題【地域間格差】【ナショナルミニマム】
- 4回 地域経済変化の要因【産業構造】
- 5回 九州地域の産業構造と経済【食糧基地】【分工場経済】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 地方分権の動き(1)【地方自治】
- 8回 地方分権の動き(2)【権限委譲】【規制緩和】
- 9回 地方財政【三位一体の改革】
- 10回 中心市街地活性化(1)【都市の空洞化】
- 11回 中心市街地活性化(2)【まちづくり3法】
- 12回 7～11回の復習とまとめ
- 13回 都市計画【都市施設】【用途地域】
- 14回 道州制の導入に向けた動き【道州制】【連邦制】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10～20 % 期末試験 ... 80～90 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域経済II』『地域政策』の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済II【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域が現在直面している問題について、具体的なテーマをもとにして解説する。そうした問題の背景にあるもの、地域経済に対して与える影響、解決するためにとられている政策などを幅広い観点から理解してもらうことを目的としている。これまでに学んだ経済学の考え方が、地域経済にどのように適用されるかについても検討してもらいたい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済を取り巻く環境の変化(講義の概要)
- 2回 市町村合併の進展とその影響(1)【地方分権】
- 3回 市町村合併の進展とその影響(2)【合併特例法】
- 4回 地域の環境問題(1)【地球環境の変化】
- 5回 地域の環境問題(2)【エコタウン】
- 6回 1~5回の復習とまとめ
- 7回 観光産業の振興とまちづくり【インバウンド振興】
- 8回 産業クラスター戦略(1)【産業集積】
- 9回 産業クラスター戦略(2)【イノベーション】
- 10回 7~9回の復習とまとめ
- 11回 人口減少の影響とその対策(1)【少子高齢化】
- 12回 人口減少の影響とその対策(2)【中山間地域】【限界集落】
- 13回 人口減少の影響とその対策(3)【コンパクトシティ】
- 14回 地域経済の今後
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10~20 % 期末試験 ... 80~90 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『地域経済I』、『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域政策』の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の目標は、様々な環境問題について理解すること、またそれらの問題について経済学の視点から検討できるようになることです。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木、『環境経済学をつかむ』有斐閣(2008)
時政・藪田・今泉・有吉編、『環境と資源の経済学』勁草書房(2007)○
日引 聡、有村俊秀、『入門 環境経済学』、中公新書(2002)○
マンキュー、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版)東洋経済新報社(2005)○
R. K.ターナー他、『環境経済学入門』、東洋経済新報社(2001)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネッツ曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題...10% 期末試験...80%
遅刻、講義中の私語、携帯電話の使用などは減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共経済学【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の目的は、公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について理解し、また1、2年次に学習したミクロ経済学、マクロ経済学を利用して、公共部門の経済活動について分析することです。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏『基礎コース 公共経済学』新成社（1998）○
井堀利宏『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社（2005）○
マンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社（2005）○
スティグリッツ『公共経済学』（上・下）（第2版）（2003）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析【現在価値】、【割引率】
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% 課題...20% 期末試験...80%
遅刻、講義中の私語、携帯電話の使用などは減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ経済 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

サブプライム・ローン問題に端を発する世界金融危機とその後の実体経済の悪化から、オバマ政権下のゼロ金利政策、量的緩和政策もあって回復を遂げたアメリカ経済。日本とも貿易や金融の面で関係の深いアメリカですし、世界最大の経済ですから、それを学ぶことの意味は大きいと言えます。でも、そもそもアメリカって...? 経済って...?

授業では、研究者としてアメリカに住んでいたときや毎年の学会出席時の私の体験談、また、南北戦争マニアの私ならではの歴史上のエピソードもたっぷりとお話し、楽しくアメリカについて学びます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤井英彦『オバマのアメリカ - 次なる世界経済の行方』東洋経済新報社、2009年2月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 アメリカの産業と所得 | 2 アメリカの所得分配と社会保障 |
| 3 アメリカ家計の消費と貯蓄 | 4 アメリカの社会階層と失業 |
| 5 アメリカ企業と収益 | 6 アメリカ企業と投資 |
| 7 アメリカ政府と税制 | 8 アメリカの政府支出と財政 |
| 9 アメリカの通貨制度 | 10 アメリカの金融システム |
| 11 アメリカ経済と金利 | 12 アメリカの国際収支 |
| 13 アメリカ経済と為替レート | 14 アメリカ経済と物価 |
| 15 アメリカの経済成長と景気 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績を8割、レポートを2割で評価します。定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が1問出題されます。レポートはアメリカ経済についてのプリントを読んでまとめてもらい、自分の感想・見解と一緒に2000字程度にまとめてもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講すれば、みんなの頭にアメリカのはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じるはず。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市財政I【昼】

担当者名 李 友炯 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義では、近年盛んに議論されている地方分権について、国と地方の財政関係に注目し、経済学的な観点から説明する。地方財政の現状と理論を学習し、地方財政に関する知識のみならず、理論的な考え方ができるようになることを目的とする。
1学期では、地方財政の現状と基本的な理論を中心に授業を進める。

教科書 /Textbooks

佐藤 主光『地方財政論入門』新世社(2009年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 地方分権改革【地方分権】、【三位一体の改革】
 - 2回 地方財政の抱える課題【地域間格差】
 - 3回 地方の果たす役割【国と地方の役割分担】
 - 4回 地方財政と経済学【パレート効率性】、【応益原則】
 - 5回 財政の役割【公共財】、【財政の3機能】
 - 6回 機能配分論【資源配分】、【所得再分配】、
 - 7回 地方分権化について【課税自主権】
 - 8回 分権化定理【分権化定理】
 - 9回 「規律づけ」としての競争【足による投票】
 - 10回 地域間外部性【NIMBY】
 - 11回 自治体規模の決定【混雑現象】
 - 12回 地域経済の活性化【地域間競争】
 - 13回 分権化と政府のアカウントビリティ【水平的競争】、【垂直的競争】
 - 14回 公共部門のガバナンス【外部性の内部化】、【道州制】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に予習することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市財政II【昼】

担当者名 /Instructor 大野 正久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義では、近年盛んに議論されている地方分権について、国と地方の財政関係に注目し、経済学的な観点から説明する。地方財政の現状と理論を学習し、地方財政に関する知識のみならず、理論的な考え方ができるようになることを目的とする。
2学期では、税制と政府間財政移転を中心に授業を進める。

教科書 /Textbooks

佐藤 主光『地方財政論入門』新世社(2009年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 わが国の地方税【所得課税】、【消費課税】、【資産課税】
- 2回 望ましい地方税の条件【課税自主権】
- 3回 租税外部性の理論【租税競争】、【租税輸出】、【垂直的租税外部性】
- 4回 地方税にふさわしい税源は？【地方税】
- 5回 政府間財政移転のタイプと機能【政府間財政移転】
- 6回 財政移転の経済効果【所得効果】、【フライペーパー効果】
- 7回 地域間財政力格差の是正【財政調整機能】、【財政余剰】
- 8回 政府間補助金の政治経済学【レント・シーキング】、【ソフトな予算制約】
- 9回 政府間財政移転制度【交付税】
- 10回 国庫補助負担金制度【国庫補助金】
- 11回 地方交付税制度の実際【交付税】
- 12回 地方債制度【地方債】
- 13回 効率化の視点【効率性】
- 14回 地方分権改革に向けて【地方分権】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に予習することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。 東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年、井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年、石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第 2回 経営戦略論の議論の歴史 1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第 3回 経営戦略論の議論の歴史 2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第 4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第 5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第 6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第 7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第 8回 競争の戦略 1【5フォース】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第 9回 競争の戦略 2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第 10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第 11回 戦略と企業間関係【サプライチェーン】、【ビジネスシステム】【アライアンス】
- 第 12回 経営戦略と組織 1【組織形態】、【事業部性】、【マトリックス組織】
- 第 13回 経営戦略と組織 2【組織革新】、【組織学習】【知識創造】。
- 第 14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果によるが、必要に応じて出席点。小テストの結果を加味する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 齋藤 貞之 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営組織論は、現代の企業や行政組織など組織体を対象とした経営理論であり、リーダーシップ論、戦略論などの基礎をなす理論である。講義のネライは、組織のダイナミズムを理論的かつ実践的に理解できることである。

講義では、まず組織の基礎理論から出発し、近代組織論の系譜をたどる。これら基礎理論の理解をふまえて次に、現実の組織ないしマネジメントのダイナミズムを理解する能力を養成する。IT革命の進展やグローバル化する経営環境変動のなか、組織はいかに主体的かつダイナミックに社会に働きかけるシステムとして動いているのかを明らかにし、組織進化、バーチャル化など現代組織の動向をとらえることにする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。以下の参考文献の他は、授業中にその都度紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ ジョアン・ マグレッタ『なぜマネジメントなのか』(2003年、ソフトバンクパブリッシング)
- ・ ゲイリー・ ハメル『経営の未来』(2008年、日本経済新聞社)
- ・ ジェームズ・ コリンズ他『ビジョナリーカンパニー』(1995年、日経B P 出版センター)
- ・ ジェームズ・ コリンズ『ビジョナリーカンパニー②飛躍の法則』(2002年、日経B P 出版センター)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

授業スケジュールは主に以下のとおり。ただし、経営組織のダイナミズムは日々、変化しているのでスケジュール、授業内容は変更することがある。

- 1回 経営組織論の講義概要。【マネジメント】【オーガニゼーション】【コミュニティ】
- 2回 伝統的組織の理解。【ウェーバー】【ビューロークラシー】【パーキンソンの法則】
- 3回 近代組織論の発端 その1 【バーナード】【能率と有効性】【組織成立の3要素】
- 4回 近代組織論の発端 その2 【サイモン】【意思決定論】【SR図式】
- 5回 最適の組織とは：コンティンジェンシー理論【ローレンス＝ローシュ】【コンティンジェンシー】
- 6回 組織の国際比較【組織進化プロセス】【組織類型】
- 7回 最適の組織とは：ネオ・コンティンジェンシー理論【カオス】【ゴミ箱理論】【あいまい性】
【自己組織化】【組織文化】
- 8回 事例研究：ジャック・ウエルチのGE革命【ナンバーワン戦略】【選択と集中】【ワークアウト】
- 9回 事例研究(続)：世界最強の経営者から何を学ぶか【価値共有】
- 10回 最強組織への飛躍の法則【コリンズ】【ビジョナリーカンパニー】【第5水準の経営者】
- 11回 IT革命とマネジメントの変容【IT革命】【距離の死】【トランザクション・コスト】
- 12回 組織リーダーの資質とは【リーダーシップ】【アートかサイエンスか】
- 13回 21世紀型の組織とは【ハメル】【マネジメント・イノベーション】
- 14回 日本の組織の特性について【日本の経営】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学部学生は、「マネジメント論基礎」を履修しておくことが望ましい。また、「経営組織論」と並行して「経営戦略」を受講することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂が公開されています。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 2回 人的資源管理の歴史的発展【人事管理論】【人的資源管理論】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務設計【職務拡大】【職務充実】
 - 5回 組織設計【分業】【調整】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 職能資格制度と人事考課制度【人事等級制度】【人事考課】
 - 8回 専門職制度【組織内プロフェッショナル】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 教育訓練制度とキャリア開発【選択型研修】【自律的キャリア】
 - 11回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
 - 11回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【雇用形態の多様化】
 - 12回 女性労働【ジェンダー】【ダイバーシティ】
 - 13回 労使関係【企業別労働組合】
 - 14回 人的資源管理領域における最近の学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% (出席は不定期に取り、単位の修得条件とする) 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくことよ。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中小企業論 【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていくことを、本コースの目的とする。

教科書 /Textbooks

5月頃発売予定の中小企業庁編「2010年版中小企業白書」経済産業調査会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 "
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理
 - 第13回 "
 - 第14回 "
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
出席・課題等の平常点・・・30% 期末レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コーポレートガバナンス【昼】

担当者名 晴山 英夫 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレートガバナンス論が社会的な注目を集めている。この問題は単に企業のあり方や企業像にかかわるだけではなく、日本企業の活気や国際競争力、さらに経営者の戦略決定に結びついているからである。本講義では、経営学の観点からその意義と課題を明らかにし、国際比較を試みる。

教科書 /Textbooks

指定しない。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 コーポレートガバナンスとは何か【経営者牽制】、【企業主権者論】、【会社は誰のものか】
- 2回 所有と経営の分離をめぐる【経営者支配】、【経営者効用の最大化】
- 3回 エージェンシー理論とガバナンス【会社支配権市場の牽制】、【機関投資家】、【発言と退出】【ストック・オプション】
- 4回 M&Aと経営者権力【敵対的企業買収】、【経営者の自己保全】
- 5回 ステークホルダーと企業の社会的責任【株主理論】、【利害関係者理論】
- 6回 株式会社支配論とコーポレートガバナンス論、【支配主体論】、【統治主体論】
- 7回 アメリカのガバナンス【アングロサクソン型資本主義】、【株主重視型経営】
- 8回 ドイツのガバナンス【ライン型資本主義】、【労使同権型経営】
- 9回 日本のガバナンス【経営者主権】、【メインバンク】、【権力の空白】
- 10回 中国のガバナンス【国有企業改革】、【政企不分】、【インサイダー・コントロール】
- 11回 日本のガバナンス改革論1【取締役会改革】、【執行役員制度】、【社外取締役】
- 12回 日本のガバナンス改革論2【委員会等設置会社制度の導入】
- 13回 日本の事例研究【ソニーの事例】
- 14回 日本のガバナンスの展望【ガバナンス不在の克服】【グローバル・スタンダード】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題、小テストを含む)...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞や雑誌等の関連記事を読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、広く世の中の出来事や図書を題材として、情報収集・整理、分析、プレゼンテーション、討論など、社会科学の分野のみならず実社会でも求められる基本能力のトレーニングを一緒に進めていきます。受講生の関心に合わせて題材はできるだけ広く設定したいと思っています。

社会保障分野（年金、子育てなど）、公共サービス改革などのテーマが多くなると思います。

平成21年度は、①「図書館への指定管理者導入」、②「公立保育所民営化」、③「学校選択制」について報告と議論を行いました。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いたいと思っています。必要部分をコピーし配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 - 5回 授業の進め方、成績評価について。
資料収集方法（図書館等の利用案内含む）、レジュメの作り方、報告の仕方。
- 第6回 - 8回 受講生による報告と議論
- 第9回 - 11回 受講生による報告と議論（1回目）
- 第12回 - 14回 受講生による報告と議論（2回目）
- 第15回 最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・・・50%、報告内容・・・50%

* 受講態度が極めて悪い場合、出席として認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、大学における講義・演習・実習において必要な技法を習得することである。具体的には、日常生活や社会現象のなかにある問題の発見、情報・資料・データ等の収集・整理、レジュメの作成、プレゼンテーション、議論を受講生が実際に行うことで、これらのスキルを身に付けてもらう。毎回、政策や地方自治に関するテーマもしくは文献を挙げるので、受講生には、これらについて事前に準備をし、演習に臨む姿勢を求める。また、受講生が作成したレジュメや報告の仕方、議論への貢献についてなどを互いに講評することで、スキルアップをはかる。

教科書 /Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 酒井聡樹(2007)『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版
- 猪口孝(1985)『社会科学入門』中公新書
- 河野哲也(2002)『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会
(議論や発表に必要な文献については適宜指示する。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------|----------------------|
| 1回 | ガイダンス・第1回目の課題についての説明 |
| 2回 | 課題の報告 |
| 3回 | プレゼンテーションについて(1) |
| 4回 | レジュメの作成に関する技法 |
| 5回 | プレゼンテーションについて(2) |
| 6回～12回 | 文献報告 |
| 13回 | 文献報告の講評 |
| 14回 | レポート課題についての説明 |
| 15回 | まとめ |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席25%、課題50%、議論・質疑応答への参加25%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

入門演習Iを受講するにあたっての特別な準備は必要ありません。ただ、世の中で起きている事件・事象に関心を持ち、それに対して自分はどう考えるのか等、常にアンテナを張った生活をするのが、この演習の目指す「大学における講義・演習・実習において必要な技法の習得」に役立つと思います。また演習の醍醐味は議論です。恥ずかしながら、積極的に自分の意見や疑問を述べることに是非、慣れて下さい。なお上記スケジュールは受講生の人数や希望により変更することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

事実・社会的事実の違い、価値と事実、主観性・客観性など、社会科学の概念、社会科学方法と調査方法論、研究対象の捉え方について検討する。また、論理的考え方の向上が狙いである。

練習Iのキーワード；社会科学の概念、社会科学方法と調査方法論、研究対象の捉え方。

練習Iの目標：資料の調べ方、レポートの書き方、話し方について知ってもらう。

新聞記事を読んできて、それについて話してみる（毎週、約3-4分程度で）。

練習Iの具体的内容：人間と社会の関係、政治、政策、経済現象について調べ、議論する。

新聞の切り抜き、本、社会論点について調べて議論する。

練習Iの活動：学生自らの活動が多い（コンパ、よそのまちの探検、学生自らの議論、他大学ゼミとの交流など）

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①宮内泰介(2004) 自分で調べる技術-市民のための調査入門、岩波書店
- ②市川伸一(1997)、考えることの科学、中公新書
- 佐藤郁哉(2002)、フィールドワークの技法-問いを育てる、仮説をきたえる、新曜社
- 野田直人(2004)、参加型ワークショップ入門、明石書店
- 今田高俊編(2000)、リアリティの捉え方、有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 紹介など
- 第2回～第8回 毎回、全員の新聞記事の3-4分プレゼンテーション。
社会科学方法と調査方法論、論文の書き方、
- 第9回～第14回 自分の興味のある社会問題について司会として議論を進めていく。
- 第15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート報告や議論、出席状況などを総合的に判断する。

レポートの書き方の例

私は「夫婦別姓は 正しくない」と思う。なぜならば夫婦別姓は家族間の一体感を低下させる恐れがあると考えられるからである。

船橋洋一(朝日新聞コラムニスト)は、夫婦別姓が未婚女性の結婚率を高める方法であると論じている。船橋洋一はここ数年20-30代女性の結婚忌避現象に関して、結婚による改姓をその主原因としている。具体的には、、、

これに対して私は反対する。夫婦別姓は、社会的な安定感を崩壊させるとともに、家族間の同一感を低下させる。これは、、、、、、、、、、からである。

また、夫婦とは、、、家族とは、、社会の中で一番重要な単位であり、基礎でもある。

これに関して、、、、福岡太郎は、、、、と論じている。桃太郎の指摘のとおり、家族の、、社会的、文化的な機能や意味から、私は、、に同感する。反面、船橋洋一は、、面を軽視していると考えられる。従って、私は「夫婦別姓が正しくない」、と思う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習I【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策構想に必要な知識の習得を目指す。
「今なぜ政策構想なのか」を考える契機は無数に存在するが、今年度は、身近な素材として映像を取り上げてみたい。テーマは「映像の中の政治」。幾つかの映像(映画など)の中で取り扱われた典型的な政治・社会問題を分析することにより、政治のメカニズムと政策を構想する意味を考えてみたい。

教科書 /Textbooks

テキストは、受講生と相談のうえ、全員で作る事になる。
最初の時間に候補作品リストを渡し、グループ分け、発表順の決定、調査とレジュメ作成の手順を説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回-第2回 テーマ「映像の中の政治」についての説明と議論
第3回-第4回 作品の選定とテキスト作り 【政策課題の発見】【解決方法の模索】
第5回-第6回 事例研究I (作品についてのプレゼンテーションとディベート)
第7回-第8回 事例研究II (作品についてのプレゼンテーションとディベート)
第9回-第10回 事例研究III (作品についてのプレゼンテーションとディベート)
第11回-第12回 事例研究IV (作品についてのプレゼンテーションとディベート)
第13回-第14回 事例研究V (作品についてのプレゼンテーションとディベート)
第15回 まとめ 【政治のメカニズム】【政策過程】【政策構想】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、発表と討論への参加などによって行う。
出席... 20% 発表... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のための資料収集とレジュメの作成。グループ内での役割分担。発表内容についての打ち合わせ。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習（ゼミ）は、受講生の皆さんが、今後の大学での講義や3-4年次の演習そして卒業後の仕事等で有用となるスキルを習得することを目指します。情報の収集・整理，レジユメの作成，プレゼンテーション等の技法を，受講生の皆さんに実際に体験してもらいながら説明いたします。また受講生の皆さんは，初歩的な論理学関連の本の輪読とディベートの実践を通じて，多面的な視点から物事を捉え論理的に議論を進めていくことを学んでいきます。

教科書 /Textbooks

福澤一吉(2005)『論理表現のレッスン』生活人新書。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古郡延治(1997)『論文・レポートのまとめ方』ちくま新書。
その他，適宜紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 図書館ツアー
- 3回 論理的思考・議論①：論理学テキスト輪読・プレゼンテーション
- 4回 論理的思考・議論①：論理学テキスト輪読・プレゼンテーション
- 5回 論理的思考・議論①：論理学テキスト輪読・プレゼンテーション
- 6回 論理的思考・議論②：補足説明
- 7回 論理的思考・議論②：補足説明
- 8回 情報収集・整理の技法
- 9回 デイベート
- 10回 デイベート
- 11回 デイベート
- 12回 デイベート
- 13回 デイベート
- 14回 まとめ・「政策入門演習II」の準備
- 15回 まとめ・「政策入門演習II」の準備

※受講生の人数や関心等に応じて，上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- (A)レジユメとプレゼンテーション...30%，(B)討論への貢献度...20%，(C)ディベート...50%
 ※ (A)~(C)の一つでも行わなかった場合，特別な理由がない限り，単位修得は認められません。
 ※ 毎回の出席は単位修得の必要条件です（やむを得ない場合を除き，欠席・遅刻は厳禁です）。
 ※ 詳細は「第1回イントロダクション」で説明いたします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① 各回の授業に割り当てられるテキストを，その授業が始まるまでに読んでくること。
- ② ゼミでの討論に積極的に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は政策入門演習IIと抱き合わせの科目です。

大学生の学習方法は高校の暗記中心の受験勉強とはかなり異なります。大学ではもっと自分を開花させることを念頭においてください。本授業では、まず、自分が何に興味があるのかを探り、方法論を勉強し、結果を導き出すという作業を行います。同時に、グループ・ワークやインタビューを通じてのコミュニケーション能力やファシリテーション能力をつける必要があります。

大学の4年間の1年目をきちんと学習するかしないかで、それ以降の学年の学習態度や生活態度が決定されるといっても過言ではありません。自分のしっかりとした目標をたて、その実現に向かって頑張ってください。本授業では現場での実践や体験も重んじます。

教科書 /Textbooks

- * 森靖男『大学生の学習テクニク』大月書店、1994年
- * 森時彦『ファシリテーターの道具箱』ダイヤモンド社、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * グループワーク用の教材・資料 (自ら準備の必要なし)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「政策入門演習I」の目的・内容説明、アイスブレイキング (自分探しと相手への理解)

第2回～第15回

グループワーク (指定図書・資料の輪読と内容についての討論)、コミュニケーション技能とファシリテーション技能の向上プログラムの実施、それらに基づき、屋外現場での政策 (特に、環境に関わる) 実践活動 (必要があれば、小倉駅頭での災害者救援募金活動)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 小試験 (指定資料の読了事前確認用) ...20% グループワークへの参加度...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り、藍島 (小倉北区) でのフィールド・ワーク、5月の合宿、夏季休暇中の韓国プサンへのスタディ・ツアーを実施する予定です。そのための準備・事後学習をしてもらいます。輪読用指定図書の読了。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会人として活動するためには、どのような職業でも、様々な社会の実状を調べ、分析して課題を認識し、自らの意思や意見を形成し、自分の属する組織や社会に訴えていくことが必要になる。

そのために必要な能力の中でも基本的な、感じる力・考える力を養うことを目的に、政治や行政、経済などの分野の社会現象に関する新聞や図書を題材にして、図書などの読み方、資料の収集・レジュメやレポートの作成・効果的な発表の仕方などのトレーニングを行う。2学期末には、受講生で議論して設定したテーマに関して、簡単なレポートを作成し、発表する。

教科書 /Textbooks

レジュメ・新聞や雑誌のコピーなどを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)

江下雅之『レポートの作り方』(中公新書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1学期・2学期を通じて次の内容)

- | | |
|----------------------|-----------|
| ①オリエンテーション | ②テーマの決定 |
| ④資料収集の方法(図書館等の利用を含む) | ⑤資料や本の読み方 |
| ⑥レジュメの作り方 | ⑦レポートの作り方 |
| ⑧発表の仕方 | ⑨ディベート など |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、調査・討議・発表論文作成などへの参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。
- ②ワープロ、エクセル、パワーポイントの知識・技能の習得に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、社会科学分野での研究の方法論の基礎を学び、アカデミック・リテラシーを身につけてもらう。Research questionとは何か、どのように設定すればよいか、研究はどんなことを考慮しながら行うべきか、どのような研究方法があるか、概念をいかに使うか、概念をいかに操作化するか、どのようにデータを集めるか・分析するか、などを学ぶことを通じて、科学的研究・調査はいかに行うべきかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

Ted Palys, Research Decisions: Quantitative and Qualitative Perspectives, 2nd edition. Toronto, Canada: Harcourt Brace, 1997. (なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

後日指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そういう覚悟で履修登録すること。毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1学期は、学期の3分の2くらいを使って、テキストの購読・理解を通して科学的研究調査の基礎を学ぶ。そして残りの期間で、前半で学んだ知識を用いて実際に研究・調査を行ってもらい、学期末に研究論文として提出してもらう。2学期は1学期に学んだ知識・技能を用いて発展させ、個々の学生が政策分野の中からひとつを選び、その分野でのresearch questionを設定し、研究・調査を進め、クラスでの発表・討論を行う(政策分野とはたとえば、経済、財政、福祉、失業、教育、医療、金融、社会保障、競争政策など)。

1. イントロ; 2. 科学的研究とは何か; 3. 科学的研究とは何かII; 4. 科学の方法(1)定量的方法、定性的方法; 5. 科学の方法(2)いかなる方法によって科学的な知識を得るか; 6. 科学の方法(3)仮説とそのテスト、理論とデータI; 7. 科学の方法(3)仮説とそのテスト、理論とデータII; 8. 研究のタイプと研究のデザイン; 9. 研究のタイプと研究のデザインII; 10. 研究課題・理論的問題の設定、リサーチ・デザインの構築、研究結果のまとめ方; 11. 10の後半; 12 - 15. 応用・実践 - 研究の実行と研究経過報告・討論; 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言参加が50%、(2)研究論文が50%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけ積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は学期末提出の研究論文の質で決まる。研究論文はA4紙にダブルスペースで10枚程度。また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらう。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進め、論文をまとめる。当然のことながら、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・転載は禁止。また、他の者が書いたものと同じレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を必ず読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、これから政策科学を研究する学生が1年生の時に学習しておくべき基礎的事項を身につけてもらうことにあります。大学で研究することは高度な内容も当然含んでいますが、基本は「読み、書き、話す」といったことの延長線上にあります。したがって、特に、1学期には、大学で「読み、書き、話す」にはどうすればよいかということについて、本演習担当者の経験をまじえて演習で学んでいただきます。また、これをふまえ①社会科学における「仮説」型思考の重要性、②(結果の暗記ではなく)創造するプロセスの重要性、③創造の方法論などについても基礎的な作業をしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキスト等はそのつど連絡し購入してもらいます。参考文献も授業中に示しますがとりあえず以下のものをあげておきます。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高根正昭『創造の方法学』(講談社、1979年)。
川喜田二郎『発想法-創造性開発のために』(中央公論新社、1967年)。
竹内薫『99.9%は仮説-思い込みで判断しないための考え方』(光文社新書、2006年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 - 自己紹介および発声練習
 - 2回 (図書館ツアー)及び図書館の使い方(指示に従って図書館を使ってもらいます)
 - 3回 大学で研究するとは?大学で「読み、書き、話す」
 - 4回 プレゼンテーション(1)-自分の身近なことを時間内に発表する
 - 5回 プレゼンテーション(2)-新聞記事等の話題をまとめて発表する
 - 6回 プレゼンテーション(3)-同上
 - 7回 「読んで」「発表する」(1)-社会科学(政策科学)の文献の輪読をかねて
 - 8回 「読んで」「発表する」(2)-社会科学(政策科学)の文献を輪読をかえて
 - 9回 「読んで」「発表する」(3)-社会科学(政策科学)の文献を輪読をかねて
 - 10回 「読んで」「発表する」(3)-社会科学(政策科学)の文献を輪読をかねて
 - 11回 レポートを書く(1)-引用注の付け方等レポートについて
 - 12回 レポートを書く(2)-実際に書いてみる
 - 13回 デイバート(1)-ルールの説明等
 - 14回 デイバート(2)-デイバートの実践
 - 15回 まとめ
- *上記のスケジュールは、受講生の理解度等によって変更することもあります。あくまで予定として考えてください。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、授業貢献度... 50 % レポート等 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず割り当てられたところを準備して参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、大学生活・研究活動に必要なスキルと能力を学んでもらうことを目的としています。大学にはどんな施設があるのか、そして勉強するときどのような情報をどのように調べればよいのかを知っておいたほうがいろいろと便利だろうし、また演習のような授業では“レジュメ”を作ったり、レポート書いたり、またみんなの前で研究内容を発表したり、それについて議論したりといろいろな知識と技術が必要になってきます。こうした大学生として立派に成長できるようにサポートするのがこの演習の主題です。また、年間を通じて「読書課題」に取り組んでもらいます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめまして【メンバーの特徴を確認する】【大学生の心得】
- 2回 大学を旅しよう【キャンパスふしぎ発見】
- 3回 大学生として羽ばたこう①【図書館を知る】
- 4回 大学生として羽ばたこう②【情報を集める】
- 5回 - 6回 大学生として生き延びよう①【プレゼンテーション】
- 7回 - 8回 大学生として生き延びよう②【レジュメづくり】
- 9回 - 12回 大学生として生き延びよう③【「論文」に慣れよう】
- 13回 - 15回 大学生として成長しよう【第1次ディベート大会】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席点、授業に望む積極性、報告の仕方・内容などを基準に判断します。何事にもがむしゃらで一生懸命な人は評価されます。また、「読書課題」は必須の要件です。
出席 + 積極参加点・・・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とにかく前向きに取り組んでみよう。毎回休まないように健康に気をつけましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「政策入門演習I」に引き続いて、情報収集・整理、分析、プレゼンテーションなど基本能力のトレーニングを進めていきます。Iでは、本の読み方、資料収集、レジュメ作成が中心になりますが、IIでは、レポートの作成方法、討論などを中心に進めていきます。受講生の関心に合わせて題材はできるだけ広く設定したいと思っています。社会保障分野（年金、子育てなど）、公共サービス改革などのテーマが多くなると思います。

平成21年度は、①「刑務所民営化」、②「ニート」、③「国会改革（参議院不要論）」について報告と議論を行いました。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いたいと思っています。必要部分をコピーし配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 - 5回 授業の進め方、成績評価について。レポートの作成方法など。
- 第6回 - 8回 受講生による報告と議論（1回目）
- 第9回 - 11回 受講生による報告と議論（2回目）
- 第12回 - 14回 受講生による報告と議論（3回目）
- 第15回 最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・・・50%、報告内容・レポート内容・・・50%

* 受講態度が極めて悪い場合、出席として認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

* レポートを提出しない人には単位を認定しません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、政策入門演習Iで学んだ情報収集の仕方、資料や文献の読み込み、レジュメの作成、プレゼンテーションの仕方などのスキルを、ディベートによってさらに磨くことを目的とする。ディベートはテーマごとに、その賛否・可否のどちらかの立場に分かれて行う班対抗戦となるが、ある個人の力量に頼るのではなく、同じチームのメンバー全員が議論の土台を作り、質疑を行うことを前提とする。また、ディベートを傍聴して、いずれの班の討論に説得されたか、というジャッジも受講生が互いに行うことで、議論の仕方・質疑の仕方についての客観的な意見を交換できる。

教科書 /Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 望月和彦(2003)『ディベートのすすめ』有斐閣選書
- 茂木秀昭(2001)『ザ・ディベート：自己責任時代の思考・表現技術』ちくま新書
- 酒井聡樹(2007)『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版
(ディベートなどに必要な文献については適宜指示する。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・ディベート班分け
- 2回 ディベート(1期)のテーマの設定・対戦チーム決定
- 3回 ディベート(1期)のための準備(テーマについての情報収集・役割分担等)
- 4回～6回 ディベート(1期)の実施
- 7回 ディベート(1期)の講評・ディベート(2期)の構成・テーマの設定
- 8回 ディベート(2期)のための準備(テーマについての情報収集・役割分担等)
- 9回～11回 ディベート(2期)の実施
- 12回 ディベートの講評
- 13回 レポート課題についての説明
- 14回 ディスカッション、プレゼンテーションについて
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席25%、課題50%、議論・質疑応答への参加25%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

入門演習IIを受講するにあたっての特別な準備は必要ありません。ただ入門演習Iと同様に、社会で起きていることに常に関心を持って生活して欲しいと思います。ごく身近なことでもいいですし、自分とは直接関係はない事柄でも構いません。外の世界に興味を持つこと、疑問を抱くこと、自分で調べてみることに、ひとに聞いてみることに、ここから大学における勉強のすべてが始まるといっても過言ではありません。あなたの好奇心、これがこの演習でも活かされるはずですよ。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

事実・社会的事実の違い、価値と事実、主観性・客観性など、社会科学の概念、社会科学方法と調査方法論、研究対象の捉え方について検討する。また、論理的考え方の向上が狙いである。

練習IIのキーワード；社会科学の概念、社会科学方法と調査方法論、研究対象の捉え方。

練習IIの目標：資料の調べ方、レポートの書き方、話し方について工夫し、活用すること。

1月にpower point を使って、人の前で発表してみる。

練習IIの具体的内容：人間と社会との関係、政治、政策、経済現象などについて調べ、議論する。

新聞の切り抜き、本、社会論点について調べて議論する。

練習IIの活動：水俣研修（一泊二日）、水俣写真展、水俣関連の発表会（他大学との共催）

教科書 /Textbooks

特に指定しないが 以下の参考文献には目を通すこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宮本憲一 (1998)、公共政策のすすめ、有斐閣、

宮内泰介(2004) 自分で調べる技術-市民のための調査入門、岩波書店

佐藤郁哉 (2002) フィールドワークの技法-問いを育てる、仮説をきたえる、新曜社

市川伸一 (1997)、考えることの科学、中公新書

今田高俊編 (2000)、リアリティの捉え方、有斐閣アルマ

その他、後日、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回 準備、アナウンスなど

第 2 回～第 5 回 論点整理、方法論に関するいい論文、社説などを読む。

第 6 回～第12回 自分の決めた本、論文などを、
「著者の論点、論理展開、発表者の意見、結論」、
という形式でまとめて発表する。
ここでは発表者の議論、論理の方法が一番重要であり、評価の対象となる。

第13, 14, 15回 Power Pointを使ったプレゼンテーション。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論、出席状況などを総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策構想に必要な知識の習得を目指す。
「今なぜ政策構想なのか」を考える契機は無数に存在するが、今年度は、身近な素材として映像を取り上げてみたい。テーマは「政治の中の映像」。(政策入門演習I「映像の中の政治」とは関連しているが、別のもの)。政治の中で映像がどのような機能を果たしているかを分析することにより、政治のメカニズムと政策を構想する意味を考えてみたい。古典的作品として「民族の祭典」「戦艦ポチョムキン」などがあるが、できるだけ新しい作品を取り上げてみたい。

教科書 /Textbooks

テキストは、受講生と相談のうえ、全員で作る事になる。
最初の時間に候補作品リストを渡し、グループ分け、発表順の決定、調査とレジュメ作成の手順を説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回-第2回 テーマ「政治の中の映像」についての説明と議論
第3回-第4回 作品の選定とテキスト作り 【政策課題の発見】【解決方法の模索】
第5回-第6回 事例研究I (作品についてのプレゼンテーションとディベート)
第7回-第8回 事例研究II (作品についてのプレゼンテーションとディベート)
第9回-第10回 事例研究III (作品についてのプレゼンテーションとディベート)
第11回-第12回 事例研究IV (作品についてのプレゼンテーションとディベート)
第13回-第14回 事例研究V (作品についてのプレゼンテーションとディベート)
第15回 まとめ 【政治のメカニズム】【政策過程】【政策構想】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、発表と討論への参加などによって行う。
出席... 20% 発表... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のための資料収集とレジュメの作成。グループ内での役割分担。発表内容についての打ち合わせ。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習（ゼミ）では、1学期の『政策入門演習I』で学んだ様々なスキルを、受講生が政治や政策に関するトピックを題材にして実際に活用していきます。学期末には、各自関心のある社会問題に関するレポートを提出してもらいます。そこで最初に、受講生各自がレポートで取り上げたいテーマについて報告します。次に、政治学の初歩的なテキストを輪読します。このテキストの輪読は、政治や政策を議論するうえでの必要最低限の知識の習得を手助けすると同時に、各授業時の議論のトピックを提供します。各回に2人程度の報告者を割り当て、報告者はテキストの内容を基にレジュメを作成し、プレゼンテーションを行います。その際報告者には、単にテキストを要約をするのではなく、問題を提起しその問題に対する暫定的な意見を述べてもらいます。報告者のプレゼンテーションに関して受講生皆で討論を行います。政治学テキストの輪読が終わるまでに、受講生はレポート計画書を作成・提出します。提出後はレポート計画書に従って、受講生はレポート提出前に研究経過を報告します。なお、2学期の適切な時期に、レポート執筆に関する説明を行います。

教科書 /Textbooks

1学期の『政策入門演習I』で説明いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 学期末レポートのテーマの報告	9回 学期末レポートの研究経過の報告
2回 学期末レポートのテーマの報告	10回 学期末レポートの研究経過の報告
3回 学期末レポートのテーマの報告	11回 学期末レポートの研究経過の報告
4回 学期末レポートのテーマの報告	12回 学期末レポートの研究経過の報告
5回 政治学テキストの輪読	13回 学期末レポートの研究経過の報告
6回 政治学テキストの輪読	14回 総括
7回 政治学テキストの輪読	15回 総括
8回 政治学テキストの輪読	

※受講生の人数や関心等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1)レジュメとプレゼンテーション...30%
- (2)レポート計画書...20%
- (3)レポート...40%
- (4)討論への貢献度...10%

※(1)~(4)の一つでも行わなかった場合、特別な理由がない限り、単位修得は認められません。

※毎回の出席は単位修得の必要条件です(やむを得ない場合を除き、欠席・遅刻は厳禁です)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① 各回の授業に割り当てられるテキストを、その授業が始まるまでに読んでくること。
- ② ゼミでの討論に積極的に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は政策入門演習Iと抱き合わせの科目です。

政策入門演習Iで習った大学生の学習方法を次は実践する番です。グループ・ワークで自らの関心に基づき、テーマを決め、最終的には報告書(もしくは論文)の完成にまで皆さん方の能力を高めていってまいります。私が積極的に指導できる教育内容は、環境教育や国際協力の分野などです。そこで、自分の課題の性格・内容に応じて、必要であれば、グループ・ワーク、インタビューやファシリテーション能力の獲得を行ってまいります。目標をたて、その実現に向かって頑張ってください。本授業では現場での実践や体験も重んじます。

教科書 /Textbooks

- * 池上 彰『そうだったのか!日本現代史』集英社文庫、2008年
- * 池上 彰『そうだったのか!現代史〈パート2〉』集英社文庫、2008年
- * 武田邦彦『偽善エコロジ―「環境生活」が地球を破壊する』幻冬舎新書、2008年
- * グループワーク用の教材・資料(自ら準備の必要なし)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「政策科学入門II」の目的・内容説明

第2回～4回 グループワーク(自分のテーマ課題の設定の再検討とその説明)

第5回～8回 政策、環境教育、国際協力に関わる文書の輪読と小テスト。また、調査などを通じた南アジアからのJICA研修生の交流

情報・知識・体験の確保、

第9回～13回 各自の調査結果の発表と報告書作成の進捗状況の発表

第15回 まとめ

10月には水俣スタディツアーを実施し、11月下旬ごろ1泊2日で1年生から4年生までの合同合宿を開催します。1月にはプサンの学生を招へいし、合同英文報告書を作成してまいります。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 小試験(指定資料の読了事前確認用)...10% グループワークへの参加度と成果発表...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

輪読用指定図書を読了、藍島(小倉北区)でのフィールド・ワーク、水俣研修旅行への参加

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会人として活動するためには、どのような職業でも、様々な社会の実状を調べ、分析して課題を認識し、自らの意思や意見を形成し、自分の属する組織や社会に訴えていくことが必要になる。

そのために必要な能力の中でも基本的な、感じる力・考える力を養うことを目的に、政治や行政、経済などの分野の社会現象に関する新聞や図書を題材にして、図書などの読み方、資料の収集・レジュメやレポートの作成・効果的な発表の仕方などのトレーニングを行う。2学期末には、受講生で議論して設定したテーマに関して、簡単なレポートを作成し、発表する。

教科書 /Textbooks

レジュメ・新聞や雑誌のコピーなどを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)

江下雅之『レポートの作り方』(中公新書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1学期・2学期を通じて次の内容)

- | | |
|----------------------|-----------|
| ①オリエンテーション | ②テーマの決定 |
| ④資料収集の方法(図書館等の利用を含む) | ⑤資料や本の読み方 |
| ⑥レジュメの作り方 | ⑦レポートの作り方 |
| ⑧発表の仕方 | ⑨ディベート など |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、調査・討議・発表論文作成などへの参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。
- ②ワープロ、エクセル、パワーポイントの知識・技能の習得に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、社会科学分野での研究の方法論の基礎を学び、アカデミック・リテラシーを身につけてもらう。Research questionとは何か、どのように設定すればよいか、研究はどんなことを考慮しながら行うべきか、どのような研究手法があるか、概念をいかに使うか、概念をいかに操作化するか、どのようにデータを集めるか・分析するか、などを学ぶことを通じて、科学的研究・調査はいかに行うべきかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

Ted Palys, Research Decisions: Quantitative and Qualitative Perspectives, 2nd edition. Toronto, Canada: Harcourt Brace, 1997. (なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そういう覚悟で履修登録すること。毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1学期は、学期の3分の2くらいを使って、テキストの購読・理解を通して科学的研究調査の基礎を学ぶ。そして残りの期間で、前半で学んだ知識を用いて実際に研究・調査を行ってもらい、学期末に研究論文として提出してもらう。2学期は1学期に学んだ知識・技能を用いて発展させ、個々の学生が政策分野の中からひとつを選び、その分野でのresearch questionを設定し、研究・調査を進め、クラスでの発表・討論を行う(政策分野とはたとえば、経済、財政、福祉、失業、教育、医療、金融、社会保障、競争政策など)。1・2学期を通して概念的に学んだ研究の方法論に関する知識・技能を実践に移し、知識・技能習得を促し、社会科学分野の研究なら今学期以降いつでも遂行できるようにする。今学期は特に、クラスの中で研究を発表・討論することによって、研究技能を深めてもらう。

スケジュールは、毎週学生の研究について検討・討論し、いかにその研究が最善の方法で遂行されるかについて学ぶ。そして教科書や説明などは補足的に用いられる。学生の発表と討論を中心に毎週授業を進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言参加が50%、(2)研究論文が50%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけ積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は学期末提出の研究論文の質で決まる。研究論文はA4紙にダブルスペースで10枚程度。また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらう。研究の課題、研究方法、計画の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進め、論文をまとめる。当然のことながら、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・転載は禁止。また、他の者が書いたものと同じレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を必ず読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に身につけた知識・スキルを基に、2学期には「まちづくり」「福祉政策」「環境政策」などの様々な現代日本あるいは地方自治体の政策課題をゼミで①議論したり、②実際にグループに分かれて調査し、③政策提言するうえでの方法論を学ぶなど、より政策科学的な演習を行います。

また、NPOや実際に政策が実施されている現場に視察にいて、実際に政策運営に携わっているアクターにインタビューするなど、より実践的内容の演習を行います。視察に行く上でアポイントをとったり、調査票の質問項目を作るといったことは容易に思えていざやろうとするとなかなかうまくいかないものです。演習ではこのような実践的側面を含め知識を深めていただこうと思います。

(* 希望者には榎原主催の「政策調査」に調査員として参加することも可能です。)

教科書 /Textbooks

テキストや参考文献はそのつど指示します。参考文献としては以下の文献をあげておきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辻新六・有馬昌宏『アンケート調査の方法-実践ノウハウとパソコン支援』(朝倉書店、1987年)。

大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ-論理と方法[第2版]』(ミネルヴァ書房、2005年)。

小池和男『聞き取りの作法』(東洋経済新報社、2000年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 2学期スケジュールについて
- 2回 自ら選択した政策課題についてのプレゼンと議論(1)
- 3回 自ら選択した政策課題についてのプレゼンと議論(2)
- 4回 自ら選択した政策課題についてのプレゼンと議論(3)
- 5回 自ら選択した政策課題についてのプレゼンと議論(4)
- 6回 社会調査に関する文献の輪読(1)
- 7回 社会調査に関する文献の輪読(2)
- 8回 社会調査に関する文献の輪読(3)
- 9回 社会調査に関する文献の輪読(4)
- 10回 調査対象を決めるためのグループ討論等
- 11回 調査のための質問項目の作成等
- 12回 調査のための質問項目の作成等
- 13回 調査結果の報告
- 14回 調査結果の整理および報告書の作成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度... 50% レポートや課題... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題として指定されたところは必ず準備して授業に臨んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、大学生生活・研究活動に必要なスキルと能力を学んでもらうことを目的としています。大学にはどんな施設があるのか、そして勉強するときどのような情報をどのように調べればよいのかを知っておいたほうがいろいろと便利だろうし、また演習のような授業では“レジュメ”を作ったり、レポート書いたり、またみんなの前で研究内容を発表したり、それについて議論したりといろいろな知識と技術が必要になってきます。こうした大学生として立派に成長できるようにサポートするのがこの演習の主題です。IIではIで培った知識と技術を踏まえて、皆様の成長をサポートします。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 5回 真剣勝負！ディベート大会！！【議論】【論理力】【プレゼン】
- 6回 政策との出会い①【グループワークのガイダンス】
- 7回 - 9回 政策との出会い②【調査】【データ収集】【解決策の立案】【プレゼン】
- 10回 レポートへの挑戦①【レポートの書き方】
- 11回 - 15回 レポートへの挑戦②【レポート作成の経過報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席点、授業に望む積極性、報告の仕方・内容などを基準に判断します。何事にもがむしゃらで一生懸命な人は評価されます。ただ、「読書課題」は必須の要件です。
出席+積極参加点・・・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

今回は政策入門演習Iと違い、事前準備が結構大変です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会経済の構造が急激に変化し、一層の行財政改革が求められる中で、地方自治体は、独自の都市再生を模索している。産業振興の観点を中心に、地域社会の活性化のためにどのような政策手法が有効であるかを学び、自ら政策提言できる能力を養成する。

研究成果を、毎年12月に開催されるISFJ(日本政策学生会議)で発表するとともに、2学期末に、ゼミ論文(8,000字程度)を提出する。

授業時間以外にも、視察・調査・討議などを行うことがある。また、役割分担して資料調査・論文作成等を行う責任を果たすことが求められる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

牛嶋正著『現代の都市経営』(1999)有斐閣ブックス
吉田民雄著『都市行政の新しい設計』(1995)中央経済社
小林英夫著『産業空洞化の克服 - 産業転換期の日本とアジア』(2003)中公新書
中沢孝夫著『<地域人>とまちづくり』(2003)講談社現代新書
などゼミのテーマに応じて、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1~2学期を通じて次の内容)

- | | | |
|------------|---------------|-----------------|
| ①オリエンテーション | ②ISFJ発表テーマの選定 | ③役割分担の決定 |
| ④論文構成の検討 | ⑤資料の調査・検討 | ⑥資料調査結果の発表・討議 |
| ⑦中間発表論文の作成 | ⑧最終論文の作成 | ⑨プレゼンテーション資料の作成 |
| ⑩ISFJ発表 | ⑪その他 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、調査・討議・発表論文作成などへの参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象は次の政策分野：経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。さらに、違う政策が経済業績や人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。

教科書 /Textbooks

複数のテキストを読むことになるが、現時点では以下を予定：

Jonas Pontusson. 2005. Inequality and Prosperity: Social Europe vs. Liberal America. Ithaca: Cornell University Press.

Peter Hall and David Soskice. Eds. 2000. Varieties of Capitalism: The Institutional Foundations of Comparative Advantage. Cambridge: Cambridge University Press.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そういう覚悟で履修登録すること。毎週のreading assignmentについては後日アナウンス。同時に学生は個々で選ぶ政策・問題に関して研究を進め、クラスで発表・討論し、論文を執筆する。

1. イントロ; 2. 問題定義: 経済成長と平等; 3. 成長と平等II; 4. 資本主義経済の諸類型; 5. 雇用・失業の様態; 6. 雇用・失業の様態II; 7. 雇用保護・解雇規制と雇用; 8. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差; 9. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差II; 10. 福祉政策、所得再分配、経済成長; 11. 福祉政策、所得再分配、経済成長II; 12. 福祉国家の縮小とデータ; 13. 福祉国家の縮小とデータII; 14. 遅れをカバーするための授業; 15. まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1) テキストの講読・理解、授業での発言参加が50%、(2) 研究論文が50%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1) はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけ積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2) は学期末提出の研究論文の質で決まる。研究論文はA4紙にダブルスペースで10枚程度。また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらおう。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進め、論文をまとめる。当然のことながら、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同じレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を必ず読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 律子 / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

EUおよびヨーロッパ諸国を中心として、先進国の政治経済に関わる幅広い問題を取り上げ、現代のヨーロッパにおける諸問題について考察することを目的とする。具体的なテーマとしては、冷戦後のヨーロッパの国際秩序、欧州統合、社会民主主義の新展開、グローバル化に伴う国家の変容などを予定している。

教科書 /Textbooks

小川有美・岩崎正洋編『アクセス地域研究II 先進民主主義の再構築』（日本経済評論社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 演習の進め方、スケジュールの説明
 - 2回 現在のヨーロッパ【アメリカとヨーロッパ】【新ビジネスモデル】
 - 3回 ヨーロッパの市民【労働力】【市民】
 - 4回 ヨーロッパの諸問題【移民】【暴動】
 - 5回～8回 学生による指定文献の発表
 - 9回 ヨーロッパの挑戦【成長戦略】【教育】
 - 10回 学生のレポートのアウトライン発表
 - 11回 ヨーロッパの課題【民族紛争】【トルコ】
 - 12回～15回 学生による研究発表

成績評価の方法 /Assessment Method

口頭発表 ... 30% 議論への参加 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に指定文献を精読し、毎回の演習で必ず発言することが求められる。レポートの執筆に当たっては、数多くの本および論文を読むことが必要となることに留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境（問題）に関わる全ての政策を対象として、皆さんと勉強していく予定です。
講義全体のキーワードは、公共事業、環境、地域、アジアの環境問題（日本、韓国、中国）、アメリカ、ドイツとEUの環境問題、住民、参加である。環境ゼミで扱う1学期のテーマは以下の通りであるが、これ以外に各自、興味のあるテーマを決めてもよい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- テーマ
- ①中央省庁、自治体における環境関連の財政、組織、法律、環境への取り組み。
 - ②環境を通じた地域再生、公共事業と地域再生。
 - ③環境会計；これは資格証がもらえ、就職に付きやすい。
 - ④エコファンド；投資者が環境に優しい企業のファンドを買い（投資）、企業の環境活動、取り組みを誘導する方法の研究（欧米では進んでいる）。
 - ⑤環境コンサルタント；環境紛争、対立、技術に関するコンサルタントとして起業可能な分野で、そのための方法、研究。
 - ⑥アジアの環境政策（比較研究、日本、韓国、中国；特に中国環境問題・市場はかなり可能性がある）
 - ⑦車リサイクル政策、容器包装リサイクル、家電リサイクル、p c リサイクル。
 - ⑧エコタウン；全国27ヶ所のエコタウンの実態からエコタウンの可能性と課題の研究。
 - ⑩地球温暖化問題・CO2問題、京都議定書、これらの問題に関する国際的取り組み、動向。
 - ⑪エコマネーとエコビジネスとリサイクル市場の国際的取引
 - ⑫環境リスク管理（環境リスク管理資格証がもらえる分野）
日本では始まったばかりの制度。おススメ；大阪大学環境リスク管理プログラムとの連携も可能である。
 - ⑬環境社会アセスメント；環境会計、環境報告書
 - ⑭自治体の環境政策と評価（環境自治体）
 - ⑮環境メディア；環境に関するメディアの報道、実態、問題点、あり方など。

ゼミ活動

1月には、勉強した内容を、各自、power pointを使って発表する。
ゼミ論を仕上げ、製本する。
特別講演会を行う。
他大学（西南大学、九大など）との共同発表会を開催する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論、出席状況などを総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習IIIでは、「政治思想と現代社会」というテーマの下に、エスニシティと政治思想、環境問題と政治思想、ユートピアと政治思想、地域主義（リージョナリズム）と政治思想について検討するが、演習I（1学期）では、エスニシティとリージョナリズムの問題を、より現実的な諸問題と結び付けながら、討論する。エスニシティもリージョナリズムも既存のモダンな政治枠組みを組み替える視点であるだけに、鋭い現実認識と豊かな構想力を必要とする。十分な資料収集と積極的な討論を期待する。

教科書 /Textbooks

入ゼミ後、ゼミ生と相談して決めます（毎年、最新のテキスト・論文を数点選び、年度のテーマに合わせて採用しています）
入ゼミ後、参考文献リストを渡します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

2つのテーマ（エスニシティと政治思想、リージョナリズムと政治思想）に関する幾つかの本、論文を読む。
第1回 「エスニシティと政治思想」についてのテキストの選定、発表順の決定。
第2～6回 発表と討論。
第7回 「エスニシティと政治思想」についてのまとめ。
第8回 「リージョナリズムと政治思想」についてのテキストの選定と発表順の決定。
第9～13回 発表と討論。
第14回 「リージョナリズムと政治思想」についてのまとめ。
第15回 2つのテーマについてのまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、発表と討論への参加などによって行う
出席... 20% 発表... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ運営は、上記のテーマのテキストの選択、分担の決定、レジュメの作成、発表、討論を中心に進める。
夏期休暇中、ゼミ合宿を行い、ゼミ論文の中間発表を行い、年度末にゼミ論文集を発行する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、公共政策を研究する上で必要となる基本的な分析方法を身につけ、さらには地方自治体を中心として実際に実施されている公共政策を分析する能力を養うことにある。

受講者には、現代日本の公共政策のなかで何が自分にとって問題なのか、そのために自分はどのような研究をするのかという明確な問題意識をもって参加する（あるいは本演習を通じてそれを養う）ことを望む。

本演習には、現状肯定型学生は適さない。また、ゼミでは、積極的に意見を述べること、積極的に議論に参加することが要求される。「議論」は本演習においては、最も重要な要素のうちの1つである。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要な文献は、その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、学生自身が選んだテーマについての研究発表が中心となる。

ただし、それ以外に以下のような内容のものも行う予定。

①毎年、ゼミで北九州市の公共政策に関連する調査を行う予定である。昨年度は、1)八幡東区大蔵の単身高齢者および2人暮らしの老人の調査、2)北九州市の公営団地の調査を行った。これはまた、「政策調査実習」として1単位にあたる活動でもある。

②日本公共政策学会主催の学生政策コンペに参加する予定である（昨年多治見市で開催された大会では1位[日本公共政策学会会長賞]を獲得した）。

*なお、本ゼミでは毎年「ゼミ論集」を作成するため、1年に1本は、レポートを提出していただくことになる（ただし、3年生の時は共同研究のレポートとなる）。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加・貢献度 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段のゼミに際しては割り当てられた部分のプレゼンの準備をしてゼミにのぞんでいただきたい。

また、日本公共政策学会の政策コンペでは学生主導でテーマの決定から発表までを行っていただくのでそのつもりでゼミの活動に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

年金、医療・介護、ニート・フリーター等の雇用問題、児童福祉（子育て支援など）、障害者福祉（就労支援・作業所）といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。演習では受講生が自分で「調べて、考えて、そして発表する」ことを目標とします。演習Iでは「福祉経営」「福祉ビジネス」をテーマにして、障害者福祉、障害者の雇用の中心に議論します。社会福祉サービスにおける政府と市場の役割を理解するのが目標です。平成18年度からゼミ生が実際に、市内の福祉NPO団体（小規模作業所）の商品販売を支援する取り組みを行っています。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いますが、必要部分をコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方・グループ分け。課題の提示。
第2回 - 第6回 報告と討論（1回目）
第7回 - 第11回 報告と討論（2回目）
第12回 - 第15回 最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 50% 報告内容... 50%

* 受講態度が極めて悪い場合、出席として認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習（ゼミ）の目的は、演習I～IVの2年間の履修を通して、受講生が各自設定したテーマ（政治や政策に関わるテーマ）に関する研究を行うための様々なバックアップを行うことです。受講生は受講1年目の終わり（演習IIの最後）に研究計画書を、2年目の終わり（演習IVの最後）に卒業論文またはゼミ論文を提出します。2年間の履修の第1段階である演習Iでは、研究の進め方、論理的な考察・議論のあり方、論文の書き方等を指導し、受講生の論文執筆のためのガイドラインを示します。また、研究上重要な概念や理論と方法論に関する知識を深めるために、テキストを輪読します。演習Iの終わりまでに受講生は、この先1年以上にわたって研究を行うことになるテーマを設定します。演習Iの終盤に、受講生は研究テーマとそのテーマについての知識・情報や研究計画等を報告します。報告についてのゼミでの討論のなかで、研究を進めるための助言を受けます。

教科書 /Textbooks

第1回ゼミで説明いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション	9回 輪読と報告-概念・理論・方法論
2回 輪読と報告-推論プロセス	10回 輪読と報告-概念・理論・方法論
3回 輪読と報告-推論プロセス	11回 研究テーマについての報告
4回 輪読と報告-推論プロセス	12回 研究テーマについての報告
5回 輪読と報告-概念・理論・方法論	13回 研究テーマについての報告
6回 輪読と報告-概念・理論・方法論	14回 研究テーマについての報告
7回 輪読と報告-概念・理論・方法論	15回 総括
8回 輪読と報告-概念・理論・方法論	

※受講生の人数や関心等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) ゼミでの報告...80%
- (2) ゼミでの討論への積極的な貢献...20%

※ (1)・(2)の一つでも行わなかった場合、特別な理由がない限り、単位修得は認められません。
※ 毎回の出席は単位修得の必要条件です（やむを得ない場合を除き、欠席・遅刻は厳禁です）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① 各回の授業に割り当てられるテキストを、その授業が始まるまでに読んでくること。
- ② 輪読の報告を担当した場合、単にテキストを要約するだけではなく、問題を提起しその問題に対する暫定的な意見を述べること。
- ③ ゼミでの討論に積極的に貢献すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境教育・地域開発・環境国際協力をテーマに、それぞれの領域に精通するための学習を行います。具体的には、輪読とグループ課題探求作業です。また、様々な場で成果を発表します。これらの理論学習や体験実習などを通じて、常に環境に配慮した行動ができる人材の育成を目的としています。

教科書 /Textbooks

- * 東京商工会議所編『改訂版eco検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター、2006年
- * 石弘之『地球環境報告II』岩波新書、1999年
- * 小田康徳『公害・環境問題史を学ぶ人のために』世界思想社、2008年
- * 中野民夫『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書、2003年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「演習I」の授業内容の紹介とねらいの説明

第2回～第15回

本授業では、環境についての基本文献の輪読や調査方法の習得を行った後、テーマごとに各班に分かれて問題発見、問題設定、調査計画を作成してもらい、それに基づき現場に出かけて調査、討論、報告書作成を行ってもらいます。その間に、ディベートなどでプレゼンテーションの技術を磨き、報告書作成後は、可能であれば、スタディ・ツアー、JICA研修、小・中・高校・公民館・県環境教育学会例会など地域社会の中で環境教育アクティビティと結びつつ報告書の内容を発表してもらいます。

可能であれば、水俣や海外へも目を向け、スタディ・ツアーを企画しています(これらの事業は個人の資金的問題もあり強制ではありません。ただし、政策調査実習の単位が取得できます。ちなみに、昨年は沖縄本島に出かけました)。また、毎年7月に実施される工コ検定(5250円受験料)を全員で受験します。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 発表準備...30% グループ探求課題の遂行度 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

輪読用指定資料の読了、日常的なグループ課題探求作業

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、地方自治にかかわるテーマに興味を持った学生の皆さんを対象としている。基本的には演習Iから演習IVを通じた2年間の調査研究プロジェクトの形式をとり、調査研究のテーマにそって、文献研究をしたり、フィールドワークを実践したり、そして最終的には報告書を執筆する。とくに演習Iでは、調査研究のテーマ設定とそれに関する文献研究が中心となる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス【演習の心得】
- 2回 - 3回 調査研究テーマの決定【テーマについての議論】
- 4回 - 15回 調査研究の準備【文献講読】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席、調査研究への参加意欲、文献講読の準備の度合い... 1 0 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。文献研究では膨大な文献を講読するので、事前の予習が不可欠となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、日本または海外諸国の行政・地方自治の分野から研究したいテーマを各自設定し、それぞれのリサーチ・クエスチョンに従って論文を完成させるのに必要な基礎的な土台を築くことを目的とする。受講生の論文のテーマが定まるまでの間は、行政・地方自治に関する文献を輪読し、議論を行う。また研究テーマの決定までに、受講生は全員、自身のテーマやそれについて調べたことなど、その経過についての報告をし、これについての議論も行う。報告・質疑とも内容・表現が悪い場合にはやり直してもらうことがある。本演習の最後には、研究テーマが定まることを目指す。

教科書 /Textbooks

各自のテーマが決まるまで文献を輪読するが、受講生と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井聡樹 (2007) 『これから卒論・レポートを書く若者のために』 共立出版
その他、各自のテーマに従って、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 論文作成のために：テーマの設定、情報収集、研究計画
- 3回～7回 文献輪読
- 8回～10回 研究テーマの検討：報告と質疑・議論
- 11回～13回 研究テーマの再検討：質疑を受けたうえでのテーマの妥当性の検証
- 14回 研究テーマの決定
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席30%、報告40%、議論への参加・貢献30%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけておいて欲しいと思います。様々な事象について、ひとの考えを鵜呑みにするのではなく、自分で理解しようと努めること、またそれを自分の言葉で表現することを意識して議論に参加するよう心がけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会経済の構造が急激に変化し、一層の行財政改革が求められる中で、地方自治体は、独自の都市再生を模索している。産業振興の観点を中心に、地域社会の活性化のためにどのような政策手法が有効であるかを学び、産業振興の観点を中心に、自ら政策提言できる能力を養成する。

研究成果を、毎年12月に開催されるISFJ(日本政策学生会議)で発表するとともに、2学期末に、ゼミ論文(8,000字程度)を提出する。

授業時間以外にも、視察・調査・討議などを行うことがある。また、役割分担して資料調査・論文作成等を行う責任を果たすことが求められる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

牛嶋正著『現代の都市経営』(1999)有斐閣ブックス
吉田民雄著『都市行政の新しい設計』(1995)中央経済社
小林英夫著『産業空洞化の克服 - 産業転換期の日本とアジア』(2003)中公新書
中沢孝夫著『<地域人>とまちづくり』(2003)講談社現代新書
などゼミのテーマに応じて、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1~2学期を通じて次の内容)

- | | | |
|------------|---------------|-----------------|
| ①オリエンテーション | ②ISFJ発表テーマの選定 | ③役割分担の決定 |
| ④論文構成の検討 | ⑤資料の調査・検討 | ⑥資料調査結果の発表・討議 |
| ⑦中間発表論文の作成 | ⑧最終論文の作成 | ⑨プレゼンテーション資料の作成 |
| ⑩ISFJ発表 | ⑪その他 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、調査・討議・発表論文作成などへの参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象は次の政策分野：経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。さらに、違う政策が経済業績や人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。

教科書 /Textbooks

複数のテキストを読むことになるが、現時点では以下を予定：

Jonas Pontusson. 2005. *Inequality and Prosperity: Social Europe vs. Liberal America*. Ithaca: Cornell University Press.

Peter Hall and David Soskice. Eds. 2000. *Varieties of Capitalism: The Institutional Foundations of Comparative Advantage*. Cambridge: Cambridge University Press.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そういう覚悟で履修登録すること。毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。基本的にこのクラスでは、演習Iで学んだ内容を発展・拡大・応用していく。同時に学生は個々で選ぶ政策・問題に関して研究を進め、クラスで発表・討論し、論文を執筆する。

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言参加が50%、(2)研究論文が50%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけ積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は学期末提出の研究論文の質で決まる。研究論文はA4紙にダブルスペースで10枚程度。また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらおう。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進め、論文をまとめる。当然のことながら、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同じレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を必ず読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

EUおよびヨーロッパ諸国を中心として、先進国の政治経済に関わる幅広い問題を取り上げ、現代のヨーロッパにおける諸問題について考察することを目的とする。具体的なテーマとしては、冷戦後のヨーロッパの国際秩序、欧州統合、社会民主主義の新展開、グローバル化に伴う国家の変容などを予定している。

教科書 /Textbooks

EUと加盟国に関するテキスト（英語論文）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 演習の進め方、スケジュールの説明
 - 2回 現在のヨーロッパ 【世界の中におけるEU】
 - 3回～7回 学生による指定文献（英語）の発表
 - 8回 ヨーロッパの課題 【安全保障】
 - 9回 ヨーロッパの挑戦 【新規加盟国】
 - 10回～15回 学生による研究発表

成績評価の方法 /Assessment Method

口頭発表 ... 30% 議論への参加 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

4年次に卒論執筆を希望する学生は、論文テーマ設定など卒業論文に関わる相談を3年の2学期中に教員と行き、卒論執筆許可を得なければならない。

卒論の単位認定を受けるためには、詳細な注を付けるなど学術論文の形式が求められるとともに、内容についてもかなり高い水準のものが要求されるので、十分な準備および執筆時間と多くの労力が必要である点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境（問題）に関わる全ての政策を対象として、皆さんと勉強していく予定です。
講義全体のキーワードは、公共事業、環境、地域、アジアの環境問題（日本、韓国、中国）、アメリカ、ドイツとEUの環境問題、住民、参加である。環境ゼミで扱う2学期のテーマは以下の通りであるが、これ以外に各自、興味のあるテーマを決めてもよい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テーマ

- ①中央省庁、自治体における環境関連の財政、組織、法律、環境への取り組み。
- ②環境を通じた地域再生、公共事業と地域再生。
- ③環境会計；これは資格証がもらえ、就職に付きやすい。
- ④エコファンド；投資者が環境に優しい企業のファンドを買い（投資）、企業の環境活動、取り組みを誘導する方法の研究（欧米では進んでいる）。
- ⑤環境コンサルタント；環境紛争、対立、技術に関するコンサルタントとして起業可能な分野で、そのための方法、研究。
- ⑥アジアの環境政策（比較研究、日本、韓国、中国；特に中国環境問題・市場はかなり可能性がある）
- ⑦車リサイクル政策、容器包装リサイクル、家電リサイクル、pcリサイクル。
- ⑧エコタウン；全国13ヶ所のエコタウンの実態からエコタウンの可能性と課題の研究。
- ⑩地球温暖化問題・CO2問題、京都議定書、これらの問題に関する国際的取り組み、動向。
- ⑪エコマネーとエコビジネスとリサイクル市場の国際的取引
- ⑫環境リスク管理（環境リスク管理資格証がもらえる分野）
日本では始まったばかりの制度。おススメ；大阪大学環境リスク管理プログラムとの連携も可能である。
- ⑬環境社会アセスメント；環境会計、環境報告書
- ⑭自治体の環境政策と評価（環境自治体）
- ⑮環境メディア；環境に関するメディアの報道、実態、問題点、あり方など。

ゼミ活動

1月には、勉強した内容を、各自、power pointを使って発表する。
ゼミ論を仕上げ、製本する。
特別講演会を行う。
他大学（西南大学、九大など）との共同発表会を開催する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論、出席状況などを総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習IIIでは、「政治思想と現代社会」というテーマの下に、エスニシティと政治思想、環境問題と政治思想、ユートピアと政治思想、地域主義（リージョナリズム）と政治思想について検討するが、演習II（2学期）においては、環境とユートピアの問題を、より現実的な諸問題と結び付けながら、討論する。環境もユートピアも既存のモダンな政治枠組みを組み替える視点であるだけに、鋭い現実認識と豊かな構想力を必要とする。十分な資料収集と積極的な討論を期待する。

なお、このゼミは毎年度末にゼミ論文集『政治と思想』を発行しているため、各自が論文を作成しなければなりません。そのため、少なくとも2回（夏期合宿事と演習IIにおいて）中間発表を行う。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談して決めます（毎年、最新のテキスト・論文を数点選び、年度のテーマに合わせて採用しています）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストを渡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

2のテーマ（環境と政治思想、ユートピアと政治思想）について、幾つかの本・論文を読む。

第1回 「環境と政治思想」についてのテキストの選定、発表順の決定。

第2～6回 発表と討論。

第7回 「環境と政治思想」についてのまとめ。

第8回 「ユートピアと政治思想」についてのテキストの選定と発表順の決定。

第9～13回 発表と討論。

第14回 「ユートピアと政治思想」についてのまとめ。

第15回 2つのテーマについてのまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、発表と討論への参加などによって行う

出席...20% 発表...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ運営は、上記のテーマのテキスト選択、分担の決定、レジュメの作成、発表、討論を中心に進める。夏期休暇中、ゼミ合宿を行い、ゼミ論文の中間発表を行い、年度末にゼミ論文集を発行する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、公共政策を研究する上で必要となる基本的な分析方法を身につけ、さらには地方自治体を中心として実際に実施されている公共政策を分析する能力を養うことにある。

受講者には、現代日本の公共政策のなかで何が自分にとって問題なのか、そのために自分はどのような研究をするのかという明確な問題意識をもって参加する（あるいは本演習を通じてそれを養う）ことを望む。

本演習には、現状肯定型学生は適さない。また、ゼミでは、積極的に意見を述べること、積極的に議論に参加することが要求される。「議論」は本演習においては、最も重要な要素のうちの1つである。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要な文献は、その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、学生自身が選んだテーマについての研究発表が中心となる。

ただし、それ以外に以下のような内容のものも行う予定。

- ① 毎年、ゼミで北九州市の公共政策に関連する調査を行う予定である。昨年度は、1)八幡東区大蔵の単身高齢者および2人暮らしの老人の調査、2)北九州市の公営団地の調査を行った。これはまた、「政策調査実習」として1単位にあたる活動でもある。
- ② 日本公共政策学会主催の学生政策コンペに参加する予定である（昨年多治見市で開催された大会では1位[日本公共政策学会会長賞]を獲得した）。
- ③ 2学期の半ばからは、政策コンペで発表した内容を書き直し、より洗練された論文に仕上げる作業、および、各自の卒論のテーマについても発表していただく予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加・貢献度 ... 80 % 論文等の作成 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段のゼミに際しては割り当てられた部分のプレゼンの準備をしてゼミにのぞんでいただきたい。また、日本公共政策学会の政策コンペでは学生主導でテーマの決定から発表までを行っていただくのでそのつもりでゼミの活動に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

年金、医療・介護、ニート・フリーター等の雇用問題、児童福祉（子育て支援など）、障害者福祉（就労支援・作業所）といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。演習では受講生が自分で「調べて、考えて、そして発表する」ことを目標とします。演習IIでは、①年金、②医療、③少子化、④若年者雇用、についてふたつのグループでより良い政策を討論してもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いますが、必要部分をコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方・グループ分け。課題の提示。
第2回 - 第6回 報告と討論(1回目)
第7回 - 第11回 報告と討論(2回目)
第12回 - 第15回 最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 50% 報告内容... 50%

* 受講態度が極めて悪い場合、出席として認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習（ゼミ）の目的は、演習I～IVの2年間の履修を通して、受講生が各自設定したテーマ（政治や政策に関わるテーマ）に関する研究を行うための様々なバックアップを行うことです。受講生は受講1年目の終わり（演習IIの最後）に研究計画書を、2年目の終わり（演習IVの最後）に卒業論文またはゼミ論文を提出します。そこで演習IIでは受講生は、演習Iの最後に設定した各自の研究テーマを絞っていき、最終的には研究計画を立てます。受講生は研究テーマについて十分な調査（先行研究レビュー等）を行い、研究計画書作成に向けた途中経過をゼミで報告します。その報告についてのゼミでの討論のなかで、研究を進めるための助言を受けます。受講生は、学期末に研究計画書を作成・提出し、ゼミで各自の研究計画の概要を説明します。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1回 イントロダクション | 9回 研究経過報告 |
| 2回 研究経過報告 | 10回 研究経過報告 |
| 3回 研究経過報告 | 11回 研究経過報告 |
| 4回 研究経過報告 | 12回 研究経過報告 |
| 5回 研究経過報告 | 13回 研究計画書の概要説明 |
| 6回 研究経過報告 | 14回 研究計画書の概要説明（研究計画書提出） |
| 7回 研究経過報告 | 15回 総括 |
| 8回 研究経過報告 | |

- ※ 受講生の人数や関心等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。
- ※ 計画書作成や論文執筆の技法等を適宜説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) ゼミでの報告...40%
- (2) ゼミでの討論への積極的な貢献...10%
- (3) 研究計画書...50%

- ※ (1)～(3)の一つでも行わなかった場合、特別な理由がない限り、単位修得は認められません。
- ※ 毎回の出席は単位修得の必要条件です（やむを得ない場合を除き、欠席・遅刻は厳禁です）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① 研究計画書と論文の作成では、指定された書式、構成等を厳守すること。
- ② ゼミでの討論に積極的に貢献すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境教育・地域開発・環境国際協力をテーマに、それぞれの領域に精通するための学習を行います。具体的には、輪読とグループ課題探求作業です。また、様々な場で成果を発表します。これらの理論学習や体験実習などを通じて、常に環境に配慮した行動ができる人材の育成を目的としています。

教科書 /Textbooks

- * 小田康徳『公害・環境問題史を学ぶ人のために』世界思想社、2008年
- * 福岡県環境教育学会編『福岡県環境教育学会10周年記念誌』福岡県環境教育学会、2007年
- * 中野民夫『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書、2003年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 冢本芳郎編『小学校学級担任アイデアブック』民衆社、2000年
- * 南博方・大久保規子『要説 環境法(第2版)』有斐閣、2003年
- * 佐藤郁哉『フィールドワーク - 書をもって街に出かけよう』新曜社、1992年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「演習I」のレビューと「演習II」の授業計画の確認
第2回～第15回

本授業では、基本文献の輪読や調査方法の習得を行った後、テーマごとに各班に分かれて問題発見、問題設定、調査計画を作成してもらい、それに基づき現場に出かけて調査、討論、報告書作成を行っていただきます(演習Iでもすでに行っていますが、その再検討)。その間に、ディベートなどでプレゼンテーションの技術を磨き、報告書作成後は、可能であれば小・中・高校・公民館・県環境教育学会例会など地域社会の中で環境教育アクティビティと結びつつ報告書の内容を発表していただきます。
11月末から12月上旬にかけて、1年生から4年生までの合同合宿を実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% グループ探求課題の遂行度(報告書作成を含む)...40% 小試験...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

輪読用指定資料の読了、日常的なグループ課題探求作業

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、地方自治にかかわるテーマに興味を持った学生の皆さんを対象としている。基本的には演習Iから演習IVを通じた2年間の調査研究プロジェクトの形式をとり、調査研究のテーマによって、文献研究をしたり、フィールドワークを実践したり、そして最終的には報告書を執筆する。とくに演習IIでは、演習Iで決定した調査研究のテーマによって、文献研究のまとめ、そしてフィールドワーク等の調査を開始する。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 - 5回 調査研究の準備【文献講読】【調査対象についての情報収集】
6回 - 10回 フィールドワーク報告等【調査結果の報告】
11回 - 15回 研究のまとめ【調査報告書(中間まとめ)】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業や調査への出席... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。文献研究では膨大な文献を講読するので、事前の予習が不可欠となるし、フィールドワーク等の調査結果を報告する場合は講義で発表する前にそれをまとめてくる作業が重要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、演習Iで決定した各自のテーマに関するリサーチを行い、受講生の研究をさらに磨いていくことが目的である。研究報告を通じ、受講生の報告・質疑応答によってプレゼンテーション能力の向上にも寄与したい。なお、報告の内容・表現・質疑応答が悪い場合にはやり直してもらったことがある。また、ゼミ全体で共通のテーマをひとつ設け、その調査・分析も行う予定である。演習II最終日までに次年度の研究計画の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

特に指定はしない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○酒井聡樹(2007)『これから卒論・レポートを書く若者のために』共立出版
その他、各自のテーマに従って、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、演習II共通テーマの検討
- 2回 論文作成のために：仮説の設定、分析方法の検討、根拠の収集
- 3回～7回 共通テーマの調査・分析
- 8回～10回 研究テーマに基づく報告
- 11回～13回 研究テーマに基づく報告(第二弾)：質疑を受けたうえでの研究計画の提示
- 14回 研究計画の決定
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席30%、報告40%、議論への参加・貢献30%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけておいて欲しいと思います。様々な事象について、ひとの考えを鵜呑みにするのではなく、自分で理解しようと努めること、またそれを自分の言葉で表現することを意識して議論に参加するよう心がけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会経済の構造が急激に変化し、一層の行財政改革が求められる中で、地方自治体は、独自の都市再生を模索している。産業振興の観点を中心に、地域社会の活性化のためにどのような政策手法が有効であるかを学び、自ら政策提言できる能力を養成する。

研究成果を、毎年12月に開催されるISFJ(日本政策学生会議)で発表するとともに、卒業論文(12,000字程度)を提出する。

授業時間以外にも、視察・調査・討議などを行うことがある。また、役割分担して資料調査・論文作成等を行う責任を果たすことが求められる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

牛嶋正著『現代の都市経営』(1999)有斐閣ブックス
吉田民雄著『都市行政の新しい設計』(1995)中央経済社
小林英夫著『産業空洞化の克服 - 産業転換期の日本とアジア』(2003)中公新書
中沢孝夫著『<地域人>とまちづくり』(2003)講談社現代新書
などゼミのテーマに応じて、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1~2学期を通じて次の内容)

- | | | |
|------------|---------------|-----------------|
| ①オリエンテーション | ②ISFJ発表テーマの選定 | ③役割分担の決定 |
| ④論文構成の検討 | ⑤資料の調査・検討 | ⑥資料調査結果の発表・討議 |
| ⑦中間発表論文の作成 | ⑧最終論文の作成 | ⑨プレゼンテーション資料の作成 |
| ⑩ISFJ発表 | ⑪その他 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、調査・討議・発表論文作成などへの参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象は次の政策分野：経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。さらに、違う政策が経済業績や人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。

教科書 /Textbooks

複数のテキストを読むことになるが、現時点では以下を予定：
 OECD. 2009. Employment Outlook at A Glance 2009. Paris: OECD.
 OECD. 2009. Doing Better for Children. Paris: OECD.
 (なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。同時に、演習I・IIで学んだ基礎の上に立って、個々に研究課題を選び、研究に従事する。研究の課題、理論、仮説、データ分析などに関する中間報告を授業の中で行う。それを精査する考察・意見交換をクラス全体で行い、サブジェクトに関する理解を深め、研究の方法論を学ぶとともに、卒論・ゼミ論の準備をする。そして学生は準備ができ次第、同論文の執筆を開始する。毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言参加が50%、(2)研究論文(卒論・ゼミ論研究の中間報告書あるいは同論文の第1稿のようなもの)が50%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけ積極的にクラスでの検証に参加しているかと、クラスで発表する研究の内容と発表の質によって決まる。(2)は学期末提出の上記論文(中間報告書)の質で決まる。また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらう。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って卒論・ゼミ論研究を進める。(論文執筆にあたっては、当然のことながら、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を必ず読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。そして自らの卒論・ゼミ論の研究を全力で実行する。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文（ゼミ論文）の執筆を目的とし、学生が各自の研究を進める。演習での口頭発表、議論、レポートの作成を通じて、2学期までに卒業論文（ゼミ論文）の半量程度の草稿を完成させることを目指す。

教科書 /Textbooks

授業時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

- 1回 演習の進め方、スケジュールの説明
- 2回 論文の書き方の復習
- 3回～5回 学生の論文テーマ発表
- 6回～8回 学生による論文アウトライン発表
- 9回～14回 学生による研究発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

口頭発表 ... 30% 議論への参加 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に発表準備を十分に行うこと。各種発表のドタキャンや論文草稿の提出締切を守らない等の行為は問題外であることを十分に認識すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境（問題）に関わる全ての政策を対象として、皆さんと勉強していく予定です。
講義全体のキーワードは、公共事業、環境、地域、アジアの環境問題（日本、韓国、中国）、アメリカ、ドイツとEUの環境問題、住民、参加である。環境ゼミで扱う1学期のテーマは以下の通りであるが、これ以外に各自、興味のあるテーマを決めてもよい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- テーマ
- ①中央省庁、自治体における環境関連の財政、組織、法律、環境への取り組み。
 - ②環境を通じた地域再生、公共事業と地域再生。
 - ③環境会計；これは資格証がもらえ、就職に付きやすい。
 - ④エコファンド；投資者が環境に優しい企業のファンドを買い（投資）、企業の環境活動、取り組みを誘導する方法の研究（欧米では進んでいる）。
 - ⑤環境コンサルタント；環境紛争、対立、技術に関するコンサルタントとして起業可能な分野で、そのための方法、研究。
 - ⑥アジアの環境政策（比較研究、日本、韓国、中国；特に中国環境問題・市場はかなり可能性がある）
 - ⑦車リサイクル政策、容器包装リサイクル、家電リサイクル、p c リサイクル。
 - ⑧エコタウン；全国27ヶ所のエコタウンの実態からエコタウンの可能性と課題の研究。
 - ⑩地球温暖化問題・CO2問題、京都議定書、これらの問題に関する国際的取り組み、動向。
 - ⑪エコマネーとエコビジネスとリサイクル市場の国際的取引
 - ⑫環境リスク管理（環境リスク管理資格証がもらえる分野）
日本では始まったばかりの制度。おススメ；大阪大学環境リスク管理プログラムとの連携も可能である。
 - ⑬環境社会アセスメント；環境会計、環境報告書
 - ⑭自治体の環境政策と評価（環境自治体）
 - ⑮環境メディア；環境に関するメディアの報道、実態、問題点、あり方など。

ゼミ活動

1月には、勉強した内容を、各自、power pointを使って発表する。
ゼミ論・卒論を仕上げ、製本する。
特別講演会を行う。
他大学（西南大学、九大など）との共同発表会を開催する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論、出席状況などを総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまで「政治思想と現代社会」というテーマの下に、エスニシティと政治思想、環境問題と政治思想、ユートピアと政治思想、地域主義（リージョナリズム）と政治思想について検討してきたが、演習III（1学期）では、「政治思想と現代社会」というテーマの下に、これまで取り上げてきた課題のうち、エスニシティと地域主義の問題について、より現実的な諸問題と結び付けながら、3年生と合同で討論を行う。しかし、4年生はゼミ論文のほか卒業論文を作成しなければならないので、期間中に少なくとも2回の卒業論文の中間報告（レポート）を提出する。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談して決めます（毎年、最新のテキスト・論文を数点選び、年度のテーマに合わせて採用しています）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストを渡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

2つのテーマ（エスニシティと政治思想、リージョナリズムと政治思想）に関する幾つかの本、論文を読む。
 第1回 「エスニシティと政治思想」についてのテキストの選定、発表順の決定。
 第2～6回 発表と討論。
 第7回 「エスニシティと政治思想」についてのまとめ。
 第8回 「リージョナリズムと政治思想」についてのテキストの選定と発表順の決定。
 第9～13回 発表と討論。
 第14回 「リージョナリズムと政治思想」についてのまとめ。
 第15回 2つのテーマについてのまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、発表と討論への参加などによって行う
 出席... 20% 発表・討論... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ運営は、上記のテーマの選択、分担の決定、レジユメの作成、発表、討論を中心に進める。
 夏期休暇中、ゼミ合宿を行い、卒業論文およびゼミ論文の中間発表を行い、年度末にゼミ論文集を発行する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、公共政策を研究する上で必要となる基本的な分析方法を身につけ、さらには地方自治体を中心として実際に実施されている公共政策を分析する能力を養うことにある。

受講者には、現代日本の公共政策のなかで何が自分にとって問題なのか、そのために自分はどのような研究をするのかという明確な問題意識をもって参加する（あるいは本演習を通じてそれを養う）ことを望む。

本演習には、現状肯定型学生は適さない。また、ゼミでは、積極的に意見を述べること、積極的に議論に参加することが要求される。「議論」は本演習においては、最も重要な要素のうちの1つである。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要な文献は、その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、学生自身が選んだテーマについての研究発表が中心となる。

ただし、それ以外に以下のような内容のものも行う予定。

①毎年、ゼミで北九州市の公共政策に関連する調査を行う予定である。昨年度は、1)八幡東区大蔵の単身高齢者および2人暮らしの老人の調査、2)北九州市の公営団地の調査を行った。これはまた、「政策調査実習」として1単位にあたる活動でもある。

②日本公共政策学会主催の学生政策コンペに参加する予定である（昨年多治見市で開催された大会では1位[日本公共政策学会会長賞]を獲得した）。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加・貢献度 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段のゼミに際しては割り当てられた部分のプレゼンの準備をしてゼミにのぞんでいただきたい。また、日本公共政策学会の政策コンペでは学生主導でテーマの決定から発表までを行っていただくのでそのつもりでゼミの活動に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会保障制度や公共サービス改革に関連する内容を扱います。演習I・IIでは、十分に上げられなかった領域について、映像資料をもとに簡単な報告と討論を行います。自閉症、精神障害、などのテーマを予定しています。毎回のテーマに関連したキーワードを事前に提示しますので、内容を調べて簡単に報告してもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いますが、必要部分をコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 - 7回 映像資料に基づき報告と議論。自閉症について。
- 第8回 - 第10回 映像資料に基づき報告と議論。精神障害について。
- 第11回 - 第14回 映像資料に基づき報告と議論。教養とは何か。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 50% 報告内容... 50%

* 受講態度が極めて悪い場合、出席として認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、事前にキーワードを提示するので、それを説明することができるように調べてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習（ゼミ）の目的は、演習I～IVの2年間の履修を通して、受講生が各自設定したテーマ（政治や政策に関わるテーマ）に関する研究を行うための様々なバックアップを行うことです。受講生は受講1年目の終わり（演習IIの最後）に研究計画書を、2年目の終わり（演習IVの最後）に卒業論文またはゼミ論文を提出します。そこで演習IIIでは受講生は、演習IIで作成・提出した各自の研究計画書に従って調査・分析を行い、途中経過をゼミで報告します。その報告についてのゼミでの討論のなかで、研究を進め論文を完成させるための助言を受けます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 インタロダクション	9回 研究経過報告
2回 研究経過報告	10回 研究経過報告
3回 研究経過報告	11回 研究経過報告
4回 研究経過報告	12回 研究経過報告
5回 研究経過報告	13回 研究経過報告
6回 研究経過報告	14回 研究経過報告
7回 研究経過報告	15回 総括
8回 研究経過報告	

※ 受講生の人数や関心等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) ゼミでの報告...70%
- (2) ゼミでの討論への積極的な貢献...30%

※ (1)・(2)の一つでも行わなかった場合、特別な理由がない限り、単位修得は認められません。

※ やむを得ない事情でゼミでの報告を一度も行うことができなかった場合は、その理由を証明する書類等を提出し、研究の途中経過を中間論文として提出していただきます（ゼミでの報告も行わず、中間論文も提出しなかった場合は、単位修得は認められません）。

※ 毎回の出席は単位修得の必要条件です（やむを得ない場合を除き、欠席・遅刻は厳禁です）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミでの討論に積極的に貢献すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境教育・地域開発・環境国際協力をテーマに、三年の演習IとIIでの学習を有効に活用する形で卒業論文やゼミ論文の準備・執筆を行ってまいります。プレゼンテーションの方法も毎回の発表を通じて工夫してもらい、その能力アップを目指します。

教科書 /Textbooks

* 小田康徳『公害・環境問題史を学ぶ人のために』世界思想社、2008年（三年での復習をも兼ねて）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

* 福岡県環境教育学会編『福岡県環境教育学会10周年記念誌』福岡県環境教育学会、2007年
* 佐藤郁哉『フィールドワーク - 書をもって街に出かけよう』新曜社、1992年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「演習I」と「演習II」のレビューと卒論とゼミ論の準備・執筆にあたっての説明

第2回～第15回

ねらい、構成、文献・資料目録など論文作成に必要な知識を再度確認し、それらの作成準備に入ってもらいます。同時に、各自、パワーポイント、レジюмеなどを使用し、発表してもらいます。その際、相手にいかにうまく伝えるかの重要性を理解するために、プレゼンテーション方法まで指導する予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% ゼミ論・卒論の準備状況・発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

相手にいかにすばうまく伝えるかを考えた上でのパワーポイントづくりやレジюме作りを行ってくる

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、地方自治にかかわるテーマに興味を持った学生の皆さんを対象としている。基本的には演習Iから演習IVを通じた2年間の調査研究プロジェクトの形式をとり、調査研究のテーマにそって、文献研究をしたり、フィールドワークを実践したり、そして最終的には報告書を執筆する。とくに演習IIIでは、演習I・IIで行ったフィールドワーク等の調査をもとに、最終報告書の作成に取り掛かる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 2回 研究のまとめ①【中間報告の精査】
- 3回 - 7回 研究のまとめ②【補充調査のデータまとめ】
- 8回 - 15回 研究のまとめ②【調査報告書の内容調整】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業や調査への出席... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。データをまとめる際には、事前の作業が不可欠となるし、フィールドワーク等の調査結果を報告する場合は講義で発表する前にそれをまとめてくる作業が重要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、演習IIで作成した研究計画に従い、受講生各自がそれぞれのテーマに沿って課題の分析・執筆をすすめることを目的とする。学期中、少なくとも2回は研究についての報告を行ってもらう。報告は問題の背景、途中の分析結果など、完成形である必要はないが、あまりに内容・表現が悪い場合にはやり直してもらうことがある。また、ゼミ生と相談のうえ、受講生全員のテーマや興味関心と共通する文献の輪読・議論も行う。研究報告を重ねるなかでテーマの妥当性や分析可能性を確認し、本演習が終わるまでに、必要に応じて研究計画の修正を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○酒井聡樹(2007)『これから卒論・レポートを書く若者のために』共立出版
その他、各自のテーマに従って、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 論文作成のために：研究テーマと計画の確認
- 3回～7回 研究テーマ：報告と質疑・議論
- 8回～10回 文献輪読
- 11回～13回 研究テーマの再検討：質疑を受けたうえでのテーマの妥当性等の検証
- 14回 研究計画の見直し・修正案の提出
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席30%、報告40%、議論への参加・貢献30%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけておいて欲しいと思います。加えて、自身の研究の報告では、前回の報告と何が違うのか、どう進展したのかを明確にし、またこれまでにもらったコメントなどをどう反映させたのかを示してもらいたいと思います。実際に論文を書くのは各自ひとりひとりですが、アイデアやひらめき、情報、そして自信をもらえるのがゼミの醍醐味、報告するもそれを聞くも真剣勝負でいきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会経済の構造が急激に変化し、一層の行財政改革が求められる中で、地方自治体は、独自の都市再生を模索している。産業振興の観点を中心に、地域社会の活性化のためにどのような政策手法が有効であるかを学び、自ら政策提言できる能力を養成する。

研究成果を、毎年12月に開催されるISFJ(日本政策学生会議)で発表するとともに、卒業論文(12,000字程度)を提出する。

授業時間以外にも、視察・調査・討議などを行うことがある。また、役割分担して資料調査・論文作成等を行う責任を果たすことが求められる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

牛嶋正著『現代の都市経営』(1999)有斐閣ブックス
吉田民雄著『都市行政の新しい設計』(1995)中央経済社
小林英夫著『産業空洞化の克服 - 産業転換期の日本とアジア』(2003)中公新書
中沢孝夫著『<地域人>とまちづくり』(2003)講談社現代新書
などゼミのテーマに応じて、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1~2学期を通じて次の内容)

- | | | |
|------------|---------------|-----------------|
| ①オリエンテーション | ②ISFJ発表テーマの選定 | ③役割分担の決定 |
| ④論文構成の検討 | ⑤資料の調査・検討 | ⑥資料調査結果の発表・討議 |
| ⑦中間発表論文の作成 | ⑧最終論文の作成 | ⑨プレゼンテーション資料の作成 |
| ⑩ISFJ発表 | ⑪その他 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、調査・討議・発表論文作成などへの参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象は次の政策分野：経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。さらに、違う政策が経済業績や人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。

教科書 /Textbooks

複数のテキストを読むことになるが、現時点では以下を予定：
OECD. 2009. Employment Outlook at A Glance 2009. Paris: OECD.
OECD. 2009. Doing Better for Children. Paris: OECD.
(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。同時に、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ基礎の上に立って、個々の卒論・ゼミ論の研究・執筆に従事する。研究の課題、理論、仮説、データ分析などに関する中間報告を授業の中で行う。それを精査する考察・意見交換をクラス全体で行い、サブジェクトに関する理解を深め、研究の方法論を学ぶとともに、卒論・ゼミ論の準備をする。そして学生は準備ができ次第、同論文の執筆を開始する。毎週のreading assignmentについてはに後日アナウンスする。

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言参加が50%、(2)研究論文が50%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけ積極的にクラスでの検証に参加しているかと、クラスで発表する研究の内容と発表の質によって決まる。(2)は学期末に向かって提出される研究論文の質で決める。研究は演習Ⅲで制作した研究計画書に沿った形で行う。(論文執筆にあたっては、当然のことながら、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為が発生の場合は不可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を必ず読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。そして自らの卒論・ゼミ論の研究を全力で実行する。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文（ゼミ論文）の執筆を目的とし、学生が各自の研究を進める。演習での口頭発表、議論、レポートの作成を通じて、提出締切日時までに卒業論文（ゼミ論文）を完成させることを目指す。

教科書 /Textbooks

授業時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 演習の進め方、スケジュールの説明
- 2回 学生による夏休み中の進捗状況の発表
- 3回～6回 学生による研究発表
- 7回～8回 学生によるアウトラインの修正に関する発表
- 9回～14回 学生による研究発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

口頭発表 ... 30% 議論への参加 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に発表準備を十分に行うこと。各種発表のドタキャンや論文草稿の提出締切を守らない等の行為は問題外であることを十分に認識すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境（問題）に関わる全ての政策を対象として、皆さんと勉強していく予定です。
講義全体のキーワードは、公共事業、環境、地域、アジアの環境問題（日本、韓国、中国）、アメリカ、ドイツとEUの環境問題、住民、参加である。環境ゼミで扱う1学期のテーマは以下の通りであるが、これ以外に各自、興味のあるテーマを決めてもよい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- テーマ
- ①中央省庁、自治体における環境関連の財政、組織、法律、環境への取り組み。
 - ②環境を通じた地域再生、公共事業と地域再生。
 - ③環境会計；これは資格証がもらえ、就職に付きやすい。
 - ④エコファンド；投資者が環境に優しい企業のファンドを買い（投資）、企業の環境活動、取り組みを誘導する方法の研究（欧米では進んでいる）。
 - ⑤環境コンサルタント；環境紛争、対立、技術に関するコンサルタントとして起業可能な分野で、そのための方法、研究。
 - ⑥アジアの環境政策（比較研究、日本、韓国、中国；特に中国環境問題・市場はかなり可能性がある）
 - ⑦車リサイクル政策、容器包装リサイクル、家電リサイクル、pcリサイクル。
 - ⑧エコタウン；全国27ヶ所のエコタウンの実態からエコタウンの可能性と課題の研究。
 - ⑩地球温暖化問題・CO2問題、京都議定書、これらの問題に関する国際的取り組み、動向。
 - ⑪エコマネーとエコビジネスとリサイクル市場の国際的取引
 - ⑫環境リスク管理（環境リスク管理資格証がもらえる分野）
日本では始まったばかりの制度。おススメ；大阪大学環境リスク管理プログラムとの連携も可能である。
 - ⑬環境社会アセスメント；環境会計、環境報告書
 - ⑭自治体の環境政策と評価（環境自治体）
 - ⑮環境メディア；環境に関するメディアの報道、実態、問題点、あり方など。

ゼミ活動

1月には、勉強した内容を、各自、power pointを使って発表する。
ゼミ論・卒論を仕上げ、製本する。
特別講演会を行う。
他大学（西南大学、九大など）との共同発表会を開催する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論、出席状況などを総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまで「政治思想と現代社会」というテーマの下に、エスニシティと政治思想、環境問題と政治思想、ユートピアと政治思想、地域主義（リジョナリズム）と政治思想について検討してきたが、演習Ⅳ（2学期）では、「政治思想と現代社会」というテーマの下に、これまで取り上げてきた課題のうち、環境とユートピアの問題を、より現実的な諸問題と結び付けながら、3年生と合同で討論する。なお、4年生は、ゼミ論文のほかに卒業論文を作成しなければならないので、期間中に少なくとも2回の卒業論文の中間報告（レポート）を提出する。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談して決めます（毎年、最新のテキスト・論文を数点選び、年度のテーマに合わせて採用しています）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストを渡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

2つのテーマ（環境と政治思想、ユートピアと政治思想）について、幾つかの本・論文を読む。
 第1回 「環境と政治思想」についてのテキストの選定、発表順の決定。
 第2～6回 発表と討論。
 第7回 「環境と政治思想」についてのまとめ。
 第8回 「ユートピアと政治思想」についてのテキストの選定と発表順の決定。
 第9～13回 発表と討論。
 第14回 「ユートピアと政治思想」についてのまとめ。
 第15回 2つのテーマについてのまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、発表と討論への参加などによって行う
 出席... 20% 発表・討論... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ運営は、上記のテーマのテキスト選択、分担の決定、レジュメの作成、発表、討論を中心に進める。
 夏期休暇中、ゼミ合宿を行い、ゼミ論文と卒業論文の中間発表を行い、年度末に卒業論文を提出し、ゼミ論文集を発行する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、公共政策を研究する上で必要となる基本的な分析方法を身につけ、さらには地方自治体を中心として実際に実施されている公共政策を分析する能力を養うことにある。

受講者には、現代日本の公共政策のなかで何が自分にとって問題なのか、そのために自分はどのような研究をするのかという明確な問題意識をもって参加する（あるいは本演習を通じてそれを養う）ことを望む。

本演習には、現状肯定型学生は適さない。また、ゼミでは、積極的に意見を述べること、積極的に議論に参加することが要求される。「議論」は本演習においては、最も重要な要素のうちの1つである。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要な文献は、その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、学生自身が選んだテーマについての研究発表が中心となる。

ただし、それ以外に以下のような内容のものも行う予定。

- ①毎年、ゼミで北九州市の公共政策に関連する調査を行う予定である。昨年度は、1)八幡東区大蔵の単身高齢者および2人暮らしの老人の調査、2)北九州市の公営団地の調査を行った。これはまた、「政策調査実習」として1単位にあたる活動でもある。
- ②日本公共政策学会主催の学生政策コンペに参加する予定である（昨年多治見市で開催された大会では1位[日本公共政策学会会長賞]を獲得した）。
- ③最低1本、卒論かゼミ論を提出していただく。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加・貢献度 ... 80% 論文等の作成 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段のゼミに際しては割り当てられた部分のプレゼンの準備をしてゼミにのぞんでいただきたい。また、日本公共政策学会の政策コンペでは学生主導でテーマの決定から発表までを行っていただくのでそのつもりでゼミの活動に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会保障制度、公共サービスの市場化に関する研究発表、論文作成を行います。医療保険、介護保険、ニート・フリーター等の雇用問題、児童福祉（少子化対策など）、障害者福祉（就労支援・作業所）、指定管理者制度やPFIといったテーマに関心を持っている人を歓迎します。研究成果は卒業論文もしくはゼミ論文として提出を求めます。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いますが、必要部分をコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 - 7回 受講生による研究報告と討論（第1回目）
第8回 - 15回 受講生による研究報告と討論（第2回目）

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 50% 報告内容... 50%

* 受講態度が極めて悪い場合、出席として認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

* 卒業論文もしくはゼミ論文を提出しない場合は単位を認定しません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習（ゼミ）の目的は、演習Ⅰ～Ⅳの2年間の履修を通して、受講生が各自設定したテーマ（政治や政策に関わるテーマ）に関する研究を行うための様々なバックアップを行うことです。受講生は受講1年目の終わり（演習Ⅱの最後）に研究計画書を、2年目の終わり（演習Ⅳの最後）に卒業論文またはゼミ論文を提出します。2年間の履修の最終段階である演習Ⅳでは、受講生は卒業論文またはゼミ論文の完成に向けて、情報の整理、分析結果の解釈、執筆等を行います。ゼミ時間で途中経過を報告します。その報告についてのゼミでの討論のなかで、研究を進め論文を完成させるための助言を受けます。受講生は、12月初旬までに第一稿を書き上げ教員に提出します。その後受講生と教員との間での数回のやり取りを通じて、論文を完成させます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション	9回 研究経過報告
2回 研究経過報告	10回 研究経過報告
3回 研究経過報告	11回 研究経過報告
4回 研究経過報告	12回 研究経過報告
5回 研究経過報告	13回 研究経過報告
6回 研究経過報告	14回 研究経過報告
7回 研究経過報告	15回 総括
8回 研究経過報告	

※ 受講生の人数や関心等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 論文...20% (卒業論文の場合：必要最低限の内容・体裁が備わっているかを評価します)
...50% (ゼミ論文の場合：内容や体裁等の詳細について評価します)
- (2) 報告...70% (卒業論文提出の場合)
...40% (ゼミ論文提出の場合)
- (3) ゼミでの討論への積極的な貢献...10%

※ (1)~(3)の一つでも行わなかった場合、特別な理由がない限り、単位修得は認められません。

※ 毎回の出席は単位修得の必要条件です(やむを得ない場合を除き、欠席・遅刻は厳禁です)。

※ 卒業論文の詳細についての評価は、「卒業論文」の成績に反映されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① 論文の作成では、指定された書式、構成等を厳守すること。
- ② ゼミでの討論に積極的に貢献すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境教育・地域開発・環境国際協力をテーマに、三年の演習IとIIでの学習を有効に活用する形で卒業論文やゼミ論文の準備・執筆を行ってまいります。プレゼンテーションの方法も毎回の発表を通じて工夫してもらい、その能力アップを目指します。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要な場合、その都度、配布を予定しています。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「演習I」と「演習II」のレビューと卒論とゼミ論の準備・執筆にあたっての説明

第2回～第15回

ねらい、構成、文献・資料目録など論文作成に必要な知識を再度確認し、それらの作成準備に入ってもらいます。同時に、各自、パワーポイント、レジユメなどを使用し、発表してもらいます。その際、相手にいかにうまく伝えるかの重要性を理解するために、プレゼンテーション方法まで指導する予定です。

11月末から12月上旬にかけて、1年生から4年生までの合同合宿を実施し、そこでも今までの卒論・ゼミ論の準備成果を発表してもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...40% ゼミ論・卒論の準備状況・発表...20% ゼミ論本体の出来具合...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、視聴者にいかにすばうまく伝わるかを考えた上でのパワーポイントづくりやレジユメ作りを行ってきてください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、地方自治にかかわるテーマに興味を持った学生の皆さんを対象としている。基本的には演習Ⅰから演習Ⅳを通じた2年間の調査研究プロジェクトの形式をとるが、演習Ⅳでは、これまでに行ったフィールドワーク等の調査に基づいて、最終報告書の完成を目指す作業と、後半は卒業論文の作成にむけて頑張ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 3回 研究のまとめ【調査報告書の検討】
- 4回 - 5回 研究のまとめ【調査報告書(最終)の内容調整】
- 6回 卒論のガイダンス【執筆要領】【卒論の心得】
- 7回 - 9回 研究発表①【研究テーマ報告】
- 10回 論文指導①【論文内容報告】
- 11回 - 14回 論文指導②【論文内容報告】
- 15回 ゼミのまとめ【2年間を振り返って…】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業や調査への出席... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。報告書執筆の作業、卒論報告準備等、一定に事前作業の努力が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、演習IIおよび演習IIIで作成・修正した研究計画に従い、受講生各自がそれぞれのテーマに沿って課題の分析・執筆をすすめることを目的とする。学期中、少なくとも2回は研究についての報告を行ってもらおう。また、ゼミ生と相談のうえ、受講生全員のテーマや興味関心と共通する文献の輪読・議論も行う。研究報告を重ね、受講生と議論をするなかで、研究の結論を導き、本演習が終わるまでに、各自の論文が完成することを目指す。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○酒井聡樹(2007)『これから卒論・レポートを書く若者のために』共立出版
その他、各自のテーマに従って、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～7回 研究テーマ：報告と質疑・議論
- 8回～10回 文献輪読
- 11回～13回 研究テーマ：論文の結論・方向性の報告
- 14回 研究論文の提出
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席30%、報告40%、議論への参加・貢献30%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけておいて欲しいと思います。加えて、自身の研究の報告では、前回の報告と何が違うのか、どう進展したのかを明確にし、またこれまでにももらったコメントなどをどう反映させたのかを示してもらいたいと思います。実際に論文を書くのは各自ひとりひとりですが、アイデアやひらめき、情報、そして自信をもらえるのがゼミの醍醐味、報告するもそれを聞くも真剣勝負でいきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習と抱き合わせの形でこの授業を行います。演習にてそれぞれのテーマを決めていただき、文献調査を終えた後に、実習に入ってもらいます。現在、三宅ゼミでは、子ども会、エコキャンパス、海外へのエコ・スタディ・ツアーといった3つの分野を抱えています。そこで、各自の能力・関心に応じて、日々、調査・研究を行っています。

教科書 /Textbooks

- * 中野民夫『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書、2003年
- * 関係図書館や現地で入手可能な資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 佐藤郁哉『フィールドワーク - 書をもって街に出かけよう』新曜社、1992年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 例示)
- 第1段階 現地調査の準備作業 (昨年の報告書・ビデオ・写真を元にした復習、基本文献学習、現地 調査の方法・内容決定、現地受入先との連絡)
- 第2段階 現地調査の実施 : : 踏査 (インドネシア・カリマンタン)、関係者への聞き取り調査、文 献資料調査 (インドネシア・スマラン市の事務所の事例 : NPO相思社での重要文献・資料調査)、ア ンケート調査
- 第3段階 調査のまとめ (各自の調査分析と報告書の作成)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 指定資料の読了・報告書作成作業...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定資料の読了、事前準備作業への参加

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本ゼミにおける政策実践プロジェクトの目的は、①地方公共政策を研究する学生が必要とする基本的なフィールドワークの知識や方法を身につけること、さらに②実際に調査した内容に基づき政策提言をし、地域社会へ貢献することにある。

そのため、本年度は、第1に、北九州市八幡東区の大蔵地区の独居老人の調査や二人暮らしの高齢者の調査を行い、アンケート調査の設計からインタビューの仕方などをみにつけてもらう。特にアンケート調査で重要となるワーディングについては学生相互の話し合いを行いしっかり学んでもらうことにしたい。

第2に、政策コンペなどを通じて、地域社会の問題を解決するための調査から政策提言へといたる一連の作業を学ぶことにより、地域社会に貢献することにした。

第3に、希望者に対しては、コミュニティビジネスの企画・運営、まちづくりへの参加などの演習をしたいと考えている。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。必要に応じて担当教員が指示する予定であるが、とりあえず以下の文献を挙げておく。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ—論理と方法[第2版]』(ミネルヴァ書房、2005年)。

辻新六・有馬昌宏『アンケート調査の方法—実践ノウハウとパソコン支援』(朝倉書店、1987年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際に調査にあたる前には必要な文献を指示し、前もってゼミで輪読してから調査に臨むことになる。また、調査前には、必ずトレーニングを行ない、調査結果については、簡単な報告書を作成してもらう予定である。

政策コンペでは学生主導で自主的にテーマの決定、調査、政策提言といった作業を行ってもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

調査等への参加・貢献... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習I・II(古賀担当)とセットで行う実習であって、都市政策の現場における課題の把握と解決策の提案のための実践的な活動である。具体的には、演習に関連したテーマについて、演習履修者による共同研究を行うために必要なアンケート調査、訪問による聞き取り調査、調査結果の分析、現場視察、プレゼンテーション資料の作成、プレゼンテーションの実践などを行う。

教科書 /Textbooks

必要な都度、指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①演習I・IIにおけるテーマ決定(毎年度異なる)
- ②調査の目的・対象・内容・方法などの決定
- ③調査の実施(アンケート調査・聞き取り調査・実地調査)
 - ・実地調査は例年市内生産施設調査を行うほか、テーマに応じて市内商業施設調査、他都市商業施設等調査などを実施
- ④調査結果の分析
- ⑤政策提案のための資料作成

成績評価の方法 /Assessment Method

演習と調査実習への参加、共同作業への貢献、資料の完成度 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①新聞の経済記事などを丹念に読み、地方自治や経済社会の動きを知るように努めること。
- ②エクセル・パワーポイントなど、統計資料・発表資料の作成に必要な知識・技能を習得すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策が国や地域社会に及ぶ影響とその背景、または、政策過程における住民参加や環境問題など、幅広い視点から、政策をめぐる現象に関して議論し事例調査を行う。そのための実習調査の方法などを詳しく勉強する。
講義全体のキーワード；調査方法、科学、個人・社会・国家の関係、構造、変数、説明。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西田春彦 (1988)、社会調査の理論と技法、川島書店
佐藤郁哉 (2002)、フィールドワークの技法-問いを育てる、仮説をきたえる、新曜社
市川伸一 (1997)、考えることの科学、中公新書
井堀利宏 (2001)、公共事業の正しい考え方、中公新書
石弘之 (2002)、環境学の技法、東京大学出版会、その他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回 参加者全員の紹介、本の紹介、
第 2 回 ~ 第 6 回 テーマの検討と理解、テーマのグループ決定
第 7 回 新聞記事、視聴覚などの関連データや資料の集めと討論、
第 8 回 ~ 第 14 回 調査計画の発表、現地調査、
第 15 回 検討、反省、 1 学期の終わり。
第 16 回 テーマと問題意識の検討
第 15 回 ~ 第 20 回 グループごとの調査方法、結果、問題点の報告
第 18 回 現地調査
第 19 回 地域専門家の招待
第 20 回 ~ 第 29 回 グループごとの報告、テーマ関連の論文、資料の検討し、論文として仕上げ。
第 30 回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論、出席状況などを総合的に判断する。

政策調査対象の例；北九州国際空港、新福岡国際空港構想計画、
アイランドシティー整備事業 (福岡)
川辺川ダム建設事業、荒らせダム撤去、
自然再生、地域再生事業、北九州市の公害防止協定など

参加者の数、希望に合わせ、テーマ、テキストを選ぶ。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

年金、医療・介護、ニート・フリーター等の雇用問題、児童福祉（子育て支援など）、障害者福祉（就労支援・作業所）といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。「福祉経営」「福祉ビジネス」をテーマにして、実践的な活動を行います。政策実践プロジェクトIでは、市内の福祉NPO団体（小規模作業所）の商品販売の支援に参加してもらいます。複数の福祉NPOの経営の現状を調査し、商品販売や知名度向上のための企画を行ってください。平成18年度から北九州市立大学生協の協力を得て学内での商品販売を行っています。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 - 第3回 福祉NPO、小規模作業所の訪問調査。
第4回 - 第7回 企画の検討
第8回 - 第14回 大学生協等、関係団体との交渉、事業の実施。
第15回 事業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・・・50% 報告書・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークというのは、簡単にできるように見えて意外に難しく、一定の技法が必要です。また、技法だけでなく、マナーというのもフィールドワークにとって欠かせない要素です。本調査実習では、フィールドワークの技法と基礎知識を身につけることをねらいとします。きちんとした調査技法やマナーを踏まえなければ、「調査公害」だけを生む結果となります。そうならないためにも、調査を始めるときに必要な技法、調査をしているときに気をつけないといけないこと、調査が終わってからの作業などを、ここでは学びます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 5回 調査研究の準備【文献講読】【調査対象についての情報収集】
- 6回 - 10回 フィールドワーク報告等【調査結果の報告】
- 11回 - 15回 研究のまとめ【調査報告書】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業や調査への出席... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。調査に出かけるときは、講義時間外の準備が必要である。たとえば、事前調査や調査先で問う質問をまとめる必要がある。また調査結果のまとめについては毎回の授業で内容のチェックをするため、授業までにある程度の文章をまとめておくことが不可欠である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本実習は、横山担当の演習とペアで行う。行政・地方自治の分野から研究したいテーマを各自もしくは数名からなるグループで設定し、それぞれのリサーチ・クエスチョンに従って聞きとり、アンケートなど、実践的な調査を行い、結果を分析、結論を報告することを授業の目的とする。受講生の希望・関心によって、公的な機関の視察や現地調査といった活動も視野に入れ、適宜、必要となる調査方法・分析方法の講義を盛り込んでいく。調査実習そのものの重要性もさることながら、得られた生のデータを分析し、自ら設定した疑問に答えを出し、それを報告する、という一連の作業過程を通じて、受講生のスキルアップをはかりたい。

教科書 /Textbooks

テーマに従って、適宜、紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマに従って、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～3回 個人ないしグループでの調査テーマの検討・設定
- 4回～5回 調査計画の作成・調査にむけての準備
- 6回～10回 調査の実施・結果の分析
- 11回～13回 調査結果のまとめ
- 14回 調査結果の報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席20%、調査等への参加度合い50%、調査結果の報告30%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。ただ受講生の人数にもよりますが、忙しい日程で調査を行うことが予想されます。時間外での下調べや準備等を厭わないという覚悟を持った参加者を歓迎します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習と抱き合わせの形でこの授業を行います。自らの卒論・ゼミ論のテーマを決めていただき、企画書を作成し、それに基づき、文献調査を終えた後に、実習に入ってもらいます。

教科書 /Textbooks

- * 中野民夫『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書、2003年
- * 関係図書館や現地で入手可能な資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 佐藤郁哉『フィールドワーク - 書をもって街に出かけよう』新曜社、1992年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 例示)
- 第1段階 卒論・ゼミ論のテーマの決定 現地調査の準備作業(昨年の報告書・ビデオ・写真を元に した復習、基本文献学習、現地調査の方法・内容決定、現地受入先との連絡)
- 第2段階 現地調査の実施: : 踏査、関係者への聞き取り調査、文献資料調査、アンケート調査
- 第3段階 調査のまとめ(各自の調査分析と報告書の作成)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 指定資料の読了・報告書作成作業...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定資料の読了、事前準備作業への参加

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本ゼミにおける政策実践プロジェクトの目的は、①地方公共政策を研究する学生が必要とする基本的なフィールドワークの知識や方法を身につけること、さらに②実際に調査した内容に基づき政策提言をし、地域社会へ貢献することにある。

そのため、本年度は、第1に、北九州市八幡東区の大蔵地区の独居老人の調査や二人暮らしの高齢者の調査を行い、アンケート調査の設計からインタビューの仕方などをみにつけてもらう。特にアンケート調査で重要となるワーディングについては学生相互の話し合いを行いしっかり学んでもらうことにしたい。

第2に、政策コンペなどを通じて、地域社会の問題を解決するための調査から政策提言へといたる一連の作業を学ぶことにより、地域社会に貢献することにした。

第3に、希望者に対しては、コミュニティビジネスの企画・運営、まちづくりへの参加などの演習をしたいと考えている。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。必要に応じて担当教員が指示する予定であるが、とりあえず以下の文献を挙げておく。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ—論理と方法[第2版]』(ミネルヴァ書房、2005年)。

辻新六・有馬昌宏『アンケート調査の方法—実践ノウハウとパソコン支援』(朝倉書店、1987年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際に調査にあたる前には必要な文献を指示し、前もってゼミで輪読してから調査に臨むことになる。また、調査前には、必ずトレーニングを行ない、調査結果については、簡単な報告書を作成してもらう予定である。

政策コンペでは学生主導で自主的にテーマの決定、調査、政策提言といった作業を行ってもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

調査等への参加・貢献... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習III・IV（古賀担当）とセットで行う実習であって、都市政策の現場における課題の把握と解決策の提案のための実践的な活動である。具体的には、演習に関連したテーマについて、演習履修者による共同研究を行うために必要なアンケート調査、訪問による聞き取り調査、調査結果の分析、現場視察、プレゼンテーション資料の作成、プレゼンテーションの実践などを行う。

教科書 /Textbooks

必要な都度、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①演習III・IVにおけるテーマ決定（毎年度異なる）
- ②調査の目的・対象・内容・方法などの決定
- ③調査の実施（アンケート調査・聞き取り調査・実地調査）
 - ・実地調査は例年市内生産施設調査を行うほか、テーマに応じて市内商業施設調査、他都市商業施設等調査などを実施
- ④調査結果の分析
- ⑤政策提案のための資料作成

成績評価の方法 /Assessment Method

演習と調査実習への参加、共同作業への貢献、資料の完成度 … 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①新聞の経済記事などを丹念に読み、地方自治や経済社会の動きを知るように努めること。
- ②エクセル・パワーポイントなど、統計資料・発表資料の作成に必要な知識・技能を習得すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトII【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策が国や地域社会に及ぶ影響とその背景、または、政策過程における住民参加や環境問題など、幅広い視点から、政策をめぐる現象に関して議論し事例調査を行う。そのための実習調査の方法などを詳しく勉強する。
講義全体のキーワードは、調査方法、科学、個人・社会・国家の関係、構造、変数、説明である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西田春彦 (1988)、社会調査の理論と技法、川島書店
佐藤郁哉 (2002)、フィールドワークの技法-問いを育てる、仮説をきたえる、新曜社
市川伸一 (1997)、考えることの科学、中公新書
井堀利宏 (2001)、公共事業の正しい考え方、中公新書
石弘之 (2002)、環境学の技法、東京大学出版会、その他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 参加者全員の紹介、本の紹介、
第 2回 ~ 第 6回 テーマの検討と理解、テーマのグループ決定
第 7回 新聞記事、視聴覚などの関連データや資料の集めと討論、
第 8回 ~ 第 14回 調査計画の発表、現地調査、
第 15回 検討、反省、1学期の終わり。
第 16回 テーマと問題意識の検討
第 15回 ~ 第 20回 グループごとの調査方法、結果、問題点の報告
第 18回 現地調査
第 19回 地域専門家の招待
第 20回 ~ 第 29回 グループごとの報告、テーマ関連の論文、資料の検討し、論文として仕上げ。
第 30回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論、出席状況などを総合的に判断する。

政策調査対象の例；トレイなど容器包装をめぐる自律協定、新福岡国際空港構想計画、
アイランドシティ整備事業 (福岡)
川辺川ダム建設事業、荒らせダム撤去、
自然再生、地域再生事業、北九州市の公害防止協定など

参加者の数、希望に合わせ、テーマ、テキストを選ぶ。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、演習（狭間担当）とセットで行います。年金、医療・介護、ニート・フリーター等の雇用問題、児童福祉（子育て支援など）、障害者福祉（就労支援・作業所）といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。「福祉経営」「福祉ビジネス」をテーマにして、実践的な活動を行います。政策調査実習IIでは、市内の福祉NPO団体（小規模作業所）の商品販売の支援に参加してもらいます。複数の福祉NPOの経営の現状を調査し、商品販売や知名度向上のための企画を行ってください。平成19年度から学校行事である大学祭に作業所の商品を用いた出店を行っています。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 - 第3回 福祉NPO、小規模作業所の訪問調査。
第4回 - 第7回 企画の検討
第8回 - 第14回 関係団体との交渉、事業の実施。
第15回 事業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・・・50% 報告書・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトII【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークというのは、簡単にできるように見えて意外に難しく、一定の技法が必要です。また、技法だけでなく、マナーというのもフィールドワークにとって欠かせない要素です。本調査実習では、フィールドワークの技法と基礎知識を身につけることをねらいとします。きちんとした調査技法やマナーを踏まえなければ、「調査公害」だけを生む結果となります。そうならないためにも、調査を始めるときに必要な技法、調査をしているときに気をつけないといけないこと、調査が終わってからの作業などを、ここでは学びます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 - 5回 調査研究の準備【文献講読】【調査対象についての情報収集】
6回 - 10回 フィールドワーク報告等【調査結果の報告】
11回 - 15回 研究のまとめ【調査報告書】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業や調査への出席および調査報告書執筆への参加などの総合評価... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。調査に出かけるときは、講義時間外の準備が必要である。たとえば、事前調査や調査先で問う質問をまとめる必要がある。また調査結果のまとめについては毎回の授業で内容のチェックをするため、授業までにある程度の文章をまとめておくことが不可欠である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本実習は、横山担当の演習とペアで行う。行政・地方自治の分野から研究したいテーマを各自もしくは数名からなるグループで設定し、それぞれのリサーチ・クエスチョンに従って聞きとり、アンケートなど、実践的な調査を行い、結果を分析、結論を報告することを授業の目的とする。受講生の希望・関心によって、公的な機関の視察や現地調査といった活動も視野に入れ、適宜、必要となる調査方法・分析方法の講義を盛り込んでいく。調査実習そのものの重要性もさることながら、得られた生のデータを分析し、自ら設定した疑問に答えを出し、それを報告する、という一連の作業過程を通じて、受講生のスキルアップをはかりたい。

教科書 /Textbooks

テーマに従って、適宜、紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマに従って、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～3回 個人ないしグループでの調査テーマの検討・設定
- 4回～5回 調査計画の作成・調査にむけての準備
- 6回～10回 調査の実施・結果の分析
- 11回～13回 調査結果のまとめ
- 14回 調査結果の報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席20%、調査等への参加度合い50%、調査結果の報告30%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。ただ受講生の人数にもよりますが、忙しい日程で調査を行うことが予想されます。時間外での下調べや準備等を厭わないという覚悟を持った参加者を歓迎します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名
/Instructor

政策科学科教員

履修年次 4年次
/Year

単位
/Credits

4単位

学期

1・2学期(バ)

授業形態
/Class Format

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策科学科教員の指導を受けながら書くこととなりますが、あらかじめ履修申告が必要です。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 最終学年の4月に受講申告をする必要があります。
- (昼間主)論文を提出しようとする学生は、所属する演習を担当する教員(指導教員)の指導を受けます。
(夜間主)論文を提出しようとする学生は、政策科学科教員の中から指導教員を定め、その指導を受けます。
- 指導教員の承認を得て、論文題目を、最終学年の6月15日(当日が日曜日の場合にはその翌日)の午後8時までに教務課に届け出なければなりません。
第1学期末に単位の認定を受けようとする学生(9月卒業予定者)も同じです。
- 論文の様式は次のとおりです。
 - 日本語で執筆する場合は、A4、400字詰め原稿用紙横書30枚以上とし、表紙をつけて装丁する。ただし、ワープロで印書する場合には、A4用紙横書に40字30行で10枚以上。
 - 英語で執筆する場合は、A4用紙にダブルスペースで3000語以上とし、表紙をつけて装丁する。
 - 日本語及び英語以外の言語で執筆する場合には、①及び②に準じて別途指示します。
- 論文提出日時は次のとおりです。
(昼間主)1月の第3月曜日正午まで(日付はその都度掲示します。)
【※9月卒業予定者は7月17日(当日が休日の場合にはその翌日)正午まで】
(夜間主)1月の第3月曜日午後8時まで(日付はその都度掲示します。)
【※9月卒業予定者は7月17日(当日が休日の場合にはその翌日)午後8時まで】
- 論文の提出先は教務課です。

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なお、「論文題目」、「論文」の提出日時等必要な事項については、別途掲示しますので、掲示板で必ず確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科
松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策科学科の新入生がこれから政策を考察・研究するうえで必要となる基礎的な知識・視点・方法論を提供することです。その際、現代における政治・経済・社会的な変容の具体例を取り上げて、それらの変容が引き起こす社会問題はどのように捉えられて、それらの問題に対処する政策案はどのように研究されているかに焦点を当てます。「政策科学」という響きは極めて難解なものに聞こえるかもしれませんが、政策について考察・研究することはとても重要で面白い活動です。そこでは、いろいろな視点や方法が求められ、知的刺激が満載です。本講義を通じて、政策を考察・研究することのイメージを掴み、その面白さを感じ取ってください。

教科書 /Textbooks

今のところ指定するテキストはありません。詳細は第一回目の講義で説明いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： インTRODクシヨN-政策科学とは？
2回～5回： 事例から政策を考えてみよう
①中心市街地の空洞化・衰退-アメリカの都市
②日本の地方都市における中心市街地の空洞化-北九州市（特に黒崎）
③中心市街地の活性化の成功例-アメリカのコロラド州デンバー等
④コンパクト・シテイ-青森市（青森市新町商店街の活性化策）
6回： データから政策を考えてみよう
-地方自治体の政策の比較，少子化問題等
7回～9回： 理論から政策を考えてみよう
-所得格差，環境破壊，まちの活性化，税制等
10回～11回： 国際的要因の国内政策への影響を考えてみよう
-貿易・資本の国際化，国際競争，企業統治，国内経済政策等
12回～14回： 現代の社会問題を政策的に考えてみよう
①一億総中流から格差社会へ-日本における貧困を考えてみよう
②格差社会のなかの日本-日本のセーフティネットを考えてみよう
③循環型社会論序説-ごみ問題を考えてみよう
15回： 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（中間と期末の2本）...50%；出席...50% 詳細は第1回目の講義で説明いたします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆予習用の読物として論文や記事等が指定されている場合は、授業前に目を通してきてください。
- ◆授業で配布された資料等を、授業後あらためてじっくり読み込んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策構想論 【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

様々な政策を立案する際に前提とすべき価値や思想について検討しながら、近・未来の政治社会のありうべき姿について考察する。そのためにも、まず、政治と政策にかかわる基礎知識について論述し、次に、政策構想の具体例の分析を行う。

教科書 /Textbooks

中道『政治のデザイン-政策構想論序説』（南窓社）。レジュメを配布し、理解の深化を目指す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、毎回、講義中に示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 政治と政治状況について【権力】【正当性】【組織化】【諸価値の配分】
- 第 2 回 政治と政策について【方針】【政策の諸定義】【政策科学】
- 第 3 回 政治と政策研究について【政策分析】【政策過程】【政策構想の必要性】
- 第 4 回 新しい政策研究と政策の諸局面【政策マインド】【政策価値】
- 第 5 回-6 回 政策価値の変化【夜警国家の政策価値】【福祉国家の政策価値】
- 第 7 回-8 回 政策型思考について【目的・手段的認識】【循環的発想】【システムの発想】
- 第 9 回-10 回 市民の政策構想について【参加革命】【参加民主主義】
- 第 11 回-13 回 政治のデザインについて【古典モデル】【社会デザイン】
- 第 14 回 市民による政策構想について【トレードオフ】【諸価値の共生】【熟議民主主義】
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出：有（任意）出席点加味：有 平常授業中の小テスト：有（添削および問題解説）
期末試験：有。評価は総合して行う。
出席... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート：十分評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ごとに挙げていく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 日本における貧困問題・・・北九州市と福岡市のネットカフェ難民調査から
- 5回 日本における子どもの貧困(1)・・・日本の現状を考える
- 6回 日本における子どもの貧困(2)・・・比較の視座から考える
- 7回 社会実験(1)・・・社会実験とは何か
- 8回 社会実験(2)・・・事例の分析・検討
- 9回 循環型社会(1)・・・導入
- 10回 循環型社会(2)・・・容器包装リサイクル法
- 11回 循環型社会(3)・・・家電リサイクル法
- 12回 介護保険(1)・・・導入
- 13回 介護保険(2)・・・現状分析
- 14回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 15回 介護保険(4)・・・問題点とその検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業貢献度など ... 50 % レポート ... 50 %。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いていただき成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策過程論 【昼】

担当者名 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会・政策の決定(合理的決定・ゴミ箱決定、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams, 政策の窓 (Policy Window)、政策実施・調整 (Policy Learning &Changes)・政策変数、終了・評価の政策過程と、アクターの参加 (内閣・官僚・国会、政府間関係、専門家組織、世論とメディア、NPO)とその構造 (補助金・Rent-Seekingのような利益誘導型政治等) について理論・事例を広く検討し、理解してもらう。
(キーワード ; 公私、公共政策、政策の決定、実施、政策調整、終了、アクターの参加、メディアの役割、ガバナンス)

教科書 /Textbooks

- ① 早川純一 貴 外 (2004)、政策過程論、学陽書房
- ② 足立幸男 (2006)、公共政策決定の理論 ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中郵章、竹下讓 (1987)、日本の政策過程 : 自民党・野党・官僚、梓出版社
中野実 (1992)、現代日本の政策過程、東京大学出版会
草野厚 (1997) 政策過程分析入門、東京大学出版会
中村昭雄 (1997)、日本政治の政策過程、芦書房、その他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 授業や本の紹介など
- 第 2回 政策の対象、政策の必要性、費用と利益、政策の種類など。
- 第 3回 政策過程、参加者、政策資源、
- 第 4回 政策過程の理論 1 (川辺川ダム決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 第 5回 政策過程の理論 2 (政策の窓、イシューネットワーク論、無意思決定論など、中野実 (1992)、草野厚 (1997) を参考。
- 第 6回 政策過程の理論 3 (新聞、インターネットとかで検索した事例分析)
- 第 7回 ~ 第10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、アクター、官僚と国会、政府間関係、利益誘導政治)、実施過程に関する論文などの参考、
- 第 11回 後援会、地域政治構造、
- 第 12回 地域政治と政策過程、中野実 (1992) などを参考。
- 第 13回 政策評価と市民参加、
- 第 14回、第 15回、関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・試験・発表・出席状況などから総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策評価論 【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策評価について、学部レベルで理解しておくべき基礎的な知識を提供することにある。ただし、基礎的といっても評価研究は、1・2年生では、理解しづらいところもあるので、受講生は3年生以上の学生を対象とすることにしたい（やる気のある2年生は可）。講義では、まず、アメリカを中心とした評価研究や評価手法を分析・検討する。そして、現代日本で最も頻繁に行われている行政評価やその問題点を検討し、今後日本の行政評価のあり方や新しい評価手法についてみていくことにしたい。

教科書 /Textbooks

石原俊彦編著『自治体行政評価ケーススタディ』（東洋経済新報社、2005年）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

龍慶昭・佐々木亮『「政策評価」の理論と技法』（多賀出版、2004年）。
安田節之・渡辺直登『プログラム評価研究の方法』（新曜社、2008年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入—「評価」とは何か？など
- 第2回 「実験としての改革」—アメリカのプログラム評価の古典の意味するものは何か？！
- 第3回 セオリー評価（ロジック・モデル）
- 第4回 より複雑なロジック・モデルについて
- 第5回 プロセス評価
- 第6回 インパクト評価
- 第7回 行政評価 - 行政評価とは何か
- 第8回 行政評価の検討（1）—三重県の行政評価
- 第9回 行政評価の検討（2）—名古屋市の行政評価
- 第10回 行政評価の検討（3）—三木市、静岡県、長浜市、
- 第11回 行政評価の検討（4）—福井市
- 第12回 行政評価の検討（5）—豊橋市
- 第13回 行政評価の検討（6）—パフォーマンス・メジャーメント（ポートランド市）
- 第14回 行政評価の検討（7）—青森市、広島市、カナダのアルバータ州
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % レポート ... 70 % ただし、授業に出席しない学生には単位は与えない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するプリント教材および指定テキストの復習を必ず行うこと。また、授業に際しては前もって教材の指定した箇所を予習して授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策情報処理 【昼】

担当者名 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、政策科学の研究のために必要なスキルのひとつである、統計処理・データ解析の方法を習得し、受講生が統計的な手法を用いた分析を行えるようになることである。統計の基本的な概念や様々な分析手法およびその特性などを学びながら、実際のデータを用いて統計的な処理・解析を行うという、講義・実習の両形式から成る実践的な授業となる。なお、具体的には地方自治体に関するデータを用いる予定である。また統計パッケージとしてSPSSを使用することを想定しており、ソフトの数量に限りがあるため、受講者数を制限する場合がある。

教科書 /Textbooks

テキストは特には指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 増山幹高・山田真裕(2004)『計量政治分析入門』東京大学出版会
 - 佐伯胖・松原望編(2000)『実践としての統計学』東京大学出版会
 - 石村貞夫(2007)『SPSSによる統計処理の手順 第5版』東京図書
 - 谷岡一郎(2007)『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』筑摩書房
- その他、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回～5回 統計の基礎(記述統計・度数分布)
 - 6回 クロス集計
 - 7回 相関分析
 - 8回 中間テスト
 - 9回 中間テストの解説とここまでの復習
 - 10回～13回 回帰分析
 - 14回 回帰分析を中心とした復習
 - 15回 まとめ
- (実習を行うため、受講生の人数等によってスケジュールは変更される場合がある)

本授業では統計の基礎から講義・実習を行います。「データ処理」等、基本的な情報処理科目を履修済みであれば理解はより深まります。パソコン教室での授業となるので、受講生は各自、学内のパソコンを使用できるように(ログインできるように)しておいて下さい。また受講希望者が多数の場合には、受講者数調整を行う場合があります。これについては初回のガイダンスにて説明しますので、受講したい学生は必ず第1回目の授業にご出席ください。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%
(遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。日本行政論をとっておくとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉国家論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心にわが国の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 - 2回 ガイダンスと概論 授業の進め方、成績評価について説明するので必ず出席してください。あわせて制的扶助の行政組織・財政概要などを説明します。	度枠組みや社会保険・公
第3回 - 4回 公的扶助 生活保護制度の概要(原理・原則、扶助の種類)、実施体制について学びます。ホームレス自立支援施策について解説します。	た最近注目されているホ
第5回 - 8回 年金保険 制度分類、保険料と保険給付について解説し、空洞化・世代間格差・世代内格差・点を考えます。	資金運用管理などの問題
第9回 - 11回 医療保険 制度分類、保険料と保険給付について解説し、高齢者医療、混合診療、医療サービス	スの質などの問題を考え
第12回 - 第15回 福祉国家の展開と類型論 福祉国家はどのように成立したのか、そしてこれから福祉国家はどこへ行くのか。類型論から日本の福祉国家化の特徴を考えます。	

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100% 出席・・・次のような加算を行う
(試験は100点満点、60点以上で合格。概ね40~59点の人に対して出席1回につき2点程度の加算を行い、その結果60点を超えた人は合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「デモクラシー」は一般に「良いもの」として描かれています。しかし、デモクラシーを採用している国の政治を見てみると、「あまり良いものとは思えないなあ」「現実の政治はデモクラシーと何か違うなあ」と感じる人は少なくないでしょう。本講義は、理念としてのデモクラシーと現実のデモクラシーとの違いに注目して、政治学の基礎的な概念等を解説します。具体的には①デモクラシーを支える政治制度、②デモクラシーにおける市民・議員等、③地方・国・国際等のレベルとデモクラシーとの関係、④デモクラシーの確立に向けた制度設計について、社会科学的視点から考察します。講義全体のキーワードは、デモクラシーの理念と現実及び政治制度の機能と設計です。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1 回イントロダクション | 【科学としての政治学】【政治学の社会的役割】 |
| 2 回デモクラシーと制度 | 【多数決原理】 |
| 3 回デモクラシーと安定性 | 【政権交代】【政党制】 |
| 4 回デモクラシーと安定性 | 【二大政党制】【中位投票者定理】【多党制】 |
| 5 回デモクラシーと代表 | 【直接民主制】【間接民主制】【議会主義】【行政国家】 |
| 6 回デモクラシーと代表 | 【代表と代表性】【社会選択と投票方法】 |
| 7 回デモクラシーと代表 | 【参加デモクラシー】【市民参加】 |
| 8 回デモクラシーと政治制度設計 | 【制度設計指針】【代表性と統治の効率性】【拒否点】 |
| 9 回デモクラシーと政治制度設計 | 【議院内閣制】【大統領制】【選挙制度の類型化】 |
| 10 回デモクラシーと政治制度設計 | 【小選挙区制】【比例代表制】【中選挙区制】【混合型】 |
| 11 回デモクラシーと政治制度設計 | 【単一国家】【連邦制国家】【一院制】【二院制】 |
| 12 回デモクラシーと政治制度設計 | 【重層的なデモクラシー】【グローカリゼーション】 |
| 13 回デモクラシーの展望 | 【デモクラシーの安定】【デモクラシーと個人】 |
| 14 回デモクラシーの展望 | 【政治的社会化】【市民教育】【利他的利己主義】 |
| 15 回総括 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- ◆受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「政治過程」は、政治制度の下で繰り広げられる様々なアクターによるインターアクションのプロセスを表す概念です。本講義は政治過程についてジャーナリスティック・感覚的にではなく、理論的・実証的に即ち社会科学的に考察します。まず、有権者がニーズを訴える過程（「入力過程」）に目を向けます。つぎに、入力された有権者のニーズを受けて政策を決定・実施・評価する過程（「出力過程」）に焦点を当てますが、本講義では特に政策決定過程を取りあげます。最後に、政策を決定するシステム（「公共システム」）の特徴を、市場システムと比較しながら、描出します。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- [入力過程]
- 2回 投票行動 3回 投票行動
- 4回 投票参加 5回 投票参加
- 6回 投票参加 7回 世論とメディア
- [出力過程]
- 8回 政策決定過程におけるアクター 9回 政策決定過程におけるアクター
- 10回 政策決定・政策過程のモデル 11回 政策決定・政策過程のモデル
- 12回 政策決定・政策過程のモデル
- [公共システム]
- 13回 公共システムと市場システム 14回 公益と政策
- 15回 総括

※受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- ◆政策決定を含めた政策過程全般について深く勉強を進めたい場合は「政策過程論」、行政府や官僚等については「日本行政論」、政策立案・分析・議論における公益等の諸価値の問題については「政策構想論」、政党システムや欧州諸国の政党については「政党政治論」、政党・利益集団・行政省庁に代表される組織全般については「行政組織論」、政治過程のルールである政治制度については「政治学」、日本の政治過程については「日本政治論」の受講をお勧めいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋政治史 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、近代のヨーロッパにおいて主権国家体系が誕生し、その後紆余曲折を経て現在のEU (European Union) を生み出すことになった歴史を概観するとともに、EUにおける政策分野ごとの統合の進展を検討する。また欧州統合に対して、加盟国がどのような影響を与えてきたのか、主要国の立場の変遷についても検討する。さらに、EUの東方拡大とトルコの加盟問題についても考察する予定である。講義全体のキーワードは、EU、超国家的統合、地域統合、などである。

教科書 /Textbooks

坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』（芦書房）
坂井一成編『グローバルイゼーション国際関係論』（芦書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 授業内容の説明、「ヨーロッパ」とは何か
 - 2回 ヨーロッパでの主権国家体系の誕生と拡大 (1) 【ウェストファリア条約】
 - 3回 ヨーロッパでの主権国家体系の誕生と拡大 (2) 【ヨーロッパ協調】
 - 4回 ヨーロッパ統合の歴史【地域統合】【ECSC】【EEC】【EC】
 - 5回 共通外交・安全保障政策の進展史【EDC】【EPC】【CFSP】【NATO】
 - 6回 立憲体制と市民的自由の保障の拡大史【入国管理】【EU市民権】【欧州憲法】
 - 7回 教育・文化交流政策の発展史【アイデンティティ】【ソフトパワー】【ヨーロッパ文化】
 - 8回 「多様性の中の統合」の展開【補完性原理】【文化的多様性】【地域政策】
 - 9回 フランス外交とヨーロッパ統合の関係史【ドゴール主義】【国家主権】【対独関係】
 - 10回 ドイツのヨーロッパ統合への対応【半主権国家】【地方分権】【東方政策】
 - 11回 イギリスにおけるヨーロッパ政策の国内化【大西洋主義】【CFSP】【通貨統合】
 - 12回 ベネルクス3国とヨーロッパ統合の関係史【小国】【超国家的統合】【ECSC】
 - 13回 北欧諸国の対外政策と対ヨーロッパ政策の変遷【北欧協力】【福祉国家】【国民投票】
 - 14回 ヨーロッパ統合のゆくえ【欧州憲法条約】【中東欧諸国】【トルコ】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 期末筆記試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ヨーロッパに関する知識があることを前提とはしないが、多少なりともヨーロッパの政治や歴史に興味をもつことが必要である。授業前の予習は特に必要ないが、授業前後にはテキストを一読しておくことより理解が深まる。学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容を全て講義できない点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今年度は、まず東欧革命を手がかりに、政治文化の変化と政治システムの変動との関係を考察し、次に戦間期の政治システムの変化を危機の政治思想やファシズムの政治思想との関連で取り上げ、その背後にある政治文化、とりわけ日独の政治文化を比較してみる。また、ポスト・モダンの政治思想を取り上げながら、今後の新しい政治について模索してみる。

教科書 /Textbooks

中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は毎回、講義中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治文化とは何か【政治システム】【政治文化】【政治的社会化】
- 第2回 政治文化と政治システムの変動との関連について【東欧革命】【民主化】【市民社会】
- 第3回 民主主義体制の崩壊と政治文化について【政治体制】【政治文化】
- 第4回 ワイマル共和制の理念と現実【ワイマル憲法】【基本的権力関係】
- 第5回 政治制度の諸問題【政党制】【主要政党の特徴】【比例代表制】【大統領内閣制】
- 第6回 議会制民主主義の危機と大統領独裁【指導者民主主義】【ウェーバー】【シュミット】
- 第7回 ナチズムの思想、運動、体制【イデオロギー】【プロパガンダ】【強制的同質化】
- 第8回 文化的絶望の政治について【文化ベシミズム】【ラガルド】【ラングヘーン】【メラー】
- 第9回 ドイツ統一と民族問題【憲法愛国主義】【過去の克服】
- 第10回 近代批判の思想について【満洲】【大東亜共栄圏】【近代の超克】【歴史意識】
- 第11回 近代批判の思想について【未完のプロジェクト】【啓蒙の弁証法】
- 第12回 国民国家のゆらぎ【国民国家の虚構性】【ポスト国民国家】
- 第13回 自然との共生【環境倫理学】【コモンズの原理】
- 第14回 政治文化の日独比較について【市民文化】【複眼主義】【価値判断の相対性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート提出：有（ただし、任意）
 期末試験：各学期末に実施するが、評価は総合して行う。
 出席点の加味の有無：有
 平常授業中の小テスト：有（添削および問題解説）
 出席... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート(任意) 十分評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政党政治論 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、西欧諸国を中心として特に政党と政党システムに焦点をあてて比較検討を行う。西欧諸国の政党および政党システムには、どのような類似点や相違点があるのかを考察する。さらに、各国の政党組織や政府形成の特徴についても検討を行う予定である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川有美編『EU諸国』(自由国民社)
馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック』(東京大学出版会)
坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』(芦書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 授業内容の説明、政党とは何か 【大衆政党】【包括政党】【政党の機能】
 - 2回 政党のイデオロギーと組織(1) 【自由主義】【民主主義】【自由民主主義】【権威主義】
 - 3回 政党のイデオロギーと組織(2) 【社会主義】【社会民主主義】【新保守主義】【第三の道】
 - 4回 選挙制度と政党システム 【二党制】【穏健な多党制】【小選挙区制】【比例代表制】
 - 5回～6回 イギリス 【二党システム】【サッチャー】【ブレア】
 - 7回～8回 フランス 【ゴリスト】【中央集権】【コアピタシオン】
 - 9回～10回 ドイツ 【連邦制】【5%条項】【ドイツ統一】
 - 11回～12回 オランダ・ベルギー 【地域問題】【多文化主義】【多極共存デモクラシー】
 - 13回 イタリア 【多党】【分極化】【オリーブの木】
 - 14回 北欧諸国 【社会民主主義】【合意】【女性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容を自分でまとめてノートに取る訓練をすること。学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容を全て講義できない点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市計画概論 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、都市計画に関する重要事項を比較的広範囲に取り上げ、その基本的事項について具体的な事例を交えながら概説し、都市計画の目的である良好な市街地形成を実現するための体系・手法を学びます。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、レジュメや参考資料を配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 萩島哲編『新建築学シリーズ10 都市計画』朝倉書店
- 都市計画教育研究会編『都市計画教科書第3版』彰国社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市計画の概念と社会的役割【市街地】、【都市問題】
- 2回 歴史上の都市計画・都市デザイン【広場】【中世都市】、【近代都市計画】
- 3回 都市計画の法体系と都市の基本計画【総合計画】、【都市計画マスタープラン】
- 4回 土地利用の概念【土地利用計画】、【人口配分】
- 5回 土地利用計画の実現【都市計画区域】、【市街化区域】、【用途地域】
- 6回 都市の再開発手法と事例【土地区画整理事業】、【市街地再開発事業】
- 7回 住環境整備の手法と事例【建築協定】、【地区計画】、【土地利用規制】
- 8回 都市の交通計画【パーソントリップ】、【交通需要予測】、【交通需要管理】
- 9回 都市の賑わいと公共交通【街路】、【トランジットモール】
- 10回 都市景観【視対象】、【仰角・俯角】
- 11回 景観まちづくり【景観法】、【景観計画区域】
- 12回 都市計画の支援ツールと都市調査【データベース】、【GIS】、【数量化理論】
- 13回 住民参加のまちづくり【ワークショップ】、【市民参加】
- 14回 都市計画・まちづくりのトピックス【最新動向】【海外事例】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・レポート等... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるの？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもちてません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてもらいたいのは、環境問題の原点とも言われる水俣病です。そのことも毎年実施している私のゼミ及び「政策科学入門I」の環境学習研修旅行の記録を通して学習します。環境教育アクティビティを多用します。

教科書 /Textbooks

その都度資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 栗原彬『証言 水俣病』岩波新書、2000年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成19年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣病講義』日本評論社、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---------------------------------------|------------|
| 第1回 「都市環境論」の授業内容とならひの説明：：簡単な環境意識度チェック | 【環境意識】 |
| 第2回 環境教育とESD（持続可能な開発のための教育） | 【ESD】 |
| 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告 | 【環境学習旅行】 |
| 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 | 【水俣病】 |
| 第5回 日本の環境政策 | 【環境政策】 |
| 第6回 北九州市の環境の現状 | 【北九州市】 |
| 第7回 廃棄物管理 その原理と現状 | 【廃棄物管理】 |
| 第8回 廃棄物管理 ～リサイクル、特にコンポストをめぐる | 【コンポスト】 |
| 第9回 下水処理をめぐる～下水処理の原理 | 【水質汚濁】 |
| 第10回 下水処理をめぐる～途上国インドのし尿処理問題 | 【途上国のし尿問題】 |
| 第11回 上水道：：（アクティビティ=きき水比べ） | 【おいしい水】 |
| 第12回 大気汚染～汚染の原理と現状 | 【大気汚染】 |
| 第13回 大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定 | 【CO2計測】 |
| 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々=エコツーリズムに関わろう！ | 【エコツーリズム】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 20 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策理論特講 【昼】

担当者名 /Instructor 鶴田 芳貴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業活動は、市場での競争を通じて社会に対して利益をもたらします。しかしながら、競争は必ずしも自然発生的なものではありませんし、競争があっても停滞してしまう可能性もあります。その場合には、競争を促進あるいは維持するため、政府が市場に介入する必要があります。この介入は「競争政策」と呼ばれます。この講義では、「競争政策」について具体例を取り上げながら理論的な背景を議論します。

教科書 /Textbooks

特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小田切宏之 (2009) 『競争政策論』 日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - 4回 基礎知識の整理
【国内外の競争政策の歴史・需要と供給・社会的余剰・公正と公平】
- 5回 「市場」とは？【市場の画定】
- 6 - 8回 水平的な企業間関係と競争政策
【カルテル・談合・水平的合併・不当廉売】
- 9 - 11回 垂直的な企業間関係と競争政策
【垂直的合併・再販価格維持・優越的地位の乱用・抱き合わせ販売】
- 12回 公益事業と競争政策【不可欠施設・自然独占・競争政策と規制】
- 13回 研究開発と競争政策【知的財産権】
- 14回 国際化と競争政策【国際的カルテル・国際的M&A】
- 15回 まとめ

内容および進度については、受講者の理解度などに応じて変更可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト 30% レポート 70%
受講者数などに応じて評価方法を変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備は必要ありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業・大学・政府・町内会・ボランティア団体、と周囲に溢れる組織は数え切れないほどで、誰も皆、幾つかの組織に所属し、自分が属する組織や他の組織からの影響を受けずに生活することは不可能である。また1990年代以降、日本の中央省庁や地方自治体といった行政組織の変化には著しいものがある。このようななか、組織論を学ぶことは、複雑な現代社会を理解する一助になる。特に政策の形成・決定・実施・評価と関連、あるいは各過程において主体として行動する場合もある行政組織に着目することで、過去から現在までの制度・政策の変化や内容に関する関心・洞察を深めることにつながるだろう。講義全体のキーワードは、組織論を通じてみるひとと社会である。

教科書 /Textbooks

適宜紹介、また必要に応じてレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑田耕太郎・田尾雅夫(1998)『組織論』有斐閣
- 西尾勝(2001)『新版行政学』有斐閣
- その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 組織の定義と概念
- 3回 組織と環境・組織構造
- 4回～5回 官僚制、その機能と逆機能
- 6回～7回 日本の行政組織の変化・改革
- 8回 中間テスト
- 9回 中間テストの解説と復習
- 10回 組織文化
- 11回 組織のリーダーシップとは
- 12回 構成員のモチベーションについて
- 13回 組織における学習
- 14回 行政サービスを担う組織
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%
(遅刻入室は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講するにあたって、特別に必要なことはありません。「行政組織」を軸に、歴史的な流れや社会的な背景などを合わせて学んでいきます。本講義で扱うこれらについては、「日本行政論」や「地方行政改革論」、「公共経営論」などの科目と合わせて履修することで、みなさんの理解はさらに深まるものと考えています。なお、講義の進行により、上記スケジュールを変更することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較政策論 【昼】

担当者名
/Instructor

坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象は次の政策分野：経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。またこれらの政策の相違は、諸国の政治経済体制の種類に呼応していることを学ぶ。さらに、違う政策が経済業績や人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。

教科書 /Textbooks

Jessica R. Adolino and Charles H. Blake. 2001. Comparing Public Policies: Issues and Choices in Six Industrialized Countries. Washington, D.C.: CQ Press.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そういう覚悟で履修登録すること。毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ; 2. 政策決定のモデル; 3. 政策決定の理論I; 4. 政策決定の理論II; 5. 政策の規定要因 - 制度・アクターI; 6. 政策の規定要因 - 制度・アクターII; 7. 先進各国の政治システム; 8. 社会・福祉政策; 9. Catch-up; 10. 財政政策; 11. 教育政策; 12. 税政策; 13. Catch-up and review; 14. 国際化の中の政策決定; 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1) テキストの講読・理解・授業での発言参加が40%、(2) 研究論文が60%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1) はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2) は学期末提出の研究論文の質で決める。論文はA4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1) オリジナルな研究、論文にする、(2) 理論や説明の論理的整合性、(3) 理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。

また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらおう。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。学生はアウトラインに沿って研究を進め、論文をまとめる。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同じレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を必ず読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本社会が激変している中で、多くの地方都市は経済的に疲弊しており、同時に都市再生を模索して様々な動きを始めている。多様な人材・施設・機能が集積する都市において、住民・企業・団体の様々なニーズに応えながら、都市機能を高め、地域経済の活性化を進めるためにどのような政策手法が有効であるかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

牛嶋正著『現代の都市経営』(1999)有斐閣ブックス
吉田民雄著『都市行政の新しい設計』(1995)中央経済社
小林英夫著『産業空洞化の克服 - 産業転換期の日本とアジア』(2003)中公新書
中沢孝夫著『<地域人>とまちづくり』(2003)講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市政策論とは何か
- 2回 都市が直面する課題
- 3回 都市政策の前提とこれからの都市政策
- 4回 都市政策と人材確保
- 5回 魅力ある都市づくり
- 6回 国の産業政策・地域振興政策
- 7回 産業集積の理論と実態
- 8回 産業クラスター政策と課題
- 9回 中小企業振興の取組み
- 10回 新産業創出の取組み
- 11回 企業誘致の実態とその課題
- 12回 小売り商業と商店街の実態と課題
- 13回 中心市街地の再生
- 14回 雇用政策
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理（行政計画、政策評価、人事・組織・予算管理）など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 - 2回 ガイダンスと概論 授業の進め方、成績評価について説明するので必ず出席すること。あわせて社会福祉サービスの政策的視点、行政組織・財政概要などを説明します。	福祉サービスの政策的視点、行政組織・財政概要などを説明します。
第3回 - 6回 高齢者福祉と介護保険 ホームヘルプサービスや特別養護老人ホームなど在宅・施設サービスの内容と実施体制を理解します。介護保険から今後の福祉政策全般の動向を考えます。	体制を理解します。介護
第7回 - 9回 児童福祉 児童養護施設などを中心に在宅・施設サービスの内容と実施体制を理解します。保育所改革、児童虐待、少子化対策などの政策課題を考えます。	育所改革、児童虐待、少
第10回 - 15回 障害者福祉 グループホームなどを中心に在宅・施設サービスの内容と実施体制を理解します。障害者と雇用などの政策課題を考えます。	自立支援制度の動向、障

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100% 出席・・・次のような加算を行う
(試験は100点満点、60点以上で合格。概ね40～59点の人に対して出席1回につき2点程度の加算を行い、その結果60点を越えた人は合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解してもらう。われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。また、地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動など）やアメリカ、ドイツの環境問題やその対策についても考えてみる。
講義全体のキーワード；環境、環境問題、環境政策（政策手段）、環境影響、国際環境問題。

教科書 /Textbooks

- ①飯島伸子（2000）、環境問題の社会史、有斐閣
- ②東アジア環境情報発信所(2006)、環境共同体としての日中韓、集英社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇沢弘文（1974）、自動車の社会的費用、岩波新書
- 山村恒年（1996）、環境保護の法と政策、信山社
- James P. Lester(1989) Environmental Politics and Policy, Duke Univ. Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 授業や本の紹介など（自分の環境概念について、書いてもらう）
- 第 2 回 公害、環境（問題）とその構造（被害者、加害者等）、
- 第 3 回 環境問題の特性とその構造（環境、社会構造と制度、技術、自然＝資源、人口）
- 第 4 回 日本の環境問題と歴史
- 第 5 回 環境権、環境政策の特徴 1（日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国）
各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター。
- 第 6 回 環境権、環境政策の特徴 2（日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国）
- 第 7 回 環境政策の手段（間の比較分析）1；補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等。
- 第 8 回 環境政策の手段（間の比較分析）2；有料化、road pricing等
- 第 9 回 自治体の環境政策（環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等）、環境自治体。
- 第 10 回 廃棄物はどこにいくのか（アジアへ、私の食卓へ、そして体へ）
- 第 11 回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 第 12 回 地球温暖化、
- 第 13 回 生物多様性、国際環境問題(黄砂、光化学スモッグ、海ごみ)
- 第 14 回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 第 15 回 まとめ（試験などの質問）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・試験・発表・出席状況などから総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。併せて、企業活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経営論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

厳しい変革の時代を生き抜くために、企業は経営方針、意思決定の仕組み、組織を大転換しているが、地方自治体においても同様に、政策の選択と集中による都市経営方針を明確にし、戦略的な経営が行われるように、簡素で効率的な行政を進める行政改革・組織改革を進め、都市経営への住民参加に取り組んでいる。この講義では、地方自治体が、都市機能を高め、都市の自律的發展を目指して改革している組織の在り方について学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 武藤博巳編著『自治体経営改革』自治体改革2(2004)ぎょうせい
- 天野巡一編著『職員・組織改革』自治体改革6(2004)ぎょうせい
- 大住荘四郎『NPMによる行政革命 - 経営改革モデルの構築と実践』(2003)日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経営論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 地方自治制度と地方分権
- 4回 地方自治体の組織と権能
- 5回 都市経営と政策
- 6回 都市経営と行政計画
- 7回 都市経営と行財政改革
- 8回 地方自治体の組織原理の変化
- 9回 新しい都市経営の基本姿勢
- 10回 新しい組織管理
- 11回 新しい人的資源管理
- 12回 地方公務員の雇用環境の変化
- 13回 新しい都市経営の主体①
- 14回 新しい都市経営の主体②
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方行政改革論【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政改革がなぜ必要とされているのか、そこでの改革手法としてどのような手法が用いられているのか、現在進む地方行政改革の実態と課題を論じたい。改革の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。とくに今年、自治体改革のブームともなっている「自治基本条例」を大きく取り扱うことにする。自治体の基本的なルールともいえる自治基本条例を定めるケースが増えているが、自治基本条例の将来的可能性ないし課題について考えることにしたい。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の組織【官僚制の理論】
- 3回 地方自治体の組織【自治体の特性】
- 4回 組織改革①【自治体組織の改革】
- 5回 組織改革②【自治体組織の改革】
- 6回 組織改革③【自治体組織の改革】
- 7回 地方公務員の改革①【公務員制度】
- 8回 地方公務員の改革②【人事管理改革】
- 9回 地方公務員の改革③【求められる公務員とは】
- 10回 行政と住民の関係①【市民参加】
- 11回 行政と住民の関係②【自治体内分権】
- 12回 行政と住民の関係③【コミュニティ自治】
- 13回 近年の課題①【自治基本条例の全体像】
- 14回 近年の課題②【自治基本条例による改革進展】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。この授業の内容からすると、すでに地方自治論を履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本政治論 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の政治に関する基礎的な知識と、今日一般に指摘されている問題点や改革論議に対する社会科学的視点を、受講生の皆さんが習得することです。まず日本の政策決定過程についての全般的な説明を行います。つぎに具体的事例として租税政策の決定過程に着目します。さらに政策決定過程の中心的アクターである議員の選出方法を取り上げ、日本の選挙制度の特徴や問題点等を考察します。講義全体のキーワードは「これまでの政治とこれからの政治」です。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 政策決定過程-基礎①: 政治制度とアクター
- 3回 政策決定過程-基礎①: 政治制度とアクター
- 4回 政策決定過程-基礎②: 政治制度とインターアクション
- 5回 政策決定過程-基礎②: 政治制度とインターアクション
- 6回 政策決定過程-応用①: 税制の政治(理論)
- 7回 政策決定過程-応用①: 税制の政治(理論)
- 8回 政策決定過程-応用②: 税制の政治(事例)
- 9回 政策決定過程-応用②: 税制の政治(事例)
- 10回 政策決定過程-応用②: 税制の政治(事例)
- 11回 政策決定過程-応用②: 税制の政治(事例)
- 12回 選挙制度①: 今日の選挙制度
- 13回 選挙制度①: 今日の選挙制度
- 14回 選挙制度②: 首相公選制
- 15回 総括

※受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- ◆日本の政治機構については「憲法機構論」、日本の行政については「日本行政論」、政治過程全般については「政治過程論」、政治制度全般については「政治学」の受講をお勧めいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共経営論【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に公共サービス再編成を対象とし、市場原理・企業的経営手法を取り入れた行政機関の管理改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
 - ・ 授業の進め方、成績評価について説明するので必ず出席してください。
- 第2回 - 4回 理論 新公共経営と政府体系
 - ・ 新公共経営 (NPM: New Public Management)、能率と責任などの概念整理、準市場化と準政府の拡大。
- 第5回 - 7回 事例 教育・文化施設編①
 - ・ 民間委託の類型化と指定管理者制度 ・ PFI
- 第8回 - 11回 事例 公共事業編
 - ・ 入札改革 ・ 財政投融资など
- 第12回 - 第15回 事例 教育・文化施設編②
 - ・ 学校選択制 ・ 株式会社立学校

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・・・50% レポート・・・50%
(レポートは学期末に1回の提出)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科, 申 東愛 / Shin, Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものになりたいと考えています。

ただし、ゲスト・スピーカーを多数およびする関係からも、授業中の私語は厳しく取り締まります。私語をせずには講義を受けられないという学生は受講しないでください。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』(岩波書店、2004年)。
榎原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2009年3月)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------------------|------------|
| 1回 導入—講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など | |
| 2回 NPOの基礎知識 | 3回 第1回講演会 |
| 4回 福祉NPO(1) | 5回 第2回講演会 |
| 6回 福祉NPO(2)—社会福祉法人 | 7回 第3回講演会 |
| 8回 環境NPO(1) | 9回 第4回講演会 |
| 10回 環境NPO(2) | 11回 第5回講演会 |
| 12回 まちづくりNPO(1) | |
| 13回 第6回講演会 | |
| 14回 まちづくりNPO(2) | |
| 15回 講義のまとめおよびレポートについての説明 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席(授業貢献) ... 50 % レポート... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

めまぐるしく変化する現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されている。そのテーマはといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどである。この講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みたい。同じ地球に生きる人間として、途上国の問題にも真正面からぶつかって欲しい。

教科書 /Textbooks

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
* 中村尚司『人びとのアジア - 民際学の視座から』岩波新書、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい
第2回～4回 担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 【バングラデシュ】
第5回～6回 開発論の歴史：成長概念と貧困概念を中心に 【成長】【貧困】【SD】
第7回～8回 開発論の課題：人口増加と資源・環境問題 【人口増加】【環境問題】
第9回～10回 途上国での農村・農業問題 【農村】
第11～12回 世銀の開発方針とNGO 【世銀】【NGO】
第13～14回 途上国での都市問題と社会開発 【都市問題】【社会開発】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、韓国、インドネシア、バングラデシュを対象に、アジアの文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干（かなりかも）、マニアックになるのはお許しください。アジア大好き人間になり、学生時代には一度は同国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。

教科書 /Textbooks

その都度配布
○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第2版】』明石書店、2009年
- * バク・ジョンヒュン『韓国人を愛せますか?』講談社+α新書、
- * 倉沢愛子『ジャカルタ路地裏フィールドノート』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|-----------|
| 1 回 「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明 | |
| 2 回 韓国、インドネシア、バングラデシュへのスタディ・ツアーの写真を通しての比較説明 | |
| 3 回 上記三か国の統計数値による比較説明 | 【統計数値】 |
| 4 回 絵本を通しての三か国の生活・文化比較 | 【絵本】 |
| 5 回 イスラーム教の紹介 | 【イスラーム教】 |
| 6 回 バングラデシュの農村社会 | 【農村社会】 |
| 7 回 バングラデシュの都市社会（隣人関係） | 【隣人関係】 |
| 8 回 バングラデシュの都市社会（開発・環境に関する意識） | 【開発・環境意識】 |
| 9 回 バングラデシュの都市社会（清掃人・ウェイストピッカー） | 【清掃人・WP】 |
| 10 回 韓国の文化の特徴 | 【韓国文化】 |
| 11 回 韓国の現代社会と伝統 | 【韓国社会】 |
| 12 回 韓国社会の国際化（移民政策・多文化共生政策） | 【多文化共生】 |
| 13 回 インドネシアの社会（ゴトンロンとRT/RW） | 【ゴトンロヨン】 |
| 14 回 インドネシア・カンブンの概念と実例 | 【カンブン】 |
| 15 回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 小課題の提出 ... 20 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策に関わる社会現象とその理論に関して、日本語以外の言葉で理解してもらう。

国内・ 国外の政府・ 行政・ 政策、環境テーマに関する事例や記事などを選び、理解する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

参加者の数、希望に合わせ、テーマ、テキストを選ぶ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論、出席状況などを総合的に判断する。

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

応用政策特講 【昼】

担当者名 梅垣 理郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近代（産業革命以降）の歴史は政策史に他ならない。この近代と近代化を理解することで、今ある政策課題の淵源に触れ、また政策的営為の想像力にも触れることができる。政治学的、経済学的、社会学的発想と歴史的想像力に触れ、政策論の基盤を構成したい。

教科書 /Textbooks

梅垣他編 『総合政策学』（慶応大学出版、2006）及び梅垣が準備するリーディングパッケージ。後者は、学期中課題の一つ書評の材料となる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：基本的な方針、単位取得のための課題などの説明をする。
- 2回 近代化の伝播過程と近代という「世界文化」：「近代化」の伝播過程
- 3回 生活の諸相：生活を1日24時間、1生80年として解体し近代化の痕跡を見いだす
- 4回 近代生活の点描：変わったこと・変わらぬこと：人間と人間の集団
- 5回 ディスカッション：近代的生活ということの再構築
- 6回 近代を社会学的にいうと：パーソンズ=富永健一の世界
- 7回 歴史的に見ると：流動化する社会：不安と想像
- 8回 政治思想的にいうと：中江兆民から丸山真男へ
- 9回 日本の場合：明治維新と「近代革命」
- 10回 ディスカッション：思想としての近代
- 11回 「近代」というレトリック：戦後国際秩序建設と開発という環境設定
- 12回 開発の機会—1：経済発展が依存する二重構造—経済発展が生み出す二重構造
- 13回 開発の機会—2：経済発展が依存する二重構造—経済発展が生み出す二重構造
- 14回 開発の周辺：開発の、近代化の周辺とは？
- 15回 ポストモダニズム、ポストコロニアリズム

成績評価の方法 /Assessment Method

単位取得条件（1．2課題の消化、2．授業参加）
課題 1 書評—準備されたパッケージ（論文、章などから成る）の批評
2 テークホーム試験
2課題...70% 授業参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実務特講 【昼】

担当者名 /Instructor 古田 稔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀は市民、コミュニティ、ガバナンス (Governance) がキーワードです。社会に必要なサービスや雇用の場を自ら作り出すコミュニティビジネスや社会起業家、NPOの人々が活躍する社会について学びます。同時に、一人ひとりの市民が、社会を変革するベンチャーキャピタリストとして、具体的にどんな社会性のある事業ができるのか、コミュニティビジネスの先進国である英国、アメリカ合衆国、また発展途上国の事例や、地元福岡県の実例を紹介し学びます。
講義全体のキーワードは、市民、コミュニティビジネス、社会起業家、NPOです。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：[市民の自立]とNPO法施行から現在まで
- 2回：[市民の自立]とNPO 福岡県、北九州市、福岡市の場合
- 3回：[NPOと政府、企業]との[協働] 福岡県、北九州市の事例
- 4回：指定管理者制度
- 5回：[ミッション]からの起業
- 6回：[コミュニティ]からの起業
- 7回：[社会事業]と[コミュニティの再生]
- 8回：[社会起業家の社会的使命]と経営戦略
- 9回：[社会起業家のリーダーシップ]と組織運営の実際
- 10回：[社会起業のマネージメント(資金、計画、評価)]の実際
- 11回：[社会起業の事業プラン]の作成
- 12回：コンプライアンス (Compliance) / 内部統制
- 13回：[社会起業家 (Social Entrepreneur)]ゲストティーチャー (社会起業家) による講義
- 14回：[社会起業家 (Social Entrepreneur)]ゲストティーチャー (社会起業家) による講義
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...40% レポート...40% 出席...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国内外における最近の社会福祉、社会サービスの動向を新聞、雑誌などで読み込んでください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践特講 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策の形成過程をはじめ、教育、芸術、国際交流などの場面で注目を集めている「ファシリテーション」について、体験を通じて学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中野民夫著『ファシリテーション革命』岩波アクティブ文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1-3回 ファシリテーションとは
語源、意味、基本的考え方、必要とされる背景、応用されている分野を知る。
【よい授業とは?】【場づくり】【場をひらく】【場を読む】【場を閉じる】【コンセンサス会議】
- 第4-7回 ファシリテーションの実際
いくつかのタイプのファシリテーションを、体験を通じて学ぶ。
【田の字法】【グラデーション挙手】【ワールドカフェ】ほか
- 第8-11回 ファシリテーション実習
各自の興味・関心をもとにファシリテーションを組み立て、実施する。
【プログラム・デザイン】【対象者理解】
- 第12-14回 ファシリテーションの評価
ファシリテーションの実習を通じた評価、改善、ふりかえりとまとめを行う。
【ファシリテーターの態度】【ファシリテーションの倫理】【ふりかえり】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回出席をとる。出席と、ファシリテーション実習の総合点で評価する。出席点の割合は5割程度の予定。遅刻厳禁。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対外政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、資本・貿易や経済の国際化などの国際システム・レベルの要因が、先進諸国の経済政策にどのような影響を与えるのか、つまり各国は国際経済の制約下いかなる経済政策を実行するのかを検証する。まず資本・貿易や経済の国際化がどのような環境を創出したかを概観し、次にこの環境が諸国にいかなる制約を課するかを分析する。そしてその制約下各国政府がいかなる経済政策を施行するかを検証する。

教科書 /Textbooks

Thomas Oatley. 2008. International Political Economy: Interests and Institutions in the Global Economy, 3rd ed. New York: Pearson Longman.
(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そういう覚悟で履修登録すること。毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ; 2. 国際政治経済とは何か; 3. Political Economy of International Trade Cooperation; 4. Society-Centered Approach to Trade Politics; 5. State-Centered Approach to Trade Politics; 6. International Monetary System; 7. International Monetary Arrangements; 8. Society-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy; 9. State-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy; 10. Catch-Up and Review; 11. Catch-Up and Review; 12. International Finance; 13. Import Substitution Industrialization; 14. Market Reform; 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言参加が50%、(2)研究論文が50%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけ積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は学期末提出の研究論文の質で決める。研究論文はA4紙にダブルスペースで13枚程度。研究論文の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、抽象的な哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。

また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらおう。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進め、論文をまとめる。当然のことながら、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を必ず読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計、国際関係論、国際経済論を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 達哉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、慣習、しきたり中心の社会から契約中心の法化社会へ移行しつつある現代社会において必要とされる基本的な法的知識を理解することを目標とします。また、法学についての基本的な考え方を習得することも講義のねらいとします。講義では、日常的な事例を挙げて説明します。日常生活が如何に法に密接に結びついているかを理解してもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

村田彰 編 『リーガルスタディー 法律学入門』 酒井書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

六法および法律用語辞典など (出版社の指定はありません)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法学を学ぶにあたって「闘争」を意識する。
- 2回 社会規範について、法と道德との違い。
- 3回 法源、六法、法令の調べ方と読み方。
- 4回 判例の調べ方と読み方。
- 5回 裁判制度と法曹
- 6回 民事訴訟と刑事訴訟
- 7回 裁判員制度
- 8回 経済生活と法1 (民法と契約の種類)
- 9回 経済生活と法2 (契約と債務不履行)
- 10回 経済生活と法3 (民法の意思表示)
- 11回 経済生活と法4 (クーリングオフ)
- 12回 家族と法
- 13回 国家と法
- 14回 福祉と法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度(20%) + 知識の確認課題(40%) + レポート課題(40%)を総合的に評価します。
※受講態度は減点方式で評価します。私語・途中入退室・携帯電話など講義妨害行為を広く減点対象としております。講義の1回目で詳細を解説し9回目に再度確認します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は教科書に則して進めます。耳慣れない用語は予め辞書などで調べておいてください。
受講後に気になる用語があれば必ず辞書などで再確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法思想史【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探究する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたいうえてそれを相対化することもまた、可能となってくるであろう。

教科書 /Textbooks

○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳, 濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）
- 田中成明, 竹下賢, 深田三徳, 亀本洋, 平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店）、○三島淑臣『法思想史』（青林書院）
- F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法思想史とは
- 第2回～第6回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想の展開
【トマス・アクィナス】【ホッブズ】【ロック】【ケルゼン】【ハート】
- 第7回～第13回 現代正義論への法思想の展開
【アリストテレス】【実践哲学の復権】【ロールズ】【ノジック】【ドゥオーキン】
【共同体主義】【マルチカルチュラリズム】
- 第14回～第15回 法思想史のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「現代正義論」を1年次に受講していれば、より理解しやすい。講義前には、テキストの該当箇所を読み、講義後には各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法社会学【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法社会学は、実定法解釈学とは異なる視角から、法現象を観察・分析し、言語化する学問です。法解釈学が法システム「内部」の営為だとするならば、法社会学は、法システムをその「外部」から意味づけていく、すなわち、法や規範が、社会の中で、いかなる意味を纏っているのかにつき、多様なアプローチを用いつつ考察していくのが大きな特徴です。受講生には、こうした法社会学的思考の多元性やその意義を理解してもらい、それを以って法解釈学的な知見を豊饒化してもらうとともに、日々の生活の中での問題発見・問題構築の力を養っていくことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。テーマごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(講義の進め方等についての説明)
- 2回 法社会学的観察とは何か(1)【法システムの「内部」と「外部」という視点
- 3回 法社会学的観察とは何か(2)【法社会学的アプローチの多元性】
- 4回 法社会学的観察とは何か(3)【法社会学の学問的出自と歴史的系譜】
- 5回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(1)【フリーライダー問題の「かたち」】
- 6回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(2)【「正解」の出ない社会問題への対処】
- 7回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(3)【ゲーム理論】を援用した対処とその問題
- 8回 いまどきの権力と法システム(1)【古典的権力観】のせまき
- 9回 いまどきの権力と法システム(2)【規律型】から【環境管理型】へ
- 10回 いまどきの権力と法システム(3)【「正常/異常」の分岐】と法システムの関係性
- 11回 フェミニズムと法(1)【ラジカル・フェミニズム】のインパクト
- 12回 フェミニズムと法(2)あなた自身の【イマジナリーな領域】へ
- 13回 近代法主体像の臨界(1)【嫌煙権訴訟】と社会実態の乖離
- 14回 近代法主体像の臨界(2)【たばこ訴訟】にみる近代法主体像の臨界
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論述式の定期試験(70%)と毎講義ごとのレスポンスペーパー(30%)により評価します(詳しくは初回講義時に説明します)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

抽象的かつ論理的思考を厭わないでください。いっけん「あたりまえなこと」を前に、それが「なぜ/いかにして」あたりまえになっているかを、折に触れて考えるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにさせていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

各回ごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大隈義和他『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）
- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義 - 【国家権力の授権と制限】
- 第2回 憲法の展開 - 【近代から現代、そして未来へ】
- 第3回 人権総論① - 【人権の保障と制限】
- 第4回 人権総論② - 【裁判所による人権保障】
- 第5回 統治機構総論① - 【国民主権の意義】
- 第6回 統治機構総論② - 【日本の政治制度】
- 第7回 統治機構総論③ - 【司法制度と違憲審査制】
- 第8回 平和主義論① - 【憲法9条の制定・意義】
- 第9回 平和主義論② - 【平和主義の現実と未来】
- 第10回 平和主義論③ - 【憲法9条と裁判所】
- 第11回 地方自治 - 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第12回 象徴天皇制 - 【天皇制の継続と断絶】
- 第13回 憲法保障 - 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 総括
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法人権論 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）
- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 高橋和之他編『憲法判例百選・II（第5版）』別冊ジュリ186・187（有斐閣・2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|------|----------------|---|----------------------|
| 第1回 | 人権総論 | - | 【人権保障の意義・人権制約】 |
| 第2回 | 人権享有主体 | - | 【日本における外国人の人権】 |
| 第3回 | 特別権力関係論・私人間効力 | - | 【企業・団体による人権侵害】 |
| 第4回 | 幸福追求権 | - | 【プライバシー・名誉・自己決定】 |
| 第5回 | 平等原則 | - | 【尊属関係・嫡出性・選挙権】 |
| 第6回 | 精神的自由①（信教の自由） | - | 【政教分離】 |
| 第7回 | 精神的自由②（表現の自由） | - | 【事前抑制禁止と名誉・プライバシー保護】 |
| 第8回 | 精神的自由③（知る権利） | - | 【知る権利の現代的意義】 |
| 第9回 | 精神的自由④（学問の自由他） | - | 【大学の自治】 |
| 第10回 | 経済的自由 | - | 【営業の自由と経済規制】 |
| 第11回 | 社会権①（生存権） | - | 【生存権と社会保障】 |
| 第12回 | 社会権②（学習権・労働権） | - | 【「国家」「教師」「親」と「子供たち」】 |
| 第13回 | 人身の自由 | - | 【適正手続保障と日本の刑事手続】 |
| 第14回 | 参政権・受益権 | - | 【裁判を受ける権利】 |
| 第15回 | 総括 | | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法機構論 【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

戦後最年少で初の戦後生まれの安倍首相は、新たな時代を切り開く日本にふさわしい憲法をと、新憲法制定を正面から掲げて登場しました。「戦後体制からの脱却」のための社会改革がすすめられ、改憲論議が現実味を帯びています。「官僚主導」から「政治主導」を標榜した民主党が総選挙で圧勝し、選挙によるはじめての政権交代が実現しました。戦後60年間以上におよぶ政治を支えてきた日本国憲法は、内憂外患の政治状況のなかにあつて新たな局面を迎えています。戦後の荒廃と貧弱にあえいでいた日本は経済大国へと変貌し、また東西冷戦下にあつた世界は社会主義体制の自壊によって激変しました。こうした激動の時代を迎えて、わが国の政治のありかたも以前にまして国内外からきびしく問われてきています。わが国の自由と民主主義は「敗戦」を契機として「外から」与えられたものであつて、いわゆる市民革命を通して自ら獲得したものではありません。このような民主主義のひ弱さは、戦後政治の歩みのなかにさまざまな影を落としています。

憲法規範は国会中心主義（41条）と法の支配（81条）を指向していますが、憲法現実はずいぶん行政中心の行政国家現象です。この講義では、規範（憲法）と現実（政治）とのきわめて深刻な乖離を直視して、国会、内閣、裁判所、地方自治など統治システムについて理解を深め、人権保障のための統治システムを理解し、主権者として積極的に政治にかかわっていく目を養うことを目標とします。

教科書 /Textbooks

手島・安藤『新基本憲法学』（法律文化社、2600円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高見勝利『芦部憲法学を読む』（有斐閣）
野中・中村・高橋・高見『憲法II』（有斐閣）
芦部信喜『憲法』（岩波書店）
佐藤幸治『憲法』（青林書院）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに（憲法の学習案内）
- 第2回 明治憲法の特徴とその運用
- 第3回 ポツダム宣言受諾と日本国憲法の制定
- 第4回 象徴天皇制
- 第5回 国民主権と代表制
- 第6回 国会と立法権
- 第7回 内閣と行政権
- 第8回 議院内閣制
- 第9回 裁判所と「法の支配」（違憲審査制度）
- 第10回 選挙制度と参政権
- 第11回 地方自治の本旨と住民自治
- 第12回 第9条と平和主義
- 第13回 憲法改正論議
- 第14回 主権者の視点から見た日本社会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ...30 % 定期試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法訴訟論 【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国の最高法規を守り人権を保障するために、裁判所には違憲審査権が付与されています(81条)。「法の支配」原理にたつこの違憲審査制度は、日本国憲法の最大の特徴です。裁判所は「憲法の番人」といわれる所以です。わが国の違憲審査制度は具体的・付随的な違憲制度であり、具体的な民事・刑事・行政訴訟が提起されて、そのなかで憲法問題が争点となった裁判を憲法訴訟といいます。事件性の要件をみたした訴訟は民事訴訟法、刑事訴訟法、行政事件訴訟法などの法律が用意されていますが、「憲法訴訟法」という体系的な法律があるわけではありません。憲法訴訟を体系的に勉強するためには、実定法の理解のみならず憲法体系を支える憲法理論(人権と統治)の理解が不可欠となります。人権に関する憲法判例を検討・分析するさいに、憲法訴訟の理論が必要となります。この講義では、人権裁判において適用される合憲性の審査基準に関する理論、憲法判断の要件・手続・方法に関する理論など、具体的な訴訟を素材にして憲法判断についてのルールについて詳細に学びます。

教科書 /Textbooks

手島・安藤『新基本憲法学』(法律文化社、2600円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高見勝利『芦部憲法学を読む』(有斐閣)
野中・中村・高橋・高見『憲法II』(有斐閣)
高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』(第5版)(有斐閣)
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回から第2回 司法権の意義
第3回から第4回 裁判所の構成と機能(裁判員制度の批判的検討)
第5回から第6回 司法権の独立(司法官僚と司法の危機)
第7回から第8回 司法権の限界
第9回から第10回 違憲審査制度と憲法訴訟をめぐる諸問題
第11回から第12回 違憲審査基準と方法
第13回から第14回 最高裁法令違憲判決の検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...20% 課題レポート ...20% 定期試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法総論【昼】

担当者名 /Instructor 村上 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「行政法」とは、行政に関する法律のことで、約1600の現行法律のうち約3分の1に及びます。このように行政法の数が多い理由は、行政の仕事は、「ごみ集めから宇宙ロケットの打ち上げまで」といわれるように、極めて広範であり、しかも行政の仕事は私たちの権利義務に大きな影響を与えるため、行政の勝手に行われてはならず、国民の代表機関である国会が制定した法律に基づいて行われなければならないからです。授業では、私たちと行政とはどのような法律関係にあるのかを的確に理解できることを目標に、行政(特に地方自治体)の組織、住民の権利、行政の活動と私たちの権利の保障等について、具体的事例をできるだけ多く引用しながら説明していきます。

教科書 /Textbooks

手島孝他編『基本行政法学(第3版)』(法律文化社、2005年、2900円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○塩野宏他編『行政判例百選II(第5版)』(有斐閣、2006年、各2200円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回~2回 行政法とはどのような法か【法律による行政】、【法律の留保】
- 3回~4回 行政機関、国の行政組織【行政主体】、【行政機関】
- 5回~6回 地方自治体の行政組織【二元代表制】、【地方議会】
- 7回~8回 住民の権利(1)【直接請求】、【住民監査請求と住民訴訟】
- 9回~10回 住民の権利(2)【情報公開制度】、【個人情報保護制度】
- 11回~12回 行政主体の人的要素【公務員制度】
- 13回~14回 行政主体の物的手段【公物】、【公の施設】
- 15回~16回 行政の活動形式【行政立法】
- 17回~18回 行政行為(1)【行政行為】の意義と種類
- 19回~20回 行政行為(2)【行政行為】の効力
- 21回~22回 その他の活動形式【行政契約】、【行政計画】、【行政指導】、【行政調査】
- 23回~24回 行政手続【行政手続法(条例)】
- 25回~26回 行政の実効性確保(1)【行政上の強制執行】、【即時強制】
- 27回~28回 行政の実効性確保(2)【行政罰】、その他の手段
- 29回~30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々な法律を参照することが多くありますので、必ず六法を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政争訟法 【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政活動に対する不服や不満を解決する手続としての行政上の不服申立ておよび違法な行政活動の是正と救済を求める手続としての行政訴訟について理解することをねらいとする。

教科書 /Textbooks

手島孝・中川義朗編『基本行政法学〔第3版〕』（2005年、法律文化社）
※行政法総論で使用した教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小早川光郎ほか編『行政判例百選II〔第5版〕』（2006年、有斐閣）
- 塩野宏『行政法II〔第四版〕』（2005年、有斐閣）
- 宇賀克也『行政法概説II』（2006年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 行政上の不服申立て制度の概要
- 2回 不服申立ての提起
- 3回 不服申立ての審理
- 4回 不服申立ての裁決
- 5回 行政訴訟総説
- 6回 行政事件の種類
- 7回 抗告訴訟(1) 抗告訴訟の種類
- 8回 抗告訴訟(2) 取消訴訟の訴訟要件
- 9回 抗告訴訟(3) 取消訴訟の審理
- 10回 抗告訴訟(4) その他の抗告訴訟
- 11回 抗告訴訟(5) 判決と仮の救済
- 12回 当事者訴訟
- 13回 民衆訴訟
- 14回 機関訴訟
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80% 課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法総論を履修済みであることが望ましい。
当然ながら予習・復習が必要である。
(復習のための課題提出を求める。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国家補償法【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政府の活動に起因する損害を補填するシステムについて理解することをねらいとする。

教科書 /Textbooks

手島孝・中川義朗編『基本行政法学〔第3版〕』（2005年、法律文化社）
※行政法総論で使用した教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小早川光郎ほか編『行政判例百選II〔第5版〕』（2006年、有斐閣）
- 塩野宏『行政法II〔第四版〕』（2005年、有斐閣）
- 宇賀克也『行政法概説II』（2006年、有斐閣）
- 西莖章『国家補償法概説』（2008年、勁草書房）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国家補償の意義
- 2回 国家賠償の意義
- 3回 公権力の行使に係る国家賠償（1）
- 4回 公権力の行使に係る国家賠償（2）
- 5回 公の営造物の設置管理に係る国家賠償（1）
- 6回 公の営造物の設置管理に係る国家賠償（2）
- 7回 賠償責任者
- 8回 民法の適用
- 9回 損失補償の意義
- 10回 補償の要否（1）
- 11回 補償の要否（2）
- 12回 補償の内容（1）
- 13回 補償の内容（2）
- 14回 補償の谷間と結果責任
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80% 課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法総論を履修済みであることが望ましい。
当然ながら予習・復習が必要である。
(復習のための課題提出を求める。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

山中敬一著『刑法概説[総論]』（成文堂）2008年10月、2500円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第5版]』（有斐閣）平成15年4月、2105円＋税
立石二六編『刑法総論30講』（成文堂）平成19年3月（出版予定）、2800円＋税
齊藤誠二編『演習ノート刑法総論〔全訂第3版〕』（法学書院）平成15年3月
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』（不磨書房）平成15年3月、2000円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード
第1回～第2回 刑法典の沿革、犯罪論の基本。【刑法の意義】、【犯罪】
第3回～第4回 学派の争い【主観主義刑法理論】、【客観主義刑法理論】
第5回～第6回 罪刑法定主義とその派生原則【類推解釈】、【遡及処罰の禁止】、【慣習法の排斥】、【絶対的不定期刑・不定期刑の禁止】、【構成要件の明確性】、【実体的デュープロセス】
第7回 犯罪の分類【結果犯】【単純行為犯】【実質犯】【形式犯】【侵害犯】【危険犯】 【即成犯】【状態犯】【継続犯】
第8回 犯罪論の体系【行為】【構成要件】【違法】【責任】
第9回～第10回 行為論【作為】、【不作為】、【作為犯】、【不作為犯】、【因果関係】
第11回～第12回 構成要件論【構成要件】、【認識根拠説】、【实在根拠説】
第13回～第14回 違法論【違法性の本質】、【結果無価値】、【行為無価値】、【可罰的違法性】 【許可された危険】
第15回～第17回 違法性阻却事由【正当行為】、【正当防衛】、【緊急避難】、【自救行為】
第18回～第20回 責任論【責任能力】、【故意】、【過失】、【原因において自由な行為】
第21回～第22回 未遂論【実行の着手】、【不能犯】、【中止犯】
第23回～第26回 共犯論【共犯学説】、【共犯の処罰根拠】、【共同正犯】、【教唆犯】、【従犯】、【共犯独立性説】、【共犯従属性説】、【間接正犯】、【共犯と身分】
第27回～第28回 共犯の諸問題【必要的共犯】、【不作為と共犯】、【結果的加重犯と共犯】、【共犯と錯誤】、【共犯と中止犯】、【予備の共犯】
第29回～第30回 罪数論【本来の一罪】、【科刑上一罪】、【包括一罪】、【併合罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・欠席を不定期でとり、出席点と学期末試験との総合点（学期末試験100%）で評価する。授業態度が悪い場合、減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学、刑法各論、刑事訴訟法を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目です。また、刑法各論、刑事訴訟法は同じ刑事法に属する科目ですから、強く関連しているからです。法学は本講座を履修する前に、刑法各論、刑事訴訟法は本講座を履修した後かまたは同時に履修するとよいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会法は、労働法、社会保障法、衛生法などの法分野を包摂し、日本国憲法25条の生存権の具体化と関連の深い法分野である。現代社会における広範な人々の生活の向上のために、社会法が果たしている役割と、そのために開発されてきた社会法独自の法的方法を理解することを目的とするとともに、それぞれの法分野の役割と方法の特徴を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

ワープロで作成したテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社、浜村彰他著「ベーシック労働法」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会法とは
- 2回 市民法から社会法へ 近代法の変容と社会立法の発生 [工場法、救貧法、労働者保険]
- 3回 近代法原理と20世紀的憲法 [契約自由、市場原理、公共の福祉]
- 4回 社会法の意義と役割 [朝日訴訟、労働権、社会保障制度審議会勧告]
- 5回 社会法の体系と法的特徴 [公的規制、公的給付、特別私法]
- 6回 福祉国家の公法と私法の社会性 [積極国家、民法1条、社会サービスの法律関係]
- 7回 現代社会と貧困 [ワーキングプア、見えない貧困、非正規労働者、ホームレス]
- 8回 労働法の体系と目的 [労働条件の最低基準、団結権]
- 9回 所得保障法の体系と目的 [生活費の保障、特別費用の保障]
- 10回 社会サービス法の体系と目的 [医療・介護・福祉サービス]
- 11回 衛生法の体系と目的 [医事法、予防衛生、環境衛生]
- 12回 社会権の保護と救済 [権利擁護、審査請求、労働審判]
- 13回 経済社会的背景の転換と社会法の変容 [規制緩和、給付削減]
- 14回 諸外国の社会法改革の動向 [アクティベーション、プライバティゼーション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に参考文献の関係箇所を一読しておく、講義内容が解りやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個人の尊厳ある生活や自己実現を支える対人サービスは、今日では社会的システムに基づき社会的に提供されるようになってきている。医療、介護から生活援助や権利擁護に至るまでの多様な社会サービスの仕組み、内容、法的性格について理解し、地域社会において社会的関係を基礎として維持される人々の生活について理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義の際に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会サービス法の意義 [ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン]
- 2,3回 社会サービスの目的と体系 [個人の尊厳、本人意思の尊重、自立支援]
- 4回 医療サービス1 医療に対する規制 [医事法]
- 5,6回 医療サービス2 医療保障の歴史と医療保険の給付 [保険診療]
- 7回 医療サービス3 海外の医療システム [NHS、費用償還払方式]
- 8回 高齢者介護サービス1 介護保険の目的と仕組み [要介護認定、ケアプラン]
- 9回 高齢者介護サービス2 居宅サービスの体系と内容 [通所系、訪問系、地域密着型]
- 10回 高齢者介護サービス3 施設サービスの体系と内容 [介護保険施設]
- 11回 社会福祉サービス1 高齢者福祉サービス [地域包括支援センター]
- 12回 社会福祉サービス2 障害者福祉サービス [障害者自立支援法]
- 13回 社会福祉サービス3 児童、母子および寡婦に対する福祉サービス
- 14回 社会サービスに対する権利の擁護 [成年後見制度、身上監護]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会法総論とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

所得保障法 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

福祉国家として発展はしてきたものの、貧困はかならずしも過去の問題とはいえない深い根を持つ問題である。貧困解消のために積み重ねられてきた過去の立法の歴史を踏まえて、現代の所得保障制度の体系、対象、方法を理解することを目的とするとともに、他国の制度改革を参考に、わが国の所得保障の課題について理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

河野正輝他「社会保障論」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義の際に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代社会と貧困および所得格差 [ワーキングプア、ホームレス、見えない貧困]
- 2,3回 所得保障制度の歴史 [救貧法、「貧困の発見」、ビスマルク社会保険]
- 4,5回 所得保障法の体系・方法 [公的扶助、社会手当、社会保険]
- 6,7回 高齢者に対する所得保障 [老齢基礎年金、老齢厚生年金]
- 8回 障害者に対する所得保障 [障害基礎年金、障害厚生年金]
- 9回 遺族に対する所得保障 [遺族基礎年金、遺族厚生年金]
- 10,11回 医療費、介護費等の費用の保障 [医療保険、介護保険、児童手当]
- 12回 最低生活の保障 [生活保護制度]
- 13回 海外の年金改革の動向 [概念上の確定拠出型年金、保証年金]
- 14回 海外の最低保障制度の改革 [アクティブエイション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に、現代の貧困について、各自で情報を収集しておく、関心を持って講義に望められる。社会法総論とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

雇用関係法は、労働者と使用者の個別の関係を規律する法領域である。働くうえで直面する法律問題の多くはこの法分野に関わるものであり、雇用関係法は労働法の体系において中心的な位置を占めている。この講義では主に、雇用関係の成立、展開、終了という雇用関係の変遷に関する問題と、雇用関係の内容に関わる法規制について学習する。また、実定法の解説にとどまらず、実際に社会規範、裁判規範としてどのように労働法が社会的に意味をもつのかを理解できることも目指す。

教科書 /Textbooks

村中孝史ほか編『労働判例百選 [第8版]』有斐閣 (2009年)
六法 (小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第 1 回の講義の際に具体的に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回～第 2 回 ガイダンス～労働法の全体像～
【市民法原理の修正】【労働関係の規律構造】
- 第 3 回～第 4 回 雇用関係法の基本構造
【労働法上の当事者】【労働条件決定システム】
- 第 5 回～第 6 回 雇用関係の成立
【採用】【試用】【労働契約上の権利義務】
- 第 7 回～第 8 回 雇用関係の展開(1)
【配転】【出向】【就業規則の不利益変更】
- 第 9 回～第 10 回 雇用関係の展開(2)
【賃金請求権】【労働時間、休憩、休日】【時間外労働】
- 第 11 回～第 12 回 雇用関係の終了
【退職】【解雇】【懲戒権の根拠】
- 第 13 回～第 14 回 女性労働保護と労災・安全衛生
【セクハラ】【業務災害】【安全配慮義務論】
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、コメントカード... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

労働法は実定法の中でもいわば応用的な分野です。雇用関係法を学ぶうえでは民法の知識を必要としますので、民法総則等の科目を履修した後に受講することをお勧めします。また、労働法の理解を深めるためには、「労使関係法」をあわせて受講すると良いでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

労使関係法は、労働者、使用者、労働組合の三者の集団的な関係を規律する法領域である。この講義では、労働組合と使用者との集団的労働関係に関する基本的知識について学習する。

労働者の意識、労務管理のあり方などが急激に変貌するなかで、労働組合が今後も存立しうるかどうかは必ずしもはっきりしてない。とはいえ実際には、失業、低賃金、危険な仕事、組合つぶしなどの古典的な労働問題は現存している。この現実には労働者1人で立ちむかうことは難しいであろう。従業員代表制や労使協議制を含め、集団的労働関係は依然として重要な役割を担っている。

教科書 /Textbooks

村中孝史ほか編『労働判例百選 [第8版]』有斐閣 (2009年)
六法 (小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回の講義の際に具体的に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回～第 2回 ガイダンス～労使関係法の全体像～
【労使関係法の歴史的展開】【労働組合法の目的】
- 第 3回～第 4回 労働組合
【構造と機能】【資格審査】【組織と財政】
- 第 5回～第 6回 不当労働行為の救済
【不当労働行為意思】【労使委員会】【不利益取り扱い】
- 第 7回～第 8回 団体交渉
【誠実団交義務】【支配介入】
- 第 9回～第10回 労働協約
【労働協約の規範的効力】【労働協約の不利益変更】
- 第11回～第12回 争議行為
【企業内組合活動】【争議行為の正当性】
- 第13回～第14回 紛争解決手続・労働者代表制の立法論
【労使委員会による紛争解決手続】【労使協議制】【労働者代表】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、コメントカード... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

労使関係法の理解を深めるためには、「雇用関係法」をあわせて受講すると良いでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。「国際法II」を併せて受講すると学習効果があがります。

教科書 /Textbooks

教科書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）○
ただし条約集は、受講上の不都合を甘受すれば、他の出版社のものでもかまいません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。参考文献は、初回講義時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス
第I部「国際社会における法律作り」
第2回 条約の締結 第3回 条約の留保
第4回 条約の無効 第5回 中間試験①
第6回 解説と講評&個別指導
第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」
第7回 慣習国際法 第8回 条約と第三国
第9回 条約の国内的効力 第10回 中間試験②
第11回 解説と講評&個別指導
第III部「国際社会における秩序の維持」
第12回 国際責任 第13回 武力行使の禁止と自衛権
第14回 紛争の平和的解決義務と国際司法裁判所(ICJ) 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験①②および学期末試験で評価します。
中間試験①...16.7% 中間試験②...16.7% 学期末試験...66.7%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。「国際法I」を併せて受講すると学習効果があがります。

教科書 /Textbooks

教科書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）○
ただし条約集は、受講上の不都合を甘受すれば、他の出版社のものでもかまいません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。参考文献は、初回講義時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第I部「国際法上の国家」
- 第2回 国家と承認制度 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務 第5回 中間試験①
- 第6回 解説と講評&個別指導
- 第II部「陸・海・空と国際法」
- 第7回 陸と国際法 第8回 海と国際法
- 第9回 空と国際法 第10回 中間試験②
- 第11回 解説と講評&個別指導
- 第III部「国際法主体としての個人」
- 第12回 人権の国際的保障 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC) 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験①②および学期末試験で評価します。
中間試験①...16.7% 中間試験②...16.7% 学期末試験...66.7%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法は、最も生活に密着した法律であり、「民法総則」という授業は、法学部における基本中の基本科目です。法学部生であれば、極力すべての人が、この民法総則を理解することが望まれます。この講義では、他の科目では講じられない法令用語についても、なんらかの形で時間を割いて説明します。

教科書 /Textbooks

山田卓生他『民法1 総則 Sシリーズ 第3版補訂』(有斐閣)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 民法とは、民法には何が書いてあるか、市民法の基本原理
- 2回(週) 【意思能力】、【未成年者】
- 3回(週) 【成年被後見人】他、【無効】と【取消】
- 4回(週) 【法人】
- 5回(週) 【物】、【法律行為】
- 6回(週) 法律行為の有効要件、【公序良俗】
- 7回(週) 【心裡留保】、【虚偽表示】
- 8回(週) 【錯誤】、【詐欺・強迫】
- 9回(週) 不動産登記のとの関係
- 10回(週) 【代理】、【無権代理】
- 11回(週) 【無権代理】、【表見代理】
- 12回(週) 【条件】、【期限】、【期間】
- 13回(週) 【時効】
- 14回(週) 【取得時効】、【消滅時効】
- 15回(週) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法は必ず持参して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法典は、財産の所有や契約、家族関係など身近な人間関係の中で形成される権利や義務について定めています。本講義は、民法典第二編において用意されている物権 (=人が物に対して有している権利) に関する規定の原理・原則、要件・効果などの基礎知識と法の解釈を学びます。

教科書 /Textbooks

淡路剛久 = 鎌田薫 = 原田純孝 = 生熊長幸 『民法II物権〔第3版〕』 (有非閣Sシリーズ、2005年、1995円)
中田裕康ほか編 『民法判例百選I・総則・物権〔第6版〕』 (有斐閣、2009年、2200円)。
* 六法 (出版社は問わない) は必携です。講義には上記教科書と六法の「3点セット」を必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 ガイダンス / 物権法序論【物権の意義と性質】【物権の種類】【物権の効力】
- 2回 【所有権】と【占有権】
- 3回 【物権的請求権】
- 4回 物権変動(1) 不動産物権変動総論 (【物権変動の法的構造】)
- 5回 物権変動(2) 不動産物権変動各論① (不動産登記制度と【物権変動の対抗要件】)
- 6回 物権変動(3) 不動産物権変動各論② (背信的悪意者と民法177条)
- 7回 物権変動(4) 【動産物権変動と対抗要件】
- 8回 物権変動(5) 【動産の即時取得】
- 9回 物権変動(6) 法律行為の取消と登記 (民法総則で学んだ事項の発展・応用編)
- 10回 物権変動(7) 取得時効と不動産登記 (民法総則で学んだ事項の発展・応用編)
- 11回 共同所有【持分の法的性質】【共有物の分割】【共有物の利用と明渡請求】
- 12回 担保物権(1) 【留置権】 / 【先取特権】 / 【質権】
- 13回 担保物権(2) 【抵当権】
- 14回 担保物権(3) 非典型担保【仮登記担保】【譲渡担保】【所有権留保】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100%
期末試験(90分・論述問題)を実施し、その得点を成績評価に反映させます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「民法総則」を受講済みであることが望ましいです。講義は毎回レジユメを配布します。事例の解説に重点を置いています。六法の条文を「見る」のではなく「読む」習慣を身につけてください。試験は、判例なし六法のみ持込を許可しています(付箋・ラインマーカーはOK。書き込みは不可)。私語をはじめ、他の受講者の迷惑になるような行為は厳禁です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

債権総論【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法典は、財産の所有や契約、家族関係など身近な人間関係の中で形成される権利や義務について定めています。本講義は、民法典第三編において用意されている債権に関する規定のうち、債権に関する共通規則(民399~520条)を学びます。具体的には、発生した債権がどのような内容のもので(債権の目的)、どのような効力があり(債務不履行時に債権者が取りうる手段・債務者が無資力になった場合に債権者が取りうる責任財産保全手段)、どのように消滅していくのか(弁済・相殺・更改などの債権の消滅事由)、また、当事者が複数である場合や発生した債権を譲渡する場合はどうなるのかについて、具体的な事例をもとに基礎知識を習得するとともに、各条文の意義や法の解釈を学びます。

教科書 /Textbooks

野村豊弘=池田真朗=栗田哲男=永田真三郎『民法III債権総論(第三版)』(有斐閣Sシリーズ、2005年、1785円)。中田裕康ほか編『民法判例百選II債権(第6版)』(有斐閣、2009年、2200円)。*六法(出版社は問わない)は必携です。講義には上記教科書と六法の「3点セット」を必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回~2回 債権の発生【債権の発生要件】【債権の種類】
- 2回~5回 債権の効力(1)当事者間の効力【履行の強制】【債務不履行(及び損賠賠償の範囲と額の算定)】
- 6回~9回 債権の効力(2)債務者の責任財産の保全【債権者代位権】【詐害行為取消権】
- 10回~14回 債権の消滅【弁済】【相殺】
- 15回~18回 多数当事者の債権関係(1)【連帯債権】【連帯債務】【不真正連帯債務】
- 19回~22回 多数当事者の債権関係(2)【保証】【連帯保証】
- 23回~25回 債権債務の移転(1)【債権譲渡】【指名債権の譲渡】
- 26回~27回 債権債務の移転(2)【証券的債権の譲渡】【債務引受】【契約上の地位の移転】
- 28回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100% 期末試験(90分・論述問題)を実施し、その得点を成績評価に反映させます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「民法総論」はもちろん、その他の民事系科目も複数履修済み(あるいは履修中)であることが望ましいです。講義は毎回レジユメを配布します。事例の解説に重点を置いています。六法の条文を「見る」のではなく「読む」習慣を身につけてください。試験は、判例なし六法のみ持込を許可しています(付箋・ラインマーカーはOK。書き込みは不可。)。私語をはじめ、他の受講者の迷惑になるような行為は厳禁です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

債権各論【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
単位 /Credits 4単位 / 4 Credits
学期 /Semester 2学期 (ペア) / 2 Semester
授業形態 /Class Format 講義 / 講義
クラス /Class 2年 / 2 Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

わが国の民法典は、その第三編債権第二章～第五章(521条～724条)において、「債権の発生原因」である①契約、②事務管理、③不当利得、④不法行為に関する諸規定を設けている。本講義のねらいは、上記法制度の基本構造およびこれらの法制度を規定する重要条文に関わる解釈論につき、要点を絞った解説を加えることで、「債権の発生原因」であるこれらの法制度が現代社会において、どのような機能を実際に果たしているかということについて、理解を深めることにある。

教科書 /Textbooks

- ①内田貴『民法II[第2版]債権各論』(東京大学出版会、2007年)
- ②中田裕康ほか編『民法判例百選II債権[第6版](別冊ジュリストNO196)』(有斐閣、2009年)
- ③最新版の小型六法 ※この「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ※さしあたり、藤岡康宏ほか『民法IV債権各論(第3版補訂)有斐閣Sシリーズ』(有斐閣、2009年)を挙げておく。その他の参考文献については講義の際、適宜アナウンスする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード) ※レジユメを配布するが、テキストでの予・復習は必須である。
第1回: 序論(債権各論で学ぶこと)【債権の発生原因】/第2回～第7回: 契約総論【契約の意義・社会的機能】【契約自由の原則とその制限】【契約の種類・分類】【契約締結上の過失】【申込みと承諾の合致】【事情変更の原則】【同時履行の抗弁権】【危険負担】【法定解除の要件・効果】/第8回～第13回: 契約各論【贈与】【売買の意義と成立】【担保責任概観】【瑕疵担保責任】【消費貸借】【賃貸借】【請負】【委任】【寄託】【消費寄託】【和解】/第14回～第16回: 事務管理・不当利得【給付利得】【非償弁済・不法原因給付】【侵害利得】【転用物訴権】/第17回: 不法行為序説【不法行為制度の目的】/第18回～第21回: 一般的不法行為の要件【故意・過失】【責任能力】【権利・利益侵害】【事実的因果関係】【損害の発生】/第22回～第25回: 特殊的不法行為【責任無能力者の監督者の責任】【使用者責任】【注文者の責任】【工作物責任】【共同不法行為】【運行供用者責任】【製造物責任】/第26回～第27回: 不法行為の効果【金銭賠償の原則】【原状回復・差止請求】【損害賠償請求権者】【損害の種類】【損害賠償の範囲】【損害賠償額算定の基準時】【損害賠償額算定的方式】/第28回: 過失相殺【過失相殺能力】【被害者側の過失】/第29回: 損害賠償請求権の消滅時効【消滅時効の起算点】/第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 定期試験の成績...90% および(抜き打ちで行う)小テスト...10%の合算で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「予習」を心がけること。テキスト①の頁を指示するので、次の週までに熟読(無理な場合はざっと目を通すだけでもよい。)してこること。また、「民法総論」、「物権法」、「債権総論」を履修済みであるとこの講義の理解がより深まるであろう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上を図る。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領」 社会科編 文部科学省

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育の目的と社会科の役割
- 2回 地理的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 3回 世界と日本の様々な地域
- 4回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 5回 歴史のとらえ方と古代・中世・近世・近現代の日本と世界
- 6回 公民的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 7回 私たちと現代社会・政治・経済と国際社会の諸問題(グループ討議)
- 8回 学習指導要領の変遷と社会科の歩み
- 9回 指導計画の作成と内容の取り扱い
- 10回 資料活用と作業的・体験的な学習
- 11回 指導案の作成と留意点
- 12回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い
- 13回 戦前・戦後の社会科教育 [戦前・戦後教育改革]
- 14回 学習指導要領の総則・学習基本法施行規則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 学習指導案 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメと資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上を図る。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領」 社会科編 文部科学省

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育の目的と社会科の役割
- 2回 地理的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 3回 世界と日本の様々な地域
- 4回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 5回 歴史のとらえ方と古代・中世・近世・近現代の日本と世界
- 6回 公民的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 7回 私たちと現代社会・政治・経済と国際社会の諸問題(グループ討議)
- 8回 学習指導要領の変遷と社会科の歩み
- 9回 指導計画の作成と内容の取り扱い
- 10回 資料活用と作業的・体験的な学習
- 11回 指導案の作成と留意点
- 12回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い
- 13回 戦前・戦後の社会科教育 [戦前・戦後教育改革]
- 14回 学習指導要領の総則・学習基本法施行規則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 学習指導案 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメと資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法B 【昼】

担当者名 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上をはかる。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領」 社会科編 文部科学省

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これからの学校教育に求められるもの [教師の使命感]
- 2回 教師に求められる資質能力 (グループ討議) [自己分析] [目指す教師像]
- 3回 学校の教育課程
- 4回 学習指導の評価
- 5回 生徒の実態把握と教材研究 (グループ討議) [生徒の特性・生徒との信頼関係]
- 6回 指導案の作成と問題点 その1
- 7回 指導案の作成と問題点 その2
- 8回 地理的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 9回 歴史的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 10回 公民的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 11回 高等学校学習指導要領「地歴科」の内容と取り扱い
- 12回 高等学校学習指導要領「公民科」の内容と取り扱い
- 13回 教育基本法・学校教育法改正案の要旨
- 14回 学習基本法施行規則・地方教育行政法改正案要旨
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 授業中の質疑 ... 30%
応答での絶対評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジユメや資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科学教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科学教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上をはかる。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領」 社会科学編 文部科学省

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これからの学校教育に求められるもの [教師の使命感]
- 2回 教師に求められる資質能力 (グループ討議) [自己分析] [目指す教師像]
- 3回 学校の教育課程
- 4回 学習指導の評価
- 5回 生徒の実態把握と教材研究 (グループ討議) [生徒の特性・生徒との信頼関係]
- 6回 指導案の作成と問題点 その1
- 7回 指導案の作成と問題点 その2
- 8回 地理的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 9回 歴史的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 10回 公民的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 11回 高等学校学習指導要領「地歴科」の内容と取り扱い
- 12回 高等学校学習指導要領「公民科」の内容と取り扱い
- 13回 教育基本法・学校教育法改正案の要旨
- 14回 学習基本法施行規則・地方教育行政法改正案要旨
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 授業中の質疑応答での絶対評価 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジユメや資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地理歴史科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、地理歴史科教育における知識および技能の習得をねらいとする。まず、地理歴史科教育の特徴および課題、さらには授業での工夫や注意事項に関する講義を行なう。それらの内容を踏まえ、学生たちによる模擬授業を行なう。

教科書 /Textbooks

『高等学校 学習指導要領解説：地理歴史』、『中学校 学習指導要領解説：社会』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『地理歴史科教育法』学術図書出版社、2000年。
社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書、2003年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理歴史科とは何か。【社会科】、【戦後教育改革】
- 2回 地歴科の課題と授業のアポリア。【学習指導要領】
- 3回 歴史教育の意義、模擬授業。【ナショナル・ヒストリー】、【歴史教科書問題】
- 4回 時代区分 / 地域区分の可能性と限界、模擬授業。【国家】、【民族】、【文化】
- 5回 なぜ世界史は必修なのか、模擬授業。【比較史】
- 6回 日本史を学ぶことの意味、模擬授業。
- 7回 近代とは何か、模擬授業。【発展史】、【植民地近代】
- 8回 比較史という方法。【比較史】
- 9回 授業づくりについて【授業づくり】
- 10回 現代史という歴史、模擬授業。【戦後史】
- 11回 地理を通して何を学ぶのか、模擬授業。
- 12回 地球の中の日本、模擬授業。
- 13回 結びつく世界、模擬授業。【交通・通信】、【グローバル化】
- 14回 人文地理と自然地理、模擬授業。【人文地理】、【自然地理】
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 模擬授業... 40% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校時代に使用していた地歴科(「世界史」、「日本史」、「地理」)の教科書で、適宜、教育内容を確認することが望ましい。模擬授業については、自分の担当授業だけでなく、他の学生の授業に対する参加・評価のあり方も重要視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地理歴史科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、地理歴史科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。前半では、新学習指導要領を取り上げ、現在の地理歴史科教育の位置づけについて理解し、さらには教育方法論や授業理論について学習する。後半では、日本史、世界史、地誌、系統的地理などの事例を取り上げ、地理歴史科の教材開発につなげる。全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、上記の知識を習得した上で、受講者は模擬授業を行う。最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説：地理歴史編』、授業の際に配布するレジュメ・資料等

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『地理歴史科教育法』学術図書出版社、2000年
『中学校学習指導要領解説：社会編』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領における地理歴史科の位置づけ
- 第3回 デューイの教育方法論、模擬授業
- 第4回 社会科初志の会の授業理論、模擬授業
- 第5回 ブルーナーの教育方法論、模擬授業
- 第6回 社会科学的手法について、模擬授業
- 第7回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第9回 通史に焦点を当てた歴史、模擬授業
- 第10回 空間的關係に焦点を当てた歴史、模擬授業
- 第11回 領域に焦点を当てた歴史、模擬授業
- 第12回 地誌的方法による地理、模擬授業
- 第13回 系統的方法による地理、模擬授業
- 第14回 模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 30% 模擬授業... 30% 模擬授業の際に提出する学習指導案... 20%
授業への積極的参加・貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

模擬授業はパワーポイントを使用して行うため、各自基本的なパソコン操作の技能を修得しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 ティスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 (20%), レポート (30%), 試験 (50%) により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 授業観察の方法	【観察記録】 【観察方法】
7回 学級経営について	【学習指導要領】 【チームサポート】
8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ	【体験学習】 【働きかけ】
9回 子どもの人権と教育 材研究】 【学習指導案】	【人権】 【自尊感情】 10回 教材研究と授業構想 【刻々の教
11回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
12回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
13回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
14回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】
15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備	【教師の資質】 【事前準備】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5,6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当する部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、豊かで穏やかな自然の中にいる時には、自然を安息と感じ、荒れ狂う自然の中では、自然を猛威と感じる。しかし、穏やかな自然も、荒れ狂う自然も共に自然の規則正しい営みであり、私たちは、そのような自然の営みの中で生活している。しかしながら、このような認識は、当たり前のように、実感として理解するまでには至らないことが多い。この科目では、私たちの生活の場を地球規模で考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。授業時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島圭二著「自然災害を読む」岩波書店
- 安田喜憲著「気候が文明を変える」岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自然の猛威が私たちの住む場所を作っている。【自然の猛威】
- 2回 自然の猛威とはなにか。
- 3回 自然の猛威には、どのようなものがあるかI 発生地域による分類。
- 4回 自然の猛威には、どのようなものがあるかII 発生頻度による分類。
- 5回 自然の猛威が不適切な人間活動と結びついたとき【災害】となる。
- 6回 気象に由来する自然の猛威I。【早ばつ】【砂漠化】
- 7回 気象に由来する自然の猛威II。【豪雨】
- 8回 生物に由来する自然の猛威。【生物災害】【疫病】
- 9回 地殻変動に由来する自然の猛威。【地震】【火山噴火】
- 10回 火山噴火がもたらす気候変動と人間活動への影響。【気候変動】
- 11回 環境と文明I 環境の変動と文明の盛衰。
- 12回 環境と文明II 縄文時代の始まりと終焉に気候変動が関わっている。
- 13回 環境と文明III 弥生時代の始まりの時期は、大規模な気候変動期でもあった。
- 14回 自然の猛威とのつきあいかた【ハザードマップ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% 小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に提示する資料、および授業内容に関連する新聞記事などを読んでおくことより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生態人類学【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間の文化の多様性はどこから生まれてくるのだろうか。この授業では人類学と生態学の知識を援用しながら、多様な環境における人類の適応と社会システムについて考察を進める。

たとえばテーマの一つとして取り上げるのは人間の「食」である。人は食べ物を手に入れるためにどんな行動をおこなってきたのか、視覚や味覚に関する認知能力の進化、そして多様な食文化の基本にあるもの。味覚を攪乱させる現代社会の添加物や化学物質。食に興味がある人おいしいものが好きな人はどうぞ。

教科書 /Textbooks

「生態人類学を学ぶ人のために」世界思想社
 「講座 生態人類学」京都大学出版会
 「イブの7人の娘たち」ソニーマガジズ
 「人はなにを食べて生きてきたか」スタジオジブリDVDライブラリー

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1講 テーマと分担決め

第2講～第13講

「食」「性」「死」「遊び」なんて感じで、おおよそ3回くらいで受講者の興味に応じて テーマを変えていく。それぞれのテーマについて以下の順で、研究の手法をまなびながら討 論する。

- ・ データ収集の方法
- ・ 分析の手法
- ・ データをもとにした討論

第14講 総論

第15講 成績評価

成績評価の方法 /Assessment Method

発表とディスカッションをもとにした自己採点 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に決めたテーマに関して資料をあたりまとめてくる。
 自分なりにイメージトレーニングし議論にすぐに参加できるように準備する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語I【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course offers reading and discussion activities built upon short samples of writing taken from newspapers, magazines, novels, and plays. Reading skills will be developed through a series of goal-oriented tasks which systematically address the techniques required to process texts appropriately and efficiently. Discussion skills will be developed through analysis of techniques and forms employed by proficient/native-speakers of English, followed by regular and extensive in-class discussion sessions..

教科書 /Textbooks

Texts will be selected on a weekly basis by the class instructor.
Students are expected to bring their dictionaries to every class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 Introduction
2回- 6回 Controversy and Conflict
7回- 10回 Fact and Fiction
11回- 14回 Opinion and Persuasion
15回 Class Review

成績評価の方法 /Assessment Method

successful completion of regular written assignments ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語II 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course, continuing on from 上級英語 I, offers reading and discussion activities built upon short samples of writing taken from newspapers, magazines, novels, and plays. Reading skills will be developed through a series of goal-oriented tasks which systematically address the techniques required to process texts appropriately and efficiently. Discussion skills will be developed through analysis of techniques and forms employed by proficient/native-speakers of English, followed by regular and extensive in-class discussion sessions..

教科書 /Textbooks

Texts will be selected on a weekly basis by the class instructor.
Students are expected to bring their dictionaries to every class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 I
2回- 6回 Culture and Conflict
7回- 10回 Art and Society
11回- 14回 Student-Selected Topics
15回 Class Review

成績評価の方法 /Assessment Method

successful completion of regular written assignments ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名
/Instructor

デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス 3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Aim of this course is further development of reading and discussion skills.

Newspaper articles, essays, short fiction will be used to increase reading speed, expand vocabulary, and improve discussion skills. Reading, comprehension, & speaking exercises are conducted on individual basis, as well as in pair and work-group format. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC & TOEFL).

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 "Man and Animal; Are We Still Evolving?"
- 3 回 "Intelligent Machines"
- 4 回 Forster, "The Machine Stops"
- 5 回 The Modern Community
- 6 回 Carver, "Neighbors"
- 7 回 Couples
- 8 回 Hemingway, "The Cat in the Rain"
- 9 回 Essay "Is the Earth Drying Up?"
- 1 0 回 Media and Privacy
- 1 1 回 Cheever, "The Enormous Radio"
- 1 2 回 Cheever, (continued)
- 1 3 回 Generations
- 1 4 回 O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"
- 1 5 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Homework ... 30 % Tests ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：ことばの不思議
- 第2回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第3回 連濁
- 第4回 鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 数量詞
- 第11回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第12回 日本語と英語の受動態
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業中の態度...10% 課題...25% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 問題提起、戦争の定義の難しさ
- 5回～6回 平和の定義、積極平和論
- 7回～8回 絶対平和主義(非暴力主義として)
- 9回～10回 絶対平和主義(反戦主義、日本の平和主義)
- 11回～13回 正戦論の登場
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10%、課題...10%、期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。1年生科目の「歴史と政治」を受講している方がわかりやすい。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されません。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる①
- 3回 家族を見つめる②
- 4回 家族を見つめる③
- 5回 家族モデルを考える①
- 6回 家族モデルを考える②
- 7回 家族モデルを考える③
- 8回 家族の危機を回避する①
- 9回 家族の危機を回避する②
- 10回 家族の危機を回避する③
- 11回 家族の危機を回避する④
- 12回 家族の危機を回避する⑤
- 13回 家庭裁判所の利用を考える①
- 14回 家庭裁判所の利用を考える②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」をことさらに語るには、どのような効力があるのだろうか。誰が何時、何を「文化」と名づけて、どのように語り、どのような意味と価値を生み出したのか。そこにどのような政治的な効力があるのかをよみとり、「文化と政治」という問題を検討したい。

具体的には、①日本の国民国家形成期である明治期、②総力戦の体制を構築した昭和初期、そして③現代の文化財保護等における、「文化」という名づけと、多様な「資源化」の政治を検討する。

また講義期間中に、外部講師による講義で、日本以外のフィールドを扱うことを予定している。

ビジョン科目「人間と文化」を前提に講義するので「人間と文化」を履修していることが望ましい。

教科書 /Textbooks

必要な資料は講義中にプリントで配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「文化」を語るとは？【文化】【国民国家】
- 2回～5回 国民国家・日本の形成と「文化」の政治 : 「美術」と「文学」という近代
【明治期・日本】【内国勸業博覧会】【言文一致】【国民文学】
- 6回～9回 動員の政治と「文化」 : 大政翼賛会文化部の活動から【地方文化運動】
- 10回～13回 資源として「文化」・商品としての「文化」 【文化財保護行政】【観光】
- 14回 文化について学ぶとは
- 15回 まとめと質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート80% 授業内小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター
 ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科, 中溝 幸夫 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼球運動研究の基礎知識：読みと眼球運動(1)：(中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているか：読みと眼球運動(2)：(中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか：言語活動の認知神経科学入門(中溝)
- 第5回 未定
- 第6回 ことばはどのように身につけられるのか：言語習得(漆原)
- 第7回 ことばはどのように失われるのか：脳科学と失語症・失文法(漆原)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子(日高)
- 第9回 特別講義(外部講師)
- 第10回 概念と言葉：概念におけるプロトタイプ効果など(ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か：隠喩論(ストラック)
- 第12回 両義性と仄めかし：アイコン性、phonaesthemesなど(ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの：文法形式と意味の類像性(杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら？：ことばと思考・言語相対論(杉山)
- 第15回 まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% レポート...16%×5
 5名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 安全保障とは何か
- 3回～6回 第1テーマ 20世紀の戦争I～世界大戦
 - A.戦争と平和(戦争を学ぶ必要性、戦争の定義、戦争と平和)
 - B.戦争の経歴(絶対主義時代の戦争、革命戦争、近代戦争)
 - C.両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
 - D.戦争の変質(勢力均衡、アメリカの戦争観)
- 7回～8回 第2テーマ 20世紀の戦争II～核兵器の時代
 - A.原爆の出現(開発、完成、投下)
 - B.核兵器の種類と威力
 - C.核兵器出現に伴う変化
 - D.代理戦争(国際内戦)
 - E.核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 9回～10回 第3テーマ 21世紀の戦争I
 - A.冷戦終焉と「安全保障の終焉」?(「歴史の終焉?」「文明の衝突?」)
 - B.米国の脅威認識(911、国土安全保障戦略、ブッシュドクトリン、民主主義の拡大)
- 11回～14回 第4テーマ 21世紀の戦争II
 - A.「テロとの戦争」
 - B.破綻国家と人道的介入
 - C.正戦論の復権
 - D.対アフガニスタン武力行使の評価
 - E.イラク戦争
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール(【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 - 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 - 3回～5回 人間の発達と自己形成【エリクソンの発達理論】
 - 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 - 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 - 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー】
 - 13回～14回 ライフプランについて(仕事と遊びの心理学)。生活分析カウンセリング
キャリアプラン 【自然】【遊び】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 授業の出席...40% 授業参加の態度・姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習) レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 第 1 回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2 回 防犯の心得【警察官】：被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3 回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4 回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5 回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6 回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7 回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8 回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9 回 健康な体と感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10 回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせて行う。
- 第 11 回 救急法II火災や自然発生災害時での身の守り方救急法などを学習する
- 第 12 回 障害とノーマラージュエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13 回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14 回 自己管理まとめ【保健師】：ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①出席：60% (出席と毎回のミニレポート) ②まとめ(ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布したレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話応対 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実と成長する秘訣 ③将来のヒントを学びます。講義全体のキーワードは「働くこと」「成長の秘訣」「将来のキャリア」です。

<進め方> 講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果> 将来の自分の進路を絞り込んでいる人は、どんな準備をすれば良いかが理解できます。将来の自分の進路がイメージできない人は、世の中の仕事の現実を知るチャンスです。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロフェッショナル人材の講演【働くこと】【成長の秘訣】【将来のキャリア】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業ごとのレポート60%、最終レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※第1回と最終回以外すべて社会人ゲストによる公演です(事情によりビデオになる場合あり)。
- ※講演する社会人が所属する企業や仕事に関して必ず予習をしてください。
- ※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
- ※2009年度企業：ジェイコム北九州、安川電機、門司港ホテル、TOTOインフォム、コクヨ、山口銀行。2010年度は公務員や教員、起業家、大企業の第一線で活躍する女性、地元で家庭と両立する女性などにも来て頂こうと思っています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学論・学問論【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 /ONO NORIAKI / 法律学科, 矢田 俊文 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これから大学生活を送る新入生に対し、大学とはなにか、大学で何を学び、新しい時代をどのように生き抜くべきかについて、真剣に考える機会を提供することを目的としている。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 「知の時代」と学問・大学
- 3回 戦後大学史 新制大学と学生急増の時代
- 4回 戦後大学史 18歳人口減少と大学改革の時代
- 5回 北九州市立大学の改革 中期計画と大学運営
- 6回 北九州市立大学の改革 教育改革1 学部学科再編
- 7回 北九州市立大学の改革 教育改革2 学生生活支援
- 8回 北九州市立大学の改革 地域貢献
- 9回 大学生活を始めるにあたって-大学生活から学んだもの-
- 10回 企業に入り社会人となって
- 11回 企業とは何か-企業経営から学んだこと-
- 12回 世界を知る
- 13回 世界から学ぶ
- 14回 社会人となるための心構え-新しい時代を生き抜くために-
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の感想文... 20% 総括レポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【規範の特性】【法の機能】【法の実在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑法】【法の適用】【憲法と刑法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'10』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か【意味世界】、【解釈】
- 第2回 量的調査と質的調査【量的データ】、【質的データ】
- 第3回 調査と研究の進め方【記述の問い】、【説明の問い】
- 第4回 社会調査を企画する【個別面接調査】、【留置調査】、【郵送調査】
- 第5～8回 ワーディングと調査票の作成【ダブル・バーレル】、【キャリア・オーバー効果】、【パーソナル - インパーソナル】
- 第8～9回 サンプリング【母集団】、【標本】、【無作為抽出法】、【標本誤差】
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成【コーディング】、【カラム設計】、【データ・クリーニング】
- 第11回 分布と統計量【単純集計】、【代表値】、【分散】、【標準偏差】、【分位数】
- 第12回 検定の考え方【帰無仮説】、【第1種、第2種の誤り】
- 第13～14回 クロス表と相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計を読む・統計をつくる【昼】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々は新聞やテレビを通して、膨大な統計データや調査結果に日々、さらされている。統計をつくるに際して種々の社会調査が行われるが、社会調査の手順を示して、社会調査の生み出す統計データを批判的に読み込む力を培う。

教科書 /Textbooks

谷・山本編『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

H.ザイセル『数字で語る 社会統計学入門』新曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の種類
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート又は試験 ... 80 % 授業での参加(質疑応答など) ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト入手して授業に参加のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ポレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ポレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・ バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ ドロップ・ ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・ 戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1、3対2) (1)
- 6回 応用練習 (2対1、3対2) (2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (1)
- 10回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (2)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム (2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム (3)
- 14回 ゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム(1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム(2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム(3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム(4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス
 - 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
 - 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
 - 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
 - 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
 - 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
 - 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
 - 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
 - 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
 - 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
 - 11回 審判法の修得と試しのゲーム
 - 12回 リーグ戦方式の試合(1)
 - 13回 リーグ戦方式の試合(2)
 - 14回 リーグ戦方式の試合(3)
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

遺伝子とは何か？細胞とは何か？本演習では「生命科学入門」をテーマとし、生命科学に関する基礎的な知識を身につける。関連図書・文献を読み、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年、芦田嘉之「やさしいバイオテクノロジー」ソフトバンククリエイティブ2007年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 DNA・遺伝子について基本的事項の説明(1)
- 3回 DNA・遺伝子について基本的事項の説明(2)
- 4回 DNA・遺伝子について基本的事項の説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 発表の仕方についての説明
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む) ... 30% 発表... 30% 期末レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での勉強の仕方を一から学んでいきます (図書館の使い方、レジュメの作り方、本の読みかたなど)。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン。
- 2回 図書館の使い方。
- 3回 ノートの取り方。
- 4~5回 本の読み方。
- 6~10回 レジュメの作り方。
- 7~13回 プレゼンテーションの仕方。
- 14回 総論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 45% 課題... 45% 期末試験... 10%
便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。なお、この「教養基礎演習I」は半期完結型の授業です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 特定のテーマを設定し、それを調べ、読み、考え、議論し、書くという作業を通して、大学で学ぶための基礎的なスキルを習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks
 受講希望者と相談の上、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 何をテーマにして、どのように進めるかは、基本的には受講生と相談の上で決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への参加(発表・コメント)50パーセント、期末レポート50パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 参加する姿勢を重視する。無断欠席は、他の参加者に迷惑がかかるので、厳禁する。無断欠席を一回でもした場合、単位の取得を認めない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	グループディスカッション (1)
2回	" (2)
3回	" (3)
4回	グループゲーム (1)
5回	" (2)
6回	自分自身を理解する
7回	自分自身を人に理解させること
8回	人を理解すること
9回	集団で克服していくトレーニング
10回	キャンプのオリエンテーション (1)
11回	" (2)
12回	" (3)
13回	" (4)
14回	" (5)
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 受講態度 ... 20% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講を義務づける。
 I(1学期)では、まず各自が「テーマ」を決める。さらに、その「テーマ」について「問い」をたてる。平行して、社会的な考え方、文献資料の調べ方等についても学ぶ。さらに、社会的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。
 報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
 その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2～5回 社会的なものの方・考え方 - 『知的複眼思考法』
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7～8回 情報収集の仕方(図書館データベース、国立国会図書館等の使い方)
- 第9回 「問い」のたてかた
- 第10～14回 実例 - 『「二ート」って言うな』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 30% 課題... 40% 参加度... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

分担を決め報告をしてもらう。また、内容についての質疑・応答を通して理解を深める。
 文献を読んでくること、質疑に参加することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の翌年度の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に検索してみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。
* 教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手と呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス(戸蒔)

2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに思想史上の古典に関する知識）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

教科書 /Textbooks

初回に紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 西洋古典の教養について
- 3回 聖書に関する基礎知識I
- 4回 聖書に関する基礎知識II
- 5回 古代ギリシャを見直すI
- 6回 古代ギリシャを見直すII
- 7回 読解と討論I
- 8回 読解と討論II
- 9回 読解と討論III
- 10回 読解と討論IV
- 11回 読解と討論V
- 12回 課題テーマに関する発表I
- 13回 課題テーマに関する発表II
- 14回 課題テーマに関する発表III
- 15回 課題テーマに関する発表IV

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況... 60% 口頭発表... 40%
(口頭発表のテーマに関しては授業内で別途指示する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加者全員ができるだけ多くの発言および発表の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
また、授業内で参照する資料に関しては、各自図書館でコピーしてくる必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！基礎編」です。このクラスでは、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。
このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。
バレーボールが好きな人を募集します。最大で15人程度を予定しています。座学と調査・実習を組み合わせ実施します。原則としてIとIIはセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス	第2回 スキルチェック①
第3回 スキルチェック②	第4回 バレーボールとは
第5回 状況判断とポイント	第6回 戦術理解：レセプションフォーメーション&サービス
第7回 戦術理解：アタックフォーメーション	第8回 戦術理解：アタック&ブロックガードフォーメーション
第9回 戦術理解：ブロックインフォーメーション	第10回 戦術理解：ブロックシステム
第11回 ゲーム分析：対象チームのフォーメーション特徴	第12回 ゲーム分析：レセプション⇒攻撃のパターン・特徴
第13回 ゲーム分析：ディグ⇒攻撃のパターン・特徴	第14回 ケーススタディ
第15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことがあります。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力（人間関係力）を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。

また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

遺伝子とは何か？細胞とは何か？本演習では「生命科学入門」をテーマとし、教養基礎演習Iに引き続いて関連図書・文献を読み、科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身に付ける。身近な科学記事を選んで、研究内容についての自分の言葉でまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年、芦田嘉之「やさしいバイオテクノロジー」ソフトバンククリエイティブ2007年、池田清彦「寿命はどこまで延ばせるか？」PHP研究所2009年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 遺伝子・細胞について基本的事項の説明 (1)
- 3回 遺伝子・細胞について基本的事項の説明 (2)
- 4回 遺伝子・細胞について基本的事項の説明 (3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介 (1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介 (2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介 (3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介 (4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介 (5)
- 10回 関連図書・DVDの解説・紹介 (6)
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (発表を含む) ... 50% 期末レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 大学での勉強の仕方を一から学んでいきます (図書館の使い方、レジュメの作り方、本の読みかたなど)。

教科書 /Textbooks
 適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 インTRODクシヨン。
 2回 図書館の使い方。
 3回 ノートの取り方。
 4~5回 本の読み方。
 6~10回 レジュメの作り方。
 7~13回 プレゼンテーションの仕方。
 14回 総論
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 出席... 4 5 % 課題... 4 5 % 期末試験... 1 0 %
 便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。なお、この「教養基礎演習II」は半期完結型の授業です。「教養基礎演習I」をとっていない学生の履修を希望します。ご注意下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定のテーマを設定し、それを調べ、読み、考え、議論し、書くという作業を通して、大学で学ぶための基礎的なスキルを習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講希望者と相談の上、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

何をテーマにして、どのように進めるかは、基本的には受講生と相談の上で決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加(発表・コメント)50パーセント、期末レポート50パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加する姿勢を重視する。無断欠席は、他の参加者に迷惑がかかるので、厳禁する。無断欠席を一回でもした場合、単位の取得を認めない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 " (2) 期間
- 11回 " (3) 金額
- 12回 " (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成
- 14回 " (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 受講態度 ... 20% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講を義務づける。
 II(2学期)では、まず、教養基礎演習Iで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告(テキスト批評)をしてもらい、議論を行う。なお、1~2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
 Iと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2~6回 関連文献のテキスト批評(コメンタリー)
- 第6回 第1回論文検討会
- 第7~11回 関連文献のテキスト批評(コメンタリー)
- 第10回 第2回論文検討会
- 第11~14回 関連文献のテキスト批評(コメンタリー)
- 第15回 論文報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...15%課題(報告レジюмеと論文)...70%参加度...15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

分担を決め報告をしてもらう。また、内容についての質疑・応答を通して理解を深める。
 文献を読んでくること、質疑に参加することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の翌年度の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に検索してみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。
* 教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることにある。1学期の内容に続く発展的テーマをめぐって討論を重ねたあと、参加者各人には特定のテーマ・関心に基づいたプレゼンテーションを行なってもらう。

教科書 /Textbooks

プリントにて配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 哲学論文の読み方I
- 3回 哲学論文の読み方II
- 4回 文学作品への思想的アプローチI
- 5回 文学作品への思想的アプローチII
- 6回 読解と討論I
- 7回 読解と討論II
- 8回 読解と討論III
- 9回 課題テーマに関する発表I
- 10回 課題テーマに関する発表II
- 11回 課題テーマに関する発表III
- 12回 課題テーマに関する発表IV
- 13回 課題テーマに関する発表V
- 14回 課題テーマに関する発表VI
- 15回 課題テーマに関する発表VII

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況... 60% 口頭発表... 40%
(口頭発表のテーマに関しては授業内で別途指示する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加者全員に対して十分な発表の機会を確保するため、受講者の最大人数は15人までとする。
それを越える場合は受講者数調整をかける。
(※とくに履修制限は設けないが、このゼミは同担当者による「教養基礎演習I」の続きであることに留意されたい。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！応用編」です。このクラスでは、Iで習得した「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を、自チームの強化策や相手チームの攻略策の検討などを通じ、応用・実践していただこうと思います。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力、⑥問題解決のための構想を練る力、⑦プレゼン能力、⑧質疑応答力を、みなさんには身につけ、高めていただこうと思います。バレーボールが好きな人を募集します。最大で15人程度を予定しています。座学と調査・実習を組み合わせ実施します。原則としてIとIIはセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス	第2回 グループ分けと対象チームの選定
第3回 情報の収集①	第4回 情報の収集②
第5回 収集した情報の分析①	第6回 収集した情報の分析②
第7回 収集した情報の分析③	第8回 強化策 / 攻略策の検討①
第9回 強化策 / 攻略策の検討②	第10回 強化策 / 攻略策の検討③
第11回 プレゼン資料の作成①	第12回 プレゼン資料の作成②
第13回 グループ発表①	第14回 グループ発表②
第15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきたい。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼におきます。

また、学内と離れた場所での野外活動(スキー実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには(1)
- 3回 自分自身を理解するためには(2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには(1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには(2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現(1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現(2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現(3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現(4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現(5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現(6)
- 12回 スキー実習についての講義(1)
- 13回 スキー実習についての講義(2)
- 14回 スキー実習についての講義(3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子研究とその歴史」をテーマとし、関連図書・文献を通して、科学的なものの考え方や考え方を身につける。DNA 2重らせん発見を中心とした分子生物学黎明期における研究についての参考文献を読み進め、学んだ中において、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジェームズ・ワトソン 『DNA』上 (青木薫訳) 講談社2005年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 遺伝子研究について基本事項の説明 (1)
- 3回 遺伝子研究について基本事項の説明 (2)
- 4回 遺伝子研究について基本事項の説明 (3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介 (1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介 (2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介 (3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介 (4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介 (5)
- 10回 発表の仕方についての説明
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (討論への参加を含む) ... 30% 発表... 30% 期末レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習 A II もあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を涵養し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房、2006年）¥3,150

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目 インTRODクシヨ

2回目の講義からテキストを読み始めます（～14回）。毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。

「歴史と政治」を受講していれば、演習の効果はよりあがるでしょう。15回の演習で、一冊完読します。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 45% 課題... 45% 期末試験... 10%

便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

小林担当の「教養演習 AI II」とセットで履修することを希望します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks

履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、⑦陸自第40普通科連隊長兼小倉駐屯地司令(1佐)などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手を呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になりたいかな、と思っている人は履修を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、AI、AIIの通年受講を原則とする。

AIでは、まず「テーマ」を決めるとともに、国際社会学(グローバルイゼーション論等)に関する基本的な文献を読む。その後、自分の問題関心にしたがって関連文献のリストを作成し、文献を報告してもらい、質疑応答を通して知識を深める。

なお、今年度はBI、BIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。(以下、AIIに続く。)

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『フィールドワーク - 書を持って街へ出よう』佐藤郁哉、新曜社
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 テーマと問いを明確にする
- 第3回~14回 関連文献についてのテキスト批評
- 第15回 論文執筆計画についての報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 25% 報告... 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。演習全体のキーワードは、「消費経済と宗教文化」である。

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』（中山元訳）ちくま学芸文庫、2003年。
（※このテキストは、バタイユ著作集第6巻『呪われた部分』（生田耕作訳）とは違うものなので、取り違えないように。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI
- 2回 ガイダンスII
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 希望者による口頭発表I
- 14回 希望者による口頭発表II
- 15回 希望者による口頭発表III

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% レポートor口頭発表...40%
(最終的な単位認定は、レポートもしくは口頭発表のいずれかによって決定する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。文庫なので、コピーで配ることはしない。
授業前の準備事項として、バタイユという思想家がどのような人物なのかを辞書・辞典等で必ず調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子研究とその歴史」をテーマとし、関連図書・文献を通して、科学的なものの考え方や考え方を身につけるとともに、社会における意味を考える。ヒトゲノム計画以降の分子生物学発展期の研究についての参考文献を読み進め、学んだ中において、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジームズ・ワトソン『DNA』上・下(青木薫訳)、講談社2005年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ゲノム研究についての基本事項の説明(1)
- 3回 ゲノム研究についての基本事項の説明(2)
- 4回 ゲノム研究についての基本事項の説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 関連図書・DVDの解説・紹介(6)
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む)...30% 発表...30% 期末レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習AⅠもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読を練習する。

教科書 /Textbooks

『演習古文書選・近代(上)』(吉川弘文館)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～7回 近代文書の解読
第7回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...45%課題...45%期末試験...10%
便宜上、上のようには書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小林担当の「教養演習AII」とセットで履修することを希望します。Iを履修できない場合、事前に相談して下さい。なお、「歴史と政治」(1年生科目)をとってれば、より効果的に勉強できます。
明治時代に書かれた小説(森鷗外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks

履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養演習AI」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養演習AI」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、AI、AIIの通年受講を原則とする。

1学期(AI)に続くAIIでは、AIで作成した論文執筆計画書に従って論文執筆を行う。また、適宜、関連文献のレビュー(テキスト批評)を行う。

なお、今年度はBI、BIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『実証研究の手引き - 調査と実験の進め方・まとめ方』古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 論文執筆計画(進捗状況)の確認
第2~14回 関連文献のテキスト批評/論文検討会
第15回 論文のプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 15% 報告... 15% 論文... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

執筆計画等の準備が必要となる。また、報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。(教養演習 A I のつづき)

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』(中山元訳)ちくま学芸文庫、2003年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期(教養演習 A I)の内容の復習
- 2回 読解と議論I
- 3回 読解と議論II
- 4回 読解と議論III
- 5回 読解と議論IV
- 6回 読解と議論V
- 7回 読解と議論VI
- 8回 読解と議論VII
- 9回 読解と議論VIII
- 10回 読解と議論IX
- 11回 読解と議論X
- 12回 希望者による口頭発表I
- 13回 希望者による口頭発表II
- 14回 希望者による口頭発表III
- 15回 今年度の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% レポートor口頭発表...40%
(最終的な単位認定は、レポートもしくは口頭発表のいずれかによって決定する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する者は、授業開始前に各自でテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。
本演習は1学期からの継続であるため、テキストの途中から講読を再開する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子と長寿社会」をテーマとし、関連図書・文献を通して、生命科学の基礎知識を得ると共に、医療・産業における科学の貢献や社会との関わりを学ぶ。その中において、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

黒木登志夫『健康・老化・寿命』講談社2005年、福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 遺伝子・染色体についての基本的説明 (1)
- 3回 遺伝子・染色体についての基本的説明 (2)
- 4回 遺伝子・染色体についての基本的説明 (3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介 (1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介 (2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介 (3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介 (4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介 (5)
- 10回 発表の仕方についての説明
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (討論への参加を含む) ... 30% 発表... 30% 期末レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習 B II もあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○中地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。可能な限り、教養演習BIIもあわせて受講するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を涵養し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房、2006年）¥3,150

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目 イントロダクション

2回目の講義からテキストを読み始めます（～14回）。毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。

「歴史と政治」を受講していれば、演習の効果はよりあがるでしょう。15回の演習で、一冊完読します。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 45% 課題... 45% 期末試験... 10%

便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小林担当の「教養演習 A I・II」「教養演習 B II」とセットで履修することを希望します。A I・IIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。なお、毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks

履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、⑦陸自第40普通科連隊長兼小倉駐屯地司令(1佐)などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手と呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する人は履修を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、BI、BIIの通年受講を原則とする。

BIでは、まず「テーマ」を決めるとともに、国際社会学(グローバルイゼーション論等)に関する基本的な文献を読む。その後、自分の問題関心にしたがって関連文献のリストを作成し、文献を報告してもらい、質疑応答を通して知識を深める。

なお、今年度もAI、AIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。(以下、AIIに続く。)

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『フィールドワーク - 書を持って街へ出よう』佐藤郁哉、新曜社
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 テーマと問いを明確にする
- 第3回~14回 関連文献についてのテキスト批評
- 第15回 論文執筆計画についての報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 25% 報告... 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。演習全体のキーワードは、「消費経済と宗教文化」である。

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』（中山元訳）ちくま学芸文庫、2003年。
（※このテキストは、バタイユ著作集第6巻『呪われた部分』（生田耕作訳）とは違うものなので、取り違えないように。）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI
- 2回 ガイダンスII
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 口頭発表I
- 14回 口頭発表II
- 15回 口頭発表III

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% 口頭発表...40%
(参加者には当該テーマに関する口頭発表の実施を求める)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。文庫なので、コピーで配ることはしない。
準備として、少なくともバタイユの作品のいずれかに触れておくこと。熱意ある学生の参加を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子と長寿社会」をテーマとし、教養演習 B II に引き続いて関連図書・文献を読み進め、生命科学や遺伝子研究の基礎を学ぶと共に、医療・産業における科学の貢献や社会との関わりを学ぶ。また、近年注目されている iPS 細胞についても勉強する。身近な科学記事を選んで、研究内容について自分の言葉でまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

黒木登志夫『健康・老化・寿命』講談社2005年、福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年、八代嘉美『iPS細胞』平凡社2008年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 幹細胞と遺伝子についての基本的説明(1)
- 3回 幹細胞と遺伝子についての基本的説明(2)
- 4回 幹細胞と遺伝子についての基本的説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 関連図書・DVDの解説・紹介(6)
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む) ... 30% 発表 ... 30% 期末レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習 B I、教養特講義 IV もあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○中地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。可能な限り、教養演習BIもあわせて受講するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読を練習する。

教科書 /Textbooks

『演習古文書選・近代(上)』(吉川弘文館)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～7回 近代文書の解読
第7回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...45%課題...45%期末試験...10%
便宜上、上のようには書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小林担当の「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。BIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。なお、「歴史と政治」(1年生科目)をとってれば、より効果的に勉強できます。
明治時代に書かれた小説(森鷗外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks

履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養演習BI」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養演習BI」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、BI、BIIの通年受講を原則とする。
1学期(BI)に続くBIIでは、BIで作成した論文執筆計画書に従って論文執筆を行う。また、適宜、関連文献のレビュー(テキスト批評)を行う。
なお、今年度もAI、AIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『実証研究の手引き - 調査と実験の進め方・まとめ方』古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 論文執筆計画(進捗状況)の確認
第2~14回 関連文献のテキスト批評/論文検討会
第15回 論文のプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...15% 報告...15% 論文...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

執筆計画等の準備が必要となる。また、報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。(教養演習BIのつづき)

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』(中山元訳)ちくま学芸文庫、2003年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期(教養演習BI)の内容の復習
- 2回 読解と議論I
- 3回 読解と議論II
- 4回 読解と議論III
- 5回 読解と議論IV
- 6回 読解と議論V
- 7回 読解と議論VI
- 8回 読解と議論VII
- 9回 読解と議論VIII
- 10回 読解と議論IX
- 11回 読解と議論X
- 12回 口頭発表I
- 13回 口頭発表II
- 14回 口頭発表III
- 15回 今年度の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% 口頭発表...40%
(参加者には当該テーマに関する口頭発表の実施を求める)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する者は、授業開始前に各自でテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。
本演習は1学期からの継続であるため、テキストの途中から講読を再開する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。演習全体のキーワード：「経験から学ぶ力」「主体性」「二人称的思考」

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
第15回 まとめ ※【経験から学ぶ力】【主体性】【二人称的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※参加募集は夏休み前などに行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※2学期の履修登録の修正登録期間に忘れずに履修登録してください。
- ※期間限定プロジェクトを除き、翌年度前期の『プロジェクト演習II』も履修登録してください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。各グループ自由に設定してください。
- ※教室も指定しませんが、空いていれば学生プラザのプロジェクトルームを使用してください。
- ※2009年度実績：オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、就活生応援マガジン「キャリアーナ」、JOB×HUNTER 2011、北Q企業大解剖-the movie-、Navy Wavy (ニューウエーブ北九州)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。演習全体のキーワード：「経験から学ぶ力」「主体性」「二人称的思考」

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
第15回 まとめ ※【経験から学ぶ力】【主体性】【二人称的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。
- ※プロジェクトへ参加募集は掲示板に掲示します。なお、参加人数には制限があります。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。各グループ自由に設定してください。
- ※教室も指定しませんが、空いていれば学生プラザのプロジェクトルームを使用してください。
- ※2009年度実績：オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、就活生応援マガジン「キャリアーナ」、JOB×HUNTER 2011、北Q企業大解剖-the movie-、Navy Wavy (ニューウェーブ北九州)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 ○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第一講 「今西錦司と自然学」
- 二講 「私とあなたの自然学」
- 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
- 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
- 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
- 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
- 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
- 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
- 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
- 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
- 第十二講 人々はどのように自然を利用していきけるか - 日本の竹産業と政策
- 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
- 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
- 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたくなったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球は今から約46億年前に誕生した。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。この授業では、現在の地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

丸山茂徳・磯崎行雄『生命と地球の歴史』岩波書店
川上紳一『生命と地球の共進化』日本放送出版協会NHKブックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回 生きている地球2【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回 地球惑星の起源と進化【太陽系の起源】
- 5回 水の惑星の誕生と地球生命の起源【生命の起源】
- 6回 目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 7回 凍りついた地球【全球凍結】
- 8回 生物進化史上最大の事変【カンブリア爆発】
- 9回 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%，ミニ課題・レポート：30%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミニ課題・レポートは提出期限を厳守のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【昼】

担当者名
/Instructor

重信 幸彦 / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地です。また、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している当博物館を、まずみなさんに知ってもらうことが、この授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的にを行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思います。よりグローバルな視点から、自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各担当者の講義のテーマは下記のとおりです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員の名前です）。講義の順番は未定です。下記の講義以外に、博物館見学も予定しています。

- ・ 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【化石昆虫】
- ・ 化石が語る魚類の進化（籾本）：【魚類化石】
- ・ 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- ・ 絶滅危惧と鳥類（武石）：【絶滅危惧】
- ・ ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- ・ 化石記録が語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
- ・ カエルとサンショウウオのおはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
- ・ 宝石鉱物の魅力と不思議（森）：【宝石】【鉱物】
- ・ 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
- ・ 日本列島のおいたち：付加体の重要性（御前）：【プレートテクトニクス】【日本の地質】

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： <http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート... 80% 博物館見学レポート 20...% なお、予め定められた2回の博物館見学を、レポート提出の条件とし、単位取得の必須条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシン.....史上最強の毒物【ダイオキシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 小松 佐穂子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今現在，“心理学”の分野で明らかになっていることについて学ぶことを通して，自分や他者の“こころ”について考える。基本的に，心理学についての新たな知識の獲得を目指す，獲得した知識をふまえて，自ら，現代社会の問題に取り組み，考える態度を学んで欲しい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【心理学】
- 2回 心理学の研究法【実験法】【観察法】【調査法】
- 3回 ものの見え方，感じ方(1)【知覚】
- 4回 ものの見え方，感じ方(2)
- 5回 学習のしくみ【条件づけ】【学習】
- 6回 人間の記憶のしくみ(1)【記憶】【認知】
- 7回 人間の記憶のしくみ(2)
- 8回 母と子の結びつき【愛着】
- 9回 対人コミュニケーション【感情】【表情】
- 10回 心の病【心身症】【神経症】
- 11回 気分のコントロール【うつ病】【認知のゆがみ】
- 12回 高齢化社会【中年期】【老年期】
- 13回 女性の社会進出に伴う生き方【アイデンティティ】
- 14回 こころの知能指数【情動性知能】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題)...30% ミニレポート...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数のたのしみ 【昼】

担当者名 /Instructor 高妻 倫太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中・高で習う「数学」とは違い、「数楽」を目標とする。
 1. 数の世界に対する関心・興味を持ってもらうこと。
 2. 数学的思考法を体感し、「考えることは楽しい」感覚を呼び覚ますこと。
 講義全体のキーワードは、数との親しみ・愉しみ。それらを通して世の中に数学的精神が息づいていることを伝えたい。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回準備するため、テキストの指定は特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

心躍る、3世紀にわたる数学者たちの、挫折と栄光と感動の物語として次を推奨する。
 ○サイモン・シン著・青木薫訳『フェルマーの最終定理』新潮社(2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 数の世界はどのようにして発見、発展させられてきたか。数学史を織り交ぜながら述べる。
2. 数学的な考え方の紹介。数(や図形)の問題を皆で考える。
ただし、予備知識をなるべく仮定せず考えて楽しいと思われる問題。
- 1回 古代の数学【バビロニア】、【エジプト】、【中国】、【インド】
- 2回 かぞえること【数の発見】、【数の表記法】、ギリシャ数学のはじまり【ピタゴラス学派】
- 3回 古代ギリシャの数学者・哲学者たち【ギリシャ三大作図問題】
- 4回 円周率とは【πの歴史】、【ビュフォンの針】
- 5回 ギリシャ数学の末期【ディオファントスの「算術」】、中世の中国
- 6回 中世の数学【インド】、【イスラーム】、【ヨーロッパ】、ふしぎの黄金比
- 7回 いろいろな記号の起源、未知数がXになるまでの道のり、方程式の解法をめぐって
- 8回 究極の折り紙
- 9回 ルネサンスの絵画と幾何、17世紀の幾何学・確率論・数論
- 10回 和算について【江戸時代】、19世紀の代数学・数論、19世紀までの主な数学分野
- 11回 「テーマから考えてみよう」
- 12回 フェルマーの最終定理が解かれるまで
- 13回 暗号のはなし【公開鍵暗号】、【moduloの世界】
- 14回 技術に生きる現代数学【RSA暗号】
- 15回 技術に生きる現代数学【ISBN】

成績評価の方法 /Assessment Method

アンケート(毎回)およびレポートによる総合評価。
 「アンケート40%+レポート60%-欠席点数」で評価。3コマ以上の無断欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識は特に仮定しない。数をたのしんでみようという心構え・やる気が必要である。
 上記の参考文献を読まれるとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思惟構造を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要について
- 2回 宗教とはなにか？
- 3回 宗教の諸類型と世界の諸宗教
- 4回 一神教について1（一神教の発生）【ユダヤ教】
- 5回 一神教について2（キリスト教の成立）【キリスト教】【イスラム教】
- 6回 一神教と日本の宗教風土【牧畜文化】【稲作漁撈文化】【都市国家】
- 7回 仏教について1（インドの仏教）【シャカ】【上座部仏教】【大乘仏教】
- 8回 仏教について2（中国の仏教）【儒教】【道教】【殺生戒】
- 9回 仏教について3（日本の仏教）【本覚思想】【戒律】
- 10回 神道について1（古代の神道）【禊祓】【罪と穢】
- 11回 神道について2（神道と東アジアの宗教）【皇帝祭祀】【神祇令】
- 12回 日本の宗教風土1（神と仏）【神仏習合】【神仏隔離】
- 13回 日本の宗教風土2（祖先崇拜）【盆と彼岸】【寺檀制度】
- 14回 日本の宗教風土3（近代から現代へ）【神仏分離】【政教分離】【新宗教】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（レポート含む）...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
5～6回のレポートを課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて展開されてきた主要な思想の流れを解説する。この時代が「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想に着目してゆく。これらの発想をヒントにして、自我の成立、他者との関係性を考え直すことが、本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存主義の思想(1) 概説
- 3回 実存主義の思想(2) キルケゴール
- 4回 実存主義の思想(3) ハイデガー
- 5回 実存主義の思想(4) サルトル
- 6回 実存主義の思想(5) メルロ=ポンティ
- 7回 中間テスト
- 8回 精神分析の思想(1) フロイト1
- 9回 精神分析の思想(2) フロイト2
- 10回 精神分析の思想(3) メラニー・クライン
- 11回 精神分析の思想(4) ジャック・ラカン
- 12回 フェミニズムの思想(1)
- 13回 フェミニズムの思想(2)
- 14回 フェミニズムの思想(3)
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※中間テストを受験していない者は期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第七回に中間テスト(第三回~第六回の確認テスト)を実施するので、受講希望者は遅くとも第三週目から出席しておく必要がある。このテストを受験していない者には単位を認めない。
また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペなど)が発覚したレポートは即座に零点となるので、十分に注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ものがたりと人間【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター, 木下 善貞 / 英米学科
/Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ものがたり」とは、決して「文学」の問題に限られるものではない。神話から文芸、噂話さらには日々のニュースまで、言語をあやつる人間は、「ものがたり」という行為を通して出来事や<世界>、「歴史」を了解し、そしてそこで生きる「自己」像を創り上げてきた。つまり、「私」とは何か、という問いまで、「ものがたり」として存在していることを意味する。この科目は、人間の限界と可能性を、「ものがたり」をキーワードにしながら、文学、文化、歴史、心理、法学など多様な学の知を横断しながら考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

必要な資料等は、講義中にプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ものがたりとは何か (重信) 【語る】【語り手】
 - 2回～3回 ものがたりの生成 (重信) 【うわさ】
 - 4回～6回 ものがたりと歴史 (重信) 【物語文】
 - 7回 ものがたりと「落語」(小野) 【声】【場】
 - 8回 ものがたりと「法律」(小野) 【法廷】【声と説得】
 - 9回～10回 ものがたりを心理学から考える (税田) 【発達】
 - 11回～13回 ものがたりの論理 :文学テキストから (木下) 【第一の語り手】
 - 14回 まとめ :ものがたりの力 (重信)
 - 15回 質問日
- (以上はあくまでも予定であり、各回の講義タイトル、内容が変更される場合がある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語、授業途中の出入りを厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名
/Instructor

真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は二部構成となっており、前半では表象論の基礎的問題を扱い、後半では日本の近世までに制作された美術作品について扱う。
前半は、まず表象概念の説明をアニメ、演劇などをとりあげておこなう。そののちに、「戦争」というテーマのもとに銅像、語り芸、映画などの例をとりあげて、表象研究の意義について考える。
後半は、映像やアニメに日本の近世以前の美術作品が借用されている例を紹介する。どの場面にこういった作品が描き込まれているかを受講者に見出してもらい、それらの作品の概要について確認して行く。それによって、現代の我々の生活の中には、その気になれば、歴史的美術作品の断片が数多く見出せることを実感してもらう。前半は主に真鍋が、後半は主に五月女が担当する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回【表象論事始め】理論①
- 2回 理論②
- 3回 表象の分析① - 『ハウルの動く城』をとりあげて -
- 4回 表象の分析② - 『おくりびと』をとりあげて -
- 5回【テーマ研究】戦争と表象①
- 6回 戦争と表象②
- 7回 戦争と表象③
- 8回 前半のまとめ
- 9回【映像・アニメに見出せる日本の絵画】映像Aの出題編
- 10回 映像Aの解答編①
- 11回 映像Aの解答編②・映像Bの出題編
- 12回 映像Bの解答編・アニメAの出題編
- 13回 アニメAの解答編・アニメBの出題編
- 14回 アニメBの解答編
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30% 中間・期末テスト ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前半においては、毎回コメントカードを記入して提出してもらう。
後半においては、毎回課題を出し、その次の回到回答を発表してもらうので、必ず予習が必要となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科, 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などとよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 英語の方言・日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第11回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第12回 人と機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第13回 コミュニケーション力(漆原)
- 第14回 予備日
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% レポート...20%×4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- * 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 波瀨 剛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、「芸術」と「現実」とがどのように関わっているのかという点について検討する。具体的には、「現実」を超えた世界を創造する「芸術」と、「現実」を忠実に再現しようとした「芸術」とでは、どちらがより「リアル」なのかについてさまざまな材料を提示する。受講者には、各回の講義を通じて、「芸術」と「現実」との関わり方について理解する機会となることを期待する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、適宜資料を配布。参考文献も適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 芸能とシニール①
- 3回 芸能とシニール②
- 4回 芸術は爆発か?①
- 5回 芸術は爆発か?②
- 6回 シニールリアリズムの物語①
- 7回 シニールリアリズムの物語②
- 8回 ノスタルジーの向こう側①
- 9回 ノスタルジーの向こう側②
- 10回 映像テキストの読み方①
- 11回 映像テキストの読み方②
- 12回 さまざまな戦後①
- 13回 さまざまな戦後②
- 14回 歴史 / 物語の現在性①
- 15回 歴史 / 物語の現在性②

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および課題... 20% 学期中レポート... 40% 定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名
/Instructor

岩本 真理子 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科, 水本 弘文 / 比較文化学科
馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるだろうか。文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高い。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ、フランス語と生まれ変わることもある。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で日本語、英語、ドイツ語などで書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促す。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・詩とは何か
 - 2回 ドイツの詩
 - 3回 ドイツの詩
 - 4回 イギリスの詩
 - 5回 イギリスの詩
 - 6回 イギリスの詩
 - 7回 アメリカの詩
 - 8回 アメリカの詩
 - 9回 フランスの詩
 - 10回 フランスの警句とことわざ
 - 11回 言葉から形へ
 - 12回 言葉から形へ
 - 13回 日本の詩
 - 14回 日本の詩
 - 15回 まとめ
- (各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
岩本 真理子 / 比較文化学科, 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

今年度は、国際政治学・平和学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、ドイツ文化/文学(岩本)、哲学・倫理学(伊原木)、民俗学・文化論(重信)など、異なった専門の教員がオムニバス講義を展開する予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 80% 授業内小レポート 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
 第2回~第8回 「正義」の応用問題
 ~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
 第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
 第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジユメの配布を基本とするが、ト・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）
J・リンスほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞・グロバリゼーションとデモクラシー【第三の波】【市民社会】
- 第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
- 第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
- 第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
- 第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
- 第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
- 第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
- 第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席重視、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と出席などで総合評価
出席 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジユメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人権といえば特別なことというイメージを持つかもしれない。しかし、実際には気付かない、知らないというだけで自分自身の人権が侵害されていたり、無意識のうちに他者の人権を侵害していることがある。

本講義では、識字問題や在日外国人問題など様々な事例から、現存する人権課題とその社会的背景を考察する。そして、人権とは非常に身近で重要なものであるということを実感していただきたい。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所 発行）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回テーマを決め、ビデオ等を交えながら授業を行う。
出席確認と授業の理解を深めるため、毎回「感想」を書き込む用紙を配布する。

(【 】はキーワード)

- 1回 わたしにとっての人権
- 2回 人権の歴史(1) 【近代革命】
- 3回 人権の歴史(2) 【国連】
- 4回 人権概念の整理(1) 【国家】 【憲法】
- 5回 人権概念の整理(2) 【国際人権】
- 6回 日本における人権課題(1) 【部落問題】
- 7回 日本における人権課題(2) 【冤罪】
- 8回 生活の中の人権(1) 【ハンセン病】
- 9回 生活の中の人権(2) 【平和】
- 10回 教育マイノリティの現状 【識字】
- 11回 教育マイノリティの現状と課題 【夜間中学】
- 12回 外国人の人権(1) 【国籍】
- 13回 外国人の人権(2) 【在日コリアン】
- 14回 海外における人権課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験と出席状況で評価する
出席 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

女性の名前に「美」が付くことが多いのはなぜか、工学部や法学部、経済学部に女子学生が少ないのはなぜか、子育ては母親の役割とされているのはなぜか、男女の賃金に差があるのはなぜか-そんな身の回りの「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。講義のキーワードは「ジェンダー」「ポリティクス」。

教科書 /Textbooks

伊藤公雄・樹村みのり・国信潤子『女性学・男性学-ジェンダー論入門』（有斐閣、2002/02、1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』岩波書店
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』明石書店
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 女であることの損・得 / 男であることの損・得【ジェンダー役割】【性の二重基準】
 - 2回 作られる<男らしさ><女らしさ>【男らしさ】【女らしさ】【メディア・リテラシー】
 - 3回 女性学って何?【女性の視点】【周縁化】【名前のない病】
 - 4回 あなたとわたし【ジェンダー】【セクシュアリティ】
 - 5回 ジェンダー・フリーな教育のために【隠れたカリキュラム】【ジェンダー・トラッキン グ】
 - 6回 恋愛の女性学・男性学【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】【デートDV】
 - 7回 男性学って何?【男性の鏡】【自殺】【専業主夫】
 - 8回 ジェンダーと労働【賃金格差】【間接差別】【ワーク・ライフ・バランス】
 - 9回 花子さんの見た未来?【多様な生き方】【多様な働き方】【多様な家族】
 - 10回 多様な家族に向かって【近代家族】【婚姻制度】【選択的夫婦別姓】【婚外子差別】 【DV】
 - 11回 育児はだれのもの【母性愛神話】【三歳児神話】【育児休業法】
 - 12回 国際化のなかの女性問題・男性問題【グローバル化】【移住労働の女性化】【人身取引】
 - 13回 平和の思想と<男らしさ>【平和】【暴力】【軍事化】
 - 14回 ジェンダー・フリー社会の見取り図【男女共同参画社会】【国連女性差別撤廃条約】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と授業中の積極的な発言...25%、ワークショップでのプレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メディア表現、法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発表、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイント資料を用いるため、スキルを見つけておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 山本 光英 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 落合 俊行 / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 國武 英生 / 法律学科
 中山 布紗 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 狭間 直樹 / 政策科学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年						
対象入学年度 /Year of School Entrance				1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
												○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法とってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第2回 人間社会とルール（マナーとルール、社会と規範、規範と法則、法と社会、法と道德の違いなど）（山本）
- 第3回 裁判とは何か（民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など）（岡本）
- 第4回 民事少額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 基本的人権とは何か（基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など）（落合）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（國武）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など）（矢澤）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（中山）
- 第11回 労働者の権利と生活の保障（労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など）（國武）
- 第12回 生存と環境保護（公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など）（岡本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 （予備日）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート（計3本）を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による（鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする）。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

共生の作法【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、北九州の文化を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知と一と！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 小倉郷土会①
- 3回 小倉郷土会②
- 4回 小倉郷土会③
- 5回 北九州の人と文学
- 6回 北九州の方言
- 7回 北九州の民話・伝承
- 8回 北九州の祭り
- 9回 海峡花火
- 10回 門司港の観光
- 11回 小倉城
- 12回 上野焼
- 13回 北九州の食文化
- 14回 北九州の農業
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは一応の予定です。ゲストの都合等により変更になることがあります。詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメは事前に配布するつもりですので、配布したレジュメをよく読んで受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生を果たした。欧米から日本的経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。曰く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

そうすると社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちが資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回 【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジユメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 重信 幸彦 / 基盤教育センター
 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私達は、家族、近隣そして友人、さまざまに分類しうる人間関係のなかで生き、生かされて、そのなかで多様な葛藤や親密性を経験しながら、他者との関係性を築きあげている。この科目では、「社会」と私達が名づけている関係性を、「社会」という言葉を使わずに「つながり/つながる」をキーワードに、自己と他者との関わりを具体的に問うことからときほぐし、「社会とは何か」を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、ガイダンス 遊びの記憶から
- 2、あそぶ 1 / 教育学 (児玉)
- 3、あそぶ 2 / 民俗学 (重信)
- 4、あそぶ 3 / ワークショップ 序 いる・なごむ・つるむ (加倉井)
- 5、あそぶ 4 / ワークショップ 破 つくる・ためす・あそぶ (加倉井)
- 6、あそぶ 5 / ワークショップ 急 あそぶ・ふりかえる (加倉井)
- 7、あそぶ 6 まとめ (児玉・加倉井・重信)
- 8、たべる 1 / 民俗学 (重信)
- 9、たべる 2 / 食事風景の観察から (児玉・重信)
- 10、たべる 3 / ワークショップ ~五感と共感・分配と葛藤~ (児玉)
- 11、つながる 1 / 近場から街へ (児玉・重信)
- 12、特別講義 つながる 2 / 駄菓子屋という場 (松田道雄)
- 13、特別講義 つながる 3 / 関係性はもう一つの世界をつくる (松田道雄)
- 14、つながる 4 見えない者同志のつながりへ (児玉・加倉井・重信)
- 15、<つながりの人間学>へ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理』（山内友三郎・塚崎智監訳）昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値（4）【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値（5）【自己意識】、【F L O】
- 7回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 8回 現代における差別の問題（2）【差別反対論】
- 9回 現代における差別の問題（3）【種差別】
- 10回 現代における差別の問題（4）【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義（1）【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義（2）【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義（3）【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義（4）【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小レポート含む）... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を思想的に考察する。講義全体のキーワードは【ポストコロナリズムの思想課題】 【国際情勢】

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』（知の攻略 思想読本4）、作品社、2003（第3刷）、2000円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

関連文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)(2) 【ポストコロナリズム】
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】 【植民地主義】
- 【帝国】
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文 【植民地近代性】 【ナショナリズム】
- 【グローバリズム】
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 轡田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第III部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】 【ジェンダー】
- 13回 第III部の3、高橋哲哉論文 【過去の克服】
- 14回 第III部の4、野村浩や・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（2~3本）、授業参加への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書のなかに登場する概念、理論を勉強しつつ、関連文献を自主的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
 1980年代後半以降、いわゆる「ニュー・カマーズ」とよばれる外国人労働者の流入が顕著になってきた。さらに、近年、その定住化の進展とともに、日本人(社会)と彼ら/彼女ら(の社会)との共生関係の構築が課題となってきた。こうした課題について考える基礎知識を提供する。
 授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
 ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察を加えたい。なお、民族関係論の基礎知識とともに、グローバルな現象をローカルな場(地域)において実証的に把握していく方法についても習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの紹介【グローバル化】、【エスニシティ】
- 2回 グローバル化の進展【国際労働力移動】
- 3回 出入国管理について【外国人登録】、【出入国管理】
- 4～5回 エスニシティに関する理論【道具主義】、【原初主義】、【分断労働市場】、【オリエンタリズム】
- 6～7回 日本の近代化と在日韓国・朝鮮人 - 歴史的把握【韓国併合】【植民地政策】
- 8～9回 在日韓国・朝鮮人と教育・職業【教育達成】、【社会移動】
- 10～11回 在日韓国・朝鮮人と日本の地域社会【生活構造】【生活史】
- 12～13回 日系ブラジル人と日本社会【顔の見えない定住化】、【非正規雇用】
- 14～15回 国家、自治体、NGOの役割【自治体の国際化施策】、【協働と対抗的相補性】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「ネイション」と「エスニシティ」【多文化主義】【同化主義】
- 3回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1)【連合王国】【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2)【スカーマン報告】【オルダム暴動】
- 5回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3)【サッチャー主義】【ロンドン同時多発テロ】
- 6回 フランスにおける民族とエスニシティ(1)【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 7回 フランスにおける民族とエスニシティ(2)【ライシテ】【スカーフ問題】
- 8回 東南アジアからみた「ネイション」と「エスニシティ」：学説史の整理【ナショナリズム】
- 9回 インドネシア(1)：「多様性の中の統一」からこぼれ落ちる人々【華人】
- 10回 インドネシア(2)：「統一が分離独立か」の二者択一を超えて【アチェ】【災害】
【イスラム教】
- 11回 ベトナム：ナショナリズムの輝きと黄昏【ベトナム戦争】【難民】【ドイモイ】
- 12回 マレーシア(1)：半島部における「民族の政治」【プミブトラ】【バンサ・マレーシア】
- 13回 マレーシア(2)：サバにおける民族の生成【ボルネオ】【選挙】
- 14回 東南アジアの事例のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（統治）」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|--------------------------------|-----------|-------------|
| 1回 「開発と統治」をはじめににあたって | | 担当：三宅 |
| 2回 民主化問題を考える視座（1） | 【民主化問題】 | 担当：伊野 |
| 3回 民主化問題を考える視座（2） | | 担当：伊野 |
| 4回 理論と現実—ミャンマーの民主化をめくって【ミャンマー】 | | 担当：伊野 |
| 5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例 | 【援助】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動 | 【バングラデシュ】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 7回 途上国と一村一品運動 | | |
| 8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化 | 【グラミン銀行】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動 | 【韓国】 | 担当：申 |
| 10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策 | 【環境政策】 | 担当：申 |
| 11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス | 【米国】 | 担当：申 |
| 12回 地域社会から見たガバナンス | 【地域社会】 | 担当：三宅 |
| 13回 日本の子ども会を取り巻く環境 | 【子ども会】 | 担当：三宅 |
| 14回 もっと詳しく聴きたいアンコールアワー | | 担当：指名教員 |
| 15回 まとめ | | 担当：三宅 |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 小課題の提出 ... 20 % 試験 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○勝田政治『廃藩置県-「明治国家」が生まれた日』(講談社)○長志珠絵『近代日本と国語ナシヨナリズム』(吉川弘文館)○鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 ガイダンス②「日本」という枠組み
 - 3回 県名を読む①【国郡制】と【幕藩制】
 - 4回 県名を読む②県名と県庁所在地
 - 5回 県名を読む③戊辰戦争
 - 6回 『国語元年』を読む(ビデオ)①文部省説諭
 - 7回 『国語元年』を読む(ビデオ)②統一話し言葉
 - 8回 『国語元年』を読む(ビデオ)③山の手言葉
 - 9回 『国語元年』を読む(ビデオ)④「日本語」から「【国語】」へ
 - 10回 『ラスト・サムライ』を読む
 - 11回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 12回 『平家物語』を読む②【言葉戦】
 - 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
 - 14回 「桃太郎」と吉備王国
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生100名以上の場合は筆記試験100%、受講生100名以下の場合は授業レポート50%筆記試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツアメリカ、スペイン、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 スペイン(岡住)【移民問題】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20%小テスト...20%レポート...60%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「感想文」を提出してもらいます。一回でも未提出があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題を当時のニュースビデオなどを利用して解説してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 戦後改革
- 2回 経済復興
- 3回 産業政策の効果
- 4回 メインバンクシステム
- 5回 安定株主化
- 6回 重化学工業化
- 7回 農工間人口移動
- 8回 大衆消費社会
- 9回 エネルギー革命
- 10回 石油危機
- 11回 赤字国債
- 12回 サービス経済化と産業構造の変化
- 13回 債権大国
- 14回 アジアの成長と日本経済
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代史の通史的な理解を前提に、私たちの日常生活の歴史を、「都市と農村」という問題系から検討することを目的とする。特に資本主義の仕組みが日常生活を取り込み、消費中心の都市生活が進展する一方で、農村の衰微が問題になった1930年代の日本を舞台に講義する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。必要な資料はプリントで配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「東京が攻めてくる」 【郊外化】
- 第一部 「モダン都市」という暮らし
- 2回 1、第三の空間・「街頭」という生活空間 【盛り場】
- 3回 2、「モボ」と「モガ」という仮面 【銀座】 【新宿】
- 4回 3、「スピード」という価値 【自動車】 【内燃機関】
- 5回 4、「見る」ことと欲望 【博覧会】 【勤工場】
- 6回 5、新たな欲望の装置：デパート 【陳列販売】 【百貨店】
- 7回 6、モダン都市の光と闇 【新中間層】 【細民】
- 第二部 「都市化」する農村の暮らし
- 8回 7、開発される個の欲望 【色を身に纏うこと】 【温かな食物を食うこと】
- 9回 8、消費と農村生活の矛盾 【現金収入】 【養蚕】
- 10回 9、商人の論理と農民の論理の狭間で 【資本主義】
- 11回 10、「親子心中」という問題 【解体される共同体】
- 12回 11、孤立する貧困 【家】 【新たな貧困】
- 13回 12、「都市」のなかの農村へ
- 14回 13、現代日本と「海」の向こうの農村
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 ... 80% 授業中の小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容・アウトラインに関するレジュメは一切配布しないので、よく聴きノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名
/Instructor

重信 幸彦 / 基盤教育センター, 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノと人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考資料等は、プリントにして授業中に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一部 内燃機関の近代 (重信)

- 1、自動車と出会った「明治ニッポン」【内国勲業博覧会】 / 2、内燃機関と身体【職人】
- 3、自動車とカタストロフィ【交通事故】【交通法規】

第二部 都市と自動車 (重信)

- 4、フォードVSシボレー【都市化】 / 5、「円タク」とモダン都市【タクシー】
- 6、加速化と均質化【身体】【時間】 / 7、自動車と都市の政治【交通統制】

第三部 フォーディズムの時代 (中野)

- 8、ヘンリー・フォードとアメリカ【フォード】 / 9、フォード・システムと大衆社会【フォーディズム】 / 10、ポスト・フォーディズムへ

第四部 「家庭」と自動車 (重信)

- 11、「家庭」という価値と自動車【新中間層】【中流幻想】 / 12、マイホームとマイカー【高度成長期】 / 13自動車というメディア【メディア】 / 14自動車と人間 / 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【昼】

担当者名
/Instructor

山崎 勇治 / 経済学科, 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的

歴史の面白さを、特定の人物を中心として学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

第1回 開講に当たって講義の目的と方針ならびに評価の方法について

第2回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか

第3回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史

第4回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領

第5回 「ラスト・サムライ山岡鉄舟と幕末・明治」「上杉鷹山と儒教的経営」

第6回 「保科正之と江戸幕府」「親鸞と平安・鎌倉時代」

第7回 「聖徳太子と飛鳥・奈良時代」

第8回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史

第9回 「ガンディ」の映画鑑賞

第10回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?

第11回 私のイギリス案内-ビュートリックス・ポターと湖水地方のナショナルトラスト運動

第12回 M.ケインズと世界恐慌-ロシア人バレリーナとの恋愛を中心に-

第13回 サッチャーとビッグバン

第14回 ベバリッジと福祉国家

第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を重視する。具体的な方法については初日の開講時間に説明をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 解子 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○		

授業の概要 /Course Description

人はそれぞれの価値観で都市をとらえ評価します。多くの場合、自分の関心領域以外にはあまり目を向けません。しかし、これからの“住みよい”都市づくりには総合的な視点がますます必要です。本講義では、都市間比較の方法をとりながら、多面的に都市をとらえ評価する視点や、都市を知るために役立つ情報活用のあり方などについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

指定しません（資料を配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○北九州都市協会『住みよい都市・全国主要都市の比較調査』共同通信社（2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- （【 】はキーワード）
- 第1回 講義の概説 【評価指標】
 - 第2回 都市間比較I 【自然】
 - 第3回 都市間比較II 【居住】
 - 第4回 都市間比較III 【経済】
 - 第5回 都市間比較IV 【インフラ】
 - 第6回 都市間比較V 【文化・教育】
 - 第7回 都市間比較VI 【健康・安全】
 - 第8回 都市間比較VII 【都市イメージ】
 - 第9回 都市間比較VII 【総合評価】
 - 第10回 「住みよい都市」の検証I【事例研究】
 - 第11回 「住みよい都市」の検証II【事例研究】
 - 第12回 「住みよい都市」の検証III【事例研究】
 - 第13回 「住みよい都市」の検証IV【事例研究】
 - 第14回 予備日
 - 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30% 学期末のレポート... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありませんが、講義を進めるなかで、「あなた方はどう思う？」という問いかけをしたいと思います。積極的な発言を期待します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解釈』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異を研究する学問であるが、本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与しているか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するのかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中藤康俊『人文地理学入門』古今書院、1985年。
富田和暁『地域と産業』大明堂、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を地域的観点から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目は、地理学の言語である地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用して、地表の状態を読み取る実習をおこなうことにより、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著「地理的情報の分析手法」古今書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
 - 2回 地図の役割。【地図の能力】
 - 3回 地図の歴史。
 - 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
 - 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
 - 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
 - 7回 山の地形を地形図から描くI(講義・実習)。【等高線】
 - 8回 山の地形を地形図から描くII(実習)。
 - 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
 - 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI(講義・実習)。
 - 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII(実習)。
 - 12回 【リモートセンシング】、空中写真の利用。
 - 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
 - 14回 リモートセンシング、空中写真の利用。
 - 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に提示する資料などを読んでおくことより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を表すキーワード

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。

講義全体のキーワードは、エンドユーザ、情報セキュリティ、データベースです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 情報システムの利用者としての心得 1【PDCAサイクル】
- 3回 情報システムの利用者としての心得 2【バックアップ】、【リスク分析】
- 4回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 5回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】、【ビット】、【バイト】、【文字コード】
- 6回 ハードウェア【CPU】、【メモリ】、【HD】、【フラグメンテーション】
- 7回 ソフトウェア【OS】、【拡張子】
- 8回 ネットワークの仕組み【LAN】、【サーバ】、【ドメイン名】、【IPアドレス】
- 9回 データベースの基礎 1【正規化】、【主キー】
- 10回 データベースの基礎 2【SQL】
- 11回 データベースの基礎・まとめ
- 12回 情報セキュリティ対策 1【ID】、【パスワード】、【セキュリティ対策】
- 13回 情報セキュリティ対策 2【SSL】、【クッキー】、【ファイル交換ソフト】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。
講義全体のキーワードは、エンドユーザ、情報セキュリティ、データベースです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 情報システムの利用者としての心得 1【PDCAサイクル】
- 3回 情報システムの利用者としての心得 2【バックアップ】、【リスク分析】
- 4回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 5回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】、【ビット】、【バイト】、【文字コード】
- 6回 ハードウェア【CPU】、【メモリ】、【HD】、【フラグメンテーション】
- 7回 ソフトウェア【OS】、【拡張子】
- 8回 ネットワークの仕組み【LAN】、【サーバ】、【ドメイン名】、【IPアドレス】
- 9回 データベースの基礎 1【正規化】、【主キー】
- 10回 データベースの基礎 2【SQL】
- 11回 データベースの基礎・まとめ
- 12回 情報セキュリティ対策 1【ID】、【パスワード】、【セキュリティ対策】
- 13回 情報セキュリティ対策 2【SSL】、【クッキー】、【ファイル交換ソフト】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【昼】

担当者名 佐々木 実 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。

講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング基礎 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。「データ処理」で学習した表計算の柔軟で高度な利用を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムについての理解を深めます。使用する言語は、VBA (Visual Basic for Application) です。この言語は、Excelに備わっており、Excelが利用できる環境であれば、VBAが利用できます。
講義全体のキーワードは、Excel、VBA、プログラミングです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Excel VBAの文字が入った書籍が各社から多く出版されています。この中の入門編や基礎編が参考になります。例：「10日でおぼえるExcel VBA入門教室」、瀬戸遥、翔泳社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 VBA、マクロ、プログラミングについて【VBA】
- 2回 マクロ記録でマクロを作成【マクロ】、【処理の自動化】
- 3回 VBAの基本構文【プロシジャ】、【オブジェクト】
- 4回 Visual Basic Editorの利用【ヘルプ】、【デバッグ】
- 5回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 6回 フローチャート1【構造化プログラミング】
- 7回 フローチャート2
- 8回 ブックとシートとセルの操作1【BOOK】、【SHEET】、【セル】
- 9回 ブックとシートとセルの操作2
- 10回 入力支援【入力画面】、【データ参照】
- 11回 制御構造【if文】
- 12回 制御構造【for文】
- 13回 制御構造【while文】
- 14回 制御構造【select文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に通講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとお講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング基礎 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。「データ処理」で学習した表計算の柔軟で高度な利用を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムについての理解を深めます。使用する言語は、VBA (Visual Basic for Application) です。この言語は、Excelに備わっており、Excelが利用できる環境であれば、VBAが利用できます。
講義全体のキーワードは、Excel、VBA、プログラミングです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Excel VBAの文字が入った書籍が各社から多く出版されています。この中の入門編や基礎編が参考になります。例：「10日でおぼえるExcel VBA入門教室」、瀬戸遥、翔泳社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 VBA、マクロ、プログラミングについて【VBA】
- 2回 マクロ記録でマクロを作成【マクロ】、【処理の自動化】
- 3回 VBAの基本構文【プロシジャ】、【オブジェクト】
- 4回 Visual Basic Editorの利用【ヘルプ】、【デバッグ】
- 5回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 6回 フローチャート1【構造化プログラミング】
- 7回 フローチャート2
- 8回 ブックとシートとセルの操作1【BOOK】、【SHEET】、【セル】
- 9回 ブックとシートとセルの操作2
- 10回 入力支援【入力画面】、【データ参照】
- 11回 制御構造【if文】
- 12回 制御構造【for文】
- 13回 制御構造【while文】
- 14回 制御構造【select文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に通講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとお講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are listening, reading and writing English. The class is taught in English. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to communicate confidently when they spend time studying, working or traveling in English.

教科書 /Textbooks

- ① "Word Master Approach for the TOEIC Test" <Word Book> Published by Seibido
- ② "The Heinle Picture Dictionary English/日本語", Audio CDs and Interactive CD-ROM Published by Thomson
- ③ 『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』 朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course will help the students to increase their English vocabulary while listening to English speakers and looking at pictures in the text book. We will also use software to polish students' English ability.

- 1回 Introduction
- 2回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 3回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 4回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 5回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 6回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 7回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 8回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 9回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 10回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 11回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 12回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 13回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 14回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on five factors: attendance, effort in class, completion of homework, in-class assignment, tests and final examination. Complete breakdowns of score percentage for the final grade on the basis of your performance in classroom activities and on the results of tests. participation in class 15% completion of homework and in-class assignment 58% final exam 27%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The students must be prepared to listen to and memorize the sounds they hear on Audio CDs, as well as to be able to spell the words they hear. The students must also use Interactive CD-ROM for homework. Student must ask questions in class.
第1回目の授業にすべてのテキストを必ず持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的読解力を養成すべく、日常会話で用いられる程度の英語を読んだり聞いたりしたときに、その内容を把握できるようになるために、ある状況下で用いられる表現や語彙を出来る限り覚えていく。読解力の度合いを測るためにTOEICで400点を獲得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

西田晴美 『Power Charge for the TOEIC Test』 (金星堂) ISBN978-4-7647-3874-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 英語の構造【品詞】
 - 2回 TOEIC Listening Part の練習【先読み】
 - 3回 TOEIC Reading Part の練習【速読】
 - 4回 Unit 1 Eating Out【文型】
 - 5回 Unit 1 Eating Out【語順】
 - 6回 Unit 2 Amusement【名詞】
 - 7回 Unit 2 Amusement【代名詞】
 - 8回 Unit 3 Daily Life【形容詞】【名詞】
 - 9回 Unit 3 Daily Life【副詞】【動詞】
 - 10回 Unit 4 Directions【動詞の活用】
 - 11回 Unit 4 Directions【分詞】【形容詞】
 - 12回 Unit 5 Travel【自動詞】【他動詞】
 - 13回 Unit 5 Travel【助動詞】
 - 14回 まとめ
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 確認テスト・課題...30% 期末試験...60%
(理由なく欠席を4回した場合、期末試験を受けることはできません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校入試レベルの文法書を準備しておく役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の総合的な力をつける。その目標のために、使用テキストに書かれているように、知的世界に遊ぶ、楽しみながら、考える英語力を目指し、内容ある雄弁な英語能力を向上させる。

教科書 /Textbooks

Debating Current Issues 意見の相違から見る社会問題 (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキストの補助教材としてThe Japan Timesから短い記事をピックアップして配布

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Chapter 1 Cell Phone
- 2回 Chapter 1 Cell Phone
- 3回 Chapter 2 Student Evaluations
- 4回 Chapter 2 Student Evaluations
- 5回 Chapter 3 The Gender Gap
- 6回 Chapter 3 The Gender Gap
- 7回 Chapter 4 Manga and Anime
- 8回 Chapter 4 Manga and Anime
- 9回 Chapter 5 Global Food Shortage
- 10回 Chapter 5 Global Food Shortage
- 11回 Chapter 6 The Oil Crisis
- 12回 Chapter 6 The Oil Crisis
- 13回 Chapter 7 The True Spirit of the Olympics
- 14回 Chapter 7 The True Spirit of the Olympics
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30% 報告 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 新藤 照夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、具体的にある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

A Strategic Approach to the TOEIC Test Listening 西陰浩子 他 著 (成美堂)
Practical Tips for the TOEIC Test 杉田麻哉 他 著 (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Getting Ready for a Business Trip/Chapter 1
- 3回 Departure/Chapter2
- 4回 On a Plane/Chapter3
- 5回 Arrival/Chapter4
- 6回 Meeting People/Chapter5
- 7回 Mini-test 1/Chapter6
- 8回 Making an Appointment/Chapter7
- 9回 At a Hotel/Chapter8
- 10回 TOEIC 模擬テスト
- 11回 Visiting a Company/Chapter9
- 12回 Small Talk (1)/Chapter10
- 13回 Negotiation/Chapter11
- 14回 Mini-Test 2/Chapter12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 (小テスト含む) 40% + 学期末試験60%、TOEIC受験結果

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の準備を毎回十分にやること。
日頃から英語に親しむ・学習する機会を出来るだけ作ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

林 裕二著 Seize the main points of the TOEIC Test 「ターゲットとポイントで学ぶTOEIC テスト」(金星堂 ¥1995)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Unit1 基本時制
- 3回 Unit1
- 4回 Unit2 進行形・完了形
- 5回 読解プリント
- 6回 Unit2
- 7回 Unit3 名詞と主語と動詞の一致
- 8回 Unit3
- 9回 Unit3
- 10回 読解プリント
- 11回 Unit7 助動詞
- 12回 Unit7
- 13回 Unit7
- 14回 Unit7
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%) + 学期末試験(80%) × TOEIC・TOEFL受験結果

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群 1 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

実用的な英語運用能力を測定するテストとしてのTOEICの重要性は近年ますます高まってきている。TOEIC受験を奨励する企業も多く、就職対策としてスコア向上は急務である。そこで授業ではTOEIC対策として、テスト形式と連動して作成されたテキストを用い(目標500点)、基本的な語彙、文法をマスターしながら、リスニング・リーディング両方にわたる総合的な英語運用能力を養成していく。また1学期は、Reader Explorer 1という写真や図表が効果的に用いられているテキストを使い、世界の異なる文化に触れ、興味深いトピックを発見しながら、特にリーディングの強化をはかる。

教科書 /Textbooks

『新TOEICテスト全パート完全征服ガイド』(Conquering the TOEIC Test)
著者：河原真也・野上良子
発行所：朝日出版社 (ISBN978-4-255-15458-9)
Reading Explorer 1
発行所：センテージ ラーニングELT(ISBN978-1-4240-0637-3)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	TOEIC Ch.1 【写真描写問題】	Reading Explorer Unit 1: Amazing Animals
2回	TOEIC Ch.2 【応答問題】	R E Unit 2: Travel and Adventure
3回	TOEIC Ch.3 【会話問題】	R E Unit 3: Music and Festivals
4回	TOEIC Ch.4 【説明文問題】	R E Review 1
5回	TOEIC 【Practice for Listening Parts】	R E Unit 4: Other Worlds
6回	TOEIC Ch.5 【短文穴埋め問題】	R E Unit 5: City Living
7回	TOEIC Ch.6 【長文穴埋め問題】	R E Unit 6: Clothing and Fashion
8回	TOEIC Ch.7 【読解問題】	R E Review 2
9回	TOEIC 【Practice for Reading Parts】	R E Unit 7: Dinosaurs Come Alive
10回	TOEIC Ch.8 【Mini Test 1】	R E Unit 8: Stories and Storytellers
11回	TOEIC Ch.9 【Mini Test 2】	RE Unit 9: Tough Jobs
12回	TOEIC Ch.10 【Mini Test 3】	R E Review 3
13回	TOEIC Ch.11 【Mini Test 4】	R E Unit 10: Pyramid Builders
14回	TOEIC Ch.12 【Mini Test 5】	R E Unit 11: Legends of the Sea
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

本学の英語教育基本方針により、少なくとも年1回のTOEIC受験が義務付けられている。成績評価は「個別教員による評価」+「TOEIC到達度」からなる。個別教員の評価は、定期試験(50%)、小テストの成績(25%)、課題(25%)及び出席状況や授業中の態度などを総合的に判断してなされる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、単語を集中的に学習し、さらに実践的な問題(TOEIC Bridgeの問題)を解くことで、実用的な英語力の養成をはかります。

教科書 /Textbooks

『DUO[デュオ] セレクト』(出版社:アイシーピー)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方等の説明及び小テストの実施。
- 2回 テキスト「Section 1, 2, 3」
- 3回 テキスト「Section 4, 5, 6」
- 4回 テキスト「Section 7, 8, 9」
- 5回 テキスト「Section 10, 11, 12」
- 6回 テキスト「Section 13, 14, 15」
- 7回 テキスト「Section 16, 17, 18」
- 8回 復習
- 9回 テキスト「Section 19, 20, 21」
- 10回 テキスト「Section 22, 23, 24」
- 11回 テキスト「Section 25, 26, 27」
- 12回 テキスト「Section 28, 29, 30」
- 13回 テキスト「Section 31, 32, 33」
- 14回 復習
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)... 30% 課題(中テストを含む)... 30% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回小テストを実施するので、予習及び復習を必ずやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースはリーディング用の教材とTOEIC対策の2本立てで行う。リーディングは社会科学系のエッセイを中心に読む。このことを通して、今後の専門分野の英文を読む下地を築き上げる。ただ和訳していただくだけではなく、テキストの英文をインプットし、インテイクし（音読）、アウトプットする「トレーニング」を行う。

教科書 /Textbooks

『Outlook on Society : Skills for Better Reading II 構造で読む社会科学エッセイ』Yumiko Ishitani, Emma Andrew 著、南雲堂。
『Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 1』David E. Bramley、河合忠仁著、松柏社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン (成績評価の説明、予習の仕方、授業の進め方等)
- 2回 Unit 1 理由で押し切る!
- 3回 Unit 2 プームを考える
- 4回 Unit 3 社会現象を考える
- 5回 Unit 4 説得は実験で
- 6回 Unit 5 賛成? 反対?
- 7回 Unit 6 比べてみよう
- 8回 Unit 7 きちんと分類
- 9回 Unit 8 歴史をたどる
- 10回 Unit 9 原因を探る
- 11回 Unit 10 手順・過程を説明する
- 12回 Unit 11 理論の説明
- 13回 Unit 12 最近気になる言葉を考えよう
- 14回 Unit 13 データで説得
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) ... 50%、 学期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定した方法で予習をしてくること。必ず辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、基礎文法を扱った教材を通して特にリスニング及びリーディング力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

石井隆之 他著「Access to simple English」成美堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
- 2回 Chapter 1 基本時制
- 3回 Chapter 2 進行形
- 4回 Chapter 3 完了形
- 5回 Chapter 4 受動態
- 6回 Chapter 6 5文型
- 7回 Chapter17 助動詞
- 8回 Chapter 8 不定詞
- 9回 Chapter 9 動名詞
- 10回 Chpater10 分詞
- 11回 Chapter15 関係代名詞
- 12回 Chapter16 関係副詞
- 13回 Chapter18 仮定法
- 14回 Chapter22 比較
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト50% + 期末テスト50%
 欠席2回まで。遅刻2回で1回で欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life. In addition, you will study and take the TOEIC test independently to help you function effectively in international society using English after you have graduated.

教科書 /Textbooks

Teaching materials will be provided by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 What is culture?
- 3 回 Power and achievement
- 4 回 Universalism and benevolence
- 5 回 Tradition, security and conformity
- 6 回 Stimulation, self-direction and hedonism
- 7 回 Speeches & discussion
- 8 回 Speeches & discussion
- 9 回 Speeches & discussion
- 1 0 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 1 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 2 回 Intercultural negotiation
- 1 3 回 Intercultural mediation
- 1 4 回 Stereotypes
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grade = Teacher grade + your actual TOEIC (TOEFL) score (balanced)
TOEIC (TOEFL)スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を読んだり、聞いたりしたときの理解度・読解度を高める。その到達度をみるためにTOEICで500点を獲得することを目的とする。ここでは特にTOEICで高得点を目指すため、その練習に重点を置く。

教科書 /Textbooks

西田晴美 『Power Charge for the TOEIC Test』 (金星堂) ISBN978-4-7647-3874-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 Unit 6 Advertising【時制】
- 2回 Unit 6【時制】【節】
- 3回 Unit 7 Personnel【イディオム】
- 4回 Unit 8 Purchases【一致】【主語】【述語動詞】
- 5回 Unit 9 Office Work【不定詞】【名詞】【形容詞】【副詞】
- 6回 Unit 9 Office Work【動名詞】【名詞】
- 7回 Unit 9 Office Work【不定詞】【動名詞】【動詞】
- 8回 Unit 10 Employment【関係代名詞】【形容詞】【代名詞】
- 9回 Unit 10 Employment【関係副詞】【副詞】
- 10回 Unit 11 Business【接続詞】【節】
- 11回 Unit 11 Business【前置詞】【句】
- 12回 Unit 12 Finance & Banking【構文】
- 13回 Unit 13 Health & Welfare【仮定法】【時制】
- 14回 Unit 14 Computers & The Internet【仮定法】【時制】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題...30% 期末試験...60%
(理由なく欠席を4回した場合、期末試験を受けることはできません)
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校入試レベルの文法書を準備しておくと役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期で習得した英語力を、Japan Timesの記事を用いながらさらに伸ばしていく。記事の内容は様々で、政治・社会などや時には社説などを読み解くことで総合的な読解力をつける。

教科書 /Textbooks

主としてJapan Timesのオンラインニュース

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のやり方を説明し、2回目のプリント配布。
- 2回 Japan Timesの記事の内容を解釈。予め指名された学生によるまとめ(英文による)
- 3回 3回目から14回目までは2回目と同じ方法ですすめる。
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30% 報告 20% 期末試験 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 新藤 照夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、具体的にある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

A Strategic Approach to the TOEIC Test Listening 西陰浩子 他 著 (成美堂)
TOEIC Test: On Target <Book1> 大賀リ工 他 著 (南雲堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Sickness and Injury/Chapter 1
- 3回 Transportation/Chapter2
- 4回 Presentation/Chapter3
- 5回 Trouble/Chapter4
- 6回 Small Talk 2/Chapter5
- 7回 Mini-test 3/Chapter6
- 8回 At a Restaurant/Chapter7
- 9回 Making a Complaint/Chapter8
- 10回 TOEIC 模擬テスト
- 11回 Shopping/Chapter9
- 12回 Sightseeing/Chapter10
- 13回 Returning Home/Chapter11
- 14回 Mini-Test 4/Chapter12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 (小テスト含む) 40% + 学期末試験60%、TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の準備を毎回十分にやること。
日頃から英語に親しむ・学習する機会を出来るだけ作ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

林 裕二著 Seize the main points of the TOEIC Test 「ターゲットとポイントで学ぶTOEIC テスト」(金星堂 ¥1995)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Unit6 不定詞と動名詞
- 3回 Unit6
- 4回 Unit6
- 5回 読解プリント
- 6回 Unit6
- 7回 Unit6
- 8回 Unit6
- 9回 Unit6
- 10回 読解プリント
- 11回 Unit5 分詞
- 12回 Unit5
- 13回 Unit5
- 14回 Unit5
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%) + 学期末試験(80%) × TOEIC・TOEFL受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
Points of this class are listening, reading and writing English. The class is taught in English. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to communicate confidently when they spend time studying, working or traveling in English.

教科書 /Textbooks
① "Word Master Approach for the TOEIC Test" <Word Book> Published by Seibido
② "The Heinle Picture Dictionary English/日本語", Audio CDs and Interactive CD-ROM Published by Thomson
③ 『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』 朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
This course will help the students to increase their English vocabulary while listening to English speakers and looking at pictures in the text book. We will also use software to polish students' English ability.
1回 Introduction
2回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
3回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
4回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
5回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
6回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
7回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
8回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
9回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
10回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
11回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
12回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
13回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
14回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method
Grades will be based on five factors: attendance, effort in class, completion of homework, in-class assignment, tests and final examination. Complete breakdowns of score percentage for the final grade on the basis of your performance in classroom activities and on the results of tests. participation in class 15% completion of homework and in-class assignment 58% final exam 27%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
The students must be prepared to listen to and memorize the sounds they hear on Audio CDs, as well as to be able to spell the words they hear. The students must also use Interactive CD-ROM for homework. Student must ask questions in class.
第1回目の授業にすべてのテキストを必ず持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に引き続き、単語を集中的に学習し、さらに実践的な問題(TOEICの問題)を解くことで実用的な英語力の養成をはかります。

教科書 /Textbooks

『DUO[デュオ]セレクト』(出版社:アイシーピー)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICの問題を利用した簡易テストを実施。
- 2回 テキスト「Section 1, 2, 3」
- 3回 テキスト「Section 4, 5, 6」
- 4回 テキスト「Section 7, 8, 9」
- 5回 テキスト「Section 10, 11, 12」
- 6回 テキスト「Section 13, 14, 15」
- 7回 テキスト「Section 16, 17, 18」
- 8回 復習
- 9回 テキスト「Section 19, 20, 21」
- 10回 テキスト「Section 22, 23, 24」
- 11回 テキスト「Section 25, 26, 27」
- 12回 テキスト「Section 28, 29, 30」
- 13回 テキスト「Section 31, 32, 33」
- 14回 復習
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)... 30% 課題(中テストを含む)... 30% 期末試験... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回小テストを実施するので、予習及び復習をやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースでは英語Iで用いたテキストに収められた長めの英文を使用する。「トレーニング」の内容もやや難易度の高いものに挑戦していく。TOEIC対策も引き続き行う。

教科書 /Textbooks

『Outlook on Society : Skills for Better Reading II 構造で読む社会科学エッセイ』Yumiko Ishitani, Emma Andrew 著、南雲堂。
『Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 1 新TOEIC Test文法・リーディング対策初級問題集』David E. Bramley / 河合忠仁著、松柏社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション (成績評価の説明、予習の仕方、授業の進め方等)
- 2回 Unit 1 理由で押し切る!
- 3回 Unit 2 プームを考える
- 4回 Unit 3 社会現象を考える
- 5回 Unit 4 説得は実験で
- 6回 Unit 5 賛成? 反対?
- 7回 Unit 6 比べてみよう
- 8回 Unit 7 きちんと分類
- 9回 Unit 8 歴史をたどる
- 10回 Unit 9 原因を探る
- 11回 Unit 10 手順・過程を説明する
- 12回 Unit 11 理論の説明
- 13回 Unit 12 最近気になる言葉を考えよう
- 14回 Unit 13 データで説得
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) ... 50%、 学期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定した方法で予習をしてくること。必ず辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題を扱った教材を通して、特にリスニング及びリーディング力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

寺西雅之 他著 「TOEIC Test Success」 南雲堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテストを受験する学生は、授業とは別に個人のスコアにあった問題集で自習することを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
- 2回 Lesson 1 English Studies
- 3回 Lesson 2 Scheduling and Planning
- 4回 Lesson 3 English Language Proficiency Tests and Business
- 5回 Lesson 4 Dating, Relationships, and Advice
- 6回 Lesson 5 Music and Style
- 7回 Lesson 6 Jobs and Employment
- 8回 Lesson 7 Health and Fitness
- 9回 Lesson 8 Finding Purpose and Setting Life Goals
- 10回 Lesson 9 Money and Happiness
- 11回 Lesson 10 Travel and Adventure
- 12回 Lesson 11 Movies and Preferences
- 13回 Lesson 12 Museums and Culture
- 14回 Lesson 13 Disabilities and Access
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト50% + 期末テスト50%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業予習を必ずしてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Basic communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation and Introductions
- 2 回 Text Unit 2 "Meeting People"
- 3 回 Text Unit 3 "Around the World"
- 4 回 Text Unit 4 "Setting Up a Home Office"
- 5 回 Text Unit 5 "Favorite Things"
- 6 回 Text Unit 6 "Interesting Places"
- 7 回 Text Unit 7 "Office...or Living Room?"
- 8 回 Text Unit 9 "The Collectors"
- 9 回 Text Unit 10 "The Modern World"
- 1 0 回 Game Day!
- 1 1 回 Text Unit 11 "Traveling"
- 1 2 回 Text Unit 12 "Shopping"
- 1 3 回 Text Unit 14 "Job Exchange"
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will be handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Under the Blossoms By Kaori Shoji
- "
- 第3回 "Essay - 2 The Edo Spirit By Kaori Shoji
- "
- 第4回 "Essay - 3 Tough to Swallow By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 Caveat Emptor By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第6回 "Essay - 5 I will survive By Anita Lee
- "
- 第7回 "Essay - 6 Going on ten ... By Anita Lee
- "
- 第8回 "Essay - 7 Honing Appreciation By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第9回 "Essay - 8 Leaving it all behind By Samantha Loong
- "
- 第10回 "Essay - 9 The Halloween Exorcise Plan By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 Promoting reading By Joel Assogba
- "
- 第12回 "Essay - 11 Abandoned buildings By Samantha Loong
- "
- 第13回 "Essay - 12 History, is it worth it? By Garry Bassin
- "
- 第14回 "Essay - 13 No ifs, ands, or butts By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life.

教科書 /Textbooks

Identity by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka and Miyuki Iida. Oxford University Press.
ISBN: 0-19-438574-4 (2003年10月)、2439円(当時)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2回 Identity
- 3回 Identity
- 4回 Values
- 5回 Values
- 6回 Culture Shock
- 7回 Culture Shock
- 8回 Culture in Language
- 9回 Culture in Language
- 10回 Film Review (Cultural Difference)
- 11回 Film Review (Cultural Difference)
- 12回 Group Work: Discussion Skills
- 13回 Body Language and Customs
- 14回 Body Language and Customs (make-up class)
- 15回 Review (make-up class)

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking Ability 50% Writing Ability 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 1. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to course.
- 2回 Unit 1 The Guy with Green Hair. Talking about yourself.
- 3回 Unit 2 The Shoplifter. Difficult experiences.
- 4回 Unit 3 I'm not addicted. Online life.
- 5回 Review
- 6回 Unit 4 Beauty Contest. Big accomplishments.
- 7回 Unit 5 Who Pays? Rules for dating and gender roles.
- 8回 Unit 6 Saying "I Love You." Expressing feelings openly.
- 9回 Review
- 10回 Unit 7 Family Values. Is it always important to tell the truth?
- 11回 Unit 8 Cyber Love. Relationship values.
- 12回 Unit 9 A Letter from Grandma. Staying in touch.
- 13回 Unit 10 Fan Worship. Obsessions.
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバ / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 律政群 1 - E
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction
- 第2回 Would you like beef or fish?
- 第3回 Can I have your passport, please?
- 第4回 Do you have any vacancies?
- 第5回 Go straight along Seventh Avenue
- 第6回 Out and About 1: Sightseeing
- 第7回 Do you mind if I watch TV?
- 第8回 How do you feel?
- 第9回 Are you free this weekend?
- 第10回 Are you ready to order?
- 第11回 My father works in a bank.
- 第12回 Out and About 2: Eating Out
- 第13回 Important expressions and vocabulary review
- 第14回 Summary and exam guidance
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義・他

クラス 律政群 1 - F
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance =50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

クラス 律政群 1 - G
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Development of practical communication skills through study of various English materials. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Orientation
- 2 回 Timed English Speeches and Q&A sessions.
- 3 回 Unit 1 and discussion in English
- 4 回 Unit 2 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 3 and discussion in English
- 7 回 Unit 4 and discussion in English
- 8 回 Unit 5 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 6 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 7 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 8 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The course aims to provide students with opportunities to activate their knowledge and improve their confidence and ability to use everyday English in a variety of situations. In addition to using the core text, students will be expected to participate in activities such as discussing daily events, task solving, role-play, presentations and semi-formal discussions. They will work alone, in pairs and in groups. The focus will be on speaking and listening, however students will also be required to complete several written reports on class activities and discussions.

教科書 /Textbooks

To be announced

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary, access to the internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and Goal Setting
- 2 回 Unit 1, Conversation Strategies
- 3 回 Unit 2, Notes on Public Speaking
- 4 回 Discussion round #1
- 5 回 Unit 3, Short Presentation Topics Part A
- 6 回 Review of Units 1 to 3
- 7 回 Unit 4, Independent Study Skills
- 8 回 Discussion round # 2
- 9 回 Unit 5 Short Presentations Part B
- 1 0 回 Unit 6, Story Telling Experiences through narrative
- 1 1 回 Unit 7, Sharing experience through conversation
- 1 2 回 Discussion round # 3
- 1 3 回 Unit 8, Speculation about future events
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Course Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and Participation 30%, Scheduled tasks 30%, Mini-test and folio 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to prepare in advance for scheduled activities.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

“British Life Today : An Introduction” 南雲堂
TOEIC : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業の進め方、プリントによるListening演習)
- 2回 授業前半 : TOEIC演習 : Chapter 1 から順次進めていく。
授業後半 : Unit 1 から順次進めていく。
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

クラス 律政群 1 - A
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Basic communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer
- 2 回 Text Unit 15 “Family”
- 3 回 Text Unit 16 “In a Cafe”
- 4 回 Text Unit 17 “Hurricane”
- 5 回 Text Unit 18 “Memories”
- 6 回 Text Unit 19 “A Day in the Life of...”
- 7 回 Text Unit 20 “Love at First Sight?”
- 8 回 Text Unit 22 “It’s on the Right”
- 9 回 Text Unit 23 “Big Plans”
- 1 0 回 Christmas Lesson!
- 1 1 回 Text Unit 24 “A New Year”
- 1 2 回 Text Unit 26 “North and South”
- 1 3 回 Text Unit 27 “The Best Food in Town”
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Earthquake Weather By Samantha Loong
- "
- 第3回 "Essay - 2 Enjoy Every Sandwich By Steve Ford
- "
- 第4回 "Essay - 3 Summer Preserves By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 The Island Monologues By Garry Bassin
- "
- 第6回 "Essay - 5 It's tough being a man, but it's a whole new ball game By Kaori Shoji
- "
- 第7回 "Essay - 6 Thriller By Kit Pancoast Nagamur
- "
- 第8回 "Essay - 7 Dialect Diversity By Samantha Loong
- "
- 第9回 "Essay - 8 Fear of the Unknown By Garry Bassin
- "
- 第10回 "Essay - 9 Flee! Fly! Flu! By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 The Birds By Garry Bassin
- "
- 第12回 "Essay - 11 Blowing smoke By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第13回 "Essay - 12 Don't Kill the Messenger By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第14回 "Essay - 13 Restore, Not Raze By Karen Severns
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life.

教科書 /Textbooks

Identity by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka and Miyuki Iida. Oxford University Press.
ISBN: 0-19-438574-4 (2003年10月)、2439円(当時)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2回 Individualism
- 3回 Individualism
- 4回 Politeness
- 5回 Politeness
- 6回 Communication Styles
- 7回 Communication Styles
- 8回 Gender and Culture
- 9回 Gender and Culture
- 10回 Film Review (Cultural Difference)
- 11回 Film Review (Cultural Difference)
- 12回 Group Work: Discussion Skills
- 13回 Diversity
- 14回 Diversity
- 15回 Review (make-up class)

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking Ability 50% Writing Ability 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 1. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 First Semester Review.
- 2回 Unit 11 Pet Peeve. Bad experiences.
- 3回 Unit 12 Close Your Eyes and See. Disabilities.
- 4回 Unit 13 Will Children Save the Earth? Environmental problems.
- 5回 Review
- 6回 Unit 14 Get a Job! Life goals.
- 7回 Unit 15 To Tell or Not To Tell. Reasons and excuses.
- 8回 Unit 16 The Dream. The meaning of dreams.
- 9回 Review
- 10回 Unit 17 To Have or Have Not. Having children.
- 11回 Unit 18 Are Humans Smart?
- 12回 Unit 19 Cloning Cyndi. For and against cloning.
- 13回 Unit 20 Why Learn English?
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course objectives and a progress review
- 第2回 What's your favourite food?
- 第3回 What would you like to drink?
- 第4回 I won't be home for lunch today.
- 第5回 Could you tell me when we'll there please?
- 第6回 How would you like to pay?
- 第7回 Out and About 3: Getting around
- 第8回 Can I send this airmail?
- 第9回 What time does the show start?
- 第10回 Where did you lose did?
- 第11回 Goodbye and thanks!
- 第12回 How many bags do you have?
- 第13回 Important expressions and vocabulary review
- 第14回 Summary and exam guidance
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義・他
/Class Format

クラス 律政群 1 - F
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques
Week 8	Control Techniques
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting
Week 11	Charting
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群 1 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Development of practical communication skills through study of various English materials. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Timed Speeches and Q&A sessions
- 2 回 Unit 9 and discussion in English
- 3 回 Unit 10 and discussion in English
- 4 回 Unit 11 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 12 and discussion in English
- 7 回 Unit 13 and discussion in English
- 8 回 Unit 14 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 15 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 16 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 17 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力定着のため、英語によるコミュニケーション力の基盤作りを目的とする授業を行う。加えて、英語圏の文化知識の理解も深めることを目指したい。講義全体のキーワードは「会話のための文法力」、「異文化理解」、「コミュニケーション力」です。

教科書 /Textbooks

配布プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 Daily Life (1)
- 4回 Daily Life (2)
- 5回 Family Member
- 6回 Time Expression
- 7回 Place Expression (1)
- 8回 Place Expression (2)
- 9回 On the Telephone
- 10回 Student Housing
- 11回 Student Activities (1)
- 12回 Student Activities (2)
- 13回 Complaining
- 14回 Negotiations
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ... 40% 平常の学習状況 (小テストなど含む) ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

“British Life Today : An Introduction” 南雲堂
TOEIC : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
授業前半 : TOEIC演習 : Chapter 1 から順次進めていく。
授業後半 : Reading : Unit 1から順次進めていく。
- 2回
3回
4回
5回
6回
7回
8回
9回
10回
11回
12回
13回
14回
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：法律と文化
ねらい：① 英語教材を通して、法律と文化を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方・ Unit 1
第2回 Unit 2
第3回 Unit 3
第4回 Unit 4
第5回 Unit 5
第6回 Unit 6
第7回 Unit 7
第8回 Unit 8
第9回 Unit 9
第10回 Unit 10
第11回 Unit 11
第12回 Unit 12
第13回 Unit 13
第14回 Unit 14
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースではCIA Fact Book等のデータをもとに編集されたテキストを読む。環境問題、人口問題など現代社会が抱える問題を英語で読んでいく。また読むだけでなく、そこで使われている表現や語彙を習得し、使える（アウトプット）ように「トレーニング」していく。TOEIC対策も行う。

教科書 /Textbooks

『A World of Change on the Web 変貌する世界』 Setsuko Watanabe他、南雲堂。
『Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2 新TOEIC Test文法・リーディング対策中級問題集』 David E. Bramley / 河合忠仁著、松柏社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション (成績評価の説明、予習の仕方、授業の進め方等)
- 2回 Unit 1 Ethnic Stereotypes
- 3回 Unit 2 Endangered Species 1
- 4回 Unit 3 Endangered Species 2
- 5回 Unit 4 Modern Masters of Art
- 6回 Unit 5 Champions of Peace
- 7回 Unit 6 Myspace and Wikipedia
- 8回 Unit 7 Champions of Charity
- 9回 Unit 8 Global Warming
- 10回 Unit 9 Polar Bears on Thin Ice
- 11回 Unit 10 Over Population
- 12回 Unit 11 An Era of Adoption?
- 13回 Unit 12 Are Diamonds Really a Girl's Best Friend?
- 14回 Unit 13 Gambling around the Globe
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) ... 50%、 学期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定した方法で予習をしてくること。必ず辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

林 裕二著 Seize the main points of the TOEIC Test 「ターゲットとポイントで学ぶTOEIC テスト」(金星堂 ¥1995)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Unit1 基本時制
- 3回 Unit1
- 4回 Unit2 進行形・完了形
- 5回 読解プリント
- 6回 Unit2
- 7回 Unit3 名詞と主語と動詞の一致
- 8回 Unit3
- 9回 Unit3
- 10回 読解プリント
- 11回 Unit7 助動詞
- 12回 Unit7
- 13回 Unit7
- 14回 Unit7
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%) + 学期末試験(80%) × TOEIC・TOEFL受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 律政群2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

Successful Keys To the ToEIC Test 1 by Kirihara Shoten

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 1 0 % 試験 ... 9 0 %

4 回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 C D を聞いて、Self Study Quiz の予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 中島 美穂子 / nakashima mihoko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政2 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文法とリスニングに重きを置き英語の4技能をつけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

First Time Grammar トムソンコーポレーション (2007年1月)
『新TOEIC テスト全パート対応ヴォキャブラリー徹底演習』三修社 (2009年10月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文(I) Lesson 1
- 3回 文(II) Lesson 2
- 4回 名詞・冠詞 Lesson 3
- 5回 代名詞 Lesson 4
- 6回 形容詞・副詞 Lesson 5
- 7回 be動詞・一般動詞 Lesson 6
- 8回 助動詞 Lesson 7
- 9回 接続詞 Lesson 8
- 10回 句・節 Lesson 9
- 11回 比較 Lesson10
- 12回 関係詞 Lesson11
- 13回 否定 Lesson12
- 14回 基本時制 Lesson13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 授業態度...20% 期末試験...20% 宿題...10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習をしてくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

SF作家Fredric Brownの短編小説を題材にしたテキストを用いて、「鑑賞のポイント」で重要構文を学習して読解力を高めると同時に、その小説世界を味わいます。仕上げとして演習問題に取り組み、学んだ知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

高本孝子 / 池園宏編 “Let's Enjoy SF Short-Shorts: English Learning through Fredric Brown's Astounding Stories” 開文社、2010年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 “Daisies” (1) 「隠れている成句表現を見つけよう」
- 2回 “Daisies” (2) 「基本動詞の概念をつかもう(1)」
- 3回 “Sentence” (1) 「主節の主語・述語動詞を見つけよう」
- 4回 “Sentence” (2) 「基本動詞の概念をつかもう(2)」
- 5回 “Pattern” (1) 「過去形と過去分詞形を見分けよう」
- 6回 “Pattern” (2) 「時制に気をつけよう」
- 7回 “Solipsist” (1) 「andが結ぶものを見つけよう」
- 8回 “Solipsist” (2) 「関係代名詞の省略を見抜こう」
- 9回 “Preposterous” (1) 「類義語はひとまとめで考えよう」
- 10回 “Preposterous” (2) 「知らない単語の意味は接辞・語根から推測しよう」
- 11回 “Reconciliation” (1) 「場面を思い描きながら読もう」
- 12回 “Reconciliation” (2) 「形容詞+名詞で多彩な表現をしよう」
- 13回 “Answer” (1) 「関係代名詞の訳は『ところの』でなくても良い」
- 14回 “Answer” (2) 「難解な単語に振り回されないようにしよう」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 小テスト... 20% 期末試験... 60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をして授業に臨みましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
(1) 英語のReading及びListeningの能力を養う。
(2) 英語の資格試験に必要な文法事項を学習する。

教科書 /Textbooks

How to Receive a Better Score for the New TOEIC Test (松柏社)、2008年4月
「新TOEICテスト全パート得点のコツをレッスン」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol.3 (発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1 類似音、語彙、ビジネスレター
- 第3回 Chapter 2 Yes/No Question、語彙、記事
- 第4回 Chapter 3 プライベートな会話、品詞、広告
- 第5回 Chapter 4 部分的不一致、品詞、通知、告知
- 第6回 Chapter 5 Wh-questions、関係詞、図表
- 第7回 Chapter 6 ビジネス上の会話、関係詞、e-mail
- 第8回 Chapter 7 公共アナウンス、時制、ビジネスレター
- 第9回 Chapter 8 間接疑問文、時制、記事
- 第10回 Chapter 9 他人同士の会話、倒置構文、広告
- 第11回 Chapter 10 商業案内、倒置構文、通知、告知
- 第12回 Economic Growth
- 第13回 Automobile Society
- 第14回 小テスト (100)
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 小テスト、レポート (20%)
 - ・ 出席、授業参加 (20%)
 - ・ 期末考査 (60%)
- 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。

1. 語彙を増やす
2. リスニング力を強化する
3. 文法、語法の知識を身につける
4. 速読の能力を高める
5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書 /Textbooks

“Total Strategy for the TOEIC Test” by T. Ishii et al. (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Computers and Society
- 3回 Business Transaction
- 4回 At the Office
- 5回 Cars and Society
- 6回 Eating and Drinking
- 7回 Shopping
- 8回 Entertainment
- 9回 Accidents & Crimes
- 10回 Teaching & Learning
- 11回 Finance and Banks
- 12回 Economy and Industry
- 13回 Geography and Travels
- 14回 Weather and Climate
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) ... 50%、 期末試験 ... 50%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に小テストや予習範囲等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題を扱った教材を通して、特にリスニング及びリーディング力の向上を目指す。1学期は、TOEICスコア500点を目標とする。

教科書 /Textbooks

田中清美 著 「Effective Approaches to the TOEIC Test」 南雲堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大量に問題が出題されるTOEICテストで目標スコアを確実に取得する実力をつけるために、授業で使用するテキストとは別にTOEIC問題をレベル別に扱った問題集(スコア500~レベル)で自己学習することを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実カテスト(必ず出席のこと)
- 2回 Unit 1 ~2 各パート問題
- 3回 Unit 3 ~4 各パート問題
- 4回 Unit 5 ~6 各パート問題
- 5回 Unit 7 ~8 各パート問題
- 6回 Unit 9 ~10 各パート問題
- 7回 Unit 11 ~12 各パート問題
- 8回 Unit 13 ~14 各パート問題
- 9回 Unit 15 ~16 各パート問題
- 10回 Unit 17 ~18 各パート問題
- 11回 Unit 19 ~20 各パート問題
- 12回 TOEIC 問題を扱ったプリント配布
- 13回 TOEIC 問題を扱ったプリント配布
- 14回 TOEIC 問題を扱ったプリント配布
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア500点以上10%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。TOEIC400点未満単位取得不可。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：政治と文化
ねらい：① 英語教材を通して、政治と文化を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方・ Unit 1
第2回 Unit 2
第3回 Unit 3
第4回 Unit 4
第5回 Unit 5
第6回 Unit 6
第7回 Unit 7
第8回 Unit 8
第9回 Unit 9
第10回 Unit 10
第11回 Unit 11
第12回 Unit 12
第13回 Unit 13
第14回 Unit 14
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政群2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースでは前期と同じテキストを7回目まで読んでいく。それ以降は英字新聞を読み進めていく。また読むだけでなく、そこで使われている表現や語彙を習得し、使える(アウトプット)ように「トレーニング」していく。TOEIC対策も行う。

教科書 /Textbooks

『A World of Change on the Web 変貌する世界』 Setsuko Watanabe他、南雲堂。
『Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2 新TOEIC Test文法・リーディング対策中級問題集』 David E. Bramley / 河合忠仁著、松柏社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(成績評価の説明、予習の仕方、授業の進め方等)
- 2回 Unit 14 Our Bodies and Obesity
- 3回 Unit 15 Growing Old—Living Long
- 4回 Unit 16 Ever—Changing Energy
- 5回 Unit 17 The Natural Way—Medicine and Trade
- 6回 Unit 18 Copyright—What Are the Rules?
- 7回 Unit 19 Veg—Out!
- 8回 Unit 20 HIV/ AIDS around the World
- 9回 英字新聞の読み方：見出し、パラグラフの構成
- 10回 英字新聞を読む1
- 11回 英字新聞を読む2
- 12回 英字新聞を読む3
- 13回 英字新聞を読む4
- 14回 英字新聞を読む5
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) ... 50%、 学期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定した方法で予習をしてくること。必ず辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

林 裕二著 Seize the main points of the TOEIC Test 「ターゲットとポイントで学ぶTOEIC テスト」(金星堂 ¥1995)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Unit6 不定詞と動名詞
- 3回 Unit6
- 4回 Unit6
- 5回 読解プリント
- 6回 Unit6
- 7回 Unit6
- 8回 Unit6
- 9回 Unit6
- 10回 読解プリント
- 11回 Unit5 分詞
- 12回 Unit5
- 13回 Unit5
- 14回 Unit5
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%) + 学期末試験(80%) × TOEIC・TOEFL受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 律政群2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

新TOEICテスト全パート対応 ヴォキャブラリー徹底演習 by Satoru Huruya

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1 回 Lesson1
- 2 回 lesson2
- 3 回 Lesson3
- 4 回 Lesson4
- 5 回 Lesson5
- 6 回 Lesson6
- 7 回 Lesson7
- 8 回 Lesson8
- 9 回 Lesson9
- 1 0 回 Lesson10
- 1 1 回 Lesson11
- 1 2 回 Lesson12
- 1 3 回 Lesson13
- 1 4 回 Lesson14
- 1 5 回 review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 1 0 % 試験 ... 9 0 %

4 回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 CDを聞いて予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 美穂子 / nakashima mihoko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政2 - H /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文法とリスニングに重きを置き英語の4技能をつけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

First Time Grammar トムソンコーポレーション (2007年1月)
Total Strategy for the TOEIC Test 成美堂 (2006年1月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 現在完了 Computers and Society
- 3回 進行形 Business Transaction
- 4回 受動態 At the office
- 5回 不定詞 Cars and Society
- 6回 分詞 Eating and Drinking
- 7回 動名詞 Shopping
- 8回 時制の一致 Entertainment
- 9回 Appendix Accidents & Crimes
- 10回 Teaching & Learning
- 11回 Medicine & Hospitals
- 12回 Finance and Banks
- 13回 Economy and Industry
- 14回 Geography and Travels
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 授業態度...20% 期末試験...20% 宿題...10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習をしてくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ジョン・グリシャム原作の法廷映画Rainmakerを教材にしたテキストとDVDを用いてアメリカの陪審員制度、訴訟などへの理解を深めながら、法廷で使われる専門用語も覚えていきます。またListeningやComprehensionなどの演習に取り組み、英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

穂本浩美 / 濱田真由美著、American Justice in Focus
マクミランランゲージハウス (2007年)、2100円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
This Would Be a Great Place to Work
- 2回 This Would Be a Great Place to Work
- 3回 Do You Have a Lawyer?
- 4回 And Still, She Can't Leave Him
- 5回 How're You Feeling, Donny Ray?
- 6回 Do You Want to Settle, Rudy?
- 7回 It's Just a Deposition
- 8回 Get This Boy Some Coffee
- 9回 This Is a Courthouse of the U.S.!
- 10回 The Boy Is Dead, Isn't He?
- 11回 That \$10,000 Was Just Blackmail
- 12回 It Was Self-Defense
- 13回 Just Another Shark in the Dirty Water
- 14回 Just Another Shark in the Dirty Water
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 小テスト... 20% 期末試験... 60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life. In addition, you will study and take the TOEIC test independently to help you function effectively in international society using English after you have graduated.

教科書 /Textbooks

Teaching materials (Mirrors & Windows) will be provided by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 Rock around the clock (1)
- 3 回 Rock around the clock (2)
- 4 回 You are what you eat? (1)
- 5 回 You are what you eat? (2)
- 6 回 Conversation and ... silence (1)
- 7 回 Conversation and ... silence (2)
- 8 回 Men and women, girls and boys – Gendered identities (1)
- 9 回 Men and women, girls and boys – Gendered identities (2)
- 1 0 回 All you need is love (?) (1)
- 1 1 回 All you need is love (?) (2)
- 1 2 回 Bringing up baby (1)
- 1 3 回 Bringing up baby (2)
- 1 4 回 Stereotypes
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grade = Teacher grade + your actual TOEIC (TOEFL) score (balanced)
TOEIC (TOEFL)スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政群2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1) インターネットを利用したアクティビティを通して実践的な英語学習を行う
- (2) オンラインニュースを読み、語彙を増やすとともに速読の能力を高める
- (3) TOEICの練習問題を行う

教科書 /Textbooks

“Web-enhanced Reading & Writing!: Basic Internet Skills and Online News” by Keiko Miyake (イソース)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Basic Computer Terms/ Typing-1/ Online Dictionaries-1
- 3回 Typing-2/ Online Dictionaries-2/ Search Engines-1
- 4回 Search Engines-2/ News Sites-1
- 5回 News Sites-2/ Headlines-1
- 6回 Headlines-2
- 7回 Headlines-3/ Abbreviations and Acronyms-1
- 8回 Abbreviations and Acronyms-2
- 9回 The Lead-1
- 10回 The Lead-2/ News Summaries-1
- 11回 News Summaries-2/ The Paragraph-1
- 12回 The Paragraph-2/ Transitions-1
- 13回 Transitions-2/ Paraphrasing and Summarizing
- 14回 Supportive Information
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト、提出物を含む) ...50%、 期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に予習範囲や提出物等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に身につけた英語力を踏まえ、毎回のTOEIC問題模擬を通して、英語力の更なる向上を目指す。TOEICスコア550点以上を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト不使用。
TOEIC問題のプリントを各授業で配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期同様、授業での学習以外に、各個人の目標スコアに適したレベル別TOEIC問題を自己学習することを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
2回	プリント模擬テスト & 各問題の解答確認
3回	"
4回	"
5回	"
6回	"
7回	"
8回	"
9回	"
10回	"
11回	"
12回	"
13回	"
14回	"
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 各授業模擬テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア500点以上10%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。TOEIC400点未満単位取得不可。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 律政群 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Conversation framework
- 2回 First oral presentations and listening test
- 3回 Unit 1 "A Time to Remember"/Past tense/ "Used to"/writing paragraphs
- 4回 Unit 12 "It's Been a Long Time!"/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5回 Introductions and address systems/ Second oral presentations/ listening test
- 6回 Unit 4 "I've Never Heard of That!"/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7回 Unit 16 "What's Your Excuse?"/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9回 Third oral presentations/ listening test
- 10回 Unit 3 "Time for a Change!"/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 11回 Unit 7 "What's this for?"/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 12回 Thanking people and replying to thanks/ Fourth oral presentations/listening test
- 13回 Unit 2 "Caught in the Rush"/Indirect questions from 'Wh' questions/ Adverbs of quantity
Unit 5 "Going Places"/ Future tense with 'going to' and 'will'
- 14回 Apologizing: making apologies and responding
- 15回 Fifth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語III class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Person Longman- Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回 Delivering Your Message
- 第3回 Putting Your Speech Together
- 第4回 Speech - Self-Introduction - Outlining and Writing
- 第5回 Speech - Self-Introduction - Delivery
- 第6回 Speech - A personal Experience - Delivery
- 第7回 Speech - A Meaningful Object - Delivery
- 第8回 Speech - A specific Fear - Delivery
- 第9回 Speech - A Personal Opinion - Delivery
- 第10回 Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第11回 Delivery - 1
- 第12回 Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第13回 Delivery - 2
- 第14回 Delivery - 3
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for business and communication. Students will practice basic grammar and language skills, which will then be applied to specific business situations.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ORIENTATION / SYLLABUS REVIEW
- 2回 NAMES, TITLES, & INTRODUCTIONS
- 3回 EXPANSION ACTIVITY
- 4回 OCCUPATIONS & WORKPLACES
- 5回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES I
- 6回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES II
- 7回 EXPANSION ACTIVITY
- 8回 NUMBERS & PRICES
- 9回 NUMBERS & PRICES LISTENING
- 10回 COST OF LIVING
- 11回 BUSINESS COSTS & EXPENSES
- 12回 SPECIAL PROJECT
- 13回 SPECIAL PROJECT
- 14回 PROJECT PRESENTATION
- 15回 PROJECT PRESENTATION

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance 20%, Homework 15%, Participation 25%, Projects and Quizzes 20%, Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 律政2 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

“British Life Today : An Introduction” 南雲堂
TOEIC : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業の進め方、プリントによるListening演習)
- 2回 授業前半 : TOEIC演習 : Chapter 1 から順次進めていく。
授業後半 : Unit 1 から順次進めていく。
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 クラス 律政2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
(1)インターネットを利用し、ワークブックのactivityを通じて基本的事項を段階的に学習する
(2)オンラインニュースを読み、語彙を増やすとともに速読の能力を高める
(3)英語資格試験に必要な文法事項を学習する

教科書 /Textbooks

“Web-enhanced Reading & Writing: Basic Internet Skills and Online News”
by Keiko Miyake (イソース、2008年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容の詳細はホーム・ページ (<http://kmiyake.com>) で確認すること。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 PartI Introduction to the Internet
- 第3回 1. Basic Computer Terms
- 第4回 2. Online Dictionaries
- 第5回 3. Typing
- 第6回 4. Search Engines
- 第7回 1. News Sites (Part II Reading)
- 第8回 2. Headlines
- 第9回 3. Abbreviations and Acronyms
- 第10回 4. The Lead
- 第11回 5. News Summaries
- 第12回 1. The Paragraph (Part III Writing)
- 第13回 2. Transitions
- 第14回 3. Paraphrasing & Summarizing
- 第15回 4. Supportive Information

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席、発表 (20%)
- ・ ワークブックの活用、提出物 (20%)
- ・ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students in this course will study the four language skills. They will go systematically through the exercises in the textbook as the teacher sees fit. Each unit will take one whole class and part of another. The final 1/2 of the second class will be devoted to a dialog test, in which each student will memorize the dialog and then make small changes in it.

教科書 /Textbooks

Smart choice Book 2 by Ken Wilson published by Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

The course will be taught as follows. During the first semester Units One through Six will be completed, along with corresponding dialogs from the test booklet written and distributed by the teacher at the beginning of the semester. Fifty percent of the final grade will be based on dialog tests given every other week and the other fifty percent will come from an average the grammar review and cumulative dialog test give at the end of the course.

- 1回 Unit 1 Talking about Vacations
- 2回 Unit 1 completed & Dialog Test
- 3回 Unit 2 Giving Opinions
- 4回 Unit 2 completed & Dialog Test
- 5回 Unit 3 Talking about experiences
- 6回 Unit 3 completed & Dialog Test
- 7回 Unit 4 Describing Places
- 8回 Unit 4 completed & Dialog Test
- 9回 Unit 5 Describing Special events
- 10回 Unit 5 completed & Dialog Test
- 11回 Unit 6 Giving Advice
- 12回 Unit 6 completed & Dialog Test
- 13回 Grammar Review Test
- 14回 Preparation for Cumulative Dialog Quiz
- 15回 Cumulative Dialog Quiz Units 1 ~ 6

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from dialog quizzes, speeches, written grammar review tests etc. Unexcused absence and late arrival for class will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義・他
クラス /Class: 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test =40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名
/Instructor

アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・他
/Class Format

クラス 律政群 2 - C
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is a discussion course. It will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues in English.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 2. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to course.
- 2回 Unit 1 First Impressions.
- 3回 Unit 2 Traffic Jam. Traffic problems and pollution.
- 4回 Unit 3 Who Needs the Local Language?
- 5回 Review
- 6回 Unit 4 Getting Ahead. Success and Family Values.
- 7回 Unit 5 Forever Single. Stay single or get married?
- 8回 Unit 6 What Are Friends For?
- 9回 Review
- 10回 Unit 7 What's for Dinner? Impact of food choices.
- 11回 Unit 8 Cyber Bullyng. Asking for advice.
- 12回 Unit 9 Taking Care of Father. The older generation.
- 13回 Unit 10 Why Go to School? Priorities in school.
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 律政群2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 6 "Sure, No Problem!"/two-part verbs/ requests with modals/"Would you mind ...?"
- 2回 Unit 10 "I Don't Like Working on Weekends"/gerunds-/ clause with 'because';
Writing: paragraph---"A job you would be good at"---(three reasons for support)
- 3回 Expressing anger & resolving conflict/ Sixth oral presentations/ listening tests
- 4回 Unit 8 "Let's Celebrate"/relative clauses of time/adverbial clauses of time
- 5回 Unit 14 "So That's What It Means!"/ modals & adverbs/permission, obligation, prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6回 Giving compliments & replying to compliments
- 7回 Seventh oral presentations/ listening tests
- 8回 Unit 9 "Back to the Future"/time contrasts/conditional sentences using if clauses
Writing: paragraph---partner interview & writing partner's hopes for the future
- 9回 Unit 15 "What would you do?"/ unreal conditional sentences w/ if clauses/past modals
- 10回 Getting people's attention and interrupting/Eighth oral presentations/ listening test
- 11回 Unit 11 "It's Really Worth Seeing"/passive tense with & w/o by /
Writing: paragraph---a country you know
- 12回 Unit 13 "A Terrific Book, but a Terrible Movie"/participles as adjectives/
relative clauses
- 13回 Agreeing and disagreeing/ Ninth oral presentations/ listening test
- 14回 "Explaining 'things Japanese'" + Getting information & Controlling the conversation
- 15回 Tenth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語IV class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Person Longman- Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 Introduction to Persuasive Speaking
- 第3回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第4回 Dilivery - 1
- 第5回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第6回 Delivery - 2
- 第7回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第8回 Delivery - 3
- 第9回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第10回 Delivery - 4
- 第11回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第12回 Delivery - 5
- 第13回 Symposium - Outling and Writing
- 第14回 Delivery
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for business and communication. Students will practice basic grammar and language skills, which will then be applied to specific business situations.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ORIENTATION / SYLLABUS REVIEW
- 2回 NAMES, TITLES, & INTRODUCTIONS
- 3回 EXPANSION ACTIVITY
- 4回 OCCUPATIONS & WORKPLACES
- 5回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES I
- 6回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES II
- 7回 EXPANSION ACTIVITY
- 8回 NUMBERS & PRICES
- 9回 NUMBERS & PRICES LISTENING
- 10回 COST OF LIVING
- 11回 BUSINESS COSTS & EXPENSES
- 12回 SPECIAL PROJECT
- 13回 SPECIAL PROJECT
- 14回 PROJECT PRESENTATION
- 15回 PROJECT PRESENTATION

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance 20%, Homework 15%, Participation 25%, Projects and Quizzes 20%, Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政2 - H /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students can practice using their English communicative skills. The book asks the students to give their opinions and thoughts about a wide variety of topics, such as work, travel, shopping and so on. Discussion, pair work, some group work, and listening practice will all be held. Students are encouraged to speak out about their opinions, without being too shy.

教科書 /Textbooks

iTHINK , by Dale Fuller and Timothy Kiggell, (Macmillan Language House).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction
- 第2回 What are friends for?
- 第3回 Trouble at home
- 第4回 Looking back
- 第5回 Will you go out with me?
- 第6回 That looks delicious
- 第7回 We are the champions!
- 第8回 What a rip-off!
- 第9回 I'd rather go to Australia
- 第10回 I need a job
- 第11回 How was the concert?
- 第12回 Stop it! You're bothering me.
- 第13回 What an interesting class!
- 第14回 What a great place to live!
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)パラグラフレベル、更にパッセージレベルといったより大きな単位で、英語の速読のトレーニングに取り組む。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)英語のReading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

Power Reading 2 - Reading in Paragraphs 土屋武久、Bill Benfield他 (成美堂)、2010年1月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol.3 (発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Unite 1 English Rakugo (Reading Skill in Focus: Predicting)
- 第2回 Unite 2 Silent CEOs (Reading Skill in Focus: Phrase Reading)
- 第3回 Unite 3 Cappadocia (Reading Skill in Focus: Increasing WPM)
- 第4回 Unite 4 Eco-cars (Reading Skill in Focus: Finding Main Ideas)
- 第5回 Unite 5 Finance for Kids (Finding Main Ideas at the Passage Level)
- 第6回 Unite 6 Jazz (Scanning for Words)
- 第7回 Unite 7 Britain's National Trust (Scanning for Information)
- 第8回 Unite 8 How Fast Can Humans Run (Skimming for the Central Ideas)
- 第9回 Unite 9 Pitfalls of Statistics (Skimming for Point of View)
- 第10回 Unite 10 Hot Spring (Vocabulary Building)
- 第11回 Unite 11 Abraham Lincoln (Understanding Text Organization1: Time Oder)
- 第12回 Unite 12 Eating Oil (Understanding Text Organization2: Cause & Effect)
- 第13回 Unite 13 We Love Sitcoms (Understanding Text Organization3)
- 第14回 Unite 14 Regenerative Medicine (Evaluating Facts & Opinions)
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席、発表 (20%)
- ・ レポート、小テスト (20%)
- ・ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students in this course will study the four language skills. They will go systematically through the exercises in the textbook as the teacher sees fit. Each unit will take one whole class and part of another. The final 1/2 of the second class will be devoted to a dialog test, in which each student will memorize the dialog and then make small changes in it.

教科書 /Textbooks

Smart choice Book 2 by Ken Wilson published by Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

The course will be taught as follows. During the second semester Units Seven through Twelve will be completed, along with corresponding dialogs from the test booklet written and distributed by the teacher at the beginning of the semester. Fifty percent of the final grade will be based on dialog tests given every other week and the other fifty percent will come from an average the grammar review and cumulative dialog test give at the end of the course.

- 1回 Unit 7 Making Complaints
- 2回 Unit 7 completed & Dialog Test
- 3回 Unit 8 Describing preferences
- 4回 Unit 8 completed & Dialog Test
- 5回 Unit 9 Telling stories
- 6回 Unit 9 completed & Dialog Test
- 7回 Unit 10 Making Speculations
- 8回 Unit 10 completed & Dialog Test
- 9回 Unit 11 Talking about Past Habits
- 10回 Unit 11 completed & Dialog Test
- 11回 Unit 12 Explaining Possibilities
- 12回 Unit 12 completed & Dialog Test
- 13回 Grammar Review Test
- 14回 Preparation for Cumulative Dialog Quiz
- 15回 Cumulative Dialog Quiz Units 7 ~ 12

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from dialog quizzes, speeches, written grammar review tests etc. Unexcused absence and late arrival for class will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義・他
クラス /Class: 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques
- Week 8 Control Techniques
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting
- Week 11 Charting
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義・他

クラス 律政群 2 - C
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is a discussion course. It will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues in English.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 2. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Review of First Semester.
- 2回 Unit 11 An International Relationship
- 3回 Unit 12 Too Little, Too Late. Saving the planet.
- 4回 Unit 13 Ben and Mike. Rumors.
- 5回 Review
- 6回 Unit 14 Government Control.
- 7回 Unit 15 Living Together.
- 8回 Unit 16 Size Discrimination.
- 9回 Review
- 10回 Unit 17 Who Will Help Them? Refugees.
- 11回 Unit 18 Finding the Right One.
- 12回 Unit 19 Dress for Success.
- 13回 Unit 20 A Mother's Story. Punishment.
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また難解なエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング 序章
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング 第2章
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング 第3章
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング 第4章
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング 第5章
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング 第6章
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング 第7章
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング 第8章
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング 第9章
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング 第10章
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング 第11章
- 14回 リスニング 模擬問題演習、リーディング 第12章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 3年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義・他
クラス /Class: 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with learners: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Rost, M., "Longman English Interactive Online (Level 2)," Pearson Education, 2008

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Registering to the online course
- 3回 Greetings, occupations
- 4回 Introducing other people
- 5回 Food and restaurants
- 6回 Talking about one's weekend
- 7回 Talking about technology
- 8回 Talking about illness and health
- 9回 Giving directions
- 10回 Making plans
- 11回 Talking about shopping
- 12回 Talking about household chores
- 13回 Giving advice
- 14回 Group performances
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on attendance (25%), homework (25%), tests (25%), and effort speaking English in class (25%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 政 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず一年次に学んだ文法事項を再確認し定着をはかる。次に長文読解する中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文法確認【状態補語】【結果補語】【方向補語】【動量】【時量】【把構文】【被構文】等
- 2回 文法確認
- 3回 文法確認
- 4回 文法確認
- 5回 第1課 上有天堂【蘇州と杭州】【累加】【使役】【仮定】【条件】【並列】
- 6回 第1課 上有天堂、練習問題
- 7回 第2課 長寿面【誕生日】【把構文】【条件】【並列】【継起】
- 8回 第2課 長寿面、練習問題
- 9回 第3課 七夕【累加】【補語】【被構文】【仮定】【因果】
- 10回 第3課 七夕、練習問題
- 11回 第4課 春節晚会【正月】【条件】【継起】
- 12回 第4課 春節晚会、練習問題
- 13回 第5課 国球【卓球】【因果】【前置詞】【状態の持続】
- 14回 第5課 国球、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

長文読解する中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 高考【大学受験】【数字】【比較の表現】【逆接】【少しも~ない】【条件】
- 2回 第6課 高考
- 3回 第6課 高考、練習問題
- 4回 第7課 北京的“的哥”【タクシー運転手】【比較の表現】【条件】【慣用表現】
- 5回 第7課 北京的“的哥”
- 6回 第7課 北京的“的哥”、練習問題
- 7回 第8課 海帰【海外からの帰国者】【因果】【目的】【条件】【比較の表現】
- 8回 第8課 海帰
- 9回 第8課 海帰、練習問題
- 10回 第9課 跳槽【転職】【比較選択】【慣用表現】
- 11回 第9課 跳槽
- 12回 第9課 跳槽、練習問題
- 13回 第10課 独生子女【一人っ子政策】【条件】【常用表現】
- 14回 第10課 独生子女、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 済営人律政群2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』白帝社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 第1課 長城【動詞+“過”】【好像】【逆接複文】【算】
- 2回 発表
- 3回 第2課 故宮【従】【如果】【動詞+着】
- 4回 発表
- 5回 第3課 敦煌莫高窟【連～都】【終于】【為了】
- 6回 発表
- 7回 第4課 秦の始皇帝陵と兵馬俑坑【被】【総】【由于】【只】
- 8回 発表
- 9回 第5課 黄山【以～為】【除了】【因為】【用】
- 10回 第6課 九寨溝【必須】【尽管～但是...】【不光】
- 11回 発表
- 12回 第7課 孔廟、孔府、孔林【而且】【可以】【使役表現】
- 13回 第8課 ポタラ宮【～的】【～才】【比較表現の“跟”】
- 14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 済営人律政群2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 第9課 峨眉山と泰山大仏【相当于】【按照】
 - 2回 発表
 - 3回 第10課 麗江【一~就...】【像~一様】
 - 4回 発表
 - 5回 第11課 蘇州の古典的園林【正如】【和~一様】【就是說】
 - 6回 発表
 - 7回 第12課 天壇公園【曾經】【即使】【属于】
 - 8回 発表
 - 9回 第13課 頤和園【使~】【通過】【怎麼】
 - 10回 発表
 - 11回 第14課 龍門石窟【值得】【对】
 - 12回 発表
 - 13回 第15課 雲崗石窟【可能補語】【不管】【正是】
 - 14回 発表
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 3回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 4回 このコンピュータは誰のものですか【人称・所有代名詞】【助詞2】
- 5回 トイレはどこにありますか【存在の有無】【助詞3】
- 6回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 7回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 8回 二日間予約したいですが【漢数詞】【年月日の言い方】
- 9回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 10回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 11回 土曜日には会社に行きません【用言の否定形】
- 12回 海に行きたいです【願望形】
- 13回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 14回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『チャレンジ！韓国語』白水社（2009年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といいます】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』（野間秀樹・ナツメ社）を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

正確な発音の能力を高めながら、初級文法をもとに会話表現を学び、基礎レベルでの日常会話の能力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『チャレンジ！韓国語』白水社（2009年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』（野間秀樹・ナツメ社）を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目標とする。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(1)
- 3回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(2)
- 4回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(1)
- 5回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(2)
- 6回 自己紹介【自分について語る】(1)
- 7回 自己紹介【自分について語る】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(1)
- 10回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(2)
- 11回 帰り道【様子から推測、判断する】(1)
- 12回 帰り道【様子から推測、判断する】(2)
- 13回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(1)
- 14回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目指す。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(1)
- 3回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(2)
- 4回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(1)
- 5回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(2)
- 6回 村の風景【説明や描写】(1)
- 7回 村の風景【説明や描写】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(1)
- 10回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(2)
- 11回 診察を受ける【許可と禁止】(1)
- 12回 診察を受ける【許可と禁止】(2)
- 13回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(1)
- 14回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

李昌圭 『韓国語を学ぼう 中級』朝日出版社 (2007年4月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 何を食べましょうか【注文に関する表現】
- 3回 何を食べましょうか【提案と勧誘の表現】
- 4回 何を食べましょうか【意志の表現】
- 5回 電話番号を教えてください【電話に関する表現】
- 6回 電話番号を教えてください【理由の表現】
- 7回 電話番号を教えてください【可能、不可能の用言】
- 8回 趣味は何ですか【趣味に関する表現】
- 9回 趣味は何ですか【仮定形の表現】
- 10回 趣味は何ですか【連体形の表現】
- 11回 韓国ドラマ
- 12回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】
- 13回 仁寺洞にはどのように行きますか【意図、助言の表現】
- 14回 仁寺洞にはどのように行きますか【意志、約束の表現】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 発表・課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

李昌圭 『韓国語を学ぼう 中級』朝日出版社 (2007年4月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 風邪は治りましたか【病気に関する表現】
- 3回 風邪は治りましたか【前置きの表現】
- 4回 風邪は治りましたか【禁止、可能の表現】
- 5回 連休には何をするつもりですか【予定の表現】
- 6回 連休には何をするつもりですか【譲歩、同時進行の表現】
- 7回 雨がたくさん降っているようです【推測に関する表現】
- 8回 雨がたくさん降っているようです【引用・伝聞の表現】
- 9回 雨がたくさん降っているようです【意向を尋ねる表現】
- 10回 韓国ドラマ
- 11回 焼肉を作ることができますか【方法、可能の表現】
- 12回 焼肉を作ることができますか【経験の有無の表現】
- 13回 このズボン、着てみてもいいですか【当然・義務の表現】
- 14回 このズボン、着てみてもいいですか【状態、許容の表現】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 発表・課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 済誉比人律政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 クラス 済営比人律政2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 済営比人律政2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探るとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には品詞・文型・文の種類・時制・法（モード）を学びます。音声化を重視するので、つづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにしましょう。6月に実施される実用フランス語技能検定試験（仏検）5級に合格すれば成績Cを保証します。その場合でも定期試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み方、母音の発音の方法
- 2回 つづり字の読み方
- 3回 名詞と不定冠詞、定冠詞、エリズイオンについて
- 4回 <-er> 動詞の活用
- 5回 文の種類（否定文・疑問文）
- 6回 形容詞と<etre>の活用
- 7回 限定詞（指示形容詞と所有形容詞）
- 8回 <avoir>の活用と部分冠詞
- 9回 <aller> <venir>の活用
- 10回 縮約形
- 11回 <-ir> 動詞の活用
- 12回 命令文
- 13回 疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞
- 14回 副詞的代名詞 yとen
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に続いて文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。11月の仏検4級を合格すれば、成績Cを保証します。その場合でも期末試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習
- 2回 比較級、最上級
- 3回 目的語人称代名詞の形と語順
- 4回 代名動詞
- 5回 複合過去の形と用法1
- 6回 複合過去 つづき
- 7回 単純未来
- 8回 半過去の形と用法
- 9回 受動態
- 10回 関係代名詞
- 11回 モード1 条件法
- 12回 中性代名詞
- 13回 現在分詞とジェロンディフ
- 14回 モード2 接続法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 未来のことを話す
- 14回 実用フランス語5級模擬試験（5級模擬試験は別の回に実施するかもしれませんが）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

（仏検受験者へ：今年6月の仏検5級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『ラピッド・フランス語会話II』（加藤雅郁著、駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

簡単な会話のスケッチの聞き取りと解説の後、書かれた質問に答えて会話内容の確認と書く練習を行い、次いで聞こえてきた質問に答えて聞き取り練習を行う。

- 1回 映画を見に行く
- 2回 家族の誕生日について話す
- 3回 レストランで注文する
- 4回 住んでいた町について話す
- 5回 昨日したことを話す
- 6回 宿題について話す
- 7回 知っている人・好きな人のことを話す
- 8回 電話をする
- 9回 将来のことを話す
- 10回 頼みごとをする
- 11回 明日のことを話す
- 12回 会う約束をする
- 13回 自分の趣味・意見を言う
- 14回 自らの考え・気持ちを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

(仏検受験者へ：今年11月の仏検4級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語の運用能力を身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の「音」についての復習
- 2回 再帰代名詞
- 3回 再帰代名詞の複合過去
- 4回 過去分詞の一致のまとめ
- 5回 半過去と大過去
- 6回 半過去と複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 補語人称代名詞
- 9回 命令法と補語人称代名詞
- 10回 現在分詞とジェロンデフ(1)
- 11回 現在分詞とジェロンデフ(2)
- 12回 疑問代名詞 le quel
- 13回 受動態
- 14回 最上級と副詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点、もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また6月の仏験3級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期と同様に、1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語を完全に身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 強調構文
- 2回 中性代名詞 (1)
- 3回 中性代名詞 (2)
- 4回 条件法現在
- 5回 条件法過去
- 6回 接続法現在
- 7回 接続法過去
- 8回 直接話法と間接話法
- 9回 時制の一致 (1)
- 10回 時制の一致 (2)
- 11回 前置詞と接続詞 (時の表現)
- 12回 前置詞と接続詞 (場所の表現)
- 13回 前置詞と接続詞 (論理の表現)
- 14回 単純過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします (ただし練習問題の評点もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また11月の仏検準2級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検3級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは3級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検2級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは2級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（プラス1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいるhispanicの人たちも含めると3億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続き、ロシア語と同じか、やや多いと言われています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。スペイン、メキシコ、キューバなど、どの国の方の間でもコミュニケーションには問題は生じません。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですよ。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語基礎文法（口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音とアクセントの仕組み
- 2回 発音とアクセントの仕組み
- 3回 発音とアクセントの仕組み
- 4回 発音とアクセントの仕組み
- 5回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 6回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 7回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 8回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 9回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 10回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 11回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 12回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法。
- 13回 復習とスペイン語圏の文化に触れる視聴覚教材の提示
- 14回 復習とスペイン語圏の文化に触れる視聴覚教材の提示
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に上記で述べた平常点を最大30点まで加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返や中途の退学が見つかった場合は即座に失格とします。辞書については最初の講義で話しをします。電子辞書も奨めます。詳しく説明するので、辞書の購入は最初の講義まで待っててください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作るようなレベルまで進みます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史 (川成洋、中西省三編：河出書房新社)
 スペインの歴史 (立石、関、中川、中塚著：昭和堂)
 スペイン (増田監修：新潮社)
 スペインの社会 (寿里、原編：早稲田大学出版)
 スペインの政治 (川成、奥島編：早稲田大学出版)
 スペインの経済 (戸門、原編：早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法 (口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2 回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3 回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4 回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 5 回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 6 回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 7 回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8 回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 9 回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 10 回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 11 回 従属節を含む文の理解。
- 12 回 従属節を含む文の理解。
- 13 回 スペイン語圏の国々について：視聴覚教材を用いて
- 14 回 スペイン語圏の国々について：視聴覚教材を用いて
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に上記で述べた平常点を最大30点まで加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返や中途の退室が見つかった場合は即座に失格とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 発音 アクセント、母音、子音
- 3回 発音 アクセント、二重子音
- 4回 挨拶、名詞の性・数
- 5回 冠詞、主格人称代名詞
- 6回 ser動詞、活用と用法
- 7回 ser動詞、疑問文・否定文
- 8回 estar動詞、活用と用法
- 9回 estar動詞とhay、疑問詞(1)
- 10回 ser/estar動詞と形容詞
- 11回 時刻の表現、疑問詞(2)
- 12回 -ar動詞
- 13回 主な前置詞、所有形容詞(前置形)
- 14回 -er / -ir 動詞、指示形容詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 70% 平常点 ... 30% (出席 ... 20%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(エウヘニオ・テル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習、-ar / -er / -ir動詞
- 2回 直説法現在、1人称単数不規則動詞とその用法
- 3回 直接目的格人称代名詞、天候表現
- 4回 直説法現在、語幹母音変化動詞とその用法
- 5回 不定詞表現(1)、疑問詞(3)
- 6回 所有形容詞(後置形)
- 7回 直説法現在、不規則動詞とその用法
- 8回 不定詞表現(2)、感嘆文
- 9回 間接目的格人称代名詞
- 10回 動詞gustar、gustar型動詞
- 11回 再帰動詞
- 12回 比較級と最上級
- 13回 直説法現在完了
- 14回 不定語と否定語
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 70% 平常点 ... 30% (出席 ... 20%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直説法未来の活用と用法
- 2回 直説法条件未来の活用と用法
- 3回 直説法過去完了の活用と用法
- 4回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 5回 再帰動詞とは?
- 6回 再帰動詞の用法
- 7回 接続法とは何か
- 8回 接続法現在の活用
- 9回 接続法現在の用法
- 10回 命令形と命令法
- 11回 感嘆文
- 12回 比較級と最上級
- 13回 SEの受身と無人称のSE
- 14回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主にスペインの歴史を織り込んだ中級程度の文章を読んで行きます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の講読部分。（持っていない人にはプリントを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキストの6課以降の講読・説明
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。テキストの文法事項を押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。

教科書 /Textbooks

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳのテキストの続きから使用します。(前年度テキスト:エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、ビデオ・DVD・音声教材なども利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習
- 2回 直説法点過去(1)
- 3回 直説法点過去(2)
- 4回 直説法点過去(3)
- 5回 直説法線過去
- 6回 直説法点過去と直説法線過去、その用例
- 7回 現在分詞
- 8回 直説法未来
- 9回 直説法過去未来
- 10回 直説法過去完了
- 11回 接続法(1)
- 12回 命令形
- 13回 DVD教材(会話を聞き取る)
- 14回 DVD教材(会話を聞き取る)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 平常点 ... 40% (出席 ... 30%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。テキストの文法事項を繰り返し押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。

教科書 /Textbooks

スペイン語VIIのテキストを引き続き参照します。(スペイン語VII: エウヘニオ・デル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008) また、読み物、ビデオ・DVD・音声教材などを利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----|---------------------|
| 1回 | スペイン語VIIの復習 |
| 2回 | 接続法(2) |
| 3回 | 関係詞 |
| 4回 | DVDなどで会話練習 |
| 5回 | 会話練習 |
| 6回 | 接続法現在完了・過去・過去完了 |
| 7回 | 接続法まとめ |
| 8回 | 受身文、感嘆文 |
| 9回 | 短編教材(DVDなど)と聞き取り |
| 10回 | 短編教材(ラジオ、CDなど)と聞き取り |
| 11回 | 短編教材(DVDなど)と会話練習 |
| 12回 | スペイン語でDVDなどを見る(1) |
| 13回 | スペイン語でDVDなどを見る(2) |
| 14回 | スペイン語でDVDなどを見る(3) |
| 15回 | まとめ |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 平常点 ... 40% (出席 ... 30%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での研究活動に必要な「プレゼンテーション力」を中心に、総合的な日本語運用能力の育成を目指します。講義を聞き取る聴解スキルや、発表に必要な語彙・表現を身に付け、さらに、実際に課題テーマのプレゼンテーションをおこなうことで、「発表」の方法を学びます。また、口頭発表の準備や練習をピア (仲間)で行うことによって、自律的に学ぶ体験をします。

教科書 /Textbooks

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
上村和美・内田充美『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦香苗他『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 授業オリエンテーション
- ② ノートテイキング【メモ】【構成】
- ③ 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- ④ 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- ⑤ 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- ⑥ 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- ⑦ 「食料自給率」【データ比較】
- ⑧ 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- ⑨ プレゼンテーションの基礎【プレゼンテーションとは】【構成】【表現】
- ⑩ クラスメイト紹介【他者紹介】
- ⑪ セルフチェック【姿勢・表情・視線】【身振り・手振り】【声】【服装】
- ⑫ 施設紹介【視点コントロール】【サンドイッチ構成】
- ⑬ 案内状を作る【5W1H】
- ⑭ 日常生活で目にするものを説明する【比較】【マトリックス】
- ⑮ ポスター発表【ポスター発表】【ポスターの構成】
- ⑯ 1年間をふりかえる【時系列】【トピック】
- ⑰ まとめ【評価】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 … 40% 発表・課題 … 40% 自己評価…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

レポートを作成することは学生にとっても、指導する教員にとっても挑戦的なことである。1篇の長いレポート(論証型)を作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成にいたる一連の過程を学ぶことを目標とする。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、協働的に学習することの有効性を感じてもらおう。

教科書 /Textbooks

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アカデミック・ジャパニーズ研究会『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1・2回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 3・4回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 5・6回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【練る】
- 7・8回 情報をカード化する【情報の信頼性】【調べる】
- 9・10回 目標を仮に規定する【情報の整理】【絞る】
- 11・12回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】【組み立てる】
- 13～16回 パラグラフライティング【中心文】【支持文】【説明文】【書く】
- 17～20回 文章を点検する【校正】【表現の点検】【形式の点検】
- 21～22回 レポートの完成【体裁】
- 23～24回 発表を準備する【レジュメの作成】【発表の練習】【発表の意義】
- 25～28回 発表する【話し手】【聞き手】
- 29・30回 学習プロセスを振り返り、自己評価する【自己評価】【振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(課題の提出を含む) ... 40% レポート・発表 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師, 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、学術論文を読むための基礎的な読解力を育成します。論理的な文章をピア(同僚の学習者)同士で読むことで、それぞれの学びから、論理的思考による理解が深まることを期待します。また、授業の半分を使って、学習者の自律を目指した個別対応型の「チュートリアル」を導入した授業をおこないます。学習者が自身の学習内容・方法・リソースを選択し、その選択に基づいて計画・実行・評価を行うことによって、自分の学習を自分自身で管理できる力を身に付けることを目的としています。

教科書 /Textbooks

アカデミックジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語3 論文読解編』アルク

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

産能短期大学『日本語を学ぶ人たちのための日本語を楽しく読む本中・上級』凡人社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「ピアラーニング」
- ①第I部 基本編 異文化適応【書き言葉】【和語】【漢語】
 - ②第I部 基本編 多様化の中のテレビ【論の展開①】【文の構造】
 - ③第I部 基本編 安全でおいしい水を飲むために【論の展開②】【未知語処理】【推測】
 - ④第I部 基本編 がん告知【要約】【慣用表現】【重要語句】
 - ⑤第II部 実践編 論文を読む①【全体構成】【序論】
 - ⑥第II部 実践編 論文を読む②【本論】
 - ⑦第II部 実践編 論文を読む③【副詞】
 - ⑧第II部 実践編 論文を読む④【結論】
 - ⑨第II部 実践編 論文を読む⑤総合練習
 - ⑩振り返る【自己評価】【他者評価】
- 「チュートリアル」
- ①現在の自分の状況を認識する【意識する】
 - ②実践する内容を具体的計画する【学習目標】【学習計画】【評価方法】【リソース】
 - ③実行する【学習管理】【修正】
 - ④振り返る【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 40% 発表・課題 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 .北九州空港と韓国仁川国際空港の役割
- 第3回 お伊勢参りから宇宙旅行までの日本人の旅行ブーム
- 第4回 T O T O のウオッシュレット開発
- 第5回 私のデートコース案内-イギリスと北九州-
- 第6回 新幹線を作った男たち
- 第7回 トロンの世界
- 第8回 秀吉の朝鮮出兵と九州の窯元
- 第9回 安川電機とロボット産業軍事とアジアを読み解く
- 第10回 日本の経営の特徴とその変化
- 第11回 戦後日本経済 (1)
- 第12回 戦後日本経済 (2)
- 第13回 戦後日本経済 (3)
- 第14回 軍事とアジアを読み解く
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「北九州市立大学の就職状況について」
- 第3回 洞海湾クルージング 小倉港 13 ; 00 集合
北九州市役所 16 ; 00 - 17 ; 00
- 第4回 「宮本武蔵の精神」
- 第5回 「日本の文化-本音と建前-」
- 第6回 「寿司作り実演を通じて日本文化を語る」
- 第7回 「日本の文化-洋間のある日本の家」
- 第8回 「私の青春時代-日伯に掛ける橋-」
- 第9回 今日の日本を取り巻く世界経済
- 第10回 「脳の科学-認識と行動」
- 第11回 憲法第9条と世界の軍備
- 第12回 「中国とはどんな国? - 留学体験から」
- 第13回 学長を囲んで大学のあり方についての意見交換
- 第14回 戸畑図書館長から見た日本の図書館
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史【夜】

担当者名 岡 邦信 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古代から中世の法と制度、特に中世の国制、武家政権の支配機構、裁判制度について、適宜資料等を配布し、解説する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石井良助「日本法制史概説」創文社
- 牧・藤原編「日本法制史」青林書院
- 義江彰夫「日本通史I「歴史の曙から伝統社会の成熟へ」山川出版
- 水林彪「日本通史II「封建制の再編と日本の社会の確立」山川出版
- 網野善彦「日本社会の歴史」上・中・下 岩波書店
- 水林・大津・新田・大藤編「新体系日本史2 「法社会史」山川出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法制史とは何か
- 2回 時代区分論
- 3回～4回 律令継受以前の国制【天津罪】【国津罪】【盟神探湯】
- 5回～6回 律令と律令国家の実態【官位相当性】【蔭位制】【八虐】【五刑】
- 7回～9回 律令制の解体と荘園公領制【負名田堵】【初期荘園】【雑役免系荘園】【寄進地型荘園】
- 10回～12回 武士団【国衙軍制】
- 13回～16回 中世国家と封建制)【レーエン制】【フューダリズム】
- 17回～18回 中世主従関係【家礼型】【家人型】
- 19回～20回 鎌倉期の法源【幕府法】【在地領主法】
- 21回～23回 鎌倉幕府訴訟制度【所務沙汰】【雑務沙汰】【検断沙汰】【引付】
- 24回 建武政権と南北朝
- 25回～30回 室町幕府と室町期の法源【一揆契状】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは使用しませんので、参考文献を利用し、予習復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論I【夜】

担当者名 /Instructor 福永 俊輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法各論は、刑法第2編「罪」を対象とし、個別の犯罪の種類・成立要件を具体的に考察することを課題とします。本講義では、財産犯を除く個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、及び、国家的法益に対する罪を取り扱います。
講義形式という制約がありますが、出来る限り双方向的な講義になるように工夫をしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

西田典之『刑法各論（第四版補正版）』（弘文堂 2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西田典之ほか編『刑法判例百選II各論（第六版）』（有斐閣 2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 生命に対する罪①
- 3回 生命に対する罪②
- 4回 身体に対する罪①
- 5回 身体に対する罪②
- 6回 自由に対する罪①
- 7回 自由に対する罪②
- 8回 名誉・信用に対する罪
- 9回 社会的法益に対する罪①
- 10回 社会的法益に対する罪②
- 11回 社会的法益に対する罪③
- 12回 社会的法益に対する罪④
- 13回 国家的法益に対する罪①
- 14回 国家的法益に対する罪②
- 15回 国家的法益に対する罪③

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として定期試験で評価します(一〇〇点満点)。また、毎回の講義の開始時に、用紙を配ります。それに質問、意見や講義の質問を書き込んでもらい、講義終了時に回収します。もっとも、提出は任意です。回答がなされた場合、その内容に従って評価の対象とし、定期試験の得点に加えます(提出をもって最低一点で換算します。)なお、回答は加算のみで、減点はしません。ただし、無記名の回答、何も書いていない回答、あるいは何も書いていないに等しい回答は対象としません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を履修する上で、刑法総論を履修済みであることが望ましい(単位の取得は問わない)。また、本講義と併せて刑法犯罪各論IIを履修することを推奨する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論II 【夜】

担当者名 /Instructor 福永 俊輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法各論は、刑法第2編「罪」を対象とし、個別の犯罪の類型・成立要件を具体的に考察することを課題とします。本講義では、財産犯を取り扱います。

講義形式という制約がありますが、出来る限り双方向的な講義になるように工夫をしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

西田典之『刑法各論（第四版補正版）』（弘文堂 2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西田典之ほか編『刑法判例百選II各論（第六版）』（有斐閣 2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財産犯総論①
- 3回 財産犯総論②
- 4回 窃盗罪
- 5回 強盗罪①
- 6回 強盗罪②
- 7回 詐欺罪①
- 8回 詐欺罪②
- 9回 横領罪
- 10回 背任罪
- 11回 盗品に関する罪
- 12回 毀棄・隠匿罪①
- 13回 毀棄・隠匿罪②
- 14回 予備
- 15回 予備

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として定期試験で評価します(一〇〇点満点)。また、毎回の講義の開始時に、用紙を配ります。それに質問、意見や講義の質問を書き込んでもらい、講義終了時に回収します。もともと、提出は任意です。回答がなされた場合、その内容に従って評価の対象とし、定期試験の得点に加えます(提出をもって最低一点で換算します。)なお、回答は加算のみで、減点はしません。ただし、無記名の回答、何も書いていない回答、あるいは何も書いていないに等しい回答は対象としません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を履修する上で、刑法総論を履修済みであることが望ましい(単位の取得は問わない)。また、本講義と併せて刑法犯罪各論Iを履修することを推奨する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

犯罪学 【夜】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期 (ベア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

犯罪学という学問は、「なぜ人は犯罪を犯すのか」「なぜ犯罪が生起するのか」という素朴な疑問に答えようとする科学的試みの中で生成・発展してきたものです。本授業では、犯罪原因に関する「理論」をできるだけ多く取り上げて、各理論の長所・短所などを批判的に分析・検討することにします。

教科書 /Textbooks

藤本哲也『犯罪学原論』（日本加除出版、2003年）4,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 瀬川 晃『犯罪学』成分堂（1998年）3,500円
- G.B.ウォルド=T.J.バーナード『犯罪学：理論的考察[原書第3版]』東大出版会（1990年）
- 宮澤浩一・藤本哲也・加藤久雄編『犯罪学』青林書院（1995年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～4回 犯罪および犯罪学の基礎的概念についての入門的説明。【犯罪の定義】【刑事政策】【刑事学】【犯罪学】【暗数】
- 5回～11回 犯罪学上の代表的な「パラダイム」の分析・検討。【理論】【パラダイム】【パースペクティブ】【古典主義犯罪学】【実証主義犯罪学】【批判的犯罪学】
- 12回～26回 各理論の成立した時代的背景、主張内容、批判・反批判、政策的含意などの分析・検討。【シカゴ学派】【異質的接触理論】【アノミー理論】【非行副次文化理論】【ラベリング理論】【コンフリクト理論】【社会統制理論】【セルフコントロール理論】【発達論的犯罪学】【異質的機会理論】
- 27回～29回 各種犯罪の現状とその原因論的説明。【凶悪犯罪（殺人・強盗）】【性犯罪（強姦、セクシャルハラスメント）】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門教育科目の「刑事司法政策I&II」（本年度は昼間主のみ）をあわせて受講すればわかりやすい。授業にあたっては、テキストの指定された部分を読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版であることが必要です。毎回、必ず持参してください。なお、期末試験実施時には、「判例つき」の六法の持ち込みは認められませんので、十分注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略，以下の順で進みますが，受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【】はキーワード)

- 1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 2回 民法に対する商法の特色は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 3回～4回 商人とは？商行為とは？【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 6回～8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール【商号・商標】
- 9回～11回 会社と従業員との関係—【商業使用人】【雇用】
- 12回～13回 会社と消費者との関係—【普通取引約款の利用】【消費者保護法】
- 14回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか？【商業登記】
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究【夜】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスの初歩的な外書を講読する事で、ビジネス、経済用語に慣れ、さらに高いレベルのビジネス関係洋書を読む為の準備とする。3年次以降に国際金融、国際貿易、国際経済を受講する予定の方はこのコースを強く勧める。

教科書 /Textbooks

Daniel R. Fusfeld. "The Age of the Economist". 洋版出版
(テキストはこちらで用意します)
授業で適宜通知する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: fundamentals of Economics1
Session 3: fundamentals of Economics2
Session 4: fundamentals of Economics3
Session 5: fundamentals of Economics4
Session 6: chapter 1 of The Age of Economist
Session 7: chapter 2 of The Age of Economist
Session 8: chapter 3 of The Age of Economist
Session 9: chapter 4 of The Age of Economist
Session 10:chapter 5 of The Age of Economist
Session 11:chapter 6 of The Age of Economist
Session 12:chapter 7 of The Age of Economist
Session 13:chapter 8 of The Age of Economist
Session 14:chapter 9 of The Age of Economist
Session 15:chapter 10 of The Age of Economist

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 10 Presentation:30 Midterm quiz:20 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済論I【夜】

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

毎時のニュースで外国為替市場が報道されているのは、「貿易立国」である日本に暮らす私たちの生活にとって重要性が高いことを表していますが、こうした状況はいつごろから、そしてなぜ生じたのでしょうか。この問題は経済問題であると同時に非常に重要な国際政治の争点でもあります。この授業では、ブレトンウッズ体制を中心とする国際経済体制の構築とその変化を中心に検討し、政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題について理解を深めると同時に、関連する理論について学習します。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、各週の授業内容および参考文献については初回の授業時に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門(第3版)』有斐閣、2007年。
- 飯田敬輔『国際政治経済(シリーズ国際関係論3)』東京大学出版会、2007年。
- 田所昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際政治経済学とは【政治】、【市場メカニズム】
- 2回 リベラリズム【古典的リベラリズム】、【ロック】、【カント】
- 3回 ブレトンウッズ体制【埋め込まれた自由主義】、【流動性のジレンマ】【ニクソン・ショック】
- 4回 変動相場制【国際金融のトリレンマ】、【プラザ合意】、【通貨危機】
- 5回 リアリズムと国際貿易体制【重商主義】、【保護主義】、【GATT】
- 6回 WTO体制【サービス貿易】、【紛争解決】
- 7回 貿易摩擦と保護主義【通商法301条】、【公正貿易】、【戦略的貿易政策】
- 8回 中間レビュー
- 9回 国際秩序と経済(1)【覇権安定論】
- 10回 国際秩序と経済(2)【国際レジーム】、【パワー】
- 11回 欧州地域統合(1)【シューマン・プラン】、【超国家主義】、【連邦主義】、【EC】
- 12回 欧州地域統合(2)【EU】、【東方拡大】
- 13回 欧州地域統合(3)【欧州連合条約改正】
- 14回 国際統合理論【機能主義】、【新機能主義】、【トランスナショナリズム】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献を講読した上で授業に参加すること。「国際政治経済論II」(2学期)も履修すると、国際政治経済学についてより包括的な学習ができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済論II 【夜】

担当者名 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際政治経済の主要な理論について、それぞれの理論における異なる世界観、国際問題のとらえ方、問題の位置付けなどを中心に学習します。加えて、政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題について学習することで、政治（国家）と経済（市場）の相互作用についての理解を深めることをねらいとします。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、各週の授業内容および参考文献については初回の授業時に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門（第3版）』有斐閣、2007年。
- 飯田敬輔『国際政治経済（シリーズ国際関係論3）』東京大学出版会、2007年。
- 田所昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域レベルでの経済協力：北米【NAFTA】
- 2回 地域レベルでの経済協力：アジア【APEC】
- 3回 日本の貿易政策【FTA】、【EPA】
- 4回 地球環境問題（1）地球環境レジーム【ストックホルム会議】、【リオ会議】
- 5回 地球環境問題（2）気候変動問題【気候変動枠組条約】、【京都議定書】、【京都メカニズム】
- 6回 リベラリズム【国際レジーム論】、【ネオ・リベラル制度論】、【グローバル・ガバナンス】
- 7回 中間レビュー
- 8回 南北問題の展開【近代化論】、【新国際経済秩序（NIEO）】
- 9回 経済発展と政治体制（1）【権威主義体制】、【開発独裁】
- 10回 累積債務問題【債務繰り延べ】、【DSR】、【構造調整貸付】
- 11回 貧困問題【絶対的貧困】、【ミレニアム開発目標】
- 12回 経済発展と政治体制（2）【政経不可分論】、【ガバナンス】
- 13回 経済発展とマルクス主義【従属論】、【世界システム論】
- 14回 社会構成主義【相互構築性】、【社会化】、【社会構造】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「国際政治経済論I」を受講していると、内容理解がより深まり、包括的な学習ができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【夜】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○下村恭民他『開発援助の経済学（第4版）』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

- 第1回 開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
- 第4回 1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
- 第5回 南北交渉の時代【新国際経済秩序（NIEO）】、【資源ナショナリズム】
- 第6回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
- 第7回 途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
- 第8回 1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】
- 第9回 グローバル・イシューズの時代【国連主催会議】、【NGOフォーラム】
- 第10回 開発援助の新潮流【人間開発】、【社会開発】
- 第11回 人間開発概念の発展【人間の安全保障】、【保護する責任】
- 第12回 日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
- 第13回 日本のODAの仕組み【無償資金協力】、【有償資金協力】、【技術協力】
- 第14回 日本のODAの理念と世界との比較【ODA大綱】、【自助努力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第2次世界大戦後の歴史について復習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論II 【夜】

担当者名 /Instructor 千知岩 正継 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習します。紛争予防を目的として、どのような活動がどのような主体によって行われているのか、効果的な紛争予防策はあるのかなどについて、具体的な事例をもとに学習します。

教科書 /Textbooks

メアリー・アンダーソン『諸刃の援助』明石書店、2006年。
大平剛『国連開発援助の変容と国際政治』有信堂高文社、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○東大作『平和構築』岩波新書、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 冷戦終結の影響【民主的平和】、【国内紛争】、【アイデンティティ・ポリティックス】
- 第2回 PKOの変容と限界【平和執行型PKO】、【予防展開】
- 第3回 「予防の文化」と平和構築アプローチ【予防開発】、【紛争サイクル】
- 第4回 平和構築と人道・開発援助活動の拡大【紛争分析手法】、【構造的要因】、【引き金要因】
- 第5回 「保護する責任」(総論)【人道的介入】
- 第6回 「保護する責任」(各論)【脆弱国家】、【早期警報】
- 第7回 安全保障部門改革(SSR)と武装解除、動員解除、兵士の社会復帰(DDR)【SSR】、【DDR】
- 第8回 東ティモールとアフガニスタンの事例検証：SSRとDDRの具体的な事例
- 第9回 国際開発援助レジームの変容【援助協調】、【援助の調和化】
- 第10回 復興援助と条件付け【ピース・コンディショナリティ】
- 第11回 Do No Harm原則①【平和へと向かう現地の力】、【戦争へと向かう現地の力】
- 第12回 Do No Harm原則②【コネクター】、【ディバイダー】
- 第13回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ①
- 第14回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際協力論Iを履修していれば、本講義の理解に役立ちます。国際協力論Iが基礎的な事項を学習するのに対して、国際協力論IIはより実践的な内容となっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を高める。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J.E.スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3~4回 需要、供給、および政府の施策: 【価格規制】
- 5~6回 市場と厚生: 消費者、生産者、市場の【効率性】
- 7~8回 需給分析の応用: 【余剰分析】、【課税】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】費用、【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】【限界収入】、【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学II 【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く学習する。ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を解説する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J.E.ステイグリッツ(藪下史郎ほか訳)『ステイグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法、
- 第2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 第3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 第4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 第5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 第6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 第7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 第9回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 第10回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 第11回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 第12回 【生産者行動の理論】とその応用
- 第13回 市場と市場の効率性: パレート最適、「厚生経済学」の基本的考え方
- 第14回 ミクロ経済学再考、展開
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリの受講者は「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1)【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2)【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3)【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4)【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5)【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1)【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2)【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3)【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1)【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2)【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3)【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4)【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5)【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。この講義では財政政策の有効性、実体経済と金融資産市場の相互作用、経済成長の基礎理論といった主題に関して解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性について(1)
- 3回 財政政策の有効性について(2)
- 4回 財政政策の有効性について(3)
- 5回 財政政策の有効性について(4)
- 6回 利率の流動性選好理論(1)
- 7回 利率の流動性選好理論(2)
- 8回 利率の流動性選好理論(3)
- 9回 利率の流動性選好理論(4)
- 10回 IS-LMモデル(1)
- 11回 IS-LMモデル(2)
- 12回 IS-LMモデル(3)
- 13回 経済成長の基礎理論(1)
- 14回 経済成長の基礎理論(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の授業は、経済地理学の基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。講義全体のキーワードは、立地論、企業立地、産業配置である。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
 - 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
 - 3回 企業の立地行動(I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
 - 4回 企業の立地行動(II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
 - 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
 - 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
 - 7回 企業の立地行動(III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
 - 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
 - 9回 企業の立地行動(IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
 - 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
 - 11回 7～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
 - 12回 企業の立地行動(V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
 - 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
 - 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
 - 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10～20% 期末試験 ... 80～90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：この科目を履修し、経済地理学II、地域経済、地域政策を学習することができます。経済地理学は、後の3科目を含めて、経済の空間現象(情報空間を含む)を総合的に、幅広く学習する内容になっています。経済地理学の基礎である立地論の学習は、経済地理学の講義で重点的に行うことになっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学II 【夜】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2学期は日本の産業配置と地域政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。講義全体のキーワードは、立地論、産業配置、地域政策である。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 イントロダクション 【経済地理学】 【都市】 【地域】 【地域政策】
 - 2回 オフィスの立地論 【オフィス】 【本社立地】 【支店立地】 【フェイス・トゥ・フェイス】
 - 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】 【付け値曲線】 【土地利用】
 - 4回 都市内システム 【都市】 【バージェス】 【ホワイト】
 - 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】 【ブレット】 【地方中枢管理都市】
 - 6回 1～5回の復習とまとめ
 - 7回 企業活動と地域 【企業機能】 【地域間システム】 【生活圏】
 - 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】 【拠点開発方式】
 - 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】 【テクノポリス】
 - 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】 【東京一極集中】 【世界都市】
 - 11回 6～10回の復習とまとめ
 - 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】 【産業創出の風土】
 - 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】 【立地要因】 【基礎的地域構造】
 - 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代の地域構造】
 - 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10～20% 期末試験 ... 80～90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：この科目を履修しながら、地域経済を、また履修後に地域政策を学習することができます。経済地理学は、後の2科目を含めて、経済の空間現象(情報空間を含む)を総合的に、幅広く学習する内容になっています。経済地理学の基礎である立地論の学習は、経済地理学の講義で重点的に行うことになっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学I【夜】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの人が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとしたい。

財政学Iは、現実の財政制度や事情についての説明を中心に行う。どのような財政のあり方が望ましいのかを、経済理論を用いて説明するのは財政学IIで行う。

教科書 /Textbooks

小塩 隆士「コア・テキスト 財政学」新世社 2005年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社、「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社
井堀 利宏「新経済学ライブラリ7 財政学(第3版)」新世社 2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 イントロダクション(財政の3つの機能)
 - 2回 財政とは何か?(財政学の変遷)
 - 3回 日本の財政制度①(【予算制度】)
 - 4回 日本の財政制度②(【財政投融资】)
 - 5回 租税①(日本の【租税】制度)
 - 6回 公債①(日本の【公債】事情)
 - 7回 演習(これまでの復習)
 - 8回 地方財政①(【地方財政】制度)
 - 9回 地方財政②(地方財政事情)
 - 10回 日本の財政事情①(戦後日本【財政史】)
 - 11回 日本の財政事情②(現在の国の【財政事情】)
 - 12回 財政事情の国際比較
 - 13回 財政収支①(【財政収支】とは?)
 - 14回 財政収支②(【世代間の不公平】)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% 中間試験... 25% レポート... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

財政に関するニュースはほぼ毎日、ニュースで取り上げられるので、財政に関心を持つようにニュースなどをしっかり見て欲しい。そして、「公共経済学」も併せて履修するのが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学II 【夜】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの人が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとしたい。

財政学IIでは、経済理論を用いて、財政制度が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、その上で社会にとって望ましい財政のあり方を説明する。

教科書 /Textbooks

小塩 隆士「コア・テキスト 財政学」新世社 2005年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社、「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社
井堀 利宏「新経済学ライブラリ7 財政学(第3版)」新世社 2006年
小塩 隆士「社会保障の経済学(第3版)」日本評論社 2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(財政学Iと経済理論のおさらい)
- 2回 租税②(【課税】の経済理論)
- 3回 租税③(課税の経済理論)
- 4回 公債②(【公債】の経済理論)
- 5回 公共財①(【公共財】の最適供給)
- 6回 公共財②(【投票】)
- 7回 【マクロ財政政策】①
- 8回 マクロ財政政策②
- 9回 演習(これまでの復習)
- 10回 【所得再分配】
- 11回 【経済政策】理論
- 12回 社会保障制度①(日本の【社会保障】事情)
- 13回 社会保障制度②(社会保障の経済理論)
- 14回 最近の研究の動向について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% 中間試験... 25% レポート... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」の基礎知識を前提として進めるので、これらの科目を履修しておくこと、より理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済【夜】

担当者名 /Instructor 園 康寿 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1978年以降改革開放が実施されて、30年が経過しました。そして今、中国が掲げるビジョンは「和諧社会」です。中国はこの国家目標をどのように導こうとしているのでしょうか。現在、課題とされている地域経済格差、外需依存型経済成長、金融システム改革、国有企業改革、行財政改革などに注目しながら、受講生の理解を深めていきます。また、こうした過程を通じて、新聞など中国に関する記事の行間を読み取る力を養って行きます。

教科書 /Textbooks

野村総合研究所此本臣吾編『2015年の中国』東洋経済新報社、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ポスト改革開放の新国家像と日本企業の課題【急成長の中国経済】【和諧社会】
- 2回 社会主義和諧社会に向けた国家戦略【経済建設】【地域経済格差】
- 3回 法治国家建設に向けた漸進的アプローチ【行政権限】【司法制度】【法治意識】
- 4回 ポスト改革開放時代の金融システム改革I【銀行業界】【コーポレートガバナンス】
- 5回 ポスト改革開放時代の金融システム改革II【株式市場】【債券市場】
- 6回 国際摩擦の中での新たな通商・外資政策I【対外経済戦略】【貿易大国】【貿易強国】
- 7回 国際摩擦の中での新たな通商・外資政策II【海外直接投資】
- 8回 和諧社会時代の地域・都市発展戦略I【個別型成長】【ネットワーク型成長】
- 9回 和諧社会時代の地域・都市発展戦略II【全国レベル】【広域レベル】【都市レベル】
- 10回 一人っ子世代の消費意識と高度パターン【中国新生代】【顧客】【企業戦力・人材】
- 11回 中国から見るこれからの日中関係I【日中新時代】
- 12回 中国から見るこれからの日中関係II【戦略的互恵関係構築】
- 13回 和諧社会建設と日本企業の対応I【消費市場】【外資政策】
- 14回 和諧社会建設と日本企業の対応II【ビジネスリスク】【リスクマネジメント】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習レポート...25%、課題レポート...25%、定期試験...50%
課題レポートは授業の進捗に合わせて講義内容をまとめて頂きます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

いまの中国事情を知ることが何よりも授業の理解を助けます。新聞を毎日眺め、中国に関する記事を読んでおいてください。これは学習レポートとして評価の対象とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略【夜】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。 東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年、井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年、石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第 2回 経営戦略論の議論の歴史 1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第 3回 経営戦略論の議論の歴史 2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第 4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第 5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第 6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第 7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第 8回 競争の戦略 1【5フォース】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第 9回 競争の戦略 2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第 10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第 11回 戦略と企業間関係【サプライチェーン】、【ビジネスシステム】【アライアンス】
- 第 12回 経営戦略と組織 1【組織形態】、【事業部性】、【マトリックス組織】
- 第 13回 経営戦略と組織 2【組織革新】、【組織学習】【知識創造】。
- 第 14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果によるが、必要に応じて出席点。小テストの結果を加味する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論 【夜】

担当者名 齋藤 貞之 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営組織論は、現代の企業や行政組織など組織体を対象とした経営理論であり、リーダーシップ論、戦略論などの基礎をなす理論である。講義のネライは、組織のダイナミズムを理論的かつ実践的に理解できることである。

講義では、まず組織の基礎理論から出発し、近代組織論の系譜をたどる。これら基礎理論の理解をふまえて次に、現実の組織ないしマネジメントのダイナミズムを理解する能力を養成する。IT革命の進展やグローバル化する経営環境変動のなか、組織はいかに主体的かつダイナミックに社会に働きかけるシステムとして動いているのかを明らかにし、組織進化、バーチャル化など現代組織の動向をとらえることにする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。以下の参考文献の他は、授業中にその都度紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ ジョアン・ マグレッタ『なぜマネジメントなのか』(2003年、ソフトバンクパブリッシング)
- ・ ゲイリー・ ハメル『経営の未来』(2008年、日本経済新聞社)
- ・ ジェームズ・ コリンズ他『ビジョナリーカンパニー』(1995年、日経BP出版センター)
- ・ ジェームズ・ コリンズ『ビジョナリーカンパニー②飛躍の法則』(2002年、日経BP出版センター)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

授業スケジュールは主に以下のとおり。ただし、経営組織のダイナミズムは日々、変化しているのでスケジュール、授業内容は変更することがある。

- 1回 経営組織論の講義概要。【マネジメント】【オーガニゼーション】【コミュニティ】
- 2回 伝統的組織の理解。【ウェーバー】【ビューロークラシー】【パーキンソンの法則】
- 3回 近代組織論の発端 その1 【バーナード】【能率と有効性】【組織成立の3要素】
- 4回 近代組織論の発端 その2 【サイモン】【意思決定論】【SR図式】
- 5回 最適の組織とは：コンティンジェンシー理論【ローレンス＝ローシュ】【コンティンジェンシー】
- 6回 組織の国際比較【組織進化プロセス】【組織類型】
- 7回 最適の組織とは：ネオ・コンティンジェンシー理論【カオス】【ゴミ箱理論】【あいまい性】
【自己組織化】【組織文化】
- 8回 事例研究：ジャック・ウエルチのGE革命【ナンバーワン戦略】【選択と集中】【ワークアウト】
- 9回 事例研究(続)：世界最強の経営者から何を学ぶか【価値共有】
- 10回 最強組織への飛躍の法則【コリンズ】【ビジョナリーカンパニー】【第5水準の経営者】
- 11回 IT革命とマネジメントの変容【IT革命】【距離の死】【トランザクション・コスト】
- 12回 組織リーダーの資質とは【リーダーシップ】【アートかサイエンスか】
- 13回 21世紀型の組織とは【ハメル】【マネジメント・イノベーション】
- 14回 日本の組織の特性について【日本の経営】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学部学生は、「マネジメント論基礎」を履修しておくことが望ましい。また、「経営組織論」と並行して「経営戦略」を受講することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論【夜】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂が公開されています。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 2回 人的資源管理の歴史的発展【人事管理論】【人的資源管理論】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務設計【職務拡大】【職務充実】
 - 5回 組織設計【分業】【調整】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 職能資格制度と人事考課制度【人事等級制度】【人事考課】
 - 8回 専門職制度【組織内プロフェッショナル】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 教育訓練制度とキャリア開発【選択型研修】【自律的キャリア】
 - 11回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
 - 11回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【雇用形態の多様化】
 - 12回 女性労働【ジェンダー】【ダイバーシティ】
 - 13回 労使関係【企業別労働組合】
 - 14回 人的資源管理領域における最近の学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% (出席は不定期に取り、単位の修得条件とする) 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくことよい。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コーポレートガバナンス【夜】

担当者名 晴山 英夫 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレートガバナンス論が社会的な注目を集めている。この問題は単に企業のあり方や企業像にかかわるだけではなく、日本企業の活気や国際競争力、さらに経営者の戦略決定に結びついているからである。本講義では、経営学の観点からその意義と課題を明らかにし、国際比較を試みる。

教科書 /Textbooks

指定しない。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 コーポレートガバナンスとは何か【経営者牽制】、【企業主権者論】、【会社は誰のものか】
- 2回 所有と経営の分離をめぐる【経営者支配】、【経営者効用の最大化】
- 3回 エージェンシー理論とガバナンス【会社支配権市場の牽制】、【機関投資家】、【発言と退出】【ストック・オプション】
- 4回 M&Aと経営者権力【敵対的企業買収】、【経営者の自己保全】
- 5回 ステークホルダーと企業の社会的責任【株主理論】、【利害関係者理論】
- 6回 株式会社支配論とコーポレートガバナンス論、【支配主体論】、【統治主体論】
- 7回 アメリカのガバナンス【アングロサクソン型資本主義】、【株主重視型経営】
- 8回 ドイツのガバナンス【ライン型資本主義】、【労使同権型経営】
- 9回 日本のガバナンス【経営者主権】、【メインバンク】、【権力の空白】
- 10回 中国のガバナンス【国有企業改革】、【政企不分】、【インサイダー・コントロール】
- 11回 日本のガバナンス改革論1【取締役会改革】、【執行役員制度】、【社外取締役】
- 12回 日本のガバナンス改革論2【委員会等設置会社制度の導入】
- 13回 日本の事例研究【ソニーの事例】
- 14回 日本のガバナンスの展望【ガバナンス不在の克服】【グローバル・スタンダード】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題、小テストを含む)... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞や雑誌等の関連記事を読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「演習I」と「演習II」では、1年間の履修を通して、政治や政策に関わる諸問題について受講生みんなで悶々と考えていきます。特に強調される点は、論理的な推論と理論的な視点です。そこで「演習I」は、政治や政策について考察するうえで重要な推論プロセス・概念・理論・方法論について、文献講読を通して、理解を深めることを目指します。各回1~2名が、割り当てられた講読内容に基づいて報告を行います。報告者は、単に内容を要約するだけでなく、何らかの問題を提起し、その問題について暫定的な意見を述べます。報告内容について受講生みんなで討論します。

教科書 /Textbooks

「第1回 イントロダクション」で説明いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション	9回 輪読と報告-概念・理論・方法論
2回 輪読と報告-推論プロセス	10回 輪読と報告-概念・理論・方法論
3回 輪読と報告-推論プロセス	11回 輪読と報告-概念・理論・方法論
4回 輪読と報告-推論プロセス	12回 輪読と報告-概念・理論・方法論
5回 輪読と報告-概念・理論・方法論	13回 輪読と報告-概念・理論・方法論
6回 輪読と報告-概念・理論・方法論	14回 輪読と報告-概念・理論・方法論
7回 輪読と報告-概念・理論・方法論	15回 総括
8回 輪読と報告-概念・理論・方法論	

※ 受講生の人数や関心等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) ゼミでの報告...60%
- (2) ゼミでの討論への積極的な貢献...40%

※ (1)・(2)の一つでも行わなかった場合、特別な理由がない限り、単位修得は認められません。
※ 毎回の出席は単位修得の必要条件です(やむを得ない場合を除き、欠席・遅刻は厳禁です)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① 各回の授業に割り当てられるテキストを、その授業が始まるまでに読んでくること。
- ② ゼミでの討論に積極的に貢献すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、地方自治にかかわるテーマに興味を持った学生の皆さんを対象としている。基本的には年間を通じた調査研究プロジェクトの形式をとり、調査研究のテーマにそって、文献研究をしたり、フィールドワークを実践したり、そして最終的には報告書を執筆する。とくに演習Iでは、調査研究のテーマ設定とそれに関する文献研究が中心となる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス【演習の心得】
- 2回 - 3回 調査研究テーマの決定【テーマについての議論】
- 4回 - 15回 調査研究の準備【文献講読】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。文献研究では膨大な文献を講読するので、事前の予習が不可欠となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「演習I」と「演習II」では、1年間の履修を通して、政治や政策に関わる諸問題について受講生みんなで悶々と考えていきます。特に強調される点は、論理的な推論と理論的な視点です。「演習II」は、「演習I」で習得した知識やスキル等を、政治や政策に関わる具体的な問題の考察に適用します。受講生は関心のある政治や政策に関わる問題を選択し、その問題についての報告を行います。その報告について受講生みんなで討論します。受講生は各自が選択した問題についてのレポートを、ゼミでの討論と各自の調査・分析を踏まえて、学期末に提出します（提出前にゼミでレポート概要を報告します）。

教科書 /Textbooks

「第1回 イントロダクション」で説明いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1回 イントロダクション | 9回 政治や政策に関わる報告と討論 |
| 2回 政治や政策に関わる報告と討論 | 10回 政治や政策に関わる報告と討論 |
| 3回 政治や政策に関わる報告と討論 | 11回 政治や政策に関わる報告と討論 |
| 4回 政治や政策に関わる報告と討論 | 12回 レポート概要報告 |
| 5回 政治や政策に関わる報告と討論 | 13回 レポート概要報告 |
| 6回 政治や政策に関わる報告と討論 | 14回 レポート概要報告 |
| 7回 政治や政策に関わる報告と討論 | 15回 総括 |
| 8回 政治や政策に関わる報告と討論 | |

※ 計画書作成や論文執筆の技法等を適宜説明します。

※ 受講生の人数や関心等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) ゼミでの報告...30%
- (2) ゼミでの討論への積極的な貢献...40%
- (3) レポート...30%

※ (1)~(3)の一つでも行わなかった場合、特別な理由がない限り、単位修得は認められません。

※ 毎回の出席は単位修得の必要条件です（やむを得ない場合を除き、欠席・遅刻は厳禁です）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① レポートの作成では、指定された書式、構成等を厳守すること。
- ② ゼミでの討論に積極的に貢献すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、地方自治にかかわるテーマに興味を持った学生の皆さんを対象としている。基本的には年間を通じた調査研究プロジェクトの形式をとり、調査研究のテーマによって、文献研究をしたり、フィールドワークを実践したり、そして最終的には報告書を執筆する。とくに演習IIでは、演習Iで決定した調査研究のテーマによって、文献研究のまとめ、そしてフィールドワーク等の調査を開始する。そして調査の結果に関する報告書の執筆をおこなう。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 6回 調査研究の準備【文献講読】【調査対象について】
- 7回 - 10回 フィールドワーク報告等【調査結果の報告】
- 11回 - 15回 研究のまとめ【調査報告書】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業や調査への出席および調査報告書執筆への参加などの総合評価... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。文献研究では膨大な文献を講読するので、事前の予習が不可欠となるし、フィールドワーク等の調査結果を報告する場合や報告書の内容検討の場合は、講義で発表する前にそれをまとめてくる作業が重要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「演習Ⅲ」と「演習Ⅳ」は、原則として「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」履修済み（担当教員は問いません）の学生を対象に、各自設定したテーマに関する研究を行うための様々なバックアップを行います。受講生は1学期中（「演習Ⅲ」）に研究テーマを絞り、2学期（演習Ⅳ）の最初に研究計画書を、2学期（演習Ⅳ）の終盤に卒業論文またはゼミ論文を提出します。そこで「演習Ⅲ」では受講生は、論文で取り上げたい政治や政策に関わるテーマを自由に設定し、ゼミでの報告と討論を経て、テーマを絞っていきます。各回1～2名が研究テーマとそのテーマについての知識・情報や研究計画等を報告します。その報告についてのゼミでの討論のなかで、研究を進めるための助言を受けます。

教科書 /Textbooks

「第1回 イントロダクション」で説明いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション	9回 研究テーマの報告
2回 輪読と報告-推論プロセス・リサーチデザイン	10回 研究テーマの報告
3回 輪読と報告-推論プロセス・リサーチデザイン	11回 研究テーマの報告
4回 輪読と報告-推論プロセス・リサーチデザイン	12回 研究テーマの報告
5回 研究テーマの報告	13回 研究テーマの報告
6回 研究テーマの報告	14回 研究テーマの報告
7回 研究テーマの報告	15回 総括
8回 研究テーマの報告	

※ 計画書作成や論文執筆の技法等を適宜説明します。

※ 受講生の人数や関心等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) ゼミでの報告...60%
- (2) ゼミでの討論への積極的な貢献...40%

※ (1)・(2)の一つでも行わなかった場合、特別な理由がない限り、単位修得は認められません。

※ やむを得ない事情でゼミでの報告を一度も行うことができなかった場合は、その理由を証明する書類等を提出し、研究テーマについての問題認識をレポートとして提出していただきます（ゼミでの報告も行わず、レポートも提出しなかった場合は、単位修得は認められません）。

※ 毎回の出席は単位修得の必要条件です（やむを得ない場合を除き、欠席・遅刻は厳禁です）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① 各回の授業に割り当てられるテキストを、その授業が始まるまでに読んでくること。
- ② 輪読の報告を担当した場合、単にテキストを要約するだけではなく、問題を提起しその問題に対する暫定的な意見を述べること。
- ③ ゼミでの討論に積極的に貢献すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【夜】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、地方自治にかかわるテーマに興味を持った学生の皆さんを対象としている。基本的には年間を通じた調査研究プロジェクトの形式をとり、調査研究のテーマによって、文献研究をしたり、フィールドワークを実践したり、そして最終的には報告書を執筆する。とくに演習IIIでは、調査研究のテーマ設定とそれに関する文献研究が中心となる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス【演習の心得】
- 2回 - 3回 調査研究テーマの決定【テーマについての議論】
- 4回 - 15回 調査研究の準備【文献講読】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。文献研究では膨大な文献を講読するので、事前の予習が不可欠となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「演習Ⅲ」と「演習Ⅳ」は、原則として「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」履修済み（担当教員は問いません）の学生を対象に、各自設定したテーマに関する研究を行うための様々なバックアップを行います。受講生は1学期中（「演習Ⅲ」）に研究テーマを絞り、2学期（演習Ⅳ）の最初に研究計画書を、2学期（演習Ⅳ）の終盤に卒業論文またはゼミ論文を提出します。そこで「演習Ⅳ」では受講生は、2学期開始早々に、「演習Ⅲ」で設定した研究テーマについての研究計画書を提出します。提出後は、研究計画書に従って調査や分析等を行い、その経過についてゼミで報告します。報告内容について受講生みんなで討論し、報告者が研究を進め論文を完成させるための助言を行います。受講生は、12月初旬までに第一稿を書き上げ教員に提出します。その後受講生と教員との間での数回のやり取りを通じて、論文を完成させます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション	9回 研究経過報告
2回 研究経過報告	10回 研究経過報告
3回 研究経過報告	11回 研究経過報告
4回 研究経過報告	12回 研究経過報告
5回 研究経過報告	13回 論文概要報告
6回 研究経過報告	14回 論文概要報告
7回 研究経過報告	15回 総括
8回 研究経過報告	

※ 受講生の人数や関心等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 論文...20% (卒業論文の場合：必要最低限の内容・体裁が備わっているかを評価します)
...40% (ゼミ論文の場合：内容や体裁等の詳細について評価します)
 - (2) 報告...50% (卒業論文提出の場合)
...30% (ゼミ論文提出の場合)
 - (3) 研究計画書...10%
 - (4) ゼミでの討論への積極的な貢献...20%
- ※ (1)~(4)の一つでも行わなかった場合、特別な理由がない限り、単位修得は認められません。
 ※ 毎回の出席は単位修得の必要条件です(やむを得ない場合を除き、欠席・遅刻は厳禁です)。
 ※ 卒業論文の詳細についての評価は、「卒業論文」の成績に反映されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① 論文の作成では、指定された書式、構成等を厳守すること。
- ② ゼミでの討論に積極的に貢献すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、地方自治にかかわるテーマに興味を持った学生の皆さんを対象としている。基本的には年間を通じた調査研究プロジェクトの形式をとり、調査研究のテーマによって、文献研究をしたり、フィールドワークを実践したり、そして最終的には報告書を執筆する。とくに演習Ⅳでは、演習Ⅲで決定した調査研究のテーマによって、文献研究のまとめ、そしてフィールドワーク等の調査を開始する。そして調査の結果に関する報告書の執筆をおこなう。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 6回 調査研究の準備【文献講読】【調査対象について
- 7回 - 10回 フィールドワーク報告等【調査結果の報告】
- 11回 - 15回 研究のまとめ【調査報告書】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業や調査への出席および調査報告書執筆への参加などの総合評価... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。文献研究では膨大な文献を講読するので、事前の予習が不可欠となるし、フィールドワーク等の調査結果を報告する場合や報告書の内容検討の場合は、講義で発表する前にそれをまとめてくる作業が重要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークというのは、簡単にできるように見えて意外に難しく、一定の技法が必要です。また、技法だけでなく、マナーというのもフィールドワークにとって欠かせない要素です。本調査実習では、フィールドワークの技法と基礎知識を身につけることをねらいとします。きちんとした調査技法やマナーを踏まえないければ、「調査公害」だけを生む結果となります。そうならないためにも、調査を始めるときに必要な技法、調査をしているときに気をつけないといけないこと、調査が終わってからの作業などを、ここでは学びます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 - 5回 調査研究の準備【文献講読】【調査対象についての情報収集】
6回 - 10回 フィールドワーク報告等【調査結果の報告】
11回 - 15回 研究のまとめ【調査報告書】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業や調査への出席... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。調査に出かけるときは、講義時間外の準備が必要である。たとえば、事前調査や調査先で問う質問をまとめる必要がある。また調査結果のまとめについては毎回の授業で内容のチェックをするため、授業までにある程度の文章をまとめておくことが不可欠である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトII【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークというのは、簡単にできるように見えて意外に難しく、一定の技法が必要です。また、技法だけでなく、マナーというのもフィールドワークにとって欠かせない要素です。本調査実習では、フィールドワークの技法と基礎知識を身につけることをねらいとします。きちんとした調査技法やマナーを踏まえなければ、「調査公害」だけを生む結果となります。そうならないためにも、調査を始めるときに必要な技法、調査をしているときに気をつけないといけないこと、調査が終わってからの作業などを、ここでは学びます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 - 5回 調査研究の準備【文献講読】【調査対象についての情報収集】
6回 - 10回 フィールドワーク報告等【調査結果の報告】
11回 - 15回 研究のまとめ【調査報告書】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業や調査への出席および調査報告書執筆への参加などの総合評価... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。調査に出かけるときは、講義時間外の準備が必要である。たとえば、事前調査や調査先で問う質問をまとめる必要がある。また調査結果のまとめについては毎回の授業で内容のチェックをするため、授業までにある程度の文章をまとめておくことが不可欠である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文【夜】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 1・2学期(バア) クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策科学科教員の指導を受けながら書くこととなりますが、あらかじめ履修申告が必要です。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 最終学年の4月に受講申告をする必要があります。
- (昼間主)論文を提出しようとする学生は、所属する演習を担当する教員(指導教員)の指導を受けます。
(夜間主)論文を提出しようとする学生は、政策科学科教員の中から指導教員を定め、その指導を受けます。
- 指導教員の承認を得て、論文題目を、最終学年の6月15日(当日が日曜日の場合にはその翌日)の午後8時までに教務課に届け出なければなりません。
第1学期末に単位の認定を受けようとする学生(9月卒業予定者)も同じです。
- 論文の様式は次のとおりです。
 - 日本語で執筆する場合は、A4、400字詰め原稿用紙横書30枚以上とし、表紙をつけて装丁する。ただし、ワープロで印書する場合には、A4用紙横書に40字30行で10枚以上。
 - 英語で執筆する場合は、A4用紙にダブルスペースで3000語以上とし、表紙をつけて装丁する。
 - 日本語及び英語以外の言語で執筆する場合には、①及び②に準じて別途指示します。
- 論文提出日時は次のとおりです。
(昼間主)1月の第3月曜日正午まで(日付はその都度掲示します。)
【※9月卒業予定者は7月17日(当日が休日の場合にはその翌日)正午まで】
(夜間主)1月の第3月曜日午後8時まで(日付はその都度掲示します。)
【※9月卒業予定者は7月17日(当日が休日の場合にはその翌日)午後8時まで】
- 論文の提出先は教務課です。

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なお、「論文題目」、「論文」の提出日時等必要な事項については、別途掲示しますので、掲示板で必ず確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策科学入門【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策科学科の新入生がこれから政策を考察・研究するうえで必要となる基礎的な知識・視点・方法論を提供することです。その際、現代における政治・経済・社会的な変容の具体例を取り上げて、それらの変容が引き起こす社会問題はどのように捉えられて、それらの問題に対処する政策案はどのように研究されているかに焦点を当てます。「政策科学」という響きは極めて難解なものに聞こえるかもしれませんが、政策について考察・研究することはとても重要で面白い活動です。そこでは、いろいろな視点や方法が求められ、知的刺激が満載です。本講義を通じて、政策を考察・研究することのイメージを掴み、その面白さを感じ取ってください。

教科書 /Textbooks

今のところ指定するテキストはありません。詳細は第一回目の講義で説明いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション-政策科学とは？
 2回～5回： 事例から政策を考えてみよう
 ①中心市街地の空洞化・衰退-アメリカの都市
 ②日本の地方都市における中心市街地の空洞化-北九州市（特に黒崎）
 ③中心市街地の活性化の成功例-アメリカのコロラド州デンバー等
 ④コンパクト・シティ-青森市（青森市新町商店街の活性化策）
 6回： データから政策を考えてみよう
 -地方自治体の政策の比較，少子化問題等
 7回～9回： 理論から政策を考えてみよう
 -所得格差，環境破壊，まちの活性化，税制等
 10回～11回： 国際的要因の国内政策への影響を考えてみよう
 -貿易・資本の国際化，国際競争，企業統治，国内経済政策等
 12回～14回： 現代の社会問題を政策的に考えてみよう
 ①一億総中流から格差社会へ-日本における貧困を考えてみよう
 ②格差社会のなかの日本-日本のセーフティネットを考えてみよう
 ③循環型社会論序説-ごみ問題を考えてみよう
 15回： 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（中間と期末の2本）...50%；出席...50% 詳細は第1回目の講義で説明いたします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆予習用の読物として論文や記事等が指定されている場合は、授業前に目を通してきてください。
- ◆授業で配布された資料等を、授業後あらためてじっくり読み込んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論【夜】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのため、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ごとに挙げていく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 日本における貧困問題・・・北九州市と福岡市のネットカフェ難民調査から
- 5回 日本における子どもの貧困(1)・・・日本の現状を考える
- 6回 日本における子どもの貧困(2)・・・比較の視座から考える
- 7回 社会実験(1)・・・社会実験とは何か
- 8回 社会実験(2)・・・事例の分析・検討
- 9回 循環型社会(1)・・・導入
- 10回 循環型社会(2)・・・容器包装リサイクル法
- 11回 循環型社会(3)・・・家電リサイクル法
- 12回 介護保険(1)・・・導入
- 13回 介護保険(2)・・・現状分析
- 14回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 15回 介護保険(4)・・・問題点とその検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業貢献度など ... 50 % レポート ... 50 %。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いていただき成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策過程論【夜】

担当者名 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会・政策の決定(合理的決定・ゴミ箱決定、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams, 政策の窓 (Policy Window)、政策実施・調整 (Policy Learning &Changes)・政策変数、終了・評価の政策過程と、アクターの参加 (内閣・官僚・国会、政府間関係、専門家組織、世論とメディア、NPO)とその構造 (補助金・Rent-Seekingのような利益誘導型政治等)について理論・事例を広く検討し、理解してもらう。

(キーワード ; 公私、公共政策、政策の決定、実施、政策調整、終了、アクターの参加、メディアの役割、ガバナンス)

教科書 /Textbooks

- ① 早川純一 貴 外 (2004)、政策過程論、学陽書房
- ② 足立幸男 (2006)、公共政策決定の理論 ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中郵章、竹下讓 (1987)、日本の政策過程 : 自民党・野党・官僚、梓出版社
- 中野実 (1992)、現代日本の政策過程、東京大学出版会
- 草野厚 (1997) 政策過程分析入門、東京大学出版会
- 中村昭雄 (1997)、日本政治の政策過程、芦書房、その他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 授業や本の紹介など
- 第 2回 政策の対象、政策の必要性、費用と利益、政策の種類など。
- 第 3回 政策過程、参加者、政策資源、
- 第 4回 政策過程の理論 1 (川辺川ダム決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 第 5回 政策過程の理論 2 (政策の窓、イシューネットワーク論、無意思決定論など、中野実 (1992)、草野厚 (1997) を参考。
- 第 6回 政策過程の理論 3 (新聞、インターネットとかで検索した事例分析)
- 第 7回 ~ 第10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、アクター、官僚と国会、政府間関係、利益誘導政治)、実施過程に関する論文などの参考、
- 第 11回 後援会、地域政治構造、
- 第 12回 地域政治と政策過程、中野実 (1992) などを参考。
- 第 13回 政策評価と市民参加、
- 第 14回、第 15回、関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・試験・発表・出席状況などから総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策情報処理 【夜】

担当者名 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、政策科学の研究のために必要なスキルのひとつである、統計処理・データ解析の方法を習得し、受講生が統計的な手法を用いた分析を行えるようになることである。統計の基本的な概念や様々な分析手法およびその特性などを学びながら、実際のデータを用いて統計的な処理・解析を行うという、講義・実習の両形式から成る実践的な授業となる。なお、具体的には地方自治体に関するデータを用いる予定である。また統計パッケージとしてSPSSを使用することを想定しており、ソフトの数量に限りがあるため、受講者数を制限する場合がある。

教科書 /Textbooks

テキストは特には指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 増山幹高・山田真裕(2004)『計量政治分析入門』東京大学出版会
 - 佐伯胖・松原望編(2000)『実践としての統計学』東京大学出版会
 - 石村貞夫(2007)『SPSSによる統計処理の手順 第5版』東京図書
 - 谷岡一郎(2007)『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』筑摩書房
- その他、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回～5回 統計の基礎(記述統計・度数分布)
 - 6回 クロス集計
 - 7回 相関分析
 - 8回 中間テスト
 - 9回 中間テストの解説とここまでの復習
 - 10回～13回 回帰分析
 - 14回 回帰分析を中心とした復習
 - 15回 まとめ
- (実習を行うため、受講生の人数等によってスケジュールは変更される場合がある)

本授業では統計の基礎から講義・実習を行います。「データ処理」等、基本的な情報処理科目を履修済みであれば理解はより深まります。パソコン教室での授業となるので、受講生は各自、学内のパソコンを使用できるように(ログインできるように)しておいて下さい。また受講希望者が多数の場合には、受講者数調整を行う場合があります。これについては初回のガイダンスにて説明しますので、受講したい学生は必ず第1回目の授業にご出席ください。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%
(遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策調査論【夜】

担当者名
/Instructor

横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、日常生活で感じる身近な事柄から政策を考え実際に調査を実施することで、問題の背景などの現状を把握する技術を学ぶ。また現状を理解し、仮説の検証を行い、政策提言できるまでの分析手法を習得する。さらに調査結果の発表を通じ、他者に伝えるスキルを身に付けるということも本授業の目的である。調査票の作成、実施、分析、報告は班単位で行う。また調査や分析方法等については講義形式の授業で学ぶ。調査結果の分析に際してExcelやSPSSを使用する予定である。また使用する統計解析ソフトの数量には限りがあるため、受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 飽戸弘 (1987) 『社会調査ハンドブック』 日本経済新聞社
 - 谷岡一郎 (2007) 『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』 筑摩書房
 - 増山幹高・山田真裕 (2004) 『計量政治分析入門』 東京大学出版会
- その他、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス・調査テーマアンケート	8回 プリテストの実施
2回 調査の種類・事例・過程	9回 調査の実施
3回 調査の企画	10回 結果の入力
4回 分析手法の習得(1)【記述統計】	11回 調査結果の分析(1)【全体の把握】
5回 分析手法の習得(2)【クロス集計・相関】	12回 調査結果の分析(2)【仮説の検定】
6回 分析手法の習得(3)【回帰分析】	13回 報告資料の作成
7回 調査票の作成	14回 調査結果の発表
	15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実習・班単位での作業への参加と貢献度合い40%、発表20%、最終報告書40%
(遅刻厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「政策情報処理」等の情報処理教育科目を履修していることが望ましいですが、本授業では分析方法についても触れるので、特段の準備は必要ありません。ただ調査を実施し、分析し、報告するという一連の作業を1学期間で行うというなかなか忙しい授業であり、班単位での課題も多く感じられるかもしれません。実際に調査をやってみたい！という受講生を歓迎します。また受講希望者が多数の場合には、受講者数調整を行う場合があります。これについては適宜、掲示板で告知をしますので、新年度および初回授業の前に必ず掲示をご確認ください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治過程論【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「政治過程」は、政治制度の下で繰り広げられる様々なアクターによるインターアクションのプロセスを表す概念です。本講義は政治過程についてジャーナリスティック・感覚的にではなく、理論的・実証的に即ち社会科学的に考察します。まず、有権者がニーズを訴える過程（「入力過程」）に目を向けます。つぎに、入力された有権者のニーズを受けて政策を決定・実施・評価する過程（「出力過程」）に焦点を当てますが、本講義では特に政策決定過程を取りあげます。最後に、政策を決定するシステム（「公共システム」）の特徴を、市場システムと比較しながら、描出します。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- [入力過程]
- 2回 投票行動 3回 投票行動
- 4回 投票参加 5回 投票参加
- 6回 投票参加 7回 世論とメディア
- [出力過程]
- 8回 政策決定過程におけるアクター 9回 政策決定過程におけるアクター
- 10回 政策決定・政策過程のモデル 11回 政策決定・政策過程のモデル
- 12回 政策決定・政策過程のモデル
- [公共システム]
- 13回 公共システムと市場システム 14回 公益と政策
- 15回 総括

※受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- ◆政策決定を含めた政策過程全般について深く勉強を進めたい場合は「政策過程論」、行政府や官僚等については「日本行政論」、政策立案・分析・議論における公益等の諸価値の問題については「政策構想論」、政党システムや欧州諸国の政党については「政党政治論」、政党・利益集団・行政省庁に代表される組織全般については「行政組織論」、政治過程のルールである政治制度については「政治学」、日本の政治過程については「日本政治論」の受講をお勧めいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代政治思想 【夜】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治思想は、「現代」のさまざまな政治思想を取り扱うと同時に、現代政治についてのさまざまな理論化の試みも取り扱う。本講義では、まず、「政治思想とは何か」について論及し、次に、ヨーロッパ近代政治思想について論述する。その際、近代が政治をどのように捉え、何を切り捨ててきたのかという問題を取り上げ、さらに、その問題点が現代どのような形をとって現れてきているのかについても考察してみたい。また、いくつかの民主主義思想を取り上げ、欧米と日本との比較を行う。

教科書 /Textbooks

中道壽一『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）。理解を深めるため、毎回レジユメを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は毎回、講義中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治思想とは何か【政治】【思想】【現代的意義】
- 第2回 政治思想(史)の方法について【思想史との関連】
- 第3回 政治思想(史)の方法について【比較政治思想の意義について】
- 第4回 近代：現代政治思想について【モダンとポストモダン】
- 第5回 ルネサンス・宗教改革の政治的意義について【思想のダイナミズム】【思想と政治の連動】
- 第6回 社会契約論の比較(1)【T・ホッブズの政治思想】【ピューリタン革命】
- 第7回 社会契約論の比較(2)【J・ロックの政治思想】【名誉革命】
- 第8回 社会契約論の比較(3)【J・J・ルソーの政治思想】【フランス革命】
- 第9回 現代政治思想の展開(1)【功利主義の政治思想】【ベンサム】【ミル】
- 第10回 現代政治思想の展開(2)【リベラルな平等】
- 第11回 現代政治思想の展開(3)【リバタリアニズム】
- 第12回 現代政治思想の展開(4)【コミュニタリアニズム】
- 第13回 民主主義思想の比較について【同質性民主主義論】【エリート主義的民主主義論】
- 第14回 民主主義思想の比較について【参加民主主義論】【共生の民主主義論など】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出：有(任意) 小テスト：有(添削および問題解説) 期末試験：有。評価は総合して行う。出席... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート(任意) 十分評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市環境論 【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるの？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもちていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてもらいたいのは、環境問題の原点とも言われる水俣病です。そのことも毎年実施している私のゼミ及び「政策科学入門I」の環境学習研修旅行の記録を通して学習します。環境教育アクティビティを多用します。

教科書 /Textbooks

その都度資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 栗原彬『証言 水俣病』岩波新書、2000年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成19年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣病講義』日本評論社、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---------------------------------------|------------|
| 第1回 「都市環境論」の授業内容とならひの説明：：簡単な環境意識度チェック | 【環境意識】 |
| 第2回 環境教育とESD（持続可能な開発のための教育） | 【ESD】 |
| 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告 | 【環境学習旅行】 |
| 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 | 【水俣病】 |
| 第5回 日本の環境政策 | 【環境政策】 |
| 第6回 北九州市の環境の現状 | 【北九州市】 |
| 第7回 廃棄物管理 その原理と現状 | 【廃棄物管理】 |
| 第8回 廃棄物管理 ～リサイクル、特にコンポストをめぐる | 【コンポスト】 |
| 第9回 下水処理をめぐる～下水処理の原理 | 【水質汚濁】 |
| 第10回 下水処理をめぐる～途上国インドのし尿処理問題 | 【途上国のし尿問題】 |
| 第11回 上水道：：（アクティビティ=きき水比べ） | 【おいしい水】 |
| 第12回 大気汚染～汚染の原理と現状 | 【大気汚染】 |
| 第13回 大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定 | 【CO2計測】 |
| 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々=エコツーリズムに関わろう！ | 【エコツーリズム】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 20 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究A 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスでは先進諸国の経済・福祉政策とそれらが経済や人々の生活に与える影響を学ぶ。毎週学生によるプレゼンテーションを基に、それぞれのトピックを検証し、理解を深める。毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

教科書 /Textbooks

Jonas Pontusson. 2005. Inequality and Prosperity: Social Europe vs. Liberal America. Ithaca: Cornell University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

全ての学生が毎週、テキストの指定箇所を事前読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そういう覚悟で履修登録すること。(私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

1. イントロ; 2. 問題定義: 経済成長と平等; 3. 成長と平等II; 4. 資本主義経済の諸類型; 5. 雇用・失業の様態; 6. 雇用・失業の様態II; 7. 雇用保護・解雇規制と雇用; 8. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差; 9. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差II; 10. 福祉政策、所得再分配、経済成長; 11. 福祉政策、所得再分配、経済成長II; 12. 福祉国家の縮小とデータ; 13. 福祉国家の縮小とデータII; 14. 遅れをカバーするための授業; 15. まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言参加が50%、(2)研究論文が50%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけ積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は学期末提出の研究論文の質で決める。研究論文はA4紙にダブルスペースで10枚程度。研究論文の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、抽象的な哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと:(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。

また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらう。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進め、論文をまとめる。当然のことながら、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を必ず読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自治体政策研究【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代日本において地方分権改革は最重要課題の一つといつてよい。しかしながら、現在の自治体が、「分権の受け皿」として、政策過程のなかで積極的かつ効果的な役割を担っているか（あるいは担えるか）といえれば必ずしもそうとはいえない。つまり、これまで中央政府で決定された公共政策の単なる実施機関との位置づけが濃かった日本の自治体が、自ら「政策形成の担い手」になりうるかどうか、あるいは、自らが決定した政策に関して政策評価等を通じ住民への説明責任を十分に果たすことができるかどうかは今後極めて挑戦的課題になるのである。本講義では、こうした問題を政策プロセスにおける住民参加の問題やNPOの問題などを含め多角的視点から検討・考察し、現代日本におけるいわば「政策自治体」の可能性・ありかたを模索することにした。

また、人口減少期のまちづくりはどのようにするべきかといった問題（コンパクトシティ）、さらには中山間地域の限界集落と都市の限界コミュニティの問題など、これから地方自治体が直面する問題や先進的取り組みについても議論することにした。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想（青森市、富山市など）
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-くしとお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落（1）-限界集落とは何か
- 6回 限界集落（2）-限界集落の事例、綾部市の「水源の里」
- 7回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは
- 8回 北九州市の局地的高齢化と限界コミュニティ
- 9回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり（1）-市民参加と協働
- 10回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり（2）-コミュニティ
- 11回 グリーンツーリズム、移住政策
- 12回 三鷹市のまちづくり（1）-市民参加の実験都市
- 13回 三鷹市のまちづくり（2）-市民参加の様々な試みの紹介
- 14回 北九州市の市民センター
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業貢献度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、論文、新聞記事などを読んだうえで講義に参加していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【夜】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。併せて、企業活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方行政改革論【夜】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政改革がなぜ必要とされているのか、そこでの改革手法としてどのような手法が用いられているのか、現在進む地方行政改革の実態と課題を論じたい。改革の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。とくに今年、自治体改革のブームともなっている「自治基本条例」を大きく取り扱うことにする。自治体の基本的なルールともいえる自治基本条例を定めるケースが増えているが、自治基本条例の将来的可能性ないし課題について考えることにしたい。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の組織【官僚制の理論】
- 3回 地方自治体の組織【自治体の特性】
- 4回 組織改革①【自治体組織の改革】
- 5回 組織改革②【自治体組織の改革】
- 6回 組織改革③【自治体組織の改革】
- 7回 地方公務員の改革①【公務員制度】
- 8回 地方公務員の改革②【人事管理改革】
- 9回 地方公務員の改革③【求められる公務員とは】
- 10回 行政と住民の関係①【市民参加】
- 11回 行政と住民の関係②【自治体内分権】
- 12回 行政と住民の関係③【コミュニティ自治】
- 13回 近年の課題①【自治基本条例の全体像】
- 14回 近年の課題②【自治基本条例による改革進展】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。この授業の内容からすると、すでに地方自治論を履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本行政論【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

教科書 /Textbooks

今村都南雄 (2009) 『ホーンブック基礎行政学』北樹出版など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西尾勝 (2001) 『行政学』有斐閣 .
- 森田朗 (1996) 『現代の行政』放送大学教育振興会 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
- 2回 行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
- 3回 行政の歴史②【行政国家化】
- 4回 行政学史①【官僚制の理論】
- 5回 行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】
- 6回 行政学史③【人間関係論】【現代組織論】
- 7回 現代の行政制度①【国会】【議院内閣制】
- 8回 現代の行政制度②【内閣制度】【総理大臣と政治リーダーシップ】
- 9回 現代の行政制度③【官僚制と政策過程】
- 10回 現代の行政制度④【公務員制度】【公務員改革】
- 11回 「官から民へ」の意味①【民営化】
- 12回 「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】
- 13回 行政改革の方向性①【改革の背景】【各国の主要動向】
- 14回 行政改革の方向性②【規制緩和・民営化・情報公開・構造改革特区】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共経営論【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に公共サービス再編成を対象とし、市場原理・企業的経営手法を取り入れた行政機関の管理改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
・ 授業の進め方、成績評価について説明するので必ず出席してください。
- 第2回 - 4回 理論 新公共経営と政府体系
・ 新公共経営 (NPM: New Public Management)、
能率と責任などの概念整理、準市場化と準政府の拡大。
- 第5回 - 7回 事例 教育・文化施設編①
・ 民間委託の類型化と指定管理者制度 ・ PFI
- 第8回 - 11回 事例 公共事業編
・ 入札改革 ・ 財政投融资など
- 第12回 - 第15回 事例 教育・文化施設編②
・ 学校選択制 ・ 株式会社立学校

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・・・50% レポート・・・50%
(レポートは学期末に1回の提出)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域統合論【夜】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ統合を分析する理論的側面として地域統合論を解説し、ヨーロッパ統合を現実に推し進めることになった理念とともに、EUの組織・機構や意思決定過程について学ぶ予定である。また、EUにおける各分野の政策に関して、その発展過程を理解するとともに問題点を探ることを目指す。国際社会において、EUがアメリカとは異なる政策や立場を選択する事例や、国際組織やアジアとの関係についても触れ、ヨーロッパの統合過程において現れ始めている問題点についても考えたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』(芦書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 授業内容の説明、EUの歴史と概要
 - 2回 地域統合論【地域】【統合】【新機能主義】【交流主義アプローチ】
 - 3回 ヨーロッパ統合の理念と歴史【ECSC】【EURATOM】【EEC】【EC】
 - 4回 EUの組織・機構と意思決定過程(1)【欧州委員会】【欧州理事会】
 - 5回 EUの組織・機構と意思決定過程(2)【欧州議会】【閣僚理事会】
 - 6回 域内市場政策(1)【単一市場】【単一欧州議定書】
 - 7回 域内市場政策(2)【域内市場統合】
 - 8回 単一通貨政策【ウェルナー】【ECB】【ユーロ】
 - 9回 共通農業政策(1)【CAP】【補助金】
 - 10回 共通農業政策(2)【財政問題】
 - 11回 共通外交・安全保障政策(1)【CFSP】
 - 12回 共通外交・安全保障政策(2)【欧州緊急対応部隊】【ESDP】
 - 13回 国際社会における主体としてのEU【アジア】【ASEM】【国連】
 - 14回 ヨーロッパ統合における負の側面【外国人排斥】【エリートvs. 大衆】【EU懐疑主義】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の小テスト ... 40% 期末筆記試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容を自分でまとめてノートに取る訓練をすること。「西洋政治史」および「政党政治論」を履修することにより、ヨーロッパの国際関係や国内政治に関する知識を身につけておくこと効果的な学習ができる。学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容を全て講義できない点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法思想史【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探究する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたいうえてそれを相対化することもまた、可能となってくるであろう。

教科書 /Textbooks

○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳, 濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）
- 田中成明, 竹下賢, 深田三徳, 亀本洋, 平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店）、○三島淑臣『法思想史』（青林書院）
- F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法思想史とは
- 第2回～第6回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想の展開
【トマス・アクィナス】【ホッブズ】【ロック】【ケルゼン】【ハート】
- 第7回～第13回 現代正義論への法思想の展開
【アリストテレス】【実践哲学の復権】【ロールズ】【ノジック】【ドゥオーキン】
【共同体主義】【マルチカルチュラリズム】
- 第14回～第15回 法思想史のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「現代正義論」を1年次に受講していれば、より理解しやすい。講義前には、テキストの該当箇所を読み、講義後には各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにさせていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

各回ごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大隈義和他『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）
- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義 - 【国家権力の授権と制限】
- 第2回 憲法の展開 - 【近代から現代、そして未来へ】
- 第3回 人権総論① - 【人権の保障と制限】
- 第4回 人権総論② - 【裁判所による人権保障】
- 第5回 統治機構総論① - 【国民主権の意義】
- 第6回 統治機構総論② - 【日本の政治制度】
- 第7回 統治機構総論③ - 【司法制度と違憲審査制】
- 第8回 平和主義論① - 【憲法9条の制定・意義】
- 第9回 平和主義論② - 【平和主義の現実と未来】
- 第10回 平和主義論③ - 【憲法9条と裁判所】
- 第11回 地方自治 - 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第12回 象徴天皇制 - 【天皇制の継続と断絶】
- 第13回 憲法保障 - 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 総括
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法訴訟論【夜】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国の最高法規を守り人権を保障するために、裁判所には違憲審査権が付与されています(81条)。「法の支配」原理にたつこの違憲審査制度は、日本国憲法の最大の特徴です。裁判所は「憲法の番人」といわれる所以です。わが国の違憲審査制度は具体的・付随的な違憲制度であり、具体的な民事・刑事・行政訴訟が提起されて、そのなかで憲法問題が争点となった裁判を憲法訴訟といいます。事件性の要件をみたした訴訟は民事訴訟法、刑事訴訟法、行政事件訴訟法などの法律が用意されていますが、「憲法訴訟法」という体系的な法律があるわけではありません。憲法訴訟を体系的に勉強するためには、実定法の理解のみならず憲法体系を支える憲法理論(人権と統治)の理解が不可欠となります。人権に関する憲法判例を検討・分析するさいに、憲法訴訟の理論が必要となります。この講義では、人権裁判において適用される合憲性の審査基準に関する理論、憲法判断の要件・手続・方法に関する理論など、具体的な訴訟を素材にして憲法判断についてのルールについて詳細に学びます。

教科書 /Textbooks

手島・安藤『新基本憲法学』(法律文化社、2600円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高見勝利『芦部憲法学を読む』(有斐閣)
野中・中村・高橋・高見『憲法II』(有斐閣)
高橋・長谷部・石川『憲法判例百選II』(第5版)(有斐閣)
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回から第2回 司法権の意義
第3回から第4回 裁判所の構成と機能(裁判員制度の批判的検討)
第5回から第6回 司法権の独立(司法官僚と司法の危機)
第7回から第8回 司法権の限界
第9回から第10回 違憲審査制度と憲法訴訟をめぐる諸問題
第11回から第12回 違憲審査基準と方法
第13回から第14回 最高裁法令違憲判決の検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...20% 課題レポート ...20% 定期試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政争訟法 【夜】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
後日揭示

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治法 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地方自治に関する法制度の原理と仕組みを理解することをねらいとする。
憲法は「地方自治の本旨」に基づく地方制度を予定しているが、現実の具体的な地方自治のあり方はどのように設定されているのか、そこにどのような問題点があるのか、今後のあり得る方向性はどうか等について検討する。

教科書 /Textbooks

中川義朗編『21世紀の地方自治を考える』（2010年、法律文化社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇賀克也著『地方自治法概説【第3版】』（2009年、有斐閣）
- 磯部力ほか編『地方自治判例百選〔第三版〕』（2003年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1～2回 「地方自治の意義と歴史」 | 17～18回 「国と地方公共団体との関係」(1) |
| 3～4回 「地方自治に関する法源」 | 19～20回 「国と地方公共団体との関係」(2) |
| 5～6回 「地方公共団体の種類」 | 21～22回 「情報公開制度」(1) |
| 7～8回 「地方公共団体の事務」 | 23～24回 「情報公開制度」(2) |
| 9～10回 「地方公共団体の権能」 | 25～26回 「個人情報保護制度」 |
| 11～12回 「地方公共団体の機関」(1) | 27～29回 「住民監査請求と住民訴訟」 |
| 13～14回 「地方公共団体の機関」(2) | 30回 まとめ |
| 15～16回 「住民の権利義務」 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 課題 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

憲法および行政法の各科目を履修済みであることが望ましい。
当然ながら予習復習が必要である。
(復習のための課題の提出を求める。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目で扱う「刑法総論」は、すべての犯罪に共通する犯罪成立要件の体系(犯罪論体系)を考察する法分野です。この意味で、犯罪と刑罰に関する法(=刑事法)の起点となります。講義では、具体的事例をもとにして、犯罪の成否に関する一般的な法理論を考察して、体系的整合性、論理的思考力を習得することを目的としています。

教科書 /Textbooks

(参考)山中敬一『刑法概説I総論』(成文堂・2008.10) ※テキストの選択は任意。
(参考)井田良『講義刑法学・総論』(有斐閣・2008.12)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』3版(有斐閣・2005.12)
○山中敬一『コースクール講義 刑法総論』(成文堂・2005.04)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがあります。

1回 ガイダンス・刑事司法過程の全体像	16回 緊急行為①【正当防衛】
2回 犯罪論の基本構造【犯罪論体系】	17回 緊急行為②【対物防衛・偶然防衛】
3回 刑法の基礎理論①【罪刑法定主義】	18回 緊急行為③【緊急避難】
4回 刑法の基礎理論②【学派の争い】・【刑罰論】	19回 【原因において自由な行為】
5回 刑法の基礎理論③【違法論】	20回 故意論【故意の種類・未必の故意】
6回 刑法の基礎理論④【責任論】	21回 過失論【過失論】【信頼の原則】
7回 行為と構成要件【構成要件】	22回 錯誤論①【具体的事実の錯誤】
8回 【実行為】と【不能犯】・構成要件の結果	23回 錯誤論②【抽象的事実の錯誤】
9回 【未遂罪】と【予備罪】・【実行の着手】	24回 共犯論の基礎【間接正犯】
10回 【中止犯】	25回 【共同正犯】
11回 【不作為犯】	26回 【共謀共同正犯】
12回 因果関係①【条件関係】	27回 【承継的共同正犯】
13回 因果関係②【相当因果関係】	28回 狭義の共犯【教唆犯】
14回 因果関係③ 因果関係の諸問題	29回 狭義の共犯【幫助犯】
15回 【正当行為】・【被害者の承諾】	30回 罪数論・科刑論

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
小テストの成績を成績評価において考慮する場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメを配布する予定です。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習(基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。)・復習(講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。)を十分に行ってください。この講義を受講した後に、「刑法犯罪各論I・II」及び「刑事訴訟法」を受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

所得保障法 【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

福祉国家として発展はしてきたものの、貧困はかならずしも過去の問題とはいえない深い根を持つ問題である。貧困解消のために積み重ねられてきた過去の立法の歴史を踏まえて、現代の所得保障制度の体系、対象、方法を理解することを目的とするとともに、他国の制度改革を参考に、わが国の所得保障の課題について理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

河野正輝他「社会保障論」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義の際に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代社会と貧困および所得格差 [ワーキングプア、ホームレス、見えない貧困]
- 2,3回 所得保障制度の歴史 [救貧法、「貧困の発見」、ビスマルク社会保険]
- 4,5回 所得保障法の体系・方法 [公的扶助、社会手当、社会保険]
- 6,7回 高齢者に対する所得保障 [老齢基礎年金、老齢厚生年金]
- 8回 障害者に対する所得保障 [障害基礎年金、障害厚生年金]
- 9回 遺族に対する所得保障 [遺族基礎年金、遺族厚生年金]
- 10,11回 医療費、介護費等の費用の保障 [医療保険、介護保険、児童手当]
- 12回 最低生活の保障 [生活保護制度]
- 13回 海外の年金改革の動向 [概念上の確定拠出型年金、保証年金]
- 14回 海外の最低保障制度の改革 [アクティブエイション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に、現代の貧困について、各自で情報を収集しておく、関心を持って講義に望められる。社会法総論とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

雇用関係法 【夜】

担当者名 國武 英生 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

雇用関係法は、労働者と使用者の個別の関係を規律する法領域である。働くうえで直面する法律問題の多くはこの法分野に関わるものであり、雇用関係法は労働法の体系において中心的な位置を占めている。
この講義では主に、雇用関係の成立、展開、終了という雇用関係の変遷に関する問題と、雇用関係の内容に関わる法規制について学習する。また、実定法の解説にとどまらず、実際に社会規範、裁判規範としてどのように労働法が社会的に意味をもつのかを理解できることも目指す。

教科書 /Textbooks

村中孝史ほか編『労働判例百選 [第8版]』有斐閣 (2009年)
六法 (小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回の講義の際に具体的に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回～第 2回 ガイダンス～労働法の全体像～
【市民法原理の修正】【労働関係の規律構造】
- 第 3回～第 4回 雇用関係法の基本構造
【労働法上の当事者】【労働条件決定システム】
- 第 5回～第 6回 雇用関係の成立
【採用】【試用】【労働契約上の権利義務】
- 第 7回～第 8回 雇用関係の展開(1)
【配転】【出向】【就業規則の不利益変更】
- 第 9回～第10回 雇用関係の展開(2)
【賃金請求権】【労働時間、休憩、休日】【時間外労働】
- 第11回～第12回 雇用関係の終了
【退職】【解雇】【懲戒権の根拠】
- 第13回～第14回 女性労働保護と労災・安全衛生
【セクハラ】【業務災害】【安全配慮義務論】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、コメントカード... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

労働法は実定法の中でもいわば応用的な分野です。雇用関係法を学ぶうえでは民法の知識を必要としますので、民法総則等の科目を履修した後に受講することをお勧めします。また、労働法の理解を深めるためには、「労使関係法」をあわせて受講すると良いでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【夜】

担当者名 /Instructor 中川 智治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組の修得を目指します。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、条約集が必要（出版社は問わない）。
講義は講師作成のレジュメ配布を予定している

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

長谷川正国（訳）『現代国際法入門』（成文堂、1999年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 紛争社会としての国際社会【国内社会と国際社会】
- 2回 国際紛争の解決方法の歴史I【正戦論】【中立】【不戦条約】
- 3回 国際紛争の解決方法の歴史II【憲章第2条4項】【自衛権】【司法的解決手続】
- 4回 国際裁判制度I【国際司法裁判所】【選択条項】【仮保全措置】
- 5回 国際裁判制度II【国際海洋法裁判所】【みなみマグロ事件】
- 6回 国際法の法源I【ICJ規程第38条】【慣習国際法】【条約】
- 7回 国際法の法源II【法の一般原則】【衡平と善】
- 8回 国際責任I【国際責任の発生】【国際責任の解除】
- 9回 国際責任II【外交的保護】【対抗措置】【無過失責任主義】
- 10回 国際責任III【国際責任の限界】【事例研究】
- 11回 条約法I【重大な違反】【不遵守手続】【条約の無効】
- 12回 条約法II【条約の批准と承認】【国会承認条約】【条約の自動執行性】
- 13回 条約法III【条約の国内実施】【一元論と二元論】
- 14回 法システムとしての国際法【合意原則としての国際法】【慣習国際法の形成】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校までの日本史や世界史の知識を前提とします。憲法・民法・刑法についての知識があるとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 中川 智治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組の修得を目指します。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、条約集が必要（出版社は問わない）。
講義は講師作成のレジュメ配布を予定している。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

長谷川正国（訳）『現代国際法入門』（成文堂、1999年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際社会における犯罪の取り締まり【外国人犯罪】【戦争犯罪人】
- 2回 犯罪の国際的取り締まりI【刑外国外犯規定】【国家管轄権】【属人主義】
- 3回 犯罪の国際的取り締まりII【通貨偽造】【海賊】【逃亡犯罪人】【政治犯】
- 4回 犯罪の国際的取り締まりIII【ハイジャック】【麻薬密輸】【国際刑事裁判所】
- 5回 犯罪の国際的取り締まりIV【事例検討】
- 6回 人権の国際的保障【国籍】【難民】【人権の履行メカニズム】
- 7回 領域主体としての国家I【属地主義】【領域主権】【領域使用の管理責任】
- 8回 領域主体としての国家II【領海】【接続水域】【排他的経済水域】【大陸棚】
- 9回 領域主体としての国家III【無害通航権】【国際海峡】【深海底】
- 10回 領域主体としての国家IV【領域権原】
- 11回 国際法上の国家I【国家の権利義務】【国家承認】【政府承認】
- 12回 国際法上の国家II【外交関係】【領事関係】
- 13回 国際法上の国家III【主権免除】【国内問題不干涉】【破綻国家】
- 14回 国際法上の国家IV【国際組織】【国連】【NGO】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校までの日本史や世界史の知識を前提とします。憲法・民法・刑法についての知識があるとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則【夜】

担当者名 /Instructor 河津 八平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 1学期 (ベア)
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私法の中核法としての民法は、私法上の生活に係るほとんどの領域で適用があり、民法を理解するには、その法源としては、民法典だけでなく、多くの特別法や判例や慣習法等もマスターする必要があります。

この講義の対象である民法総則は、その文字が示すように、ほとんどの民法領域に関連する民法法規の総則的な規定であります。従って、民法全般を理解するには、まず民法総則をマスターする必要があります。

ところで、民法総則を学ぶということは、単にその条文を記憶すればよいというものではありません。この授業のねらいは、法の解釈適用にあります。社会には色々の民法上の事件が発生します。その事件を法的にどのように解決するかが法を学ぶ者に課せられた役割です。皆さんには、この法の解釈適用の技術をマスターしてもらいたい。法学は学問が技術かについては議論がありますが、技術という表現が妥当でないとする人はこれを学問と言い換えても結構です。

いずれにしても、1学期(6限、7限の連続2コマ(ベア))で、民法総則の解釈適用をマスターしていただくわけですが、そのためには、法学に独特な理論を学んでいただくことになります。受講者は1年生ですので、始めは少し理解しにくいところがありますが、慣れれば案外と面白くなるかと思えます。

民法総則は、民法の基本法ですから、この科目を履修する者は、6限(2単位)、7限(2単位)の2コマ(計4単位)を連続して受講していただきたい。なお、講義は教科書にそって行いますから、教科書は必ず携行してください。また、六法も必ず携行してください。

教科書 /Textbooks

伊藤 真(試験対策講座 1)「民法総則」(最新版)(出版社-弘文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特には指定しない。講義のおり必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記に記述するものは、民法総則の(6限目)と(7限目)の講義内容です。この科目は6限目と7限目がベアとなっていますから、6限目と7限目は連続して、下記の内容で、1回目から順次講義します。

- 1回 民法とは何か-民法の全体像を把握する(法律関係、契約、物権等)。
- 2回 民法の考え方-価値判断と法律構成。
- 3回 民法総則の位置づけ-民法総則の概観、基本原理。
- 4回 私権の主体-自然人(権利能力、意思能力、行為能力)
- 5回 私権の主体-法人(法人制度の改革、法人の種類、)
- 6回 私権の主体-法人(権利能力なき社団、法人の能力、法人の不法行為能力)
- 7回 私権の客体-物(不動産と動産、主物と従物)
- 8回 私権の変動-法律効果(法律行為、契約、事件、契約締結上の過失)
- 9回 契約の有効性-当事者に関わる一般的有效要件(意思表示、心裡留保)
- 10回 契約の有効性-当事者に関わる一般的有效要件(虚偽表示)
- 11回 契約の有効性-当事者に関わる一般的有效要件(錯誤)
- 12回 契約の有効性-当事者に関わる一般的有效要件(詐欺・強迫)
- 13回 契約の有効性-契約内容に関わる一般的有效要件(適法性、強行法規と任意法規)
- 14回 契約の有効性-無効と取消し
- 15回 代理とはなにか-代理の機能、代理の本質。
- 16回 本人と代理人との関係(相手方の保護)-代理権の発生原因。授權行為の瑕疵(授權行為、109条による救済)。
- 17回 本人の利益と相手方の保護-代理人の権限濫用(93条但書の類推適用)。代理人と相手方の通謀虚偽表示-(信義則)。
- 18回 代理人と相手方の関係-代理行為の瑕疵(代理人の善意悪意)。
- 19回 無権代理-概説(狭義の無権代理、表見代理)。
- 20回 無権代理と相続-本人死亡の場合、無権代理人死亡の場合。
- 21回 表見代理-概説(109条、110条、112条の表見代理)。
- 22回 表見代理-110条の表見代理。
- 23回 条件と期限-停止条件、解除条件、不確定期限。
- 24回 時効と除斥期間-総論。
- 25回 消滅時効-消滅時効の起算点。
- 26回 取得時効-自主占有と他主占有。
- 27回 時効の効果と援用・放棄-援用(不確定効果説)。
- 28回 説明の不足した部分を補足する。
- 29回 復習。
- 30回 予備。

民法総則【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、ペーパーテストの成績、

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義の回数とそれに対応する内容はあくまでも目安です。なお、教科書及び六法を必ず携行してください。また、予習及び復習も必ずしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

物権法 【夜】

担当者名 /Instructor 畑中 久彌 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に民法第2編（物権編）に規定されている法的ルールを学ぶ。私人間における物の支配・利用のあり方にはどのようなものがあるか、それについてどのような法的ルールがあるか、その法的ルールをどのように現実問題に適用していけばよいかを検討する。

教科書 /Textbooks

淡路剛久・鎌田薫・原田純孝・生熊長幸『民法2物権（第3版補訂）』有斐閣（平成21年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山野目章夫『初歩からはじめる物権法（第5版）』日本評論社（平成19年）
- 『民法判例百選（第6版）』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【民法典の編別】【物権の種類】
- 2回 所有権①【所有権】【相隣関係】【物権的請求権】
- 3回 所有権②【所有権の取得】
- 4回 所有権③【共有】【区分所有】
- 5回 用益物権【地上権】【永小作権】【地役権】【入会権】
- 6回 物権変動①【物権変動入門】【法律行為による物権変動】【物権変動の時期】
- 7回 物権変動②【不動産登記制度】
- 8回 物権変動③【不動産に関する物権変動の対抗要件】
- 9回 物権変動④【動産に関する物権変動の対抗要件】
- 10回 物権変動⑤【動産の即時取得】
- 11回 物権変動⑥【不動産取引における94条2項の類推適用】
- 12回 担保物権①【抵当権】
- 13回 担保物権②【質権】【譲渡担保】【仮登記担保】
- 14回 担保物権③【留置権】【先取特権】
- 15回 講義のまとめ【物権と債権の性質の違い】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...30% 期末試験...70%
期末試験では六法等の資料の持ち込みは認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の教科書該当箇所およびそこで引用されている条文を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

債権各論【夜】

担当者名 /Instructor 堀田 泰司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、民法第三編債権、第二章から第五章までの契約、事務管理、不当利得、不法行為を対象とします。債権の発生原因は、意思表示の合致である契約とそれ以外のものがあります。契約の総則としての契約の意義、成立、効力、解除を検討し、契約の各論として、贈与、売買、質貸借などの典型契約の検討をします。契約以外では、特定の人的関係のない不法行為を中心に検討をします。即ち、損害賠償請求権の基本構造と解釈について理解することを本講義のねらいとします。

教科書 /Textbooks

柳澤秀吉=堀田泰司編著『債権法各論(新現代社会と法シリ-ズIV)』(嵯峨野書院)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1～2回 ガイダンス、契約の意義と機能【契約の自由とその制限】【契約の分類】
- 3～4回 契約の成立【申込と承諾】【懸賞広告】
- 5～6回 契約の効力【同時履行の抗弁権】【危険負担】【第三者のためにする契約】
- 7～9回 契約の解除【債務不履行による解除】【解除の効果】
- 10回 贈与【書面によらない贈与】
- 11～13回 売買【予約と手付】【売主の担保責任】【特殊の売買】【買戻】
- 14回 消費貸借【金銭消費貸借と要物性の緩和】、使用貸借
- 15～16回 質貸借【不動産質貸借と物権化的傾向】
- 17回 雇用、請負、委任、寄託
- 18回 組合【組合の財産関係】、終身定期金、和解【示談と後遺症】
- 19回 事務管理、不当利得【不法原因給付】
- 20～21回 一般の不法行為【故意・過失】【権利侵害】【損害の発生】【因果関係】
- 22～24回 特殊の不法行為【監督者責任】【使用者責任】【共同不法行為責任】
- 25～27回 特別法上の不法行為【自賠償責任=挙証責任の転換】【公害責任=無過失責任】
- 28～29回 不法行為の効果【損害賠償の方法と範囲】
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...70% 平常の学習状況(小テストを含む)...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識を持って授業に臨まれれば理解がより深まりますので、予習、復習をしてください。そして、六法とテキストは携帯してください。なお、他の受講生の迷惑になる行為は慎んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、公民科教育における知識および技能の習得をねらいとする。まず、公民科教育とはどのようなものかという点についての理解を深めるため、「公民科」の成立過程や位置づけ、現在の教育内容に関する講義を行なう。それらの内容を踏まえ、学生たちによる「公民科」の模擬授業を行なう。

教科書 /Textbooks

『高等学校 学習指導要領解説：公民』、『中学校 学習指導要領解説：社会』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年。
社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書、2003年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 公民科とは何か～成立過程と位置づけ～
- 2回 公民科のねらいと内容
- 3回 現代社会の課題、模擬授業
- 4回 経済社会と経済活動、模擬授業
- 5回 民主主義と政治のしくみ、模擬授業
- 6回 国際社会と日本、模擬授業
- 7回 青年期の課題と自己形成、模擬授業
- 8回 現代の特質と倫理的課題、模擬授業
- 9回 宗教と倫理、模擬授業
- 10回 経済格差、模擬授業
- 11回 環境問題、模擬授業
- 12回 日本国憲法の性格と現状、模擬授業
- 13回 現代社会における戦争と平和、模擬授業
- 14回 人種・民族問題、模擬授業
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 模擬授業... 40% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校時代に使用していた公民科(「現代社会」、「倫理」、「政治経済」)の教科書で、適宜、教育内容を確認することが望ましい。模擬授業については、自分の担当授業だけでなく、他の学生の授業に対する参加・評価のあり方も重要視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、公民科教育における知識および技能の習得をねらいとする。まず、公民科教育とはどのようなものかという点についての理解を深めるため、「公民科」の成立過程や位置づけ、現在の教育内容に関する講義を行なう。それらの内容を踏まえ、学生たちによる「公民科」の模擬授業を行なう。

教科書 /Textbooks

『高等学校 学習指導要領解説：公民』、『中学校 学習指導要領解説：社会』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年。
社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書、2003年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 公民科とは何か～成立過程と位置づけ～
- 2回 公民科のねらいと内容
- 3回 現代社会の課題、模擬授業
- 4回 経済社会と経済活動、模擬授業
- 5回 民主主義と政治のしくみ、模擬授業
- 6回 国際社会と日本、模擬授業
- 7回 青年期の課題と自己形成、模擬授業
- 8回 現代の特質と倫理的課題、模擬授業
- 9回 宗教と倫理、模擬授業
- 10回 経済格差、模擬授業
- 11回 環境問題、模擬授業
- 12回 日本国憲法の性格と現状、模擬授業
- 13回 現代社会における戦争と平和、模擬授業
- 14回 人種・民族問題、模擬授業
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 模擬授業... 40% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校時代に使用していた公民科(「現代社会」、「倫理」、「政治経済」)の教科書で、適宜、教育内容を確認することが望ましい。模擬授業については、自分の担当授業だけでなく、他の学生の授業に対する参加・評価のあり方も重要視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法B【夜】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。前半では、新学習指導要領を取り上げ、現在の公民科教育の位置づけについて理解し、さらには教育方法論や授業理論について学習する。後半では、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、上記の知識を習得した上で、受講者は模擬授業を行う。最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説：公民編』授業の際に配布するレジユメ・資料等

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年
『中学校学習指導要領解説：社会編』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第3回 デューイの教育方法論、模擬授業
- 第4回 社会科初志の会の授業理論、模擬授業
- 第5回 ブルーナーの教育方法論、模擬授業
- 第6回 社会科学的手法について、模擬授業
- 第7回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第9回 社会参加の授業理論、模擬授業
- 第10回 グローバル化について、模擬授業
- 第11回 環境問題について、模擬授業
- 第12回 情報化社会について、模擬授業
- 第13回 政治・経済・法関連の重要トピックについて、模擬授業
- 第14回 規範意識について、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 30% 模擬授業... 30% 模擬授業の際に提出する学習指導案... 20%
授業への積極的参加・貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

模擬授業はパワーポイントを使用して行うため、各自基本的なパソコン操作の技能を修得しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法B【夜】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。前半では、新学習指導要領を取り上げ、現在の公民科教育の位置づけについて理解し、さらには教育方法論や授業理論について学習する。後半では、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、上記の知識を習得した上で、受講者は模擬授業を行う。最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説：公民編』授業の際に配布するレジユメ・資料等

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年
『中学校学習指導要領解説：社会編』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第3回 デューイの教育方法論、模擬授業
- 第4回 社会科初志の会の授業理論、模擬授業
- 第5回 ブルーナーの教育方法論、模擬授業
- 第6回 社会科学的的手法について、模擬授業
- 第7回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第9回 社会参加の授業理論、模擬授業
- 第10回 グローバル化について、模擬授業
- 第11回 環境問題について、模擬授業
- 第12回 情報化社会について、模擬授業
- 第13回 政治・経済・法関連の重要トピックについて、模擬授業
- 第14回 規範意識について、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 30% 模擬授業... 30% 模擬授業の際に提出する学習指導案... 20%
授業への積極的参加・貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

模擬授業はパワーポイントを使用して行うため、各自基本的なパソコン操作の技能を修得しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】 【比喩・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】 【管理】 【生活と文化】 【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】 【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】 【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】 【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】 【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】 【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】 【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】 【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】 【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】 【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】 【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】 【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】 【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】 【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 /まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|---------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 |
- 【刻々
の教材研究】 【学習指導案】
- | | |
|---------------------------|----------------|
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|---------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 |
- 【刻々
の教材研究】 【学習指導案】
- | | |
|---------------------------|----------------|
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5,6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導 【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、家族、学校、地域社会等で観察される諸事象をとりあげて社会的な視点から分析をし、教育社会学の基礎的な概念を提示していきながら、教育に関する事象について、社会的な見方、考え方ができるようになることをめざす。

教科書 /Textbooks

プリント（講義レジュメ・資料）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族と教育（1） 【家族の諸形態・機能】
- 3回 家族と教育（2） 【家族の変容】 【子どもの社会化の課題】
- 4回 学校と教育（1） 【学校・教室空間と教育過程】
- 5回 学校と教育（2） 【教師文化と生徒文化の生成・葛藤】
- 6回 学校と教育（3） 【若者と職業をめぐる課題】
- 7回 社会と教育（1） 【地域と学校の歴史】
- 8回 社会と教育（2） 【「地域の教育力」をめぐる課題】
- 9回 社会と教育（3） 【生涯学習社会における学び】
- 10回 現代社会と青少年（1） 【友人関係における葛藤】
- 11回 現代社会と青少年（2） 【高度消費社会に生きる若者】
- 12回 現代社会と青少年（3） 【新たなメディアのなかの関係】
- 13回 教育問題（1） 【少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育問題（2） 【教育における格差】
- 15回 まとめ

(※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題（試験） 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の歴史と社会【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。そこでこの授業では、「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○高木侑『三下り半と縁切寺』（講談社現代新書）山本英二『慶安の触書は出されたか』（山川出版社日本史リブレット）他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 【近世】という時代
 - 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
 - 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
 - 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
 - 6回 『【女大学】』と『和俗童子君』①
 - 7回 『【女大学】』と『和俗童子君』②
 - 8回 【好色物】と女性の社会進出
 - 9回 【縁切寺】の歴史
 - 10回 【慶安御触書】を読み直す①榎本宗次説
 - 11回 【慶安御触書】を読み直す②丸山雍成説
 - 12回 【慶安御触書】を読み直す③木崎良美説
 - 13回 【慶安御触書】を読み直す④神崎直美説
 - 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤山本英二説
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced Reading and Discussion 【夜】

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代のさまざまな問題に関する英文をよみ、それらの原因、解決策について討論できるための英語コミュニケーション力を養成する。また、リサーチの内容を英語でプレゼンテーションする能力も養成する。授業は主に英語で行う。

教科書 /Textbooks

David Peaty 著 You, Me and the World 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書を持参すること

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction to the course
- 2 回 Waste and Recycling
- 3 回 Endangered Species, Rainforests
- 4 回 Global Warming
- 5 回 Presentation #1 Environment
- 6 回 Energy
- 7 回 Developing Countries
- 8 回 Human Rights
- 9 回 Presentation #2 Advanced countries vs. developing countries
- 10 回 Tourism
- 11 回 Peace and Conflict
- 12 回 Gender Issues
- 13 回 Refugees
- 14 回 Presentation #3 Promotion of world peace
- 15 回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、討論参加、プレゼンテーション 60% 期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に討論ができるように予習を行っておくこと。プレゼンテーションにはパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行うので、USBメモリなどの媒体を準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から55年体制の成立（1955）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：ことばの不思議
- 第2回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第3回 連濁
- 第4回 鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 数量詞
- 第11回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第12回 日本語と英語の受動態
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業中の態度...10% 課題...25% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 問題提起、戦争の定義の難しさ
- 5回～6回 平和の定義、積極平和論
- 7回～8回 絶対平和主義(非暴力主義として)
- 9回～10回 絶対平和主義(反戦主義、日本の平和主義)
- 11回～13回 正戦論の登場
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 - 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 - 3回～5回 人間の発達と自己形成【エリクソンの発達理論】
 - 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 - 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 - 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー】
 - 13回～14回 ライフプランについて(仕事と遊びの心理学)。生活分析カウンセリング
キャリアプラン 【自然】【遊び】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 授業の出席...40% 授業参加の態度・姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
- 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
- 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
- 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(1) (ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(2) (ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
- 8回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(1)
- 9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(2)
- 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(レクリエーション)
- 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(ルールを変えたスポーツ)
- 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(ストレッチ、頭とからだの体操)
- 13回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(1)
- 14回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎 (1) フライト (ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎 (2) フライト (ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎 (3) フライト (ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎 (4) サーブ (ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎 (5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎 (6) ルールの習得 (シングルス)
- 8回 バドミントンの応用 (7) ルールの習得 (ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用 (1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用 (2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (1)
- 14回 ダブルスゲーム (2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代において生命科学は広く社会に浸透・貢献しているとともに、遺伝子操作や生命操作等、生命倫理に新たな問題を投げかけている。本講では「生命科学と現代社会」をテーマとし、生命科学についての基礎教養を身につけるとともに、研究をとりまく社会や文化背景についての知識を身につけ、将来に向けた研究のあり方・考え方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東京大学生命科学教科書編集委員会『文系のための生命科学入門』羊土社2008年、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 私たちの生活と遺伝子【遺伝】、【遺伝子】、【DNA】
 - 2回 生物の基本単位【細胞】、【核】
 - 3回 生命の誕生【ウイルス】、【DNA】、【進化】
 - 4回 遺伝子と染色体【細胞分裂】、【遺伝】、【ゲノム】
 - 5回 遺伝子の発見と研究の歴史(1)【DNA】、【RNA】、【タンパク質】
 - 6回 遺伝子の発見と研究の歴史(2)【転写】、【翻訳】
 - 7回 遺伝子操作の原理【遺伝子操作】
 - 8回 遺伝子と生命操作【ES細胞】、【iPS細胞】
 - 9回 医療分野における貢献(1)【がん】、【免疫】
 - 10回 医療分野における貢献(2)【生活習慣病】、【老化】
 - 11回 遺伝子と個人情報【DNA鑑定】、【遺伝子診断】
 - 12回 産業分野における貢献【遺伝子組換え作物】
 - 13回 生命観と生命科学研究【クローン胚】、【倫理】
 - 14回 娯楽作品にみる生命科学【映画】、【小説】、【クローン人間】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校生物を履修していない者は関連する項目について教科書や参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学【夜】

担当者名 /Instructor 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳)『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』丸善(1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳)『沈黙の春』新潮社(1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳)『奪われし未来』翔詠社(1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシン.....史上最強の毒物【ダイオキシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学・心理士の立場から、発達障害リスク児への地域支援について考える。発達障害リスク児の早期スクリーニングとその後の療育的支援・就学移行支援について、行政・医療・教育・福祉・心理などの専門家と子ども本人やその家族が一緒になって地域支援体制を整えてきた具体例を参考に、発達障害リスク児に対する乳児期から小学校への移行支援について“地域で支える”地域連携の視点も踏まえて検討する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大神英裕(2008)『発達障害の早期支援 研究と実践を紡ぐ新しい地域連携』ミネルヴァ書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : オリエンテーション
- 第2回 : 早期幼児特別支援教育を巡る施策と研究の動向
- 第3回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(1)
- 第4回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(2)
- 第5回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(1)
- 第6回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(2)
- 第7回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(1)
- 第8回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(2)
- 第9回 : 発達障害リスク児の早期支援(1)
- 第10回 : 発達障害リスク児の早期支援(2)
- 第11回 : 発達障害リスク児の早期支援(3)
- 第12回 : 小学校への移行支援(1)
- 第13回 : 小学校への移行支援(2)
- 第14回 : 移行支援における地域連携の重要性と課題
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
 第2回~第8回 「正義」の応用問題
 ~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
 第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
 第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【夜】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
 1980年代後半以降、いわゆる「ニュー・カマーズ」とよばれる外国人労働者の流入が顕著になってきた。さらに、近年、その定住化の進展とともに、日本人(社会)と彼ら/彼女ら(の社会)との共生関係の構築が課題となってきた。こうした課題について考える基礎知識を提供する。
 授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
 ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察を加えたい。なお、民族関係論の基礎知識とともに、グローバルな現象をローカルな場(地域)において実証的に把握していく方法についても習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの紹介【グローバル化】、【エスニシティ】
- 2回 グローバル化の進展【国際労働力移動】
- 3回 出入国管理について【外国人登録】、【出入国管理】
- 4～5回 エスニシティに関する理論【道具主義】、【原初主義】、【分断労働市場】、【オリエンタリズム】
- 6～7回 日本の近代化と在日韓国・朝鮮人 - 歴史的把握【韓国併合】【植民地政策】
- 8～9回 在日韓国・朝鮮人と教育・職業【教育達成】、【社会移動】
- 10～11回 在日韓国・朝鮮人と日本の地域社会【生活構造】【生活史】
- 12～13回 日系ブラジル人と日本社会【顔の見えない定住化】、【非正規雇用】
- 14～15回 国家、自治体、NGOの役割【自治体の国際化施策】、【協働と対抗的相補性】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【夜】

担当者名
/Instructor

前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○小林道彦『日本評伝選・桂太郎』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 西南戦争
- 第3回 日清戦争
- 第4回 日露戦争
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵
- 第6回 山東出兵(1)
- 第7回 山東出兵(2)
- 第8回 満州事変(1)
- 第9回 満州事変(2)
- 第10回 日中戦争(1)
- 第12回 日中戦争(2)
- 第13回 太平洋戦争(1)
- 第14回 太平洋戦争(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10%課題... 10%期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代史の通史的な理解を前提に、私たちの日常生活の歴史を、「都市と農村」という問題系から検討することを目的とする。特に資本主義の仕組みが日常生活を取り込み、消費中心の都市生活が進展する一方で、農村の衰微が問題になった1930年代の日本を舞台に講義する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。必要な資料はプリントで配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「東京が攻めてくる」 【郊外化】
- 第一部 「モダン都市」という暮らし
- 2回 1、第三の空間・「街頭」という生活空間 【盛り場】
- 3回 2、「モボ」と「モガ」という仮面 【銀座】 【新宿】
- 4回 3、「スピード」という価値 【自動車】 【内燃機関】
- 5回 4、「見る」ことと欲望 【博覧会】 【勤工場】
- 6回 5、新たな欲望の装置：テパート 【陳列販売】 【百貨店】
- 7回 6、モダン都市の光と闇 【新中間層】 【細民】
- 第二部 「都市化」する農村の暮らし
- 8回 7、開発される個の欲望 【色を身に纏うこと】 【温かな食物を食うこと】
- 9回 8、消費と農村生活の矛盾 【現金収入】 【養蚕】
- 10回 9、商人の論理と農民の論理の狭間で 【資本主義】
- 11回 10、「親子心中」という問題 【解体される共同体】
- 12回 11、孤立する貧困 【家】 【新たな貧困】
- 13回 12、「都市」のなかの農村へ
- 14回 13、現代日本と「海」の向こうの農村
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 ... 80% 授業中の小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容・アウトラインに関するレジュメは一切配布しないので、よく聴きノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名
/Instructor

山崎 勇治 / 経済学科, 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的

歴史の面白さを、特定の人物を中心として学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

第1回 開講に当たって講義の目的と方針ならびに評価の方法について

第2回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか

第3回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史

第4回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領

第5回 「ラスト・サムライ山岡鉄舟と幕末・明治」「上杉鷹山と儒教的経営」

第6回 「保科正之と江戸幕府」「親鸞と平安・鎌倉時代」

第7回 「聖徳太子と飛鳥・奈良時代」

第8回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史

第9回 「ガンディ」の映画鑑賞

第10回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?

第11回 私のイギリス案内-ビュートリックス・ポターと湖水地方のナショナルトラスト運動

第12回 M・ケインズと世界恐慌-ロシア人バレリーナとの恋愛を中心に-

第13回 サッチャーとビッグバン

第14回 ベバリッジと福祉国家

第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を重視する。具体的な方法については初日の開講時間に説明をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観 【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル 【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」 【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出 【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成① 【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成② 【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成① 【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成② 【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭 【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編 【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開① 【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開② 【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解読』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異を研究する学問であるが、本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与しているか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するのかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中藤康俊『人文地理学入門』古今書院、1985年。
富田和暁『地域と産業』大明堂、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【夜】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を地域的観点から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目は、地理学の言語である地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用して、地表の状態を読み取る実習をおこなうことにより、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著「地理的情報の分析手法」古今書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
 - 2回 地図の役割。【地図の能力】
 - 3回 地図の歴史。
 - 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
 - 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
 - 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
 - 7回 山の地形を地形図から描くI(講義・実習)。【等高線】
 - 8回 山の地形を地形図から描くII(実習)。
 - 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
 - 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI(講義・実習)。
 - 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII(実習)。
 - 12回 【リモートセンシング】、空中写真の利用。
 - 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
 - 14回 リモートセンシング、空中写真の利用。
 - 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に提示する資料などを読んでおくことより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を表すキーワード

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。
講義全体のキーワードは、エンドユーザ、情報セキュリティ、データベースです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 情報システムの利用者としての心得1【PDCAサイクル】
- 3回 情報システムの利用者としての心得2【バックアップ】、【リスク分析】
- 4回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 5回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】、【ビット】、【バイト】、【文字コード】
- 6回 ハードウェア【CPU】、【メモリ】、【HD】、【フラグメンテーション】
- 7回 ソフトウェア【OS】、【拡張子】
- 8回 ネットワークの仕組み【LAN】、【サーバ】、【ドメイン名】、【IPアドレス】
- 9回 データベースの基礎1【正規化】、【主キー】
- 10回 データベースの基礎2【SQL】
- 11回 データベースの基礎・まとめ
- 12回 情報セキュリティ対策1【ID】、【パスワード】、【セキュリティ対策】
- 13回 情報セキュリティ対策2【SSL】、【クッキー】、【ファイル交換ソフト】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング ユニット1～5、リーディング 序章
- 3回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第2章
- 5回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第3章
- 6回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第4章
- 7回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第5章
- 8回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第6章
- 9回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第7章
- 10回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第8章
- 11回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第9章
- 12回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第10章
- 13回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第11章
- 14回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第12章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction to the course: Self introduction
- 第2回 My favourite place in Japan
- 第3回 My important friends
- 第4回 The sports I enjoy to watch and play
- 第5回 The places I want to visit
- 第6回 The food I like and what I can make
- 第7回 My favourite movies and actors/actresses
- 第8回 Countries of the world
- 第9回 What I would buy with 10 million yen
- 第10回 My family
- 第11回 The music I like
- 第12回 What I want to have for my dinner
- 第13回 What I do in the morning (routine)
- 第14回 The season I like
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) My summer holiday
- 第2回 The pets I like / the animals I hate
- 第3回 Health and fitness
- 第4回 The crossword puzzle
- 第5回 The person I want to meet
- 第6回 What I want for Christmas this year
- 第7回 My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回 Sporting heroes
- 第9回 The TV programmes I like to watch
- 第10回 My skills
- 第11回 My future dream
- 第12回 How I get the news in my life
- 第13回 My three most important possessions
- 第14回 My biggest worry at the moment
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング ユニット1～5、リーディング 序章
- 3回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第2章
- 5回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第3章
- 6回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第4章
- 7回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第5章
- 8回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第6章
- 9回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第7章
- 10回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第8章
- 11回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第9章
- 12回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第10章
- 13回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第11章
- 14回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第12章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政夜2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 済営律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 済営律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 /Credits

1単位

学期 /Semester

1学期

授業形態 /Class Format

講義

クラス 済営律政夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金貞愛他『しっかり初級韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞【ある・無い】【～に】
- 13回 指示代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど表】【何、なぜ、誰 等】【パソコンの入力方法】
- 14回 人称代名詞【私が男の場合】【私が女の場合】【韓国社会における人の呼び方】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅲの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II【夜】

担当者名
 /Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現によって異なる言葉遣いにおける学習、短文の読解ができるための基礎文法を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

金貞愛他『しっかり初級韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Iの学習内容確認、丁寧形1【합니다体】
- 2回 助詞1、漢数字1【1～、分数・小数】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号】【年月日】【誕生日】
- 4回 時制表現【昨日・今日・明日】【四季】【毎週・毎月・毎年】
- 5回 丁寧形2【해요体】文法説明
- 6回 丁寧形2【해요体】ドリル
- 7回 「해요体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해요体」のドリル、固有数字2【年齢】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】及びドリル
- 10回 数量単位名詞【漢数字の場合】【固有数字の場合】
- 11回 希望及び願望【～たい】【～たがる】
- 12回 否定形、不可能形【안～,～지 않습니다】【못～,～지 못합니다】
- 13回 過去形【합니다体の過去】【해요体の過去】【日記】
- 14回 過去形の否定及び不可能【～지 않았습니다.】【～지 못했습니다.】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語IVの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 基本母音と基本子音(1)
- 2回 第2課 基本母音と基本子音(2)
- 3回 第3課 濃音と合成母音
- 4回 第4課 終声(パッチム)について
- 5回 発音のルール【有声音化】【濃音化】【連音化】
- 6回 発音のルール【激音化】
- 7回 発音のルール【鼻音化】【二つの字母の終声】【その他】
- 8回 第5課「私は～です」指定詞のハムニダ体(1)【肯定文と疑問文とその助詞】
- 9回 指定詞のハムニダ体(2)【否定文とその助詞】
- 10回 動詞と形容詞【基本形】
- 11回 動詞と形容詞のハムニダ体の作り方
- 12回 第6課「時間ありますか？」存在詞のヘヨ体【肯定文と否定文】
- 13回 時間と場所を表す単語とその助詞、位置を表すことば
- 14回 第7課「それは何ですか？」指定詞のヘヨ体の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課「それは何ですか?」【復習】指示代名詞と疑問詞・用言の尊敬形
- 2回 第8課「日曜日に何をしますか?」
- 3回 動詞と形容詞のへヨ体の作り方
- 4回 固有数詞と漢数詞
- 5回 第9課「何が好きですか?」動詞と形容詞のへヨ体【否定形】
- 6回 動詞と形容詞の変則について
- 7回 第10課「週末に何をしましたか?」
- 8回 動詞と形容詞のへヨ体【過去形】確認表現・願望表現
- 9回 第11課「明日は何をするつもりですか?」
- 10回 意思表現・行動の理由や根拠・丁寧な命令表現
- 11回 第12課「スープが冷たくておいしいです」
- 12回 並列と反意の接続語尾
- 13回 第13課「一度遊びに来てください」
- 14回 勧誘表現・約束表現など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか?【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか?【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか?【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検5級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 不定冠詞、定冠詞
- 3回 リエゾン
- 4回 主語人称代名詞、第1群規則動詞
- 5回 第1群規則動詞、疑問文
- 6回 否定文、疑問文への答え方、形容詞(1)
- 7回 所有形容詞、動詞(être)
- 8回 動詞(avoir)、冠詞の変形
- 9回 第2群規則動詞、指示形容詞、形容詞(2)
- 10回 冠詞の宿約、部分冠詞
- 11回 動詞(aller)
- 12回 動詞(venir)、命令法
- 13回 疑問代名詞、直接目的語代名詞
- 14回 間接目的語代名詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検4級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較級、最上級
- 2回 代名動詞
- 3回 複合過去
- 4回 単純未来
- 5回 関係代名詞(1)、半過去
- 6回 大過去
- 7回 条件法現在
- 8回 条件法過去
- 9回 現在分詞、ジェロンディフ
- 10回 過去分詞の一致、疑問形容詞、人称代名詞強勢形
- 11回 非人称構文、受動態、指示代名詞
- 12回 関係代名詞(2)、中性代名詞
- 13回 接続法現在
- 14回 接続法過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法のクラス(「フランス語I・基礎I」と併せて受講し6月の仏検で5級に合格できる力をつけることを目指します。
 キーワード・・・ 仏検5級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話I (CD付き)』(加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 フランス語と授業のやり方についての説明。
- 2回 1課
- 3回 2課
- 4回 3課
- 5回 4課
- 6回 5課
- 7回 6課
- 8回 7課
- 9回 8課
- 10回 9課
- 11回 10課
- 12回 復習1
- 13回 復習2
- 14回 復習3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%

※6月の仏検で5級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法クラスの授業と併せて11月の仏検で4級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・仏検4級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II (CD付き)』 (加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 1課
- 2回 2課
- 3回 3課
- 4回 4課
- 5回 5課
- 6回 6課
- 7回 7課
- 8回 8課
- 9回 9課
- 10回 10課
- 11回 復習1
- 12回 復習2
- 13回 復習3
- 14回 復習4
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%
※11月の仏検で4級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。根気とパシオンでがんばること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay...を用いた表現(反復練習)
- 7回 動詞estar, hay...を用いた疑問文・返答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本的表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% 小テスト...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在 不規則動詞、直接目的格、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現集
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords